

千葉県八千代市

殿内遺跡 b 地点

— 公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ —

2009

八千代市教育委員会

千葉県八千代市

とのうち
殿内遺跡 b 地点

— 公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ —



2009

八千代市教育委員会

凡 例

- 1 本書は、八千代市村上1170-2に所在する殿内遺跡b地点の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、(仮称)八千代市歴史民俗資料館建設(平成2年当時)に先行して、八千代市教育委員会が平成2年度から4年度発掘調査事業として実施した。
- 3 発掘調査・本整理は以下のとおり実施した。

確認調査

期 間 平成2年8月20日～8月27日
面 積 466.5㎡/4,800㎡
担 当 朝比奈 竹男

第1次本調査

期 間 平成2年10月22日～平成3年7月11日
面 積 4,800㎡
担 当 朝比奈 竹男・森 竜哉

第2次本調査

期 間 平成4年6月19日～9月10日
面 積 550㎡
担 当 秋山 利光

本整理

期 間 平成15年2月1日～平成21年1月30日
担 当 森 竜哉
伊藤 弘一(平成16年3月31日まで)

- 4 本書の編集は森が、執筆は、中野修秀が第2章第1節・第2節・第3節の一部・第4節～6節をそれ以外を森がおこなった。

5 現場の遺構、遺物写真は朝比奈、秋山が、報告書掲載の遺物は高屋が撮影した。

- 6 本書の作成・刊行については、下記の調査員・整理補助員と森が協力して行い、森が統括した。

[調査員] 伊藤弘一 中野修秀

[整理補助員] 居井杏子 小林孝彰 小林未奈 小弓場直子 高屋麻里子 立松紀代美 寺澤洋子
野中則子 山下千代子

- 7 出土遺物、実測図等の資料は、八千代市教育委員会が保管している。

- 8 本書の遺構番号は第1次の50Pを33Dに、第2次の1Dを31D、2Dを32D、P-01を56P、P-02を57P、M-04を58P、P-07を59P、P-08を60Pとした。それら以外は発掘調査時の番号を使用している。

- 9 遺構・遺物の縮尺は下記のとおり統一しているが、位置図、全体図等は別記した。

[遺構] 竪穴住居跡(D)・掘立柱建物跡(H)・方形周溝墓(HS) 1/80 ピット(P) 1/40

[遺物] 土器1/4 石製品・土製品・鉄器1/2 石鏃・剥片類2/3

- 10 遺物実測図中の土器断面のヒゲ線は、切離さないしへら削り調整の範囲を示している。

- 11 土器実測図の中軸線サイドの空きは、復元実測を示している。

- 12 遺構・遺物のスクリーントーンは下記のとおり統一している。



焼土・赤彩



カマド袖・須恵器・黒色処理

- 13 本書使用の地形図等は、下記のとおりである。

第1図 参謀本部陸軍部測量局発行 1/20,000第一軍管区地方迅速側図(明治15年発行)

第3図 八千代市発行 1/2,500八千代都市計画基本図

- 11 発掘調査から整理作業において下記の諸氏・機関にご指導、ご協力いただきました。記して感謝いたします。(敬称略)

田中裕 藤岡孝司 (故)松田礼子 松本太郎 道上文 千葉県教育庁文化財課

八千代市教育委員会

本文目次

凡例

第1章 序説

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	1
第3節 周辺の遺跡	1

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 旧石器時代	7
第2節 縄文時代	8
第3節 古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡	8
第4節 掘立柱建物跡 (H)・方形周溝墓 (HS)・ピット (P)	90
第5節 中世以降	99
第6節 遺構外出土遺物	102

第3章 まとめ

第1節 旧石器時代	104
第2節 縄文時代	104
第3節 弥生時代	104
第4節 古墳時代	104
第5節 奈良・平安時代	104
第6節 奈良・平安時代の時間軸について	105

挿図目次

第1図 周辺の遺跡	2	第17図 05D出土遺物	20
第2図 遺跡周辺の地形	3	第18図 06D遺構実測図(1)	22
第3図 遺跡の位置	5	第19図 06D遺構実測図(2)	23
第4図 殿内遺跡遺構配置図	6	第20図 06D遺物分布図	23
第5図 旧石器時代出土遺物	7	第21図 06D出土遺物	23
第6図 縄文時代出土遺物	7	第22図 07D遺構実測図	24
第7図 02D遺構実測図	9	第23図 07D遺物分布図	25
第8図 02D出土遺物	10	第24図 07D出土遺物(1)	25
第9図 04D遺構実測図(1)	12	第25図 07D出土遺物(2)	27
第10図 04D遺構実測図(2)	13	第26図 08D遺構実測図	28
第11図 04D遺物分布図	14	第27図 08D出土遺物(1)	28
第12図 04D出土遺物(1)	15	第28図 08D出土遺物(2)	29
第13図 04D出土遺物(2)	17	第29図 08D出土遺物(3)	30
第14図 04D出土遺物(3)	18	第30図 09D遺構実測図	31
第15図 05D遺構実測図(1)	19	第31図 09D遺物分布図	32
第16図 05D遺構実測図(2)	20	第32図 09D出土遺物	32

第33図	10D遺構実測図	33	第82図	22D出土遺物(2)	68
第34図	10D遺物分布図	34	第83図	23D遺構実測図	69
第35図	10D出土遺物	34	第84図	23D遺物分布図	69
第36図	11D遺構実測図	35	第85図	23D出土遺物	69
第37図	11D出土遺物(1)	35	第86図	24D遺構実測図	71
第38図	11D出土遺物(2)	36	第87図	24D遺物分布図	71
第39図	12D遺構実測図	37	第88図	24D出土遺物(1)	71
第40図	12D出土遺物(1)	37	第89図	24D出土遺物(2)	72
第41図	12D出土遺物(2)	38	第90図	25D遺構実測図	73
第42図	12D出土遺物(3)	39	第91図	25D遺物分布図	73
第43図	13D遺構実測図	40	第92図	25D出土遺物(1)	73
第44図	13D遺物分布図	41	第93図	25D出土遺物(2)	74
第45図	13D出土遺物(1)	41	第94図	26A B D遺構実測図	75
第46図	13D出土遺物(2)	42	第95図	26A B D遺物分布図	76
第47図	14D遺構実測図	43	第96図	26A B D出土遺物	76
第48図	14D遺物分布図	44	第97図	26C D遺構実測図	78
第49図	14D出土遺物	44	第98図	26C D遺物分布図	78
第50図	15D遺構実測図(1)	45	第99図	26C D出土遺物(1)	78
第51図	15D遺構実測図(2)	46	第100図	26C D出土遺物(2)	79
第52図	15D遺物分布図	46	第101図	27D遺構実測図(1)	79
第53図	15D出土遺物(1)	46	第102図	27D遺構実測図(2)	80
第54図	15D出土遺物(2)	47	第103図	27D出土遺物	80
第55図	16D遺構実測図	48	第104図	28D遺構実測図	81
第56図	16D遺物分布図	49	第105図	28D出土遺物	81
第57図	16D出土遺物	49	第106図	29A B D遺構実測図	82
第58図	17D遺構実測図(1)	50	第107図	29A B D遺物分布図	83
第59図	17D遺構実測図(2)	51	第108図	29A D出土遺物	83
第60図	17D遺物分布図	51	第109図	29B D出土遺物(1)	83
第61図	17D出土遺物(1)	51	第110図	29B D出土遺物(2)	84
第62図	17D出土遺物(2)	52	第111図	30D遺構実測図	85
第63図	18D遺構実測図	53	第112図	30D遺物分布図	86
第64図	18D遺物分布図	54	第113図	30D出土遺物	86
第65図	18D出土遺物	54	第114図	31D遺構実測図	87
第66図	19D遺構実測図	55	第115図	32D遺構実測図	87
第67図	19D遺物分布図	56	第116図	33D遺構実測図	88
第68図	19D出土遺物	56	第117図	33D出土遺物	89
第69図	20D遺構実測図	58	第118図	01H遺構実測図	91
第70図	20D遺物分布図	59	第119図	01H S遺構実測図	91
第71図	20D出土遺物(1)	59	第120図	05P~15P遺構実測図	93
第72図	20D出土遺物(2)	60	第121図	16P~29P遺構実測図	95
第73図	20D出土遺物(3)	62	第122図	31P~39P遺構実測図	97
第74図	21D遺構実測図	63	第123図	41P~49P遺構実測図	98
第75図	21D遺物分布図	64	第124図	53P・55P遺構実測図	99
第76図	21D出土遺物(1)	64	第125図	56P・57P遺構実測図	100
第77図	21D出土遺物(2)	65	第126図	58P・59P遺構実測図	101
第78図	21D出土遺物(3)	66	第127図	59P出土遺物	101
第79図	22D遺構実測図	67	第128図	60P遺構実測図	101
第80図	22D遺物分布図	67	第129図	60P出土遺物	101
第81図	22D出土遺物(1)	67	第130図	遺構外出土遺物	103

第131図	八千代市内の萱田Ⅰ期以前の遺物	……	107
第132図	八千代市内の萱田Ⅷ期の遺物	……	109
第133図	八千代市内・周辺の萱田Ⅸ期の遺物	……	110
第134図	八千代市周辺の萱田Ⅸ期以降の遺物	……	110

附図1	八千代市域における谷津名称（暫定版）
附図2	八千代市域における台・谷・支台・支谷名称
附図3	八千代市域における小支台・小支谷名称

写真図版目次

図版1	02D	遺物出土状態	同左拡大	図版7	25D	完掘	カマド完掘
	04D	遺物出土状態	同左拡大		26D	A・B・C D完掘	
		完掘	Aカマド完掘			A・B D完掘	
			Bカマド完掘			B・C D完掘	
			Cカマド完掘			B Dカマド完掘	
図版2	05D	完掘	カマド完掘		27D	完掘	
	06D	完掘	カマド完掘		28D	完掘	
	07D	完掘	カマド完掘	図版8	29D	A D完掘	
	08D	完掘	カマド完掘			B D完掘	
図版3	09D	完掘	カマド遺物出土状態			A・B・30D完掘	
			カマド袖部除去状態			B Dカマド完掘	
	10D	完掘				掘立柱建物跡	完掘
	12D	A・B D完掘				方形周溝墓	完掘
		B D完掘		図版9	6 P・16 P・17 P・18 P	完掘	
		B Dカマド遺物出土状態			23 P・27 P・28 P・31 P	完掘	
		B Dカマド完掘		図版10	32 P・34 P・42 P	完掘	
図版4	13D	完掘	カマド完掘		41 P・45 P・46 P・48 P	完掘	
	14D	完掘	カマド完掘	図版11	旧石器・縄文式土器・縄文石器		
	15D	完掘	カマド完掘		02D・04D出土遺物		
	16D	完掘	カマド完掘	図版12	04D(2)~07D出土遺物		
図版5	17D	完掘	カマド完掘	図版13	08D~12D出土遺物		
	18D	完掘	カマド完掘	図版14	13D~17D出土遺物		
	19D	完掘	カマド完掘	図版15	17D(2)~20D出土遺物		
	20D	完掘	カマド完掘	図版16	20D(2)~22D出土遺物		
図版6	21D	完掘	カマド完掘	図版17	22D(2)~26D出土遺物		
	22D	完掘	カマド完掘	図版18	26D(2)~33D出土遺物		
	23D	完掘	カマド完掘	図版19	42 P・緑釉陶器・鉄製品・石製品		
	24D	完掘	カマド完掘		炭化種子・近世土製品（泥面子）		

台地名・谷名の呼称に関して

従来の報告書の多くが、遺跡の地理的環境を述べる際に、「○○水系」や「○○川右岸」などの表現を採用していた。また、「台地」・「谷」・「支台」・「支谷」という用語を用いる場合は、総称としてであったり、報告者が個人的に仮称したりする他はなかった。地名・字名や遺跡名と同様に、台地名や谷名もまた、固有名であることが望ましいと思われる。

そこで今回、八千代市域における台地名・支台名・小支台名、谷名・支谷名及び小支谷名を、命名することにした。

命名法は、台地の場合は知名度が高いか、広い面積を有する字名を用い、○○台（例 村上台）とし、支台及び小支台は、小字名を用いた。谷の場合は河川名を用い、○○川谷（例 新川谷）としたが、その他では小字名の○○谷津（例 相女谷津）としたものも含む。支谷及び小支谷は、そのほとんどが小字名を用いた。これら命名の成果として、2枚の図（折込附図）を付したので、参照されたい。

時を同じくして、環境保全課の水源地調査の一環で、市内に所在する谷に対する命名が行われていた。谷の区分や命名法など、本書の内容とは必ずしも一致しないが、八千代市における公式名称であるため、付図にて掲載した。

第1章 序 説

第1節 調査に至る経緯

昭和58年8月、八千代市長から（仮称）八千代市郷土資料館建設のため当該地にかかる埋蔵文化財の有無について、八千代市教育委員会あて照会文書が提出された。これを受け市教育委員会が現地踏査を実施し、千葉県教育委員会に照会地及び周辺において土師器等散布している状況を副申した。二者において更に現地踏査を行った結果、全域に遺跡が所在している可能性が高い旨結論を得た。昭和59年3月八千代市長に遺跡が所在する旨を回答した。

その後、予定地に変更がなく事業を進める旨の判断があり、事業計画が具体化した平成2年度において発掘調査を実施することとなった。確認調査は、土木工事にかかる発掘の通知が平成2年6月に提出された後、平成2年8月に着手した。その結果、学校跡地であった校舎の基礎によるカクランは著しかったものの、カマドを伴う竪穴住居跡等の遺構や土師器・須恵器等遺物が全域に確認された。

第2節 調査の方法と経過

確認調査の成果から、表土下がソフトロームという基本層序であり、遺物包含層については部分的に遺存する境界付近を考慮することとし、基本的にソフトローム層上面を確認面とした。

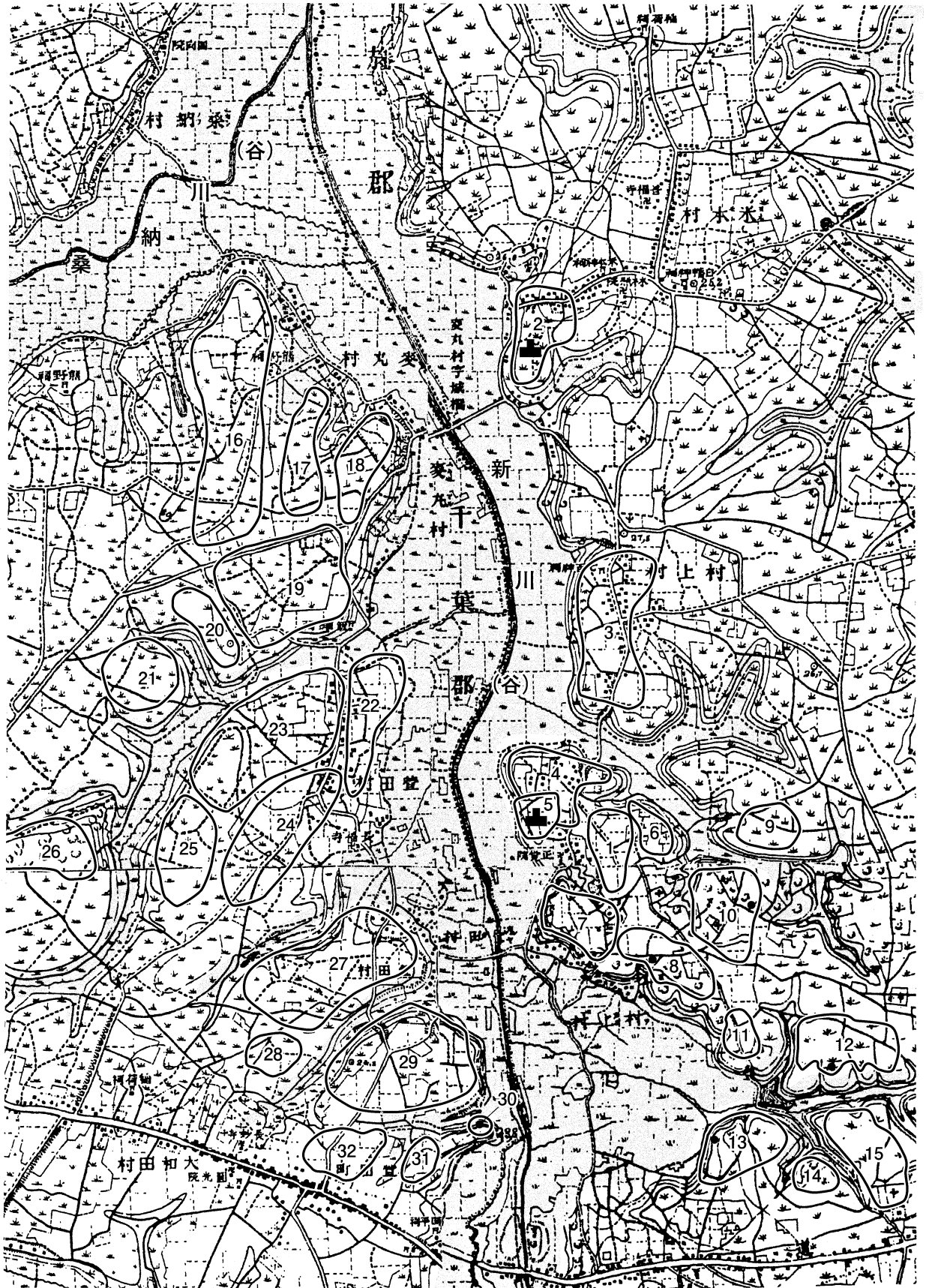
調査区の設定は、公共座標系に沿って10m方眼を設定し1グリッドとした。1グリッド内を5m方眼として四分割し小グリッドとした。呼称方法は東西にアルファベット、南北にローマ数字とし、A-1-1～4Gというように5m範囲をもって遺構外出土遺物の取り上げや遺構位置を呼称した。

1次・2次の本調査期間等については凡例に示したとおりであり、2次調査は進入路の取り付けに際して行ったものである。

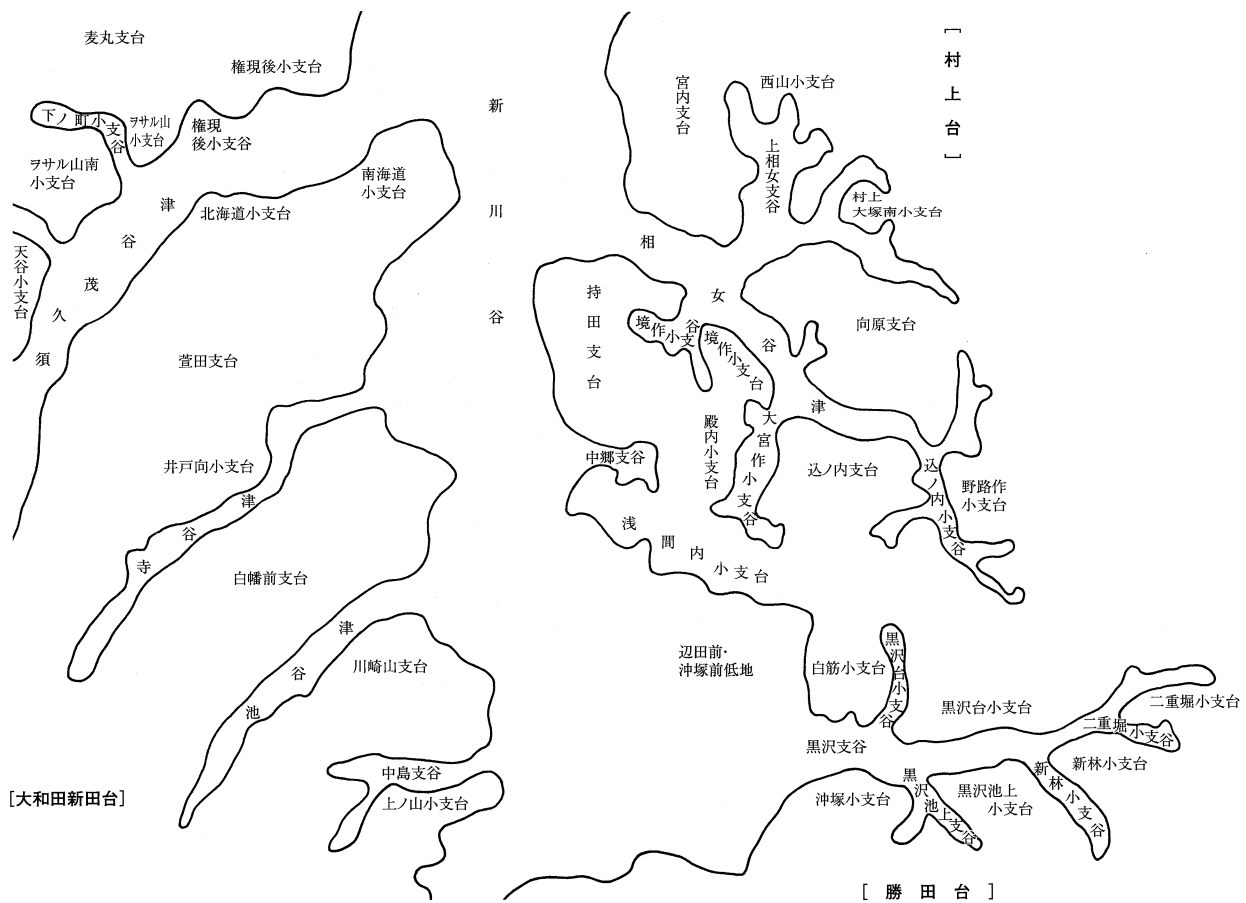
第3節 周辺の遺跡（第1図）

八千代市は千葉県の北半を占める下総台地上に位置する。台地の標高は総じて20～50mであるが、市域では20～30mである。市内での標高の最高点は南西部の39.1m、最低点は北部の神崎川と新川の合流地点の1.1mである。台地の形状は、おおまかに南西部で高く、東から北に向って高度を減じている。このため、河川の流れる方向も東ないし北となる傾向がみられる。台地を開析する河川は、市域中央を北流していた新川を核として、東流して新川に合流する神崎川、桑納川、高津川、北流して花見川と新川の分水嶺付近に至る勝田川、北流して印旛沼南岸に至る井野川に分類される。また、台地はおおむね3枚の段丘からなり、標高25～30mの下総上位面、標高20～25mの下総下位面、標高11～15mの千葉段丘面に分けられる。5m以下は沖積地である。市内の遺跡はこの3枚の段丘上に位置し、殿内遺跡は新川東岸の下総下位面に占地している。

新川（谷）に面した村上地区、対岸の麦丸・萱田地区の遺跡について概観してみる。1は今回調査を行った殿内遺跡である。2は米本城跡で、舌状台地を利用した直線連郭式の縄張りを持つ。3は村上宮内遺跡で、過去2回の確認調査において縄文時代中・後期の土器片、古墳時代前期の竪穴住居跡群、奈良・平安時代の須恵器・土師器片の遺物等が検出された。4の持田遺跡では、過去2回の確認及び本調査において古墳時代後期後半の竪穴住居跡12軒が検出されている。5は正覚院館跡で、台地末端部の造成によって、空堀・土塁を巡らしている。昭和59年から平成16年に亘る4回の調査において、主として遺物から13世紀後半から16世紀代に至る宗教の場・防御性をもつ館としての性格が想定された。6の境作遺跡では、昭和60年の本調査において、奈良平安時代を中心として13軒の竪穴住居跡が検出された。7の浅間内遺跡は平成2年から平成16年に亘る土地区画整理事業に伴う発掘調査で、多大な成果を得て



第1図 周辺の遺跡 (S=1/20,000)



第2図 遺跡周辺の地形

おり、縄文時代から中近世に亘る複合遺跡である。縄文時代で特筆されることは、中期中ばの竪穴住居跡・土坑等の遺構や同時期の土器がまとまって発見されたことである。また、中近世では正覚院館跡関連と想定できる地下式坑・火葬墓・溝等の遺構が検出された。8の白筋遺跡・根上神社古墳も同事業に伴う調査等によって一角の土地利用が明らかとなった遺跡である。古墳周辺には奈良・平安時代の竪穴住居跡は希薄で、白筋遺跡では特殊な掘立柱遺構が検出されており、古墳の聖域化が図られた可能性がある。9は名主山遺跡で、昭和46年の市教育委員会の調査において、竪穴住居跡では弥生時代後期1軒、奈良・平安時代6軒、掘立柱建物跡では奈良・平安時代6棟で、その内総柱式4棟を含んでいる。10は村上込の内遺跡で、台地上を面的に調査し、その成果が公表されており著名である。遺構は、弥生時代後期の竪穴住居跡14軒、古墳時代終末期の方墳1基、奈良・平安時代の竪穴住居跡155軒・同掘立柱建物跡24棟等が検出された。11の村上第1塚群は、古墳を含む14基で構成される。12の黒沢台遺跡・黒沢台古墳では、方墳1基が調査され、他に土師器が出土した。13の沖塚遺跡・沖塚古墳は、旧石器時代遺物集中地点、縄文時代早・後期炉穴1・陥穴10・ピット82、古墳時代前期鍛冶工房跡1、奈良・平安時代方形周溝遺構1、平安時代竪穴住居跡1軒が検出されている。古墳は23mの円墳で、貝化石岩の横穴式石室の主体部をもつ。墳頂部及び斜面から須恵器壺甕類が出土している。出土遺物から7世紀中ばの築造と想定されている。14の黒沢池上遺跡、15の新林遺跡では、縄文時代前期後半から中期中ば、中期後半から末葉の竪穴住居跡、土坑等が集中して検出された。16は麦丸遺跡で、縄文時代早・前・中期の遺物、早期炉穴が検出された。17の麦丸宮前上遺跡では、奈良時代の竪穴住居跡4軒が散発的に検出されている。菅地ノ台遺跡、権現後遺跡の分村と考えたい。18の菅地ノ台遺跡は、縄文時代では陥穴1基と少ない成果だが、弥生時代後期、古墳時代前期から中期、奈良・平安時代の竪穴住居跡が発見されている。また、奈良・平安時代では、掘立柱建物跡も検出された。19. 20. 23. 24. 25. 27の

各遺跡は土地区画整理事業にかかる発掘調査を実施し、多大な成果をあげた萱田遺跡群である。19の権現後遺跡では、旧石器時代遺物集中地点27カ所、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代にわたる竪穴住居跡、方形周溝墓、方形周溝遺構等の遺構が検出されている。20のヲサル山遺跡では、旧石器時代遺物集中地点29カ所、縄文時代では早期後半の炉穴19基、陥穴、中期の竪穴住居跡等、弥生時代終末期から古墳出現期の竪穴住居跡が34軒とまとまって検出された。奈良・平安時代ではわずかに竪穴住居跡2軒・掘立柱建物跡1棟である。21はヲサル山南遺跡で、2地点の発掘調査において、縄文時代中期竪穴住居跡8軒・土坑7基等、奈良・平安時代竪穴住居跡4軒が検出されている。22は南海道遺跡で、現在まで調査事例はないが、低台地上の千葉段丘面における遺跡立地として興味深い。23の北海道遺跡では、旧石器時代ブロック63カ所、縄文時代の空白期を経て、弥生時代後期、古墳時代中・後期、奈良・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出された。古墳時代中・後期には中期を中心に石製模造品工房跡が発見されている。24は井戸向遺跡である。旧石器時代ブロック34カ所、弥生時代後期6軒、古墳時代前期31軒、奈良・平安時代95軒の竪穴住居跡、奈良・平安時代では他に掘立柱建物跡44棟・井戸跡10基が検出された。25は坊山遺跡で、旧石器時代ブロック31カ所、縄文時代竪穴住居跡（中期か）1軒が発見されたのみである。須久茂谷津対岸の26の向山遺跡では、旧石器時代剥片、縄文時代前期後半から中期中ばの遺物包含層を中心として、遺構では土坑が検出された。全体に遺構密度は薄い。27は白幡前遺跡で、旧石器時代ブロック56カ所、竪穴住居跡では弥生時代後期17軒、古墳時代後期5軒、奈良・平安時代279軒で、奈良・平安時代では他に掘立柱建物跡150棟が検出されており群を抜いている。以上、萱田遺跡群では、須久茂谷津やや奥部で縄文時代を中心とした遺構が展開し、須久茂谷津中程から開口部及び寺谷津両岸において、弥生時代後期以降の遺構が展開していることが理解されよう。28の池の台遺跡では、過去6地点の調査において縄文時代土坑1基・縄文早・中期の土器片、平安時代竪穴住居跡6軒・土坑2基等が検出された。29の川崎山遺跡は平成21年2月現在で、14地点の調査を行っており、ほぼ遺跡範囲の60～70%程度についての知見が得られている。縄文時代では、エリア全体に陥穴39基、他に土坑が、遺物では遺跡の位置する川崎山支台の西側部分で、西谷津に面した縁辺部において早期中ばから中期中ばの土器類が出土する。竪穴住居跡は同様に西側部分において、中期阿玉台式期4軒が検出された。縄文時代中期以降空白期があり、弥生時代後期、古墳出現期、古墳時代中期の各時期に遺構が集中する。立地としては、新川（谷）に面した支台東側である。この時期以降、平安時代に数軒程度の規模で人の足跡が見られた後、川崎山支台から人の痕跡は途絶える。30の上の山古墳は、円墳2基からなる古墳群である。沖塚・辺田前低地を囲む形で沖塚古墳、根上神社古墳が所在しており何らかの関連性が想定されよう。31は上の山遺跡で、3地点の調査が実施され、弥生時代後期の竪穴住居跡5軒が検出された。32の北裏畑遺跡は、縄文時代陥穴1基が検出されているが、近世以降の大和田宿の土地利用にかかる炭窯・土坑墓・区画溝等が発見された。

参 考 文 献

- 1 殿内遺跡 2007 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度』
- 2 米本城跡 ①1976 八千代市教育委員会・八千代市中世館城址調査団『八千代市中世館城址調査報告』
②2008 八千代市・八千代市史編さん委員会『八千代市の歴史 通史編 上』p362～p372
- 3 村上宮内遺跡 ①1987 八千代市教育委員会『千葉県八千代市埋蔵文化財発掘調査報告集』
②2002 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成13年度』
- 4 持田遺跡 1997 八千代市教育委員会『平成6年度八千代市埋蔵文化財調査年報』
- 5 正覚院館跡 ①4同上
②2008 八千代市・八千代市史編さん委員会『八千代市の歴史 通史編 上』p376～p384
- 6 境作遺跡 1987 千葉県教育庁文化課『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 昭和60年度』
- 7 浅間内遺跡 ①2003 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』
②2007 八千代市教育委員会『千葉県八千代市浅間内遺跡発掘調査報告書』
③2007 八千代市遺跡調査会『千葉県八千代市浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡』
- 8 白筋遺跡・根上神社古墳 ①7浅間内遺跡の③に同じ
②2008 八千代市教育委員会『千葉県八千代市白筋遺跡b地点発掘調査報告書』



第3図 遺跡の位置 (S=1/5,000)

③2008 八千代市・八千代市史編さん委員会『八千代市の歴史 通史編 上』p 160～p 161

- 9 名主山遺跡 1971 八千代市教育委員会『名主山遺跡』
- 10 村上込の内遺跡 1974 (財)千葉県都市公社『八千代市村上遺跡群』
- 11 村上第一塚群 1972 千葉県教育委員会『八千代市村上所在古墳発掘調査概報』
- 12 黒沢台遺跡 1991 八千代市・八千代市史編さん委員会『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』p 335～p 337
- 13 沖塚遺跡・沖塚古墳 ①1991 八千代市・八千代市史編さん委員会『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』p 340～p 351
②1994 (財)千葉県文化財センター『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡他』
③2007 八千代市遺跡調査会『千葉県八千代市浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡』
- 14 黒沢池上遺跡 2003 八千代市遺跡調査会『黒沢池上・新林遺跡発掘調査報告書』
- 15 新林遺跡 ①14に同じ。
②2007 八千代市遺跡調査会『新林遺跡 c 地点発掘調査報告書』
③2007 八千代市遺跡調査会『二重堀遺跡・新林遺跡-千葉県八千代市埋蔵文化財発掘調査報告書』
④2003 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』
- 16 麦丸遺跡 ①1991 八千代市・八千代市史編さん委員会『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』p 508
②2007 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度』
- 17 麦丸宮前上遺跡 平成20年度確認調査後に本調査実施。堅穴住居跡4軒を検出したが、ほぼ奈良時代初頭頃の時期に限定される。未整理。
- 18 菅地ノ台遺跡 2005 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成16年度』
- 19 権現後遺跡 ①1984 (財)千葉県文化財センター『八千代市権現後遺跡』
②1994 (財)千葉県文化財センター『八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡』
③2007 八千代市教育委員会『千葉県八千代市権現後遺跡』
- 20 ヲサル山遺跡 1986 (財)千葉県文化財センター『八千代市ヲサル山遺跡』
- 21 ヲサル山南遺跡 2008 八千代市教育委員会『千葉県八千代市逆水遺跡 f 地点 北裏畑遺跡 b 地点 高津新田遺跡 c 地点 西山遺跡 b 地点 西山遺跡 c 地点 内野遺跡 b 地点 役山遺跡 a 地点 川崎山遺跡 k 地点 ヲサル山遺跡 b 地点』
- 22 南海道遺跡 1983 八千代市教育委員会『八千代市の遺跡-千葉県八千代市埋蔵文化財包蔵地所在調査報告書』No.182弥生時代後期、平安時代の土器片が散布。
- 23 北海道遺跡 1985 (財)千葉県文化財センター『八千代市北海道遺跡』
- 24 井戸向遺跡 1987 (財)千葉県文化財センター『八千代市井戸向遺跡』
- 25 坊山遺跡 1993 (財)千葉県文化財センター『八千代市坊山遺跡』
- 26 向山遺跡 2009 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度』
- 27 白幡前遺跡 1991 (財)千葉県文化財センター『八千代市白幡前遺跡』
- 28 池の台遺跡 2005 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成16年度』
- 29 川崎山遺跡 2008 八千代市教育委員会『千葉県八千代市川崎山遺跡 m 地点発掘調査報告書』
- 30 上の山古墳群 1987 八千代市教育委員会『千葉県八千代市埋蔵文化財発掘調査報告集』p 37
- 31 上の山遺跡 2008 八千代市遺跡調査会『千葉県八千代市上ノ山遺跡』
- 32 北裏畑遺跡 21に同じ。

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 旧石器時代

今回の野外調査では、下層調査を行っていない。しかし、整理作業になり、出土遺物の分類・接合を行う過程で、旧石器2点が抽出されたため、以下に報告したい。

なお、岩種鑑定は行っていないため、石材は報告者の判断によったことを、予めお断りしておく。

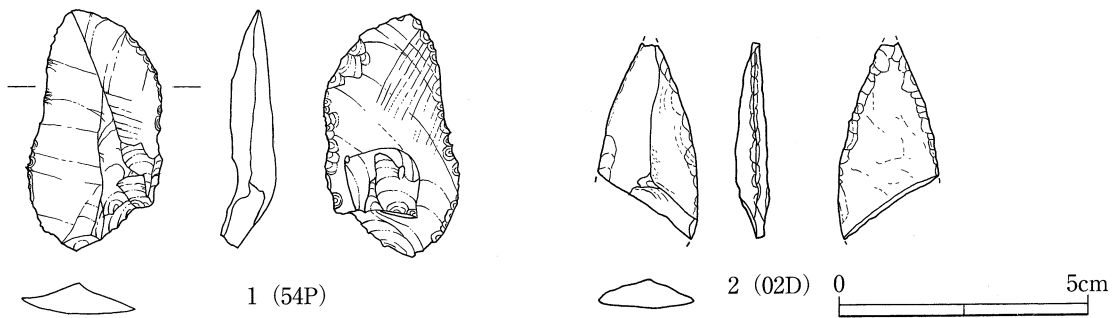
石器 (第5図 図版11)

1は搔器。石刃技法により、石核から剥取された縦長剥片を素材とする。両側縁に細かな剥離調整を加えて、使用面としている。完存品。石材は黒曜石である。

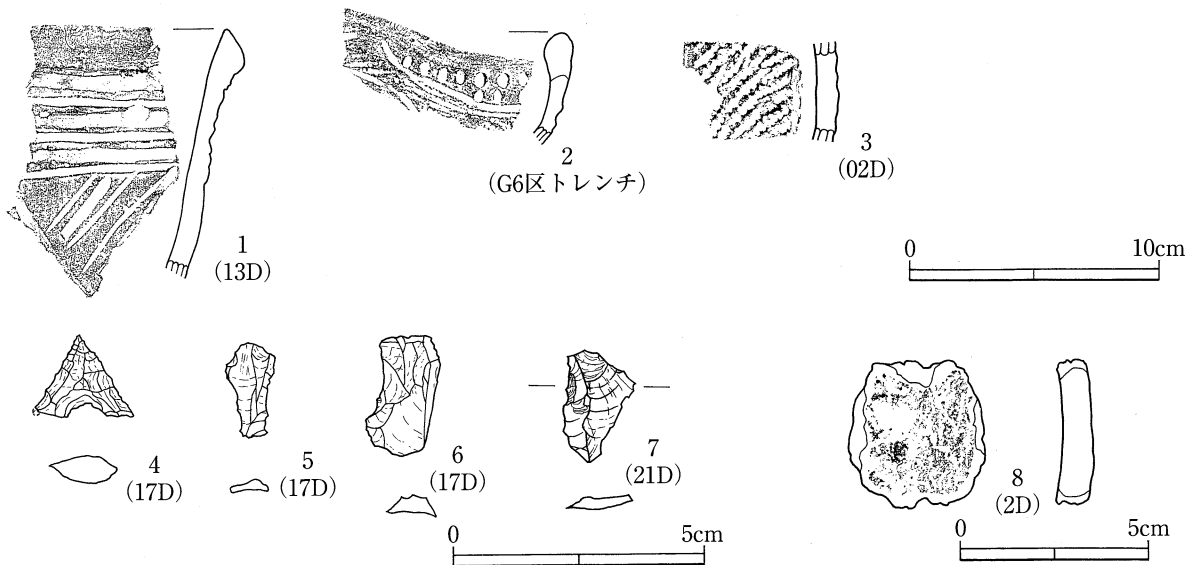
長さ4.7cm, 幅2.6cm, 厚さ0.6cm, 重量8.2g。

2は槍先形尖頭器。石刃技法により、石核から剥取された縦長剥片を素材とする。周縁のみに細かな押圧剥離を加えて、木葉形に整形している。全体の $\frac{1}{2}$ 程度の残存で、基部を欠く他、先端部をわずかに欠損する。石材は黒色緻密安山岩で、表面の風化が認められ、その色調は暗灰色を呈する。

長さ(3.8)cm, 幅1.9cm, 厚さ0.55cm, 重量4.1g。



第5図 旧石器時代出土遺物



第6図 縄文時代出土遺物

第2節 縄文時代

今回の野外調査で、縄文時代の遺構は検出されなかった。しかし、整理作業になり分類・接合を行う過程で、縄文式土器・石器類が抽出されたため、以下に報告したい。

縄文式土器・石器類・土製品（第6図 図版11）

1は田戸下層式土器。口縁部は外厚気味に立ち上がり、口唇部は外削ぎ状。太沈線と細沈線を交互に引いて意匠を描く。2は加曾利EⅣ式土器。波状口縁で、口縁下を沈線で画し、2列の円形刺突を充填する。その下は地文縄文2段RL施文後、磨消縄文を描くもの。3は地文縄文2段RLを施文後、胴部磨消懸垂文を施した加曾利EⅡ式土器の胴部片である。

4は石鏃で、鋏形鏃。5～7は剥片。石材は7が黒曜石で、4～6はチャートである。

8は土器片錘で、阿玉台I b式土器の胴部片を素材とする。長軸中央に索溝を刻む。

第3節 古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡

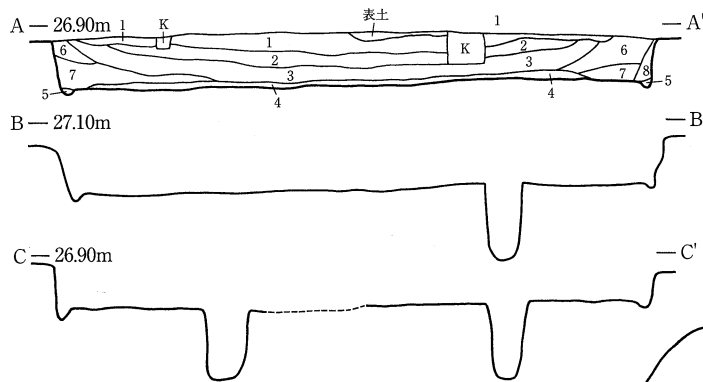
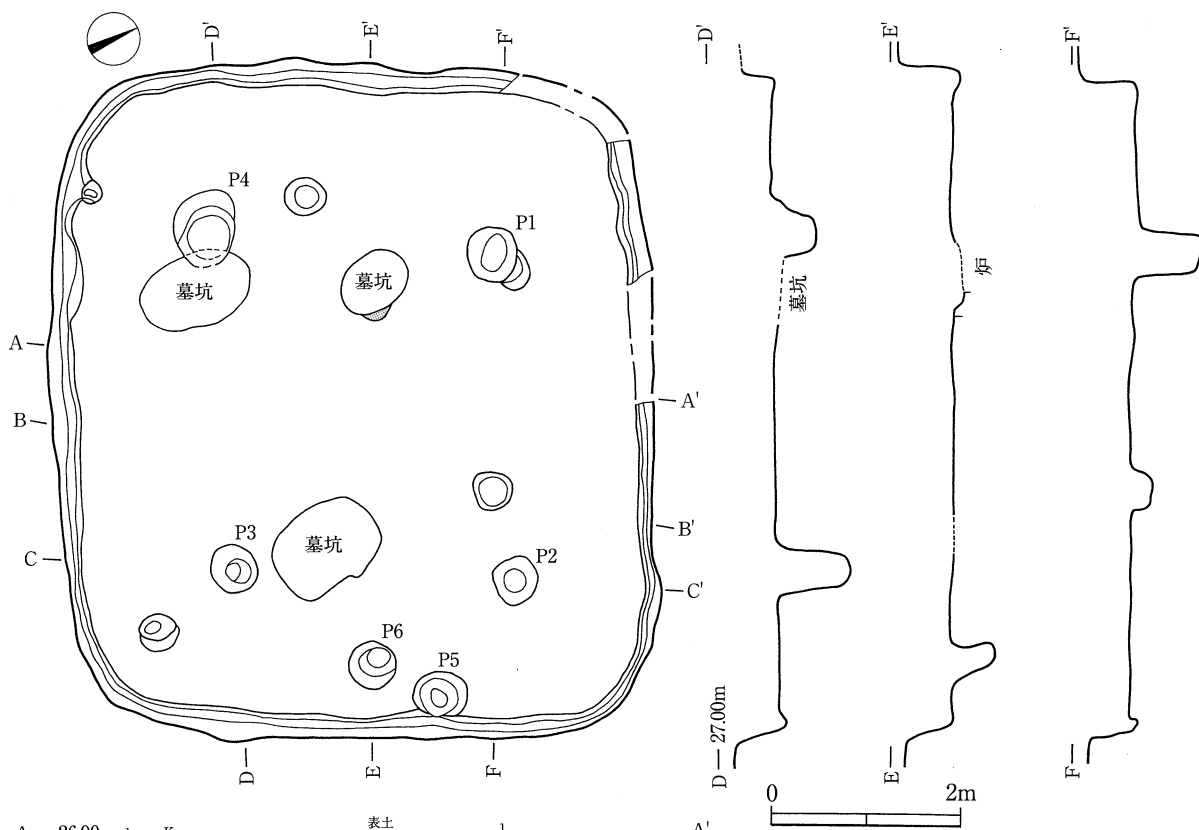
今回の調査において、主体となる遺構が検出された時期である。古墳時代では、前期前半が1軒のみであるが、他住居跡覆土からの遺物出土もあり調査区外に遺構が展開する可能性は高い。奈良時代は7世紀末葉の遺物を含めて21軒、平安時代は13軒となっている。奈良時代・平安時代共に時期差が見られる。奈良時代では7世紀末葉から8世紀前半の時期にピークが見られる。平安時代では10世紀代にピークが見られる。

02D（第7・8図 図版1・11）

位置 D10区-1, 3Gで検出。**主軸方位** N-70°-Wで西に傾く。**重複関係** 床面上に近世以降の墓坑が掘られる。**平面形** やや東西に長い隅丸方形である。**規模** 6.42m×5.56m、遺構確認面からの深さ0.55m。**壁** 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードロームを掘り込んで床面としている。**周溝** 全周する。幅15～20cm、深さ10cmでローム土主体の暗褐色土である。**炉** 近世以降の墓坑に大半を切られている。P1, P4間に位置し、両者を結ぶ線の内側に作られる。**ピット** P1～P4が主柱穴で、深さ34cmから70cm。P6が出入口ピットで斜め方向に40cm掘り込まれる。P5は本跡に伴うと想定されるが、性格不明。**覆土** 8層に分層できる。1～3層が自然埋没層、5～8層が人為的埋め戻し層である。経過としては、住居廃絶時に家屋廃材の焼却処理（4層）を行い、5～8層を埋め戻す。その後は時間的経過で自然に埋まったと想定される。炭化材はおおよそ2方向の直交状態で検出された。併せて粉状の炭化材が、本体周辺で範囲として捉えられた。**遺物出土状態** ほぼ住居廃絶時の廃棄遺物である。4, 5, 7, 12は離れた位置での接合状態を示す。器種は埴・甕・台付甕・装飾壺・埴で、口唇部刻み目の台付甕や装飾壺に古い要素が見られる。13の埴はやや後出か。**建て替え** 見られない。

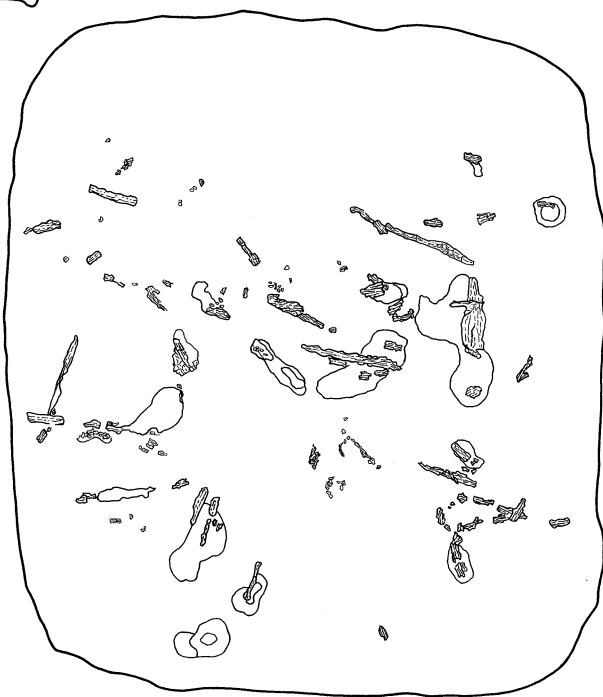
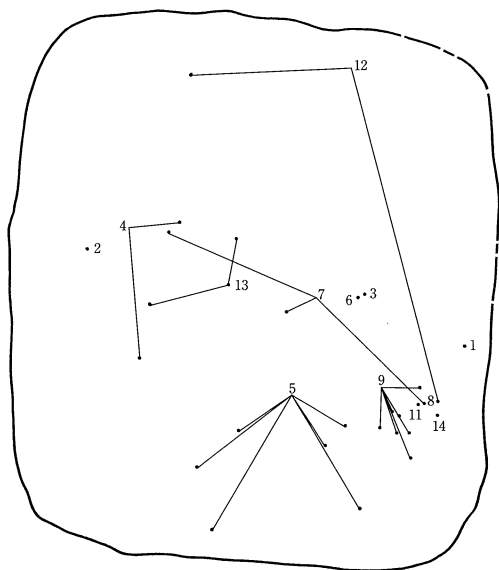
02D遺物観察表

	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 埴	口辺部～底部全周	4.7	10.4	4.8	黒茶褐色	白色粒多含 雲母細片	口辺部内外面横などで 体部外面などで状の磨き。内ヘラなどで。 底部内面剥離みられる。
2	土師器 埴	口辺部1/2～底部2/3	6.1	12.2	5	黒灰色	雲母 白色粒 長石	口辺部内面ハケなどで。 体部外面ハケ目調整後磨き状などで。内ヘラなどで。 底部内面剥離みられる。
3	土師器 甕	口辺部片～胴中央部1/5	11.9	19	—	淡橙褐色	白色粒 石英 雲母細片	口辺部外面などで。内面ハケなどで。 胴部外面ハケなどで。部分的に剥離。内ヘラなどで。 頸部下ハケなどで。
4	土師器 甕	口辺部1/4～胴下半部	15.8	16.2	—	橙褐色	白色粒 長石 小石粒	口縁部外面細い刻み目。 口辺部内面横ハケ目。外面縦ハケ目。胴部外面横ハケ目。 内ヘラなどで。胴部外面被熱で器面がある。
5	土師器 壺	口辺部全周～胴部上半部	19.5	24 頸部8.3	—	暗赤褐色 ～暗褐色 (赤彩)	長石 白色粒	外面口縁部単節縄文上に全周に12カ所の赤彩円形文。 口辺部刻み棒状浮文8本1単位が4ヶ所。地文は網目状懸糸文。 棒状浮文間に2個1単位の赤彩円形文8個。口辺部下は縦位ヘラ磨き。頸部はおそらく16カ所の円形浮文。胴部は網目状懸糸文+単節縄文+s字状結節文の組み合わせ。
6	土師器 甕	口辺部～胴下半部1/5	17	18.6	—	淡橙褐色	白色粒 石英 雲母細片	口辺部外面などで。ヘラなどで。内面ハケなどで。 胴部外面ハケなどで。部分的に剥離。内面ヘラなどで。

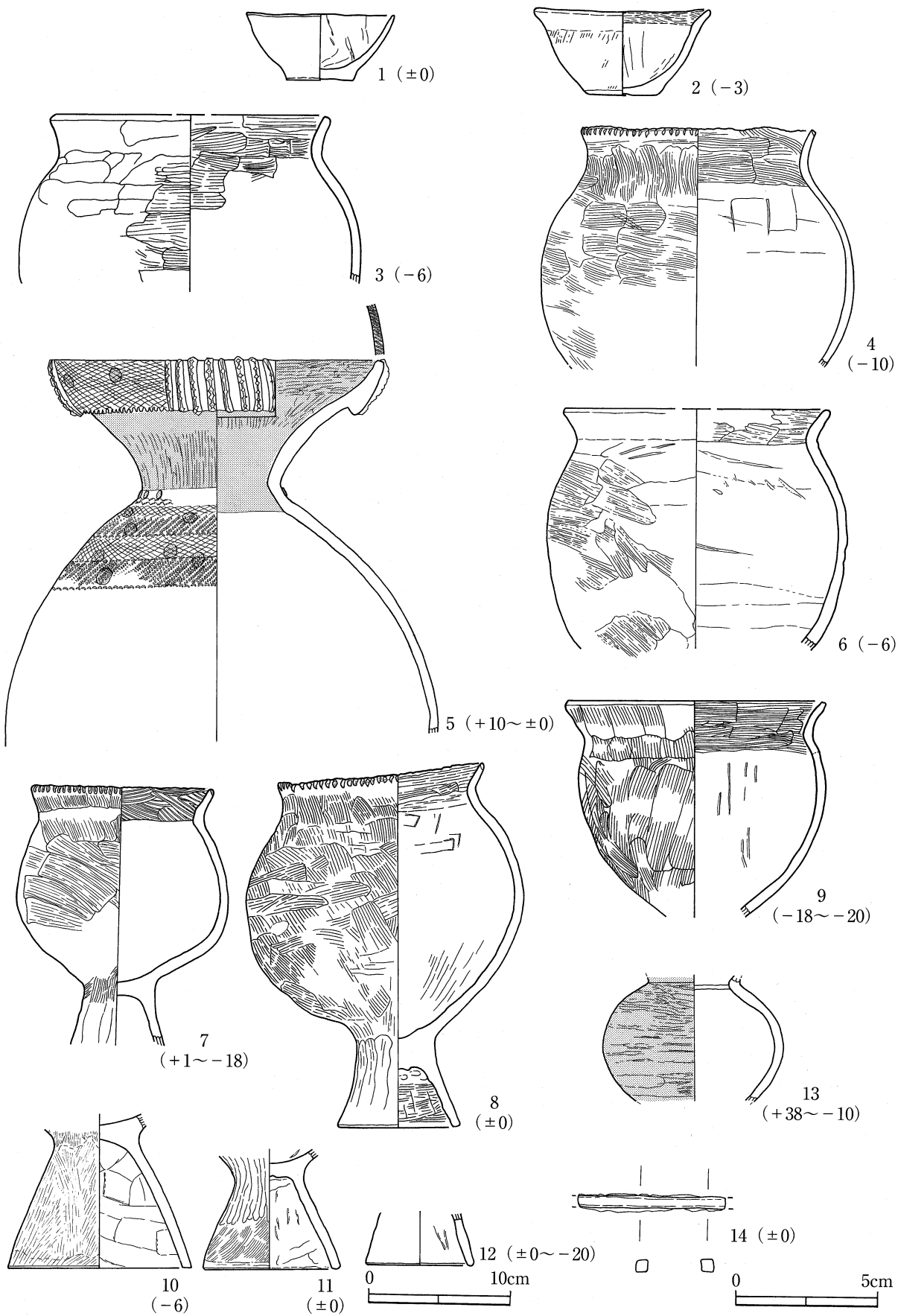


02D土層説明

- | | |
|----------|---------------------------|
| 1. 黒褐色土 | 2mm大ローム含む。3~5mm大ローム点在。 |
| 2. 茶褐色土 | ローム粒主体。黒色土斑点状に点在。 |
| 3. 茶褐色土 | 1~2mm大ローム含む。5~10mm大ローム点在。 |
| 4. 濃茶褐色土 | 焼土炭化物多含。ローム混入少ない。 |
| 5. 暗褐色土 | ローム土と3層の混合層。ローム粒主体。 |
| 6. 暗褐色土 | ロームブロック混合少ない。 |
| 7. 暗褐色土 | 5~10mm大ローム点在。 |
| 8. 暗茶褐色土 | 7層類似。ローム微粒混入。 |



第7図 02D遺構実測図



第8図 02D出土遺物

02D遺物観察表（2）

	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
7	土師器 小型台付 甕	口辺部～脚部 脚部末端欠	18.3	12.8	—	黒褐色 ～ 橙褐色	雲母 白色粒	口縁端部外面刻み目。口辺部内面横ハケ目。外面縦ハケ目。 胴部外面中央斜方向ハケ目。 脚部縦位ヘラ削り。胴・脚部内面など。ハケ目浅い。
8	土師器 台付甕	口辺部～脚部	25.6	14.2	脚部径 8.2	脚部橙褐色 口辺～胴部 黒茶褐色	白色粒 雲母	口縁端部外面細い刻み目。口辺部内面横ハケ目。外面縦ハケ目。 胴部外面不定方向のハケ目。内ヘラなど。下半部にハケ目。 脚部外面ハケ目後縦位ヘラ削り。内面横ハケ目。ハケ目浅い。
9	土師器 台付甕か	口辺部全周～胴下半部	15.3	18	—	外黒茶褐色 内橙褐色	白色粒 赤色スコリヤ 雲母	口辺部外面縦位ハケ目後横など。内面横ハケ目。 胴部外面縦ハケ目～斜ハケ目単位10本。内面ヘラなど。 ハケ目浅い。
10	土師器 台付甕	脚部全周	10.9	脚部径 12.9	—	淡橙褐色	長石、白色粒 雲母細片	脚部外面木口状工具によるなど（浅い擦痕）。 内ヘラなど。
11	土師器 台付甕	脚部全周	7.6	—	9.4	暗茶 ～ 淡橙褐色	雲母細片 白色粒	脚部外面極部浅いハケなど。磨き状のなど。内面ヘラなど。 胴部内面ヘラなど。
12	土師器 台付甕	脚部1/2周	3.6	—	7.8	淡橙褐色	白色粒 石英	外面などで調整。内面ヘラなど。
13	土師器 小型丸底 壺	頸部一部～胴下半部	8.9	頸部径 6.4	胴部 最大径 12.7	赤褐色	雲母 白色粒 長石	頸部～胴部外面横位ヘラ磨き。 下位ヘラ削り後磨き。内面など。 赤彩。
14	鉄器 紡錘車軸		5.2	厚さ0.4 cmの四角	—	重さ4.7g		紡錘車軸部

04D（第9～14図 図版1・11・12）

3軒の重複である。CD→BD→ADの新旧関係が捉えられる。

〔04AD〕

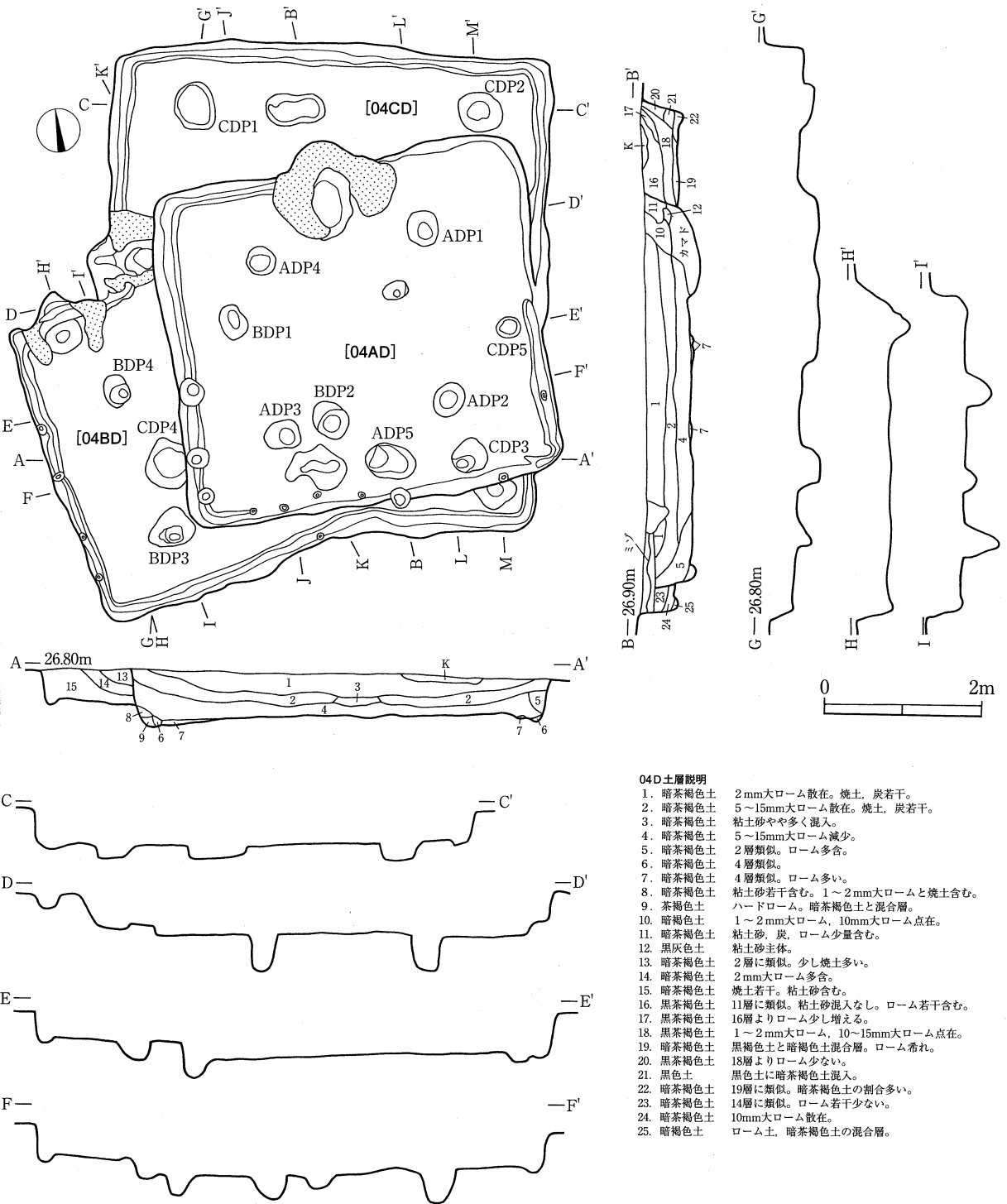
位置 F10区-1Gを中心に検出。**主軸方位** N-2°-Wでほぼ北方位。**重複関係** 04BD, 04CDを切る。**平面形** やや東西に長い方形である。**規模** 4.5m×4.15m, 遺構確認面からの深さ0.5m。**壁** 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードロームを掘り込んで床面としている。**周溝** 北東コーナーと南辺部を除いて周回する。幅15～20cm, 深さ10cmでローム土主体の暗褐色土である。**カマド** 北壁中央に壁を掘り込んで作られる。袖部前面に焼土散る。火床はそう焼けてない。煙道部は火床奥から角度をもって立ち上がる。カマド位置は周溝掘削時に火床部を決定し, 作られた。**ピット** P1～P4が支柱穴で, 深さ40cm。P5は出入口ピットである。**覆土** 9層に分層できる。暗褐色土主体の自然埋没層と想定される。**遺物出土状態** 住居構築時の他住居跡の遺物混入が見られるため, 遺物の出土位置からは帰属遺構の特定はむずかしい状況である。カマド内出土須恵器甕類22.31～34が確実に本跡に伴う遺物である。**建て替え** 見られない。

〔04BD〕

位置 E10区-3Gで検出。**主軸方位** N-14°-Wでやや西に振れる。**重複関係** 04ADに切られ, 04CDを切る。**平面形** 方形に想定される。**規模** 4.0m×4.0m, 遺構確認面からの深さ0.4m。**壁** 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床** ソフトローム中で床面としている。**周溝** 東壁側はADに切られているため不明だが, ほぼ全周すると想定される。幅15～20cm, 深さ10cmでローム土主体の暗褐色土である。**カマド** 北壁西隅に北壁を掘り込んで作られる。火床は焼けて, 焼土の堆積は厚く使い込まれている。煙道部は火床奥から角度をもって立ち上がる。カマド位置は周溝を全掘した後に火床部を決定し, 作られていた。**ピット** 西側に偏ったP3.4が支柱穴で, 深さ40cm。P1.2は明確とはいえないが, 本跡に伴うか。また, 西壁周溝内に小ピットが等間隔に掘られる。**覆土** ADに切られているため詳細不明。暗褐色土主体の自然埋没層か。**遺物出土状態** 遺構の遺存状態が悪いため, 情報は少ない。本跡においてもカマド内出土遺物の39.42により帰属時期を判断したい。**建て替え** 見られない。

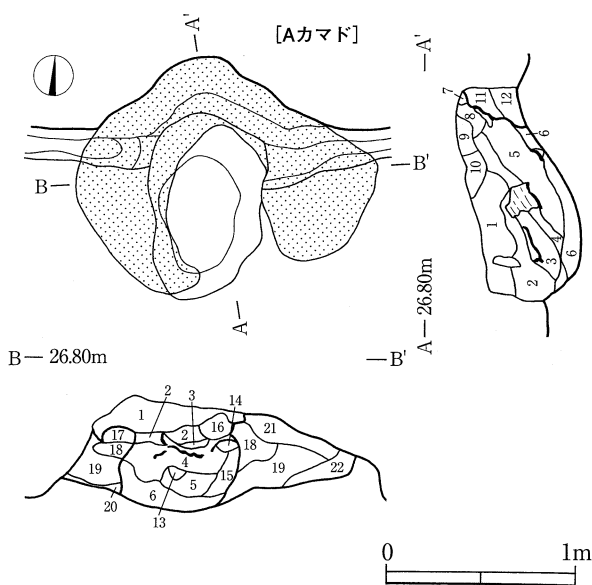
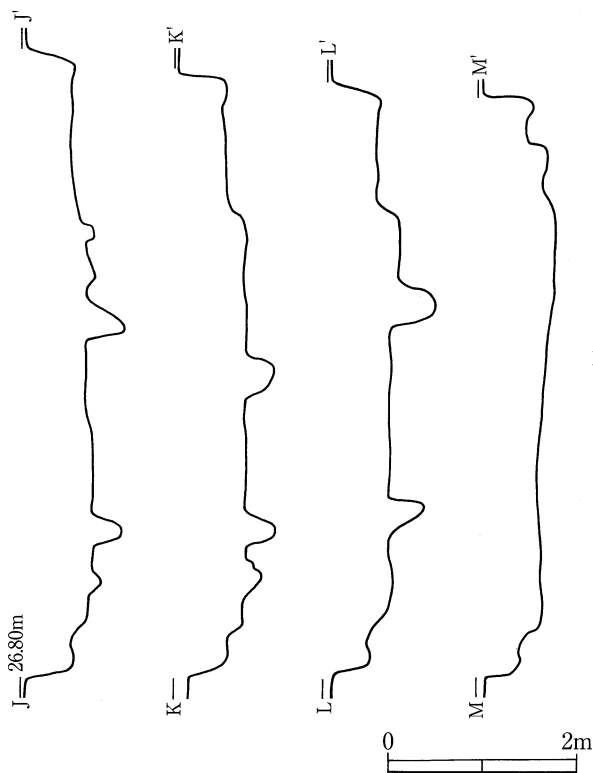
〔04CD〕

位置 F10区-1, 3Gを中心に検出。**主軸方位** N-80°-Wでほぼ西に傾く。**重複関係** 04ADに中央部分を切られ, 04CDにカマド左袖を切られる。**平面形** 南北にやや長い長方形。**規模** 6.01m×4.45m, 遺構確認面からの深さ0.45m。**壁** 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードロームを掘り込んで床面としている。**周溝** 遺存部分でほぼ全周する。幅15～20cm, 深さ10cmでローム土主体の暗



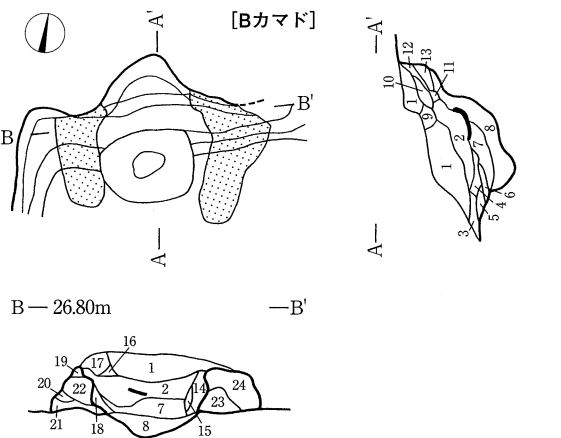
第9図 O4D遺構実測図(1)

褐色土である。カマド 西壁中央に掘り込んで作られる。火床の掘り込みは浅いが、焼土の堆積は厚く使い込まれている。煙道部は火床奥から角度をもって立ち上がる。カマド位置は周溝を全掘した後に火床部を決定し、作られていた。ピット 全体に浅いがP1~4が主柱穴で、P5が出入り口ピットか。また、P1,2間、3,4間の楕円形ピットも本跡に伴うか。覆土 黒色土主体の自然埋没層に想定される。遺物出土状態 遺構の遺存状態が悪いので、情報は少ない。本跡においてもカマド内出土遺物の50により帰属時期を判断したい。建て替え 見られない。



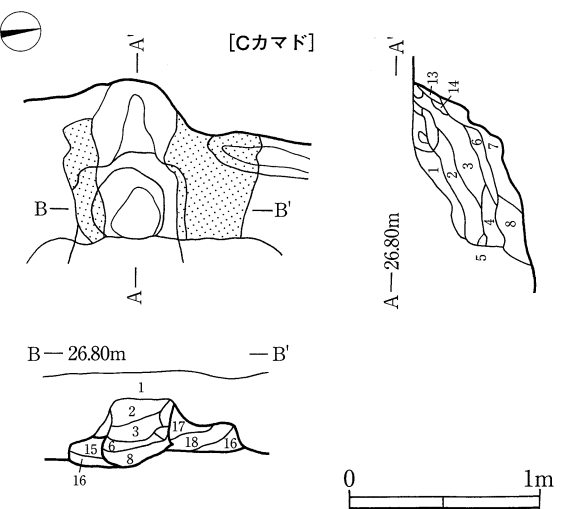
04D Aカマド土層説明

1. 暗茶褐色土 2~3mm大ローム若干含む。粘土砂混入。
2. 暗茶褐色土 2~20mm大ローム多含。
3. 暗赤褐色土 焼土砂混合。粘土砂含む。焼土層。
4. 暗茶褐色土 2~5mm大焼土粒、灰を含む。
5. 赤色砂 純焼土砂層。
6. 黒茶褐色土 焼土砂含む。2~20mm大ローム含む。
7. 黒灰色 黒色土。粘土砂の混合層。
8. 濃茶褐色土 粘土砂ごく少量含む。
9. 茶灰色 粘土砂主体。濃茶褐色土混入。
10. 茶灰色 濃茶褐色土主体。山砂多含。2~3mm大ローム。
11. 濃茶褐色土 住居覆土。1~3mm大ローム若干含む。
12. 濃茶褐色土 1~3mm大ローム11層に比べ多い。
13. 赤色砂 焼土砂純層。5層に比べ明るい。
14. 黒色土 焼土若干含む。粘土砂少量含む。
15. 灰褐色土 灰色砂主体。焼土砂若干含む。
16. 黒茶褐色土 粘土砂散在。
17. 灰色砂層 粘土砂主体。焼土砂少量混入。
18. 暗赤褐色土 焼土砂、粘土砂の混合層。
19. 灰色砂層 粘土砂主体。ローム、焼土微量混入。
20. 濃茶褐色土 ロームブロック混入。粘土砂微量含む。
21. 茶灰色土 暗茶褐色土と粘土砂の混合層。焼土砂微量含む。
22. 濃茶褐色土 黒茶褐色土と粘土砂の混合層。



04D Bカマド土層説明

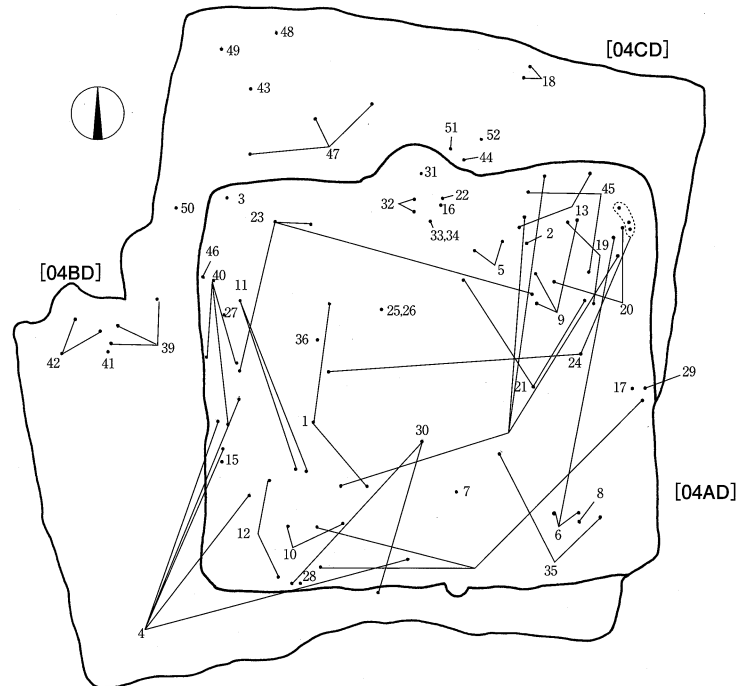
1. 茶褐色土 2~5mm大ローム粒多い。2~20mm大焼土含む。
2. 暗赤褐色土 焼土層。5mm大焼土粒多い。
3. 暗茶褐色土 ローム粒含む。
4. 暗赤褐色土 2~5mm大焼土粒散在。
5. 暗赤褐色土 4層類似。暗茶褐色土混入。
6. 暗赤褐色土 4層より焼土少ない。
7. 暗赤褐色土 焼土層。灰少量混入。
8. 暗褐色土 10~50mm大ロームブロック多含。
9. 茶灰色土 焼土粘土砂混入。
10. 茶赤土 2~5mm大ローム、炭化粒、焼土少量混入。
11. 茶灰色土 9層に類似。粘土砂混入。
12. 暗赤褐色土 焼土主体。ローム炭化粒混入。
13. 茶赤褐色土 ローム主体。炭化粒若干。焼土塊含む。
14. 暗赤褐色土 カマド内壁主体。
15. 暗赤褐色土 焼土主体。
16. 暗茶褐色土 1層類似。焼土、粘土砂少量混入。
17. 茶赤褐色土 カマド内壁の焼土塊。粘土砂、焼土砂含む。
18. 茶褐色土 1~2mm大ローム多含。10~20mm大ロームブロック含む。
19. 灰色砂 粘土砂純層。
20. 灰色砂 粘土砂純層。
21. 茶褐色土 2~10mm大ローム含む。粘土砂少ない。
22. 茶灰色土 暗茶褐色土主体。
23. 茶灰色土 濃茶褐色土と粘土砂の混合層。
24. 茶灰色土 暗茶褐色土主体。粘土砂含む。



04D Cカマド土層説明

1. 茶褐色土 住居覆土。ローム粒多含。灰色砂、焼土混入。
2. 茶褐色土 1層に比べ粘土砂、焼土粒多い。
3. 暗赤褐色土 焼土多く焼土砂混入。
4. 赤褐色土 焼土砂、粘土砂の混合層。焼土炭化物混入。
5. 茶褐色土 粘土砂、焼土、ごくわずか含む。
6. 暗赤褐色土 焼土主体。
7. 濃茶褐色土 30~50mm大ローム含む。ローム粒、焼土散在。
8. 濃茶褐色土 7層類似。ロームやや少ない。
9. 灰黄色土 粘土主体。ローム若干含む。
10. 濃黒褐色土 1~2mm大ローム若干含む。
11. 黒赤褐色土 10層類似。焼土混入。
12. 濃黒茶褐色土 10層類似。黒色土混入。
13. 暗赤褐色土 3層類似。焼土、粘土砂混入。
14. 暗赤褐色土 焼土主体。焼土塊混入。
15. 茶赤褐色土 15~40mm大焼土砂塊多含。5~20mm大ローム含む。
16. 茶褐色土 暗茶褐色土主体。2~20mm大ローム多含。
17. 灰色砂 粘土砂純層。1~3mm大ローム含む。
18. 茶灰色砂 暗茶褐色土主体。粘土砂多含。焼土粒若干含む。

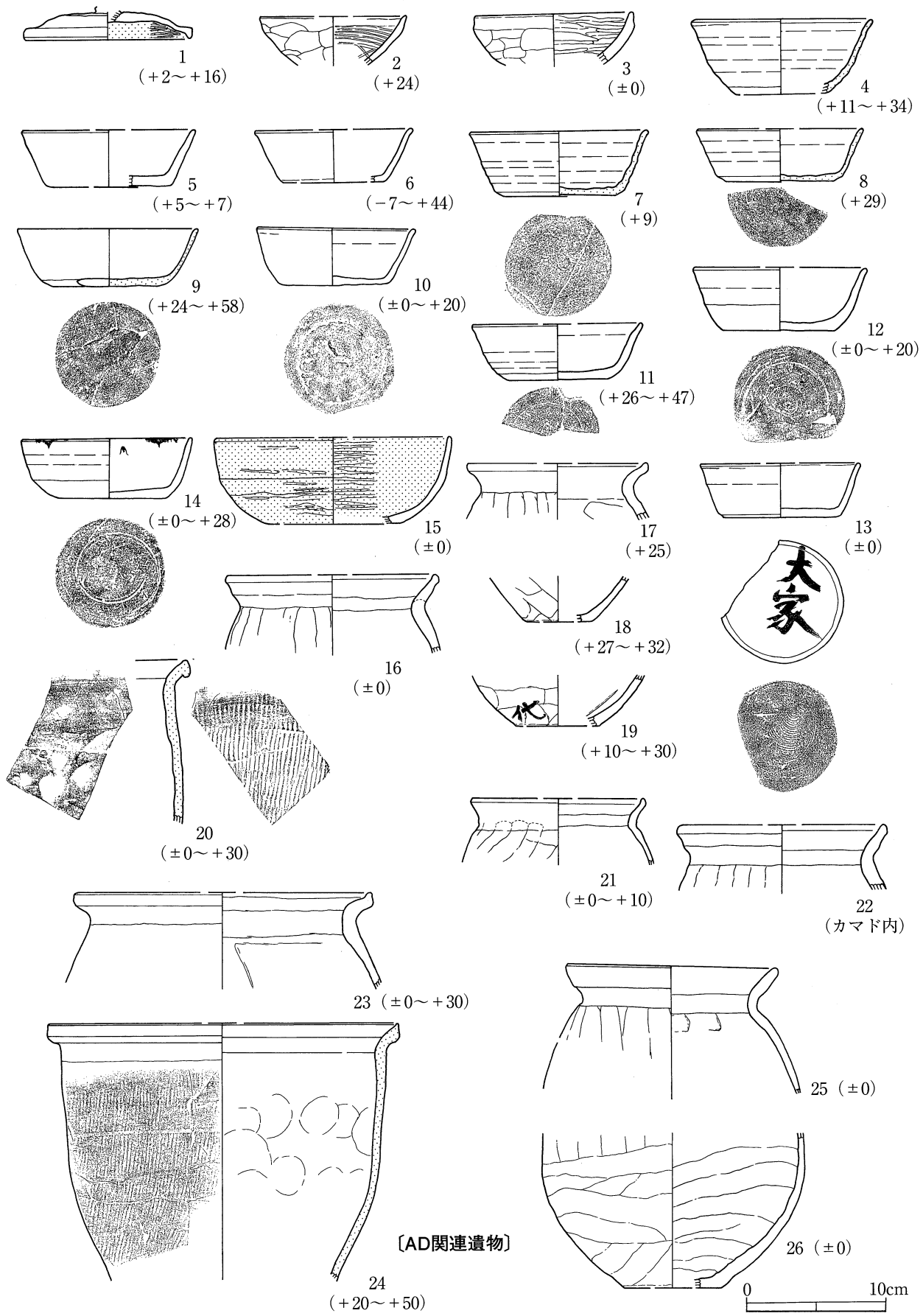
第10図 04D遺構実測図(2)



第11図 04D遺物分布図

04D 遺物観察表

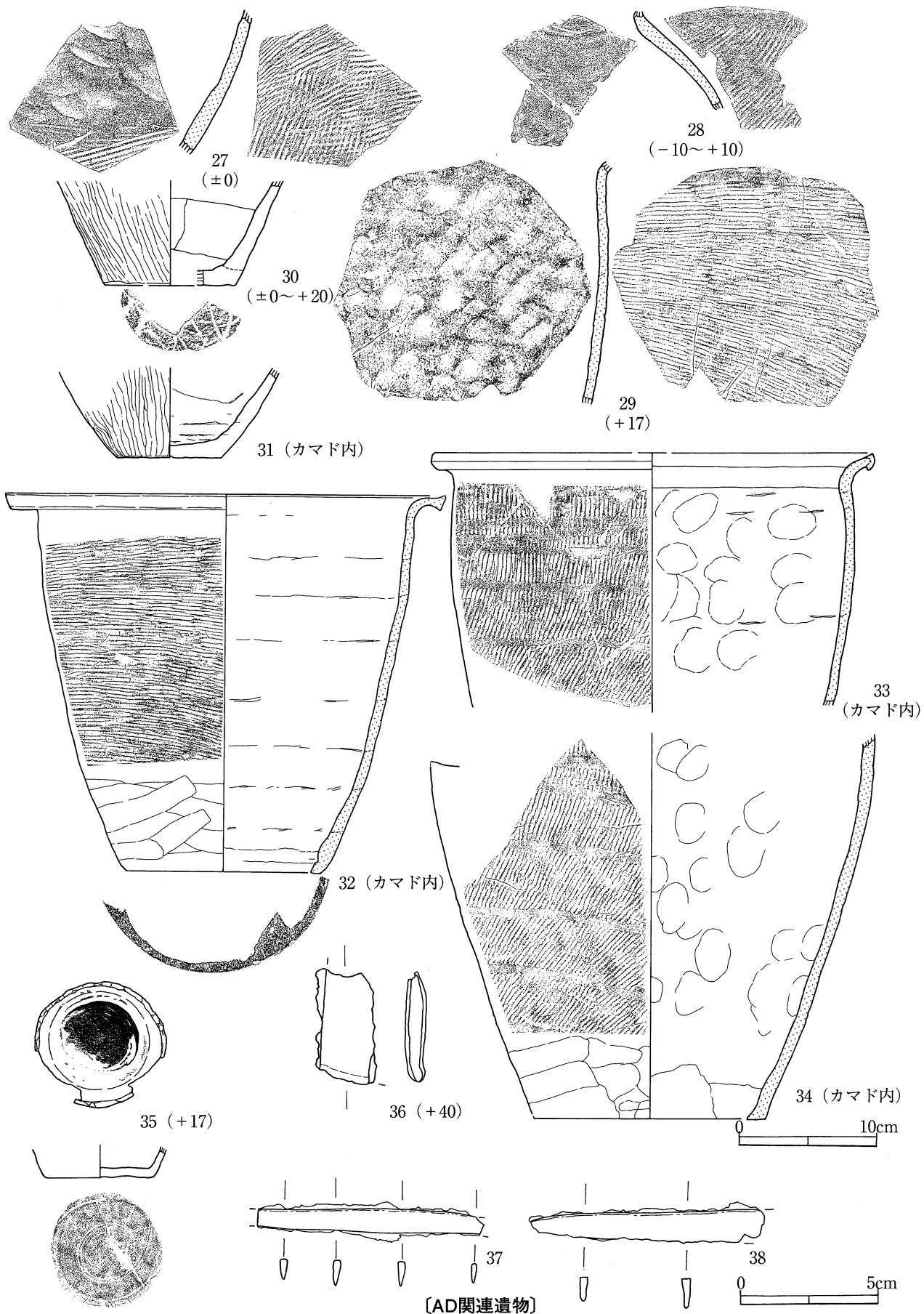
	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 蓋	つまみ欠損3/5	2	11.6	鈕帯部 1.7	外面橙褐色 内面淡黒色	雲母 白色粒	ロクロ成形。天井部回転ヘラ削り後ヘラ磨き。 内面ヘラ磨き後黒色処理。
2	土師器 坏	口辺部1/4～体部	3.5	10.4	—	黒茶褐色	白色粒多含 雲母	輪積み成形。口辺部内外横などで。体部外面横位ヘラ削り。 内面横位ヘラ磨き。口縁端部内側で削られる。
3	土師器 坏	口辺部～体部1/5	3.7	11.2	—	橙褐色	雲母細片	輪積み成形。口辺部外面横などで。 体部外面横位ヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。
4	須恵器 坏	口辺部2/3～体下部	5.4	13	6.6	淡青灰色	長石 白色粒多含	ロクロ成形。切離し不明。底部は手持ちヘラ削り調整か。 体部下端は手持ちヘラ削り調整。
5	土師器 坏	口辺部～底部1/3	4.1	12.3	8.6	淡橙褐色	雲母 白色粒多含	ロクロ成形。切離し不明。 内外ロクロなどで。口・底径比1.4。
6	土師器 坏	口辺部～底部	3.8	11.2	7.2	橙褐色	雲母小片 赤色スコリヤ 白色粒	ロクロ成形。内外横などで。 切離し不明。底部回転ヘラ削り調整か。
7	須恵器 坏	口辺部1/2弱～底部	4.7	12.8	7.8	黒灰色	白色粒 雲母細片	ロクロ成形。切離し不明。 底部と体部下端回転ヘラ削り調整。
8	須恵器 坏	口辺部1/4～底部	3.8	12	7.8	暗灰褐色	白色粒 少量 の石英、雲母	ロクロ成形。切離し不明。 底面と体部下端回転ヘラ削り調整。 内面底部に赤色付着物が点状にみられる。
9	須恵器 坏	全体の3/4	4.2	12.5	7.5	外面淡橙灰色 内面淡黒灰色	白色粒 雲母多含	ロクロ成形。切離し不明。 底部全面と体部下端手持ちヘラ削り調整。
10	土師器 坏	口辺部～底部2/3	4.3	11.2	8	淡橙褐色	雲母 白色粒 砂粒	ロクロ成形。回転ヘラ切り離し後手持ちヘラなどで調整。 内外面口辺部に煤付着。口・底径比1.4。
11	土師器 坏	口辺部～底部1/3	4	12.2	7	橙褐色	白色粒 雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。切離し不明。 底面と体部下端回転ヘラ削り調整。
12	土師器 坏	口辺部～底部1/5	4.5	12.4	8.1	橙褐色 黒斑	雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。切離し不明。 底部全面と体部下端回転ヘラ削り調整。
13	土師器 坏	口辺部～底部2/3	3.9	11.4	8	淡黄橙褐色	雲母 白色粒	ロクロ成形。回転系切離し後底部周縁と体部下端回転ヘラ削り。 口・底径比1.4。内面に煤付着。 底部外面に「大家」の墨書。
14	土師器 坏	口辺部1/2～底部全周	4.4	11.9	7.8	茶褐色	雲母白色粒 赤色スコリヤ	ロクロ成形。回転系切離し後周縁と体部下端回転ヘラ削り。 灯明皿として利用。口・底比1.5。
15	土師器 鉢	口辺部～底部1部1/5	6.2	16.6	10	黒赤褐色	雲母 白色粒	ロクロ成形。口辺部外面横などで。 体部外面横位ヘラ削り後などで状のヘラ磨き。内面横位ヘラ磨き。 内外面黒色処理か。ないし赤彩か。
16	土師器 甕	口辺部～胴上半部1/2	5.7	14.8	—	暗褐色 ～橙褐色	白色粒 赤色スコリヤ 雲母、長石	口辺部内外横などで。口縁端部縦いつまみ上げ。 胴部外面縦位ヘラ削り。内面頸部ヘラなどで。 胴部などで。外面被熱。
17	土師器 甕	口辺部～胴上半部1/5	4	12.6	—	淡橙褐色	雲母、長石 白色粒 赤色スコリヤ	輪積み成形。口縁端部つまみ上げる。 口辺部内外横などで。 胴部外面縦位ヘラ削り。内面ヘラなどで。
18	土師器 甕	胴下半部～底部1/2	3.1	—	4.7	淡灰褐色	雲母 白色粒多含	輪積み成形。 胴部外面横位～斜位ヘラ削り調整。内面などで。



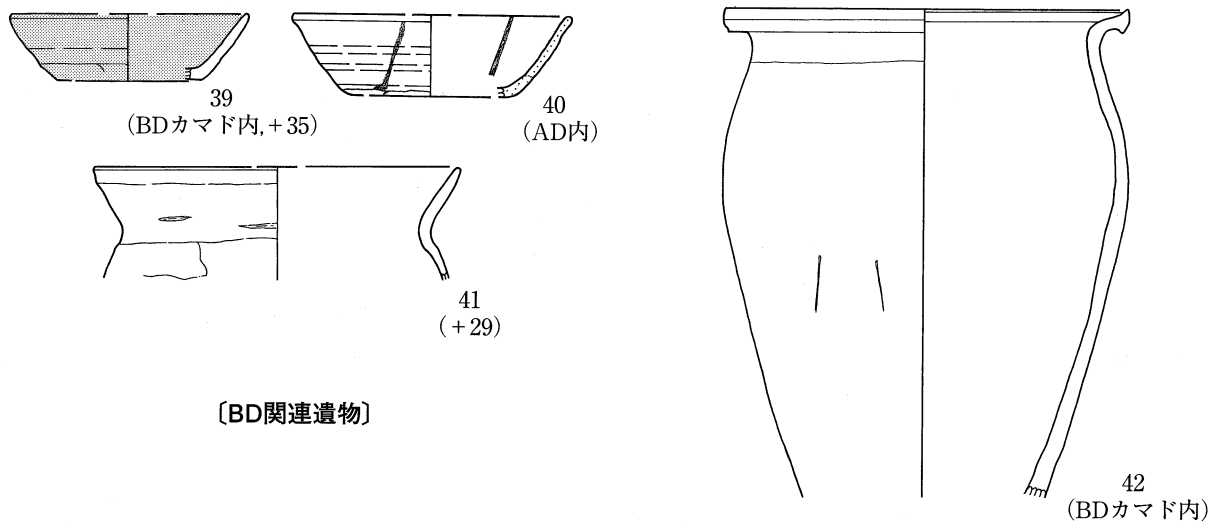
第12図 04D出土遺物 (1)

04D 遺物観察表 (2)

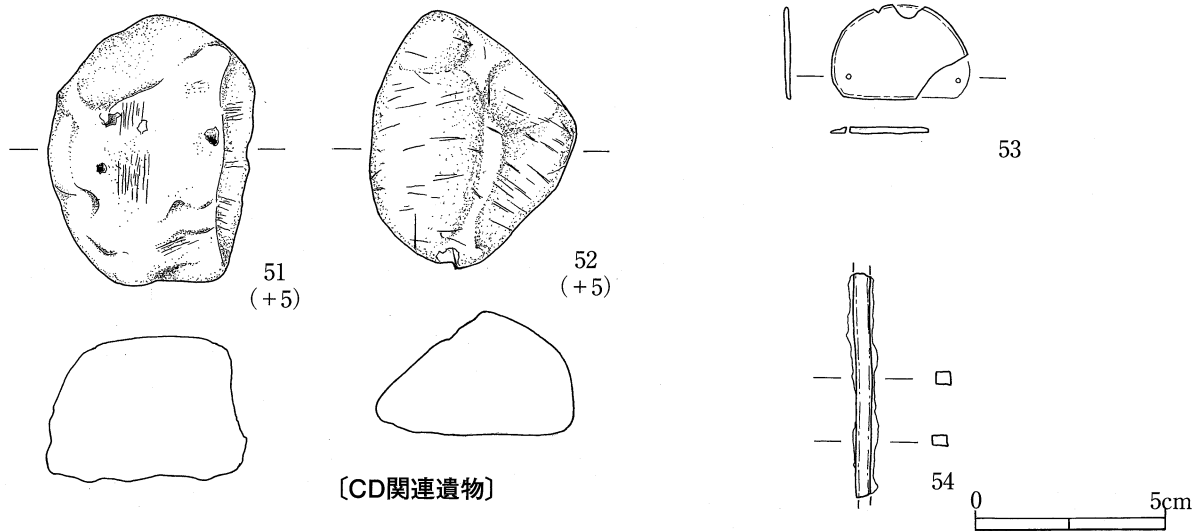
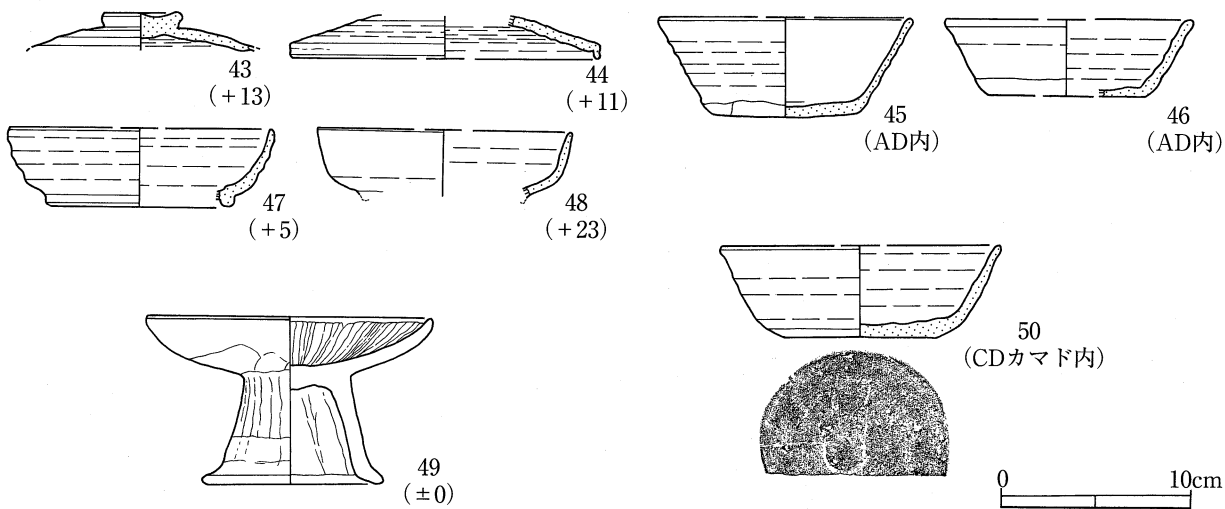
	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
20	須恵器 甕	口辺部～胴部	—	—	—	灰色 ～ 橙褐色	雲母細粒多含 赤色スコリヤ	口辺部横などで。胴部外面平行叩き目文。 内面当て痕後などで。破片後二次焼成受ける。
21	土師器 甕	口辺部～胴上半部1/2	4.7	12.2	—	暗褐色 ～ 橙褐色	白色粒 雲母 赤色スコリヤ	口辺部内外横などで。口縁端部つまみ上げ。 胴部外面斜位ヘラ削り。内面頸部ヘラなどで。胴部などで。 内外面煤、炭化物付着(被熱)。
22	土師器 甕	口辺部～頸部	4.6	15	—	暗黒褐色	白色粒 雲母 赤色スコリヤ	輪積み成形。口辺部内外横などで。 胴外面縦位ヘラ削り。内面ヘラなどで。 口縁端部弱いつまみ上げ。
23	土師器 甕	口辺部～胴上半部1/2	6.9	20.6	—	暗茶黒褐色	雲母 長石・多含 白色粒・石英	輪積み成形。口辺部内外横などで。 胴部外面などで。内面ヘラなどで。 ややなで肩の器形。
24	須恵器 甕	口辺部1/4～胴部	18.5	25	—	黒灰色 ～ 淡橙灰色	白色粒 赤色スコリヤ	口辺部横などで。 胴部外面縦位平行叩き目文。1条の沈線見られる。 内面頸部ヘラなどで。胴部円形当て具痕。
25	土師器 甕	口辺部～胴上半部2/3	9.4	15	—	茶褐色	白色粒 長石 雲母	輪積み成形。口辺部内外横などで。 胴部外面縦位ヘラ削り。内面ヘラなどで。 胴上半部外面二次焼成による剥離あり。
26	土師器 甕	胴中央部～底部1/3	11.1	—	6.8	暗褐色	白色粒多含 雲母 赤色スコリヤ	輪積み成形。 胴部外面中位縦位ヘラ削り。下半部横位ヘラ削り。 下端部斜位ヘラ削り。内面ヘラなどで。外面二次焼成の剥離。
27	須恵器 甕	胴部片	—	—	—	淡青灰色	ち密	外面平行叩き目文。部分的に交差して格子目状。 内面無文の当て具痕と木口状工具によるなで調整。
28	須恵器 甕	胴部片	—	—	—	淡青灰色	ち密	外面斜位平行叩き目文。内面同心円文当て具痕。 肩部外面自然軸付着。
29	須恵器 甕	頸部～胴中央部	—	—	—	外面暗青灰色 内面暗灰色	長石 白色粒 雲母細片	叩きしめ成形。粘土帯積み上げ後横位平行叩き目文と小振りの 当て具による叩きしめにより積み上げ。 内面はその後などで調整。
30	土師器 甕	胴下半部～底部1/2弱	7.6	—	9.4	淡茶灰褐色	白色粒多含 雲母 赤色スコリヤ	輪積み成形。底部木葉痕。 胴部外面縦位ヘラ磨き。内面などでヘラなどで。
31	土師器 甕	胴下半部～底部	6.5	—	7.5	暗茶灰褐色	長石 雲母 白色粒多含	底部木葉痕。輪積み成形。 胴部外面縦位ヘラ磨き。内面ヘラなどで。なで。
32	須恵器 甕	口辺部1/2～底部	27.6	31.6	13.8	灰色 ～ 暗灰色	雲母 石英 長石	幅3cm程度の粘土紐の積み上げ。口辺部横などで。 胴外面横位平行叩き目文。下位横～斜位ヘラ削り。 内面などで調整。5孔式。
33	須恵器 甕	口辺部1/3～胴上半部	18.3	32	—	淡橙灰色	雲母・白色粒 長石・石英 赤色スコリヤ	輪積みロクロ成形。口辺部内外横ナデ。 胴部外面縦位平行叩き目文。部分的にすり消し状なぞり。 内面当て具痕。
34	須恵器 甕	胴上半部～底部1/3	28	—	16.7	淡橙灰色	白色粒・石英 雲母・長石 赤色スコリヤ	輪積み成形。口辺部内外横などで。胴部外面縦位平行叩き目。 4.5cm間隔で横位のなぞり。内面当て具痕。
35	土師器 甕	底部全周	2.3	—	7.6	淡黄橙褐色	雲母 白色粒	ロクロ成形。切離し不明。底部全面右回転ヘラ削り。 内外面ロクロなどで。内面に墨跡あり。転用硯。
36	鉄地 銅製品	部分	縦 3.8	横 2.2	厚 0.7	重さ 22.1g		3mm程の鉄地金に厚さ1mm程の銅板を両面に合わせている。
37	鉄器 刀子			横 8.1	幅 0.8cm	厚 2mm	重さ 10g	基部、先端部欠損 片刃
38	鉄器 刀子			横 8.5cm	幅 1.6cm	厚 3mm	重さ 7.3g	
39	土師器 甕	口辺部～底部一部1/3	3.5	12.6	7.6	赤褐色	白色粒 雲母細片	ロクロ成形。切離し不明。 底面と体部下端は手持ちヘラ削りか。 内外面赤彩。口・底比1.65
40	須恵器 甕	口辺部～底部1/2	4.3	14.7	8.4	淡青灰色	長石 雲母 白色粒多含	ロクロ成形。切離し不明。 体部下端と底面手持ちヘラ削り。 内外面に火だすき。口・底比1.75
41	土師器 甕	口辺部～胴上半部1/3	5.9	19.2	—	橙褐色	白色粒 雲母 石英	口辺部内外横などで。 胴部外面横位ヘラ削り。内面などで。武蔵型甕
42	土師器 甕	口辺部全周 胴部2/3	25.6	21.4	—	暗褐色	白色粒 長石, 石英	口辺部内外横などで。口縁端部つまみ上げ。胴部外面ヘラなどで。 内面などで。二次焼成による煤及び剥離顕著。
43	須恵器 蓋	つまみ全周～体部1/8	—	つまみ径 4.2	—	灰白色	長石 白色粒	ロクロ成形。天井部外面ヘラ削り調整。 鈕部貼付。内面ロクロなどで。
44	須恵器 蓋	口辺部～体部1/5	2.3	16	—	淡青灰色	ち密	ロクロ成形。天井部回転ヘラ削り調整。 堅くしまっている。東海産
45	須恵器 甕	口辺部～底部1/3	5.3	13.4	7.7	暗青灰色	白色粒 長石・石英 少量雲母	ロクロ成形。切離し不明。 底部と体部下端手持ちヘラ削り調整。
46	須恵器 甕	口辺部～底部1/4	4	13.2	8.3	灰色	雲母 白色粒	ロクロ成形。切離し不明。 底面は手持ちヘラ削りか。体部下端ヘラ削り。
47	須恵器 甕	口辺部～底部1/3	4.2	14	10	灰白色	黒色粒ごく まれに混入	ロクロ成形。内外ロクロなどで。 高台部貼付。湖西産。 やや焼きが甘い。
48	須恵器 甕	口辺部～底部一部1/5	3.5	13.2	—	灰色	ち密 白色粒少量	ロクロ成形。内外ロクロなどで。 高台部一部遺存。湖西産(東海産)
49	土師器 高杯	ほぼ完形	9	15.1	脚部径 9.5	淡橙褐色	少量の雲母 白色粒 砂粒	杯部外面横位ヘラ削り。内面放射状暗文。 脚部外面縦位ヘラ削り。横位ヘラなどで。内面ヘラなどで。 口縁端部摩擦により判然としなない。
50	須恵器 甕	全体の1/2	4.9	14.5	7.8	灰色	雲母 長石 白色粒	ロクロ成形。切離し不明。 底部全面と体部下端回転ヘラ削り調整。 底部外面に「+」の刻書。口・底比1.85
51	軽石		縦 7.1	横 5.5	厚 3.8	重さ 47.4g		顕著な使用痕ではないが、平坦部に細かな擦痕が見られる。
52	軽石		縦 6.7	横 5.4	厚 3.3	重さ 33.2g		擦痕による平坦部分が、図示部分が4面、下面に1面見られる。
53	銅製 帯金具飾具	3/4 丸鞆裏金具	縦 3.6	横 2.5	厚 1.5	重さ 2.8g		下方端部に1mm大の孔が見られる。両端に想定される。
54	鉄器 紡錘車軸 部か	上, 下欠損	長 5.9	軸径 0.35～0.4	—	重さ 4.1g		断面4mm程の四角形。他例から考慮すると紡錘車軸部ないし鉄錘棒状部とも考えられる。



第13図 04D出土遺物 (2)



[BD関連遺物]

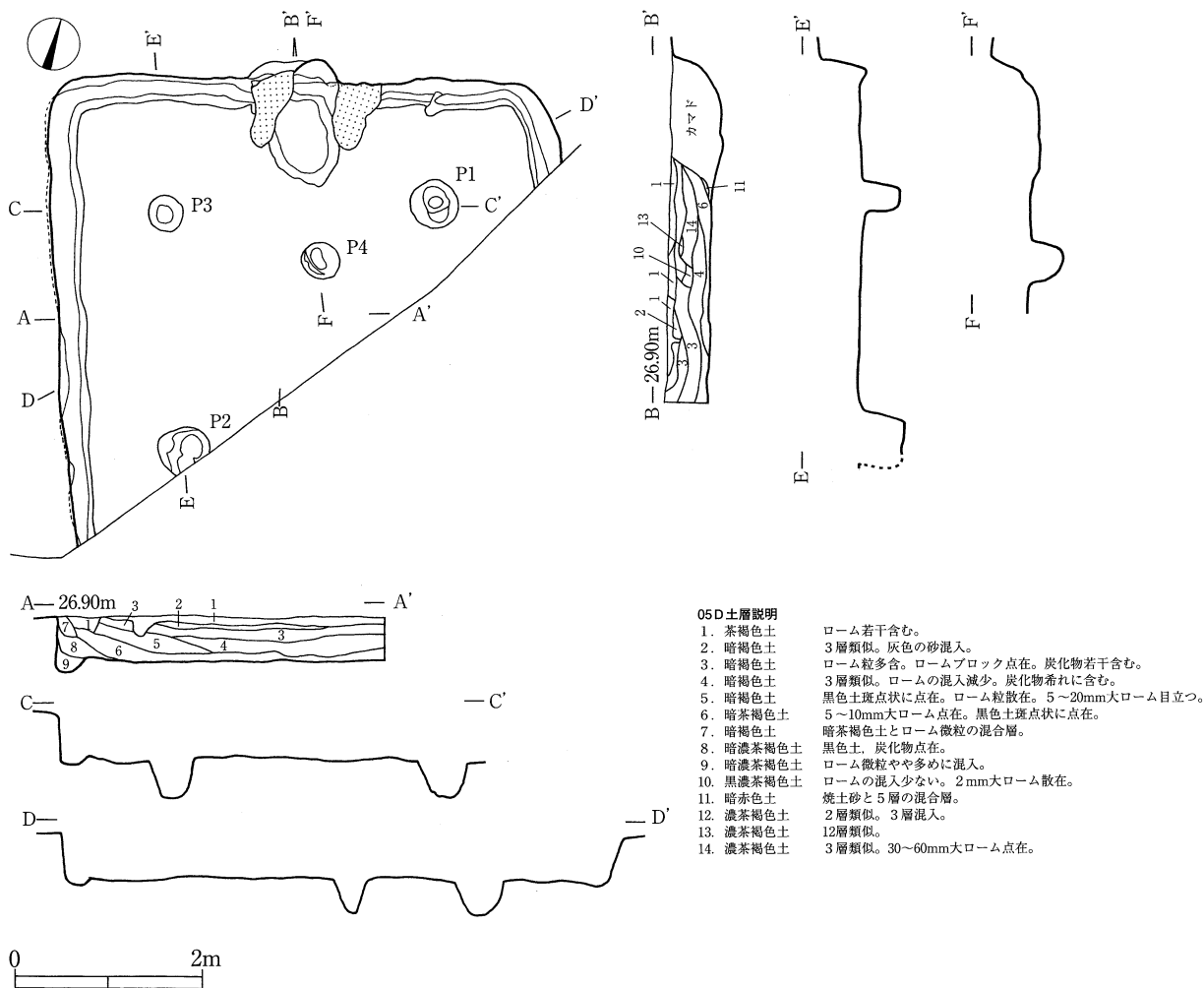


[CD関連遺物]

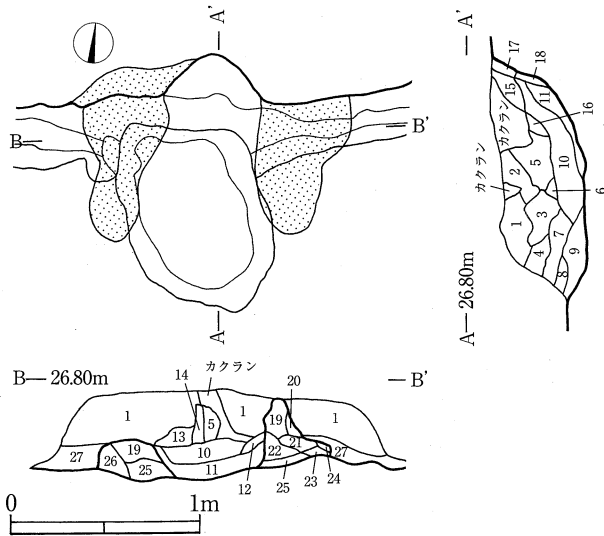
第14図 04D出土遺物 (3)

05D (第15~17図 図版2・12)

位置 F9区-2.4Gで検出。**主軸方位** N-16°-Eでやや東に振れる。**重複関係** 見られない。
平面形 やや南北に長い方形に想定される。遺構が調査区外に及ぶため明確ではないが、柱位置からの復元として妥当と考える。**規模** 4.95m×(5.4)m, 遺構確認面からの深さ0.5m。**壁** 周溝がややオーバーハング気味で、ほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードロームを掘り込んで床面としている。**周溝** ほぼ全周すると想定される。幅20~30cm, 深さ10cmで黒色土混じりの暗褐色土である。**カマド** 北壁中央に煙道を若干掘り込んで作られる。火床は焚口部前面が若干焼けている。焼土の堆積は明瞭ではない。煙道部は火床奥から角度をもって立ち上がる。この部分には焼土が薄く堆積している。構築は周溝全掘後、焚口の掘り込みで位置を決定し、袖部をつくりあげていると判断される。**ピット** P1.2.3が主柱穴で、深さ42~46cm。P4は性格不明。**覆土** 中層以下においてロームブロック混じりの暗褐色土が見られ、埋め戻されている状況である。**遺物出土状態** カマド内及びその周辺からの出土が多い。
建て替え 見られない。

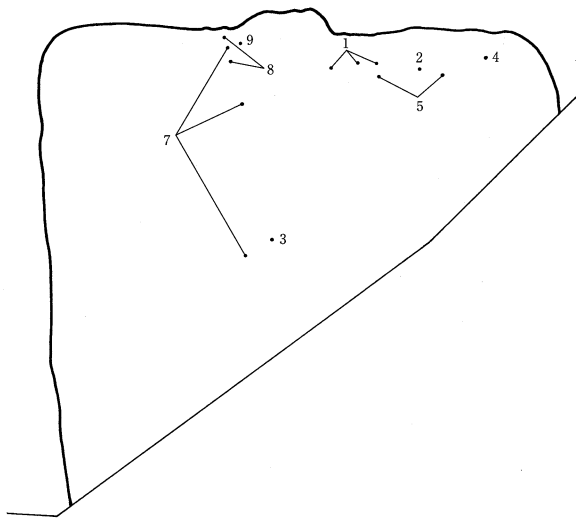


第15図 05D遺構実測図(1)

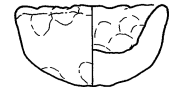
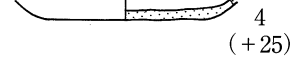
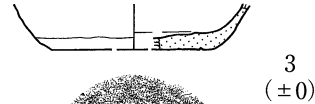
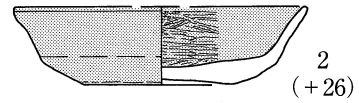
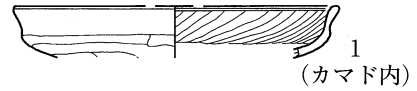


05Dカマド土層説明

1. 茶褐色土 5~10mm大ローム粒多含。焼土。粘土砂少量含む。
2. 茶褐色土 2~5mm大ローム粒含む。焼土。粘土砂少量含む。
3. 茶褐色土 1~3mm大ローム、5~10mm大ローム少量含む。
4. 茶褐色土 2~3mm大ローム少量含む。粘土砂。焼土やや多い。
5. 茶褐色土 4層類似。1~3mm大ローム4層より多い。
6. 茶褐色土 5層類似。焼土混入。
7. 暗赤色土 焼土砂と暗茶褐色土と粘土砂の層。
8. 暗赤色土 焼土砂層。ロームごく少量含む。
9. 暗茶褐色土 10mm大ローム若干含む。
10. 暗赤色砂 焼土砂純層。炭若干含む。
11. 暗茶灰色土 1~2mm大ローム若干含む。粘土砂若干混入。
12. 暗赤色土 粘土砂。焼土混入。
13. 暗茶褐色土 暗茶褐色土主体。焼土多い。
14. 暗茶褐色土 10層類似。焼土主体。
15. 暗茶褐色土 10層類似。粘土砂混入多い。
16. 暗茶褐色土 黒茶褐色土。焼土混入。
17. 暗赤褐色土 11層類似。焼土主体。
18. 褐色土 ローム土主体。
19. 暗茶灰色土 粘土砂主体。暗茶褐色土混合。
20. 暗茶灰色土 19層類似。粘土砂若干少ない。
21. 茶褐色土 山砂主体。暗茶褐色土一部混入。
22. 暗茶灰色土 20層類似。粘土砂若干少ない。
23. 茶灰色土 山砂。白色粘土混合。
24. 白色土 白色粘土層ブロック。
25. 暗茶褐色土 暗褐色と5~10mm大ロームブロックの充填層。粘土砂若干含む。
26. 暗茶灰色土 粘土砂。ローム混合層。
27. 暗茶褐色土 住居フタ下層。

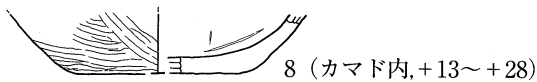
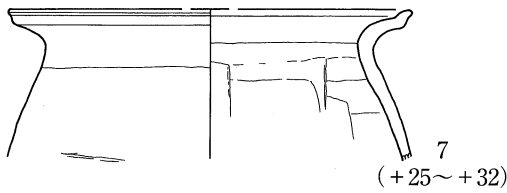


第16図 05D遺構実測図(2)



(+16~+22)

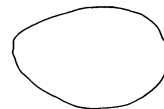
(カマド内)



0 10cm



9 (カマド内)



0 5cm

第17図 05D出土遺物

05D 遺物観察表

	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	口辺部～底部1/4	2.7	17.2	—	橙褐色	石英 赤色スコリヤ ち密	非ロクロ成形。口辺部横なで。 内面細かい横位ヘラ磨き後、一段斜方射暗文を施す。口縁端部内側緩い沈線が巡る。体部外面横位ヘラ削り。飛鳥V
2	土師器 坏	口辺部～底部1/4	4.1	15.3	7.6	赤褐色	長石 白色粒 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 外面ロクロなで。内面横位ヘラ磨き。内外赤彩される。
3	須恵器 坏	底部1/3	2.4	—	8.6	青灰色	長石 白色粒多含 雲母	ロクロ成形。 右回転ヘラ切離し後周縁と体部下端回転ヘラ削り調整。 茨城産。新治窯か。
4	須恵器 坏	底部全周	1.3	—	9	暗灰色	長石・雲母 白色粒 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 底部外面の剥離著しい。
5	須恵器 蓋	口辺部1/5	1.4	14.5	—	灰色	雲母 少量の 赤色スコリヤ	ロクロ成形。外面天井部ヘラ削り調整。 内面緩いかえりが見られる。
6	手づくね	口辺部～底部1/2弱	4.2	8	—	淡橙灰褐色	雲母 赤色スコリヤ	手づくね。指頭圧痕顕著。 他にヘラなでないしヘラ削りの痕跡。
7	土師器 甕	口辺部～胴上半部1/5	7.8	21.3	—	淡橙褐色	雲母 長石 白色粒多含	輪積みロクロ成形。口辺部内外横なで。 胴部外面なでとヘラなで(縦位)。内面横位ヘラなで。 常総型甕。胴部上半に最大径。
8	土師器 甕	胴下半部～底部1/2	3.15	—	9	外面灰黒褐色 内面淡橙褐色	長石多含 雲母 石英	輪積み成形。底部木葉痕。 胴部外面斜位ヘラ磨き。内面ヘラナデ。
9	使用痕あ る石	全体の3/4	縦 9.8	横 4.1	厚 2.7	重さ 161.6		右側面と下面に敲打状の磨り跡がみられる

06D (第18～21図 図版2・12)

[06AD]

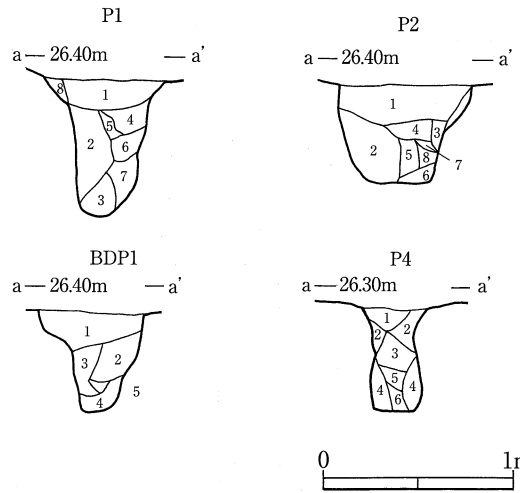
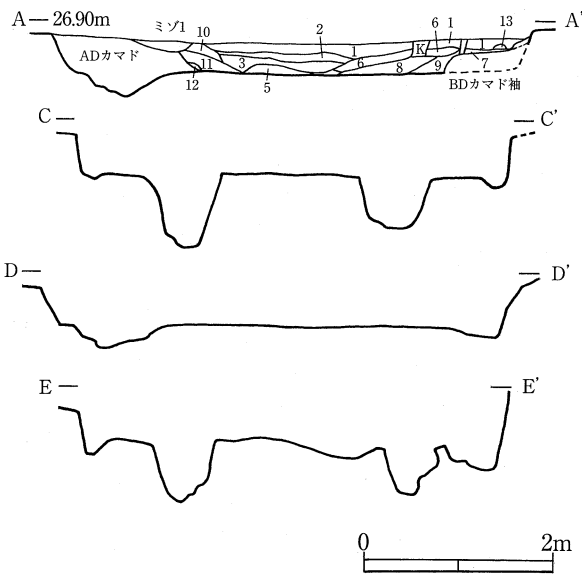
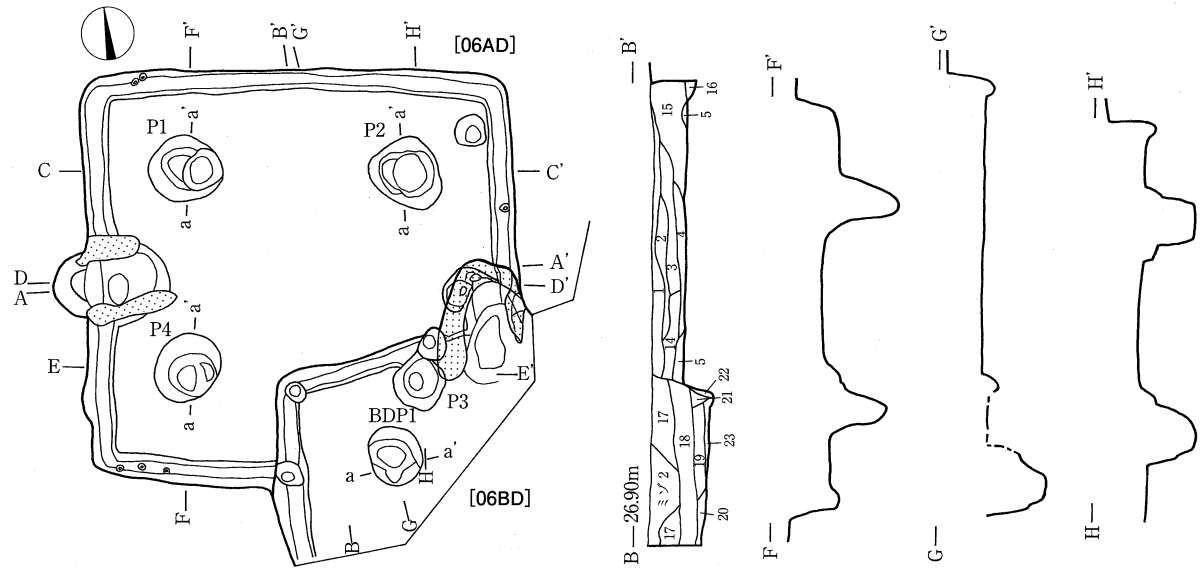
位置 G9区-1Gを中心に検出。**主軸方位** N-82°-Wで大きく西に傾く。**重複関係** 06BDに切られる。**平面形** やや南北に長い方形である。**規模** 4.3m×4.0m, 遺構確認面からの深さ0.36m。**壁** 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードロームを掘り込んで床面としている。**周溝** 全周する。幅20cm, 深さ10cm。**カマド** 西壁中央に壁を掘り込む。焼土の堆積顕著。煙道部は火床奥で平坦面をつくりそこから角度をもって立ち上がる。**ピット** P1～P4が主柱穴で、深さ60～70cm。出入口ピットはBDカマド下に想定されるが明確ではない。**覆土** 褐色土主体の埋め戻し層と想定される。**遺物出土状態** 埋め戻し時の廃棄遺物主体で、浮いた状態で出土している。**建て替え** 柱位置の変更が見られ、東西方向での拡張が想定される。

[06BD]

位置 G9区-1G。**主軸方位** N-2°-Eでほぼ南北方位。**重複関係** 06ADを切る。**平面形** 調査区外に及ぶため不明。**規模** 不明。遺構確認面からの深さ0.6m。**壁** 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードローム中で床面としている。**周溝** 遺存部分で全周する。幅15cm, 深さ5cm。**カマド** 北壁中央に作られる。焼土の堆積顕著。煙道部は火床奥で平坦面をつくりそこから角度をもって立ち上がる。06ADと同様である。**ピット** P1のみ検出された。深さ50cm。**覆土** ローム混じりの褐色土で埋め戻し層と想定される。**遺物出土状態** 本跡に伴う遺物は明確な範囲では不明である。**建て替え** 不明。

06D 遺物観察表

	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 甕	口辺部小片	—	—	—	淡赤褐色	雲母, 白色粒 赤色スコリヤ	口縁端部外側クシバ状工具による縦の刺突。 口辺部同工具による縦ハケ目。内面同工具の横ハケ目。
2	土師器 甕	口辺部小片	—	—	—	暗茶褐色	白色粒 赤色スコリヤ	口縁端部外側1と同様の工具による刺突。 口辺部外面同工具による縦ハケ目。 頸部は横ハケ目。内面横ハケ目。
3	土師器 坏	口辺部～底部1/4	4.3	12.6	—	橙褐色 黒斑	雲母 砂粒	輪積み成形。口辺部内外横なで。 体部外面横位ヘラ削り。内面木口状工具によるなで。
4	土師器 坏	口辺部1/4	3.1	12.9	—	茶褐色 黒斑	雲母細片 砂粒	輪積み成形。 口辺部内外横なで。体部外面横位ヘラ削り。内面なで。
5	土師器 鉢	口辺部～底部2/3	7.8	13.4	—	淡黒灰色	白色粒 赤色スコリヤ	輪積み成形。口辺部内外横なで。体部外面横位ヘラ削り。 粗いヘラ磨き。内面下半～底部横位ヘラ磨き。
6	土師器 坏	口辺部1/8～体部	3.6	12.2	—	暗茶褐色	少量の雲母	輪積み成形。口辺部外面横なで。体部外面横位ヘラ削り。 内面ち密なヘラ磨き。黒色処理。
7	土師器 鉢	胴上半部～底部1/4	8.2	—	—	赤褐色 黒斑	白色粒 赤色スコリヤ	輪積み成形。外面ヘラ削り。内面ヘラなで。 内面底部付近と外面全体に二次焼成の剥離著しい。
8	須恵器 蓋	口辺部1/4～体部2/3	2	14.2	—	淡青灰色	雲母 白色粒多含 赤色スコリヤ	ロクロ成形。天井部右回転ヘラ削り調整。 内面のかえりは比較的明瞭。ロクロなで。茨城産
9	須恵器 蓋	口辺部1/8	2.2	16	—	灰白色	雲母 長石多含	ロクロ成形。内側のかえりは、やや緩やか。天井部ヘラ削り。 10と同一個体か。



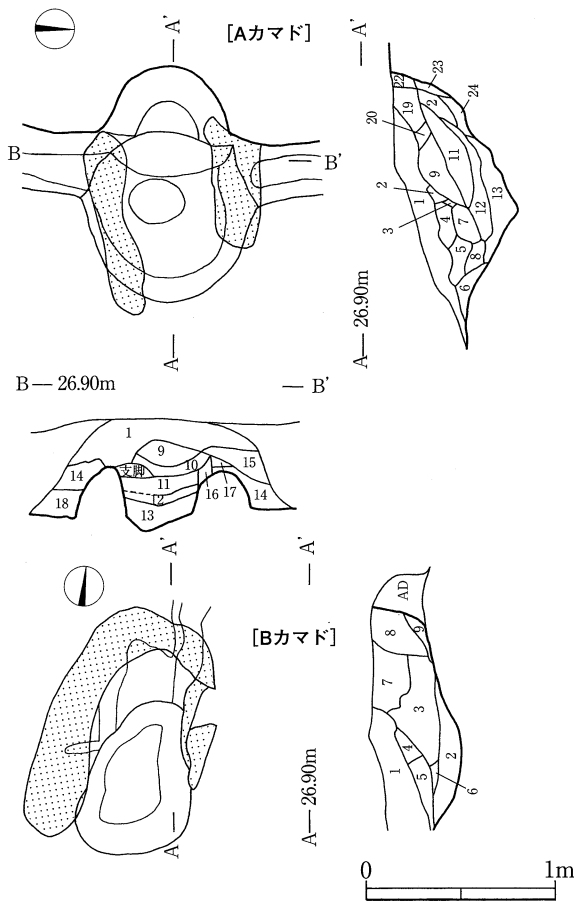
06D土層説明

- | | | | |
|-----------|------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1. 濃茶褐色土 | 2~3mm大ローム若干含む。 | 12. 濃茶褐色土 | ロームブロック。 |
| 2. 濃茶褐色土 | 15~50mm大ローム散在。 | 13. 暗赤褐色土 | 焼土砂塊。 |
| 3. 濃茶褐色土 | 1層類似。2層に比べローム減じる。 | 14. 濃茶褐色土 | 50mm大ローム若干含む。 |
| 4. 濃茶褐色土 | ローム粒多く混入。 | 15. 濃茶褐色土 | 4層類似。ローム混入少ない。 |
| 5. 濃茶褐色土 | 100mm大ハードローム散在。 | 16. 濃茶褐色土 | 15層に近い。ローム土多い。 |
| 6. 濃茶褐色土 | 3層に黒色土若干混入。 | 17. 濃茶褐色土 | 20~50mm大ローム点在。ローム粒散在。炭化物若干。 |
| 7. 濃茶褐色土 | 粘土砂混入。6層類似。 | 18. 濃茶褐色土 | 1~5mm大ロームやや多い。 |
| 8. 濃茶褐色土 | 5~20mm大ローム散在。炭化粒。焼土含む。 | 19. 濃茶褐色土 | 10~30mm大ローム多含。 |
| 9. 濃茶褐色土 | 8層類似。粘土砂混入。 | 20. 濃茶褐色土 | 19層類似。 |
| 10. 濃茶褐色土 | 3層類似。砂質粘土混入。 | 21. 濃茶褐色土 | 1~3mm大ローム小さくなる。 |
| 11. 濃茶褐色土 | ADカマドの焼土。焼土砂の混入。 | 22. 濃茶褐色土 | 21層類似。ローム粒斑点状に混入。 |
| | | 23. 褐色土 | ロームブロック主体。若干濃茶土混入。 |

第18図 06D遺構実測図(1)

06D遺物観察表(2)

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
10 須恵器 蓋鈕	つまみ全周	1.5	鈕径 3.8	—	灰白色	雲母 長石多含	ロクロ成形。 扁平なつまみを接合している。9と同一個体か。
11 須恵器 蓋	口辺部1/5	1.8	15.6	—	外面灰色 内面暗灰色	雲母 石英、砂粒	ロクロ成形。 かえりは比較的明瞭
12 須恵器 坏	口辺部~底部1/2	4.3	12.6	7	灰色	長石、白色粒 雲母多含	ロクロ成形。切離し不明。 回転ヘラ削り調整。底部と体部の境不明瞭。茨城産。
13 須恵器 坏	口辺部~底部1/2	3.4	12	7	淡灰色	白色粒多含	ロクロ成形。切離し不明。 内外ロクロなので。なめらかな仕上がりに。茨城産。
14 土師器 手づくね	口辺部1/2~底部	3.7	6.9	7.6	淡黒灰色	雲母、白色粒 赤色スコリヤ	手づくね。 内外などで整形。底部木葉痕。



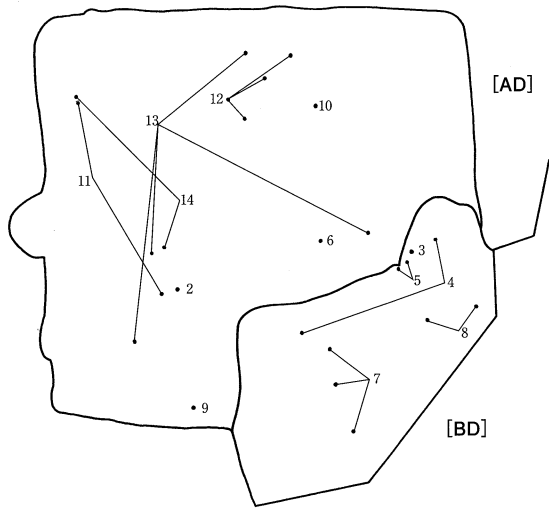
第19図 06D遺構実測図(2)

06D Aカマド土層説明

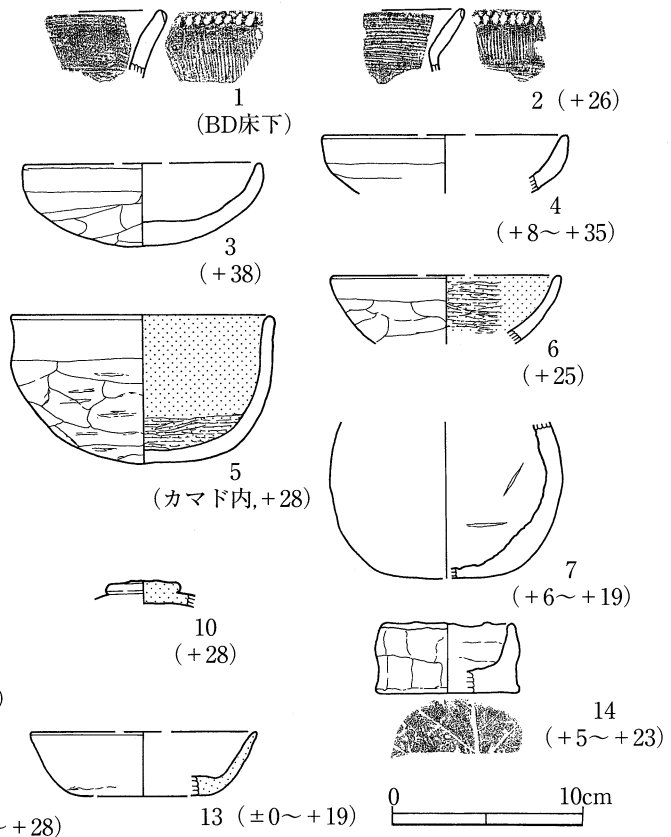
1. 暗茶褐色土 粘土砂, 2~5mm大焼土多含。黒色土粒点在。
2. 暗茶褐色土 暗茶褐色土と粘土砂の混合層。焼土微量含む。
3. 茶灰色砂 粘土砂ブロック。暗茶褐色土混入。
4. 茶灰色砂 暗茶褐色土主体。粘土砂混入。2~5mm大焼土粒微量。
5. 茶灰色砂 4層類似。粘土砂が多い。
6. 暗茶褐色土 30~40mm大ロームブロック含む。
7. 暗茶褐色土 粘土砂混入。焼土粒炭化物少量混入。
8. 暗茶灰色土 粘土砂主体。ローム若干含む。
9. 暗茶褐色土 5mm大焼土点在。粘土砂含む。
10. 暗茶褐色土 9層類似。
11. 暗赤褐色土 焼土及び灰層。
12. 赤色土 焼土層。
13. 暗茶褐色土 焼土, 暗褐色土の層。
14. 暗茶褐色土 ローム混入やや多い。ロームブロック若干含む。
15. 暗茶褐色土 1層類似。粘土砂, 焼土多い。
16. 赤色土 カマド内壁。
17. 赤灰色土 5~10mm大焼土多含。
18. 褐色土
19. 茶赤色土 茶褐色土混入する焼土層。
20. 暗茶褐色土 黒色土混入。
21. 茶赤色土 粘土砂多含。暗茶褐色土混合層。
22. 茶赤色土 ローム焼土砂混合層。
23. 暗褐色土 ローム土。
24. 暗褐色土 ローム白色粘土充?層。

06D Bカマド土層説明

1. 黒茶褐色土 2~5mm大焼土, ローム粒多含。
2. 暗赤褐色土 暗赤褐色土, ローム土混合層。
3. 黒赤色土 黒茶褐色土, 焼土混合層。
4. 茶灰色土 粘土砂主体。10mm大粘土ブロック含む。
5. 黒灰色土 1層と4層の中間層。焼土若干含む。
6. 黒色土 粘土砂若干含む。
7. 黒茶褐色土 2~20mm大ローム点在。焼土砂若干含む。
8. 暗赤褐色土 焼土と暗茶褐色土混合層。
9. 茶灰色土 粘土と暗茶褐色土充?層。



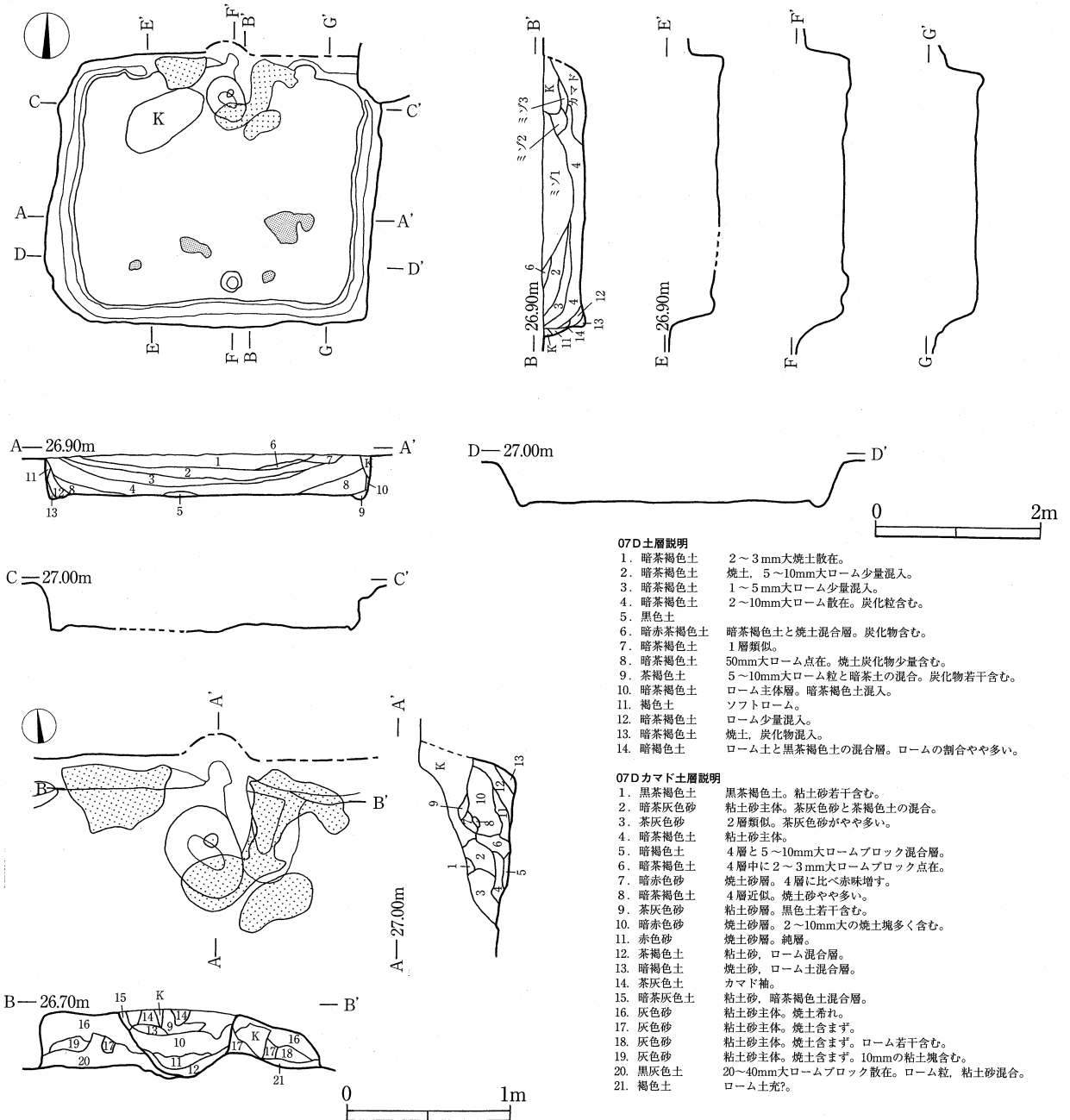
第20図 06D遺物分布図



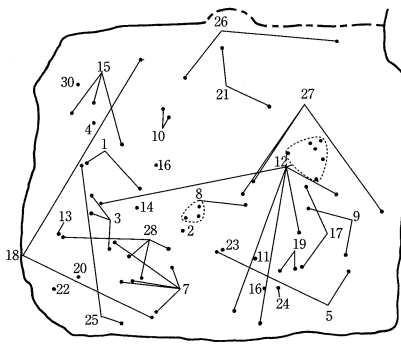
第21図 06D出土遺物

07D (第22~25図 図版2・12)

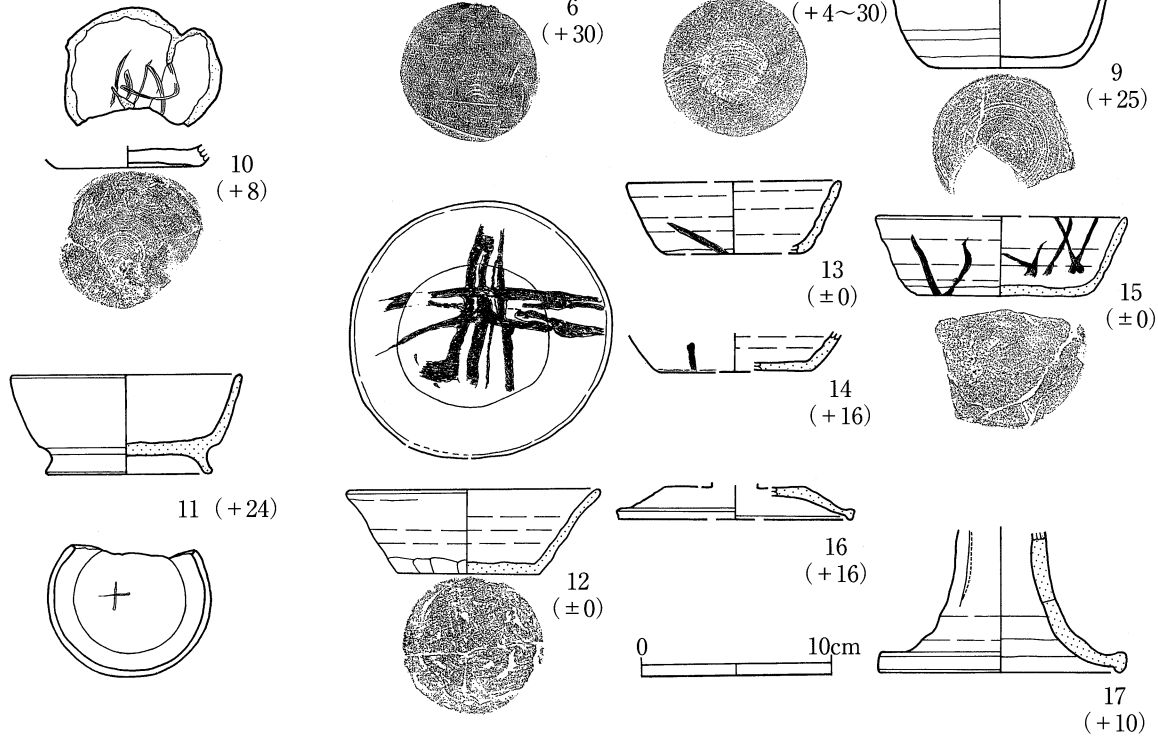
位置 F8区-2Gで検出。**主軸方位** N-10°-Eでほぼ南北方向。**重複関係** 見られない。
平面形 東西やや長い長方形。**規模** 3.74m×2.93m, 遺構確認面からの深さ0.5m。**壁** 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードロームを掘り込んで床面としている。床はほぼ平坦である。**周溝** 北東部でやや不明瞭だがほぼ全周する。幅15~25cm, 深さ5cm程度でローム土主体の褐色土である。
カマド 北壁中央に作られる。上面からカマド部分においてカクランが著しいため, 煙道部の形状は不明である。火床の掘り込みは浅い。袖部の遺存状態は悪いが, 天井部の崩落が見られる。煙道部は火床奥から角度をもって立ち上がる。カマド位置は, 周溝が火床部まで及んでいないことから当初から決定されていたと判断される。**ピット** 出入り口ピットがカマド対面に検出された。深さ8cmで浅い。
覆土 褐色土主体の埋め戻しが想定される。また, 焼土・炭化物が下層から検出されており, 家屋廃材の処理と考えられる。**遺物出土状態** 覆土中の遺物が多いが, ほぼ本跡に伴うと判断される。
建て替え 見られない。



第22図 07D遺構実測図



第23図 07D遺物分布図



第24図 07D出土遺物 (1)

07D 遺物観察表

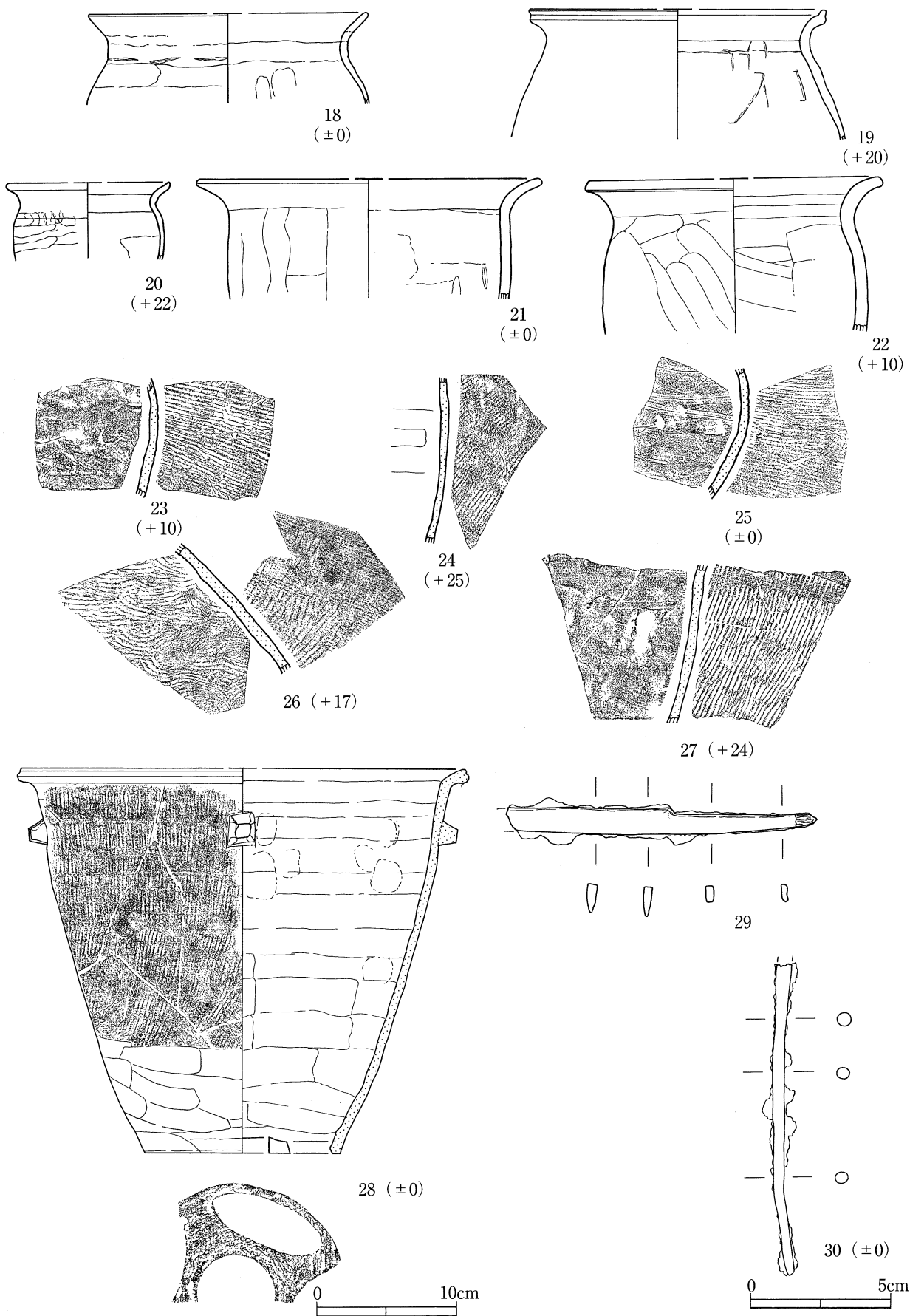
	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	口辺部1/4~体部	3.1	10.4	—	淡橙褐色	赤色スコリヤ 雲母、白色粒	輪積み成形。 口辺部横などで。体部外面横位へラ削り。内面横位へラ磨き。
2	土師器 坏	口辺部~体部1/5	3	11.2	—	淡橙褐色 黒斑	雲母 白色粒	輪積み成形。口辺部外面横などで。 体部外面斜位へラ削り。内面横位と斜位へラ磨き。
3	土師器 坏	ほぼ完形	3.9	12.5	8.9	橙褐色	白色粒、黒 色粒 赤色スコリヤ 小雲母片	ロクロ成形。切離しは回転へラ切りか？ 底部未調整。 内外面ロクロなどで体部下外面正位に「祚」の墨書が見られる。
4	土師器 坏	底部2/3	1	—	7	橙褐色	赤色スコリヤ 多含 白色粒、雲 母少量	輪積み成形。底部外面手持ちへラ削り。内面粗いへラ磨き。 底部外面中央に「大家」ないし「天家」の墨書。
5	土師器 坏	体部~底部1/2	2.9	—	8	淡黄褐色	雲母、白色粒 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 右回転糸切離し後周縁回転へラ削り調整。内外ロクロなどで。
6	土師器 坏	口辺部~底部全周2/3	4	10.8	7.2	淡橙褐色	長石、雲母、 石英 白色粒	ロクロ成形。 回転糸切離し後全面手持ちへラ削り調整。内外ロクロなどで。
7	土師器 坏	ほぼ完形	4	11.6	7.7	淡橙褐色	白色粒、雲 母少量 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 回転糸切離し後底部周縁と体部下端回転へラ削り。
8	土師器 坏	口辺部1/4~底部	4	12.6	7.8	橙褐色	白色粒、雲 母少量 赤色スコリヤ	ロクロ成形。切離し不明。 底部全面と体部下位回転へラ削り調整。内外面ロクロなどで。
9	土師器 坏	口辺部1/6~底部	4.1	11.2	7.8	黄橙褐色	白色粒、雲 母少量 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 切離し不明。底部全面と体部中央~下端回転へラ削り。

07D 遺物観察表 (2)

	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
10	土師器 環	底部7/8	1.2	—	7.6	外面黄橙褐色 内面橙褐色	白色粒 石英・雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 右回転糸切離し後周縁手持ちヘラ削り。体部下端ヘラ削り。 底部内面に「丕」のヘラ書き。
11	須恵器 高台付環	全体の2/3	5.3	12.2	8.6	淡青灰色	白色粒	ロクロ成形。切離し不明。高台部貼付。内外面ロクロなどで。 内面底部凹凸が顕著。底部外面にヘラ書き「×」。
12	須恵器 環	ほぼ完形	4.5	13.4	7.5	青灰色	長石、雲母 白色粒多含	ロクロ成形。切離し不明。底部全面と体部下端手持ちヘラ削り。 底部内面に4～5本単位、底部～口辺部外面に3本単位の火だすきが見られる。
13	須恵器 環	口辺部破片	3.8	11.4	7.2	淡青灰色	白色粒主に 雲母少量	ロクロ成形。切離し不明。 体部下端ヘラ削り調整、火だすき。断面中心部青褐色。
14	須恵器 環	底部～体部1/3	2	—	8.2	淡青灰色	白色粒多含 雲母	ロクロ成形。切離し不明。底部外面手持ちヘラ削り調整。 内面ロクロなどで。外面体部～底部に火だすき。
15	須恵器 環	口辺部1/5～底部	4.1	13.2	8.6	淡青灰色	白色粒多含	ロクロ成形。切離し不明。底部全面と体部下端回転ヘラ削り。 内外面の口辺～底部に格子状、X状の火だすき。
16	須恵器 蓋	口辺～天井部1/4	1.8	12.2	—	やや暗い 青灰色	長石多含 雲母、白色粒	ロクロ成形。口辺部の稜は明瞭に屈曲。 天井部は回転ヘラ削り。やや小ぶりの蓋。
17	須恵器 高環	脚部一部欠損	7.5	—	12.8	橙褐色	白色粒多含 石英、雲母	ロクロ成形。内面ヘラなどで。 刻み状の透しが角度を考慮すると3ヵ所見られる。
18	土師器 甕	口辺部～胴上半部1/4強	6.4	19.8	—	淡橙褐色	雲母、白色粒 赤色スコリヤ	輪積み成形。口辺部内外横などで。 胴部外面横位ヘラ削り。内面ヘラなどで。武蔵型甕。
19	土師器 甕	口辺部1/3～胴上半部	9.3	21	—	淡橙褐色	長石、雲母 白色粒多含	輪積み成形。口辺部内外横などで。胴外面などで。内面ヘラなどで。 口縁端部つまみ上げ。常総型甕。
20	土師器 甕	口辺部～体部	5.5	11.6	—	黒茶褐色	白色粒 雲母	輪積み成形。口辺部内外横などで。 胴～頸部外面縦位から横位ヘラ削り。内面ヘラなどで。
21	土師器 甕	口辺部～胴上半部1/6	8.5	24	—	淡茶褐色	雲母・白色粒 赤色スコリヤ 長石	口辺部内外横などで。 胴部外面縦位ヘラ削り調整。内面頸部ヘラなどで。 胴部ヘラなどで。
22	土師器 甕	口辺部～胴上半部2/5	11.1	21.2	—	赤褐色 ～茶褐色	白色粒多含 雲母、砂粒	輪積み成形。口辺部内外横などで。 胴外面斜位ヘラ削り。内面ヘラなどで。外面被熱。
23	須恵器 甕	胴部片	—	—	—	青灰色	白色粒	叩き締め成形。外面縦位平行叩き目。 内面当て具痕となどで調整。25と同一固体
24	須恵器 甕	胴部片	—	—	—	橙褐色	雲母 白色粒	叩き締め成形。 外面縦位平行叩き目。内面ヘラなどで。
25	須恵器 甕	胴部片上半	—	—	—	青灰色	白色粒	叩き締め成形。 23と同一固体
26	須恵器 甕	胴部片	—	—	—	外面暗灰色 内面淡灰色	黒色粒 全体にち密	叩き締め成形。 外面格子目文叩き目。内面同心円文当て具。
27	須恵器 甕	胴部片上半	—	—	—	外面淡青灰色 内淡赤灰褐色	雲母と白色 粒多含。 赤色スコリヤ	輪積みロクロ成形。 外面縦位平行叩き。 内面当て具痕ヘラなどで。
28	須恵器 甕	口辺部～底部1/3	27.5	31.5	13.8	黒灰色	白色粒 赤色スコリヤ	口辺部内外横などで。胴部外面縦位平行叩き目。 一定間隔で横位のなぞり。下半部横位ヘラ削り。 内面ヘラなどで。当て具痕部分的に見られる。
29	鉄器 刀子	先端部分欠損	長 11.1	柄部長 5.4	峰部厚さ 2.5mm		重さ 9.8g	柄部先端木質部残存。
30	鉄製品 紡錘車輪部	上部欠損	縦 11.1	軸径 3～5mm			重さ 8g	軸は円形の断面形態。 おそらく紡輪と軸の分離タイプ。

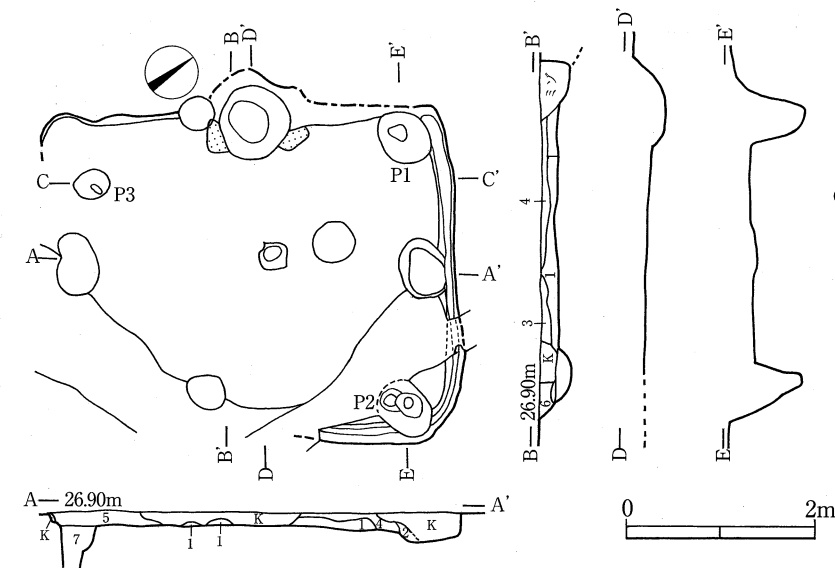
08D (第26～29図 図版2・13)

位置 E8区-2Gで検出。主軸方位 N-43°-Wで西に傾く。重複関係 01H, 近世以降の溝に切られる。平面形 東西にやや長い長方形。規模 4.01m×3.53m, 遺構確認面からの深さ0.2m。壁 遺存状態は悪いが、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ソフトローンを掘り込んで床面としている。床はほぼ平坦である。周溝 東壁・南壁側で周回する。幅15cm, 深さ7cm程度である。カマド 北壁中央に作られるが遺存状態は悪い。焚口部の掘り込みは15cmとやや深い。煙道部は焚口奥から角度を変えて緩



第25图 07D出土遺物 (2)

やかに立ち上がる。ピット P1,2,3が検出された。主柱穴と考えている。深さ50cm程度である。覆土焼土・炭化材主体の暗褐色土である。家屋廃材の処理と考えられる。遺物出土状態 カマド内出土の5を標準に見ると、他の遺物もほぼ本跡に伴うと判断される。建て替え 見られない。



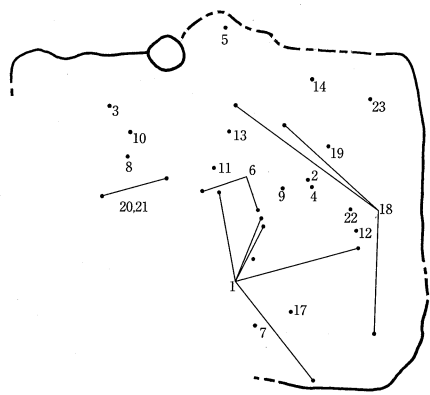
08D土層説明

- 1. 黒茶褐色土 炭化材多含。土器包含主体層。
- 2. 暗赤褐色土 焼土層。炭化材含まず。
- 3. 暗茶褐色土 焼土粒。小炭化物混入。
- 4. 暗茶褐色土 炭化物。ローム粒若干含む。
- 5. 暗茶褐色土 ローム粒少量含む。焼土炭化物含まず。
- 6. 暗茶赤褐色土 暗茶褐色土に焼土混入。炭化物若干含む。
- 7. 暗茶褐色土 01号掘立柱覆土。黒色土混入。

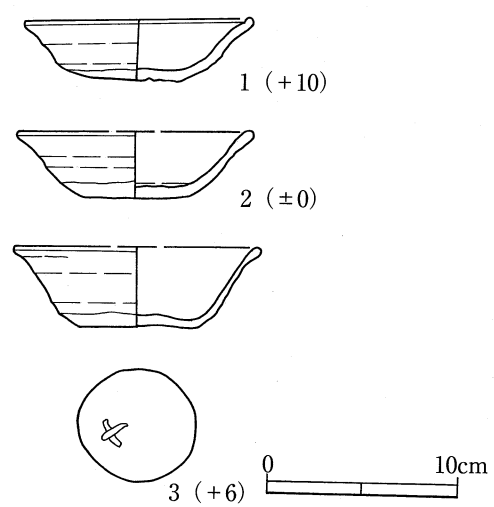


08Dカマド土層説明

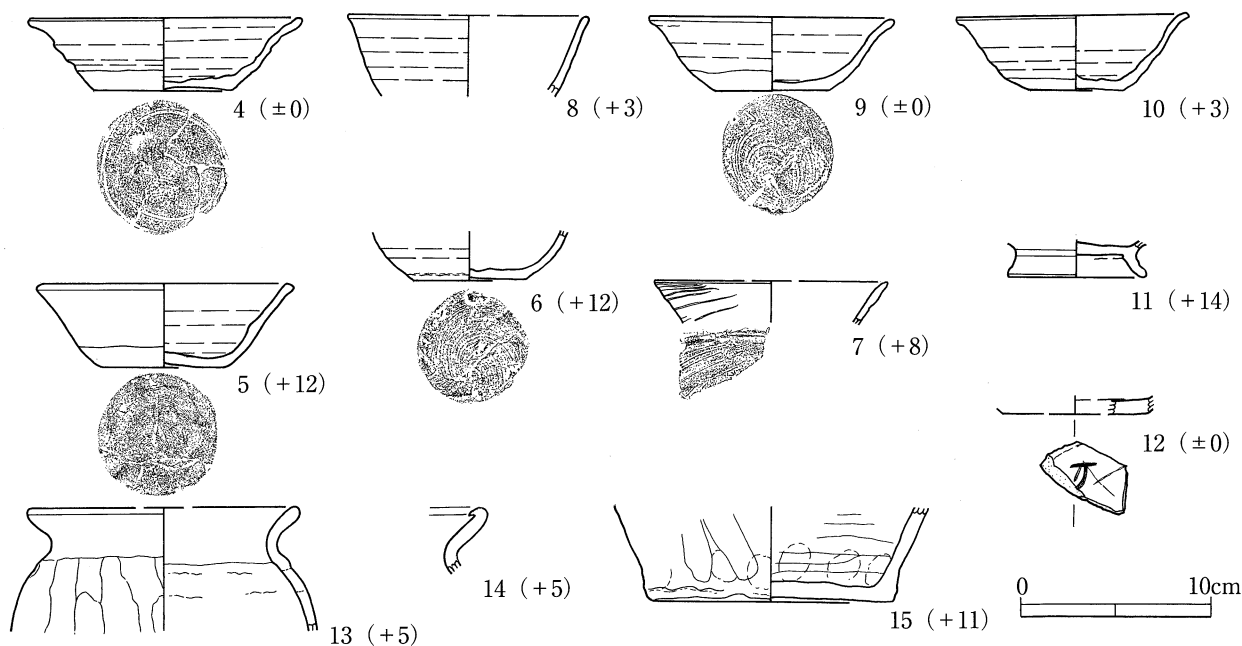
- 1. 暗赤色土 焼土砂層。灰色粘土砂少量含む。
- 2. 暗褐色土 若干焼土砂含む。ローム土混入。
- 3. 暗茶褐色土 火床充?土。



第26図 08D遺構実測図



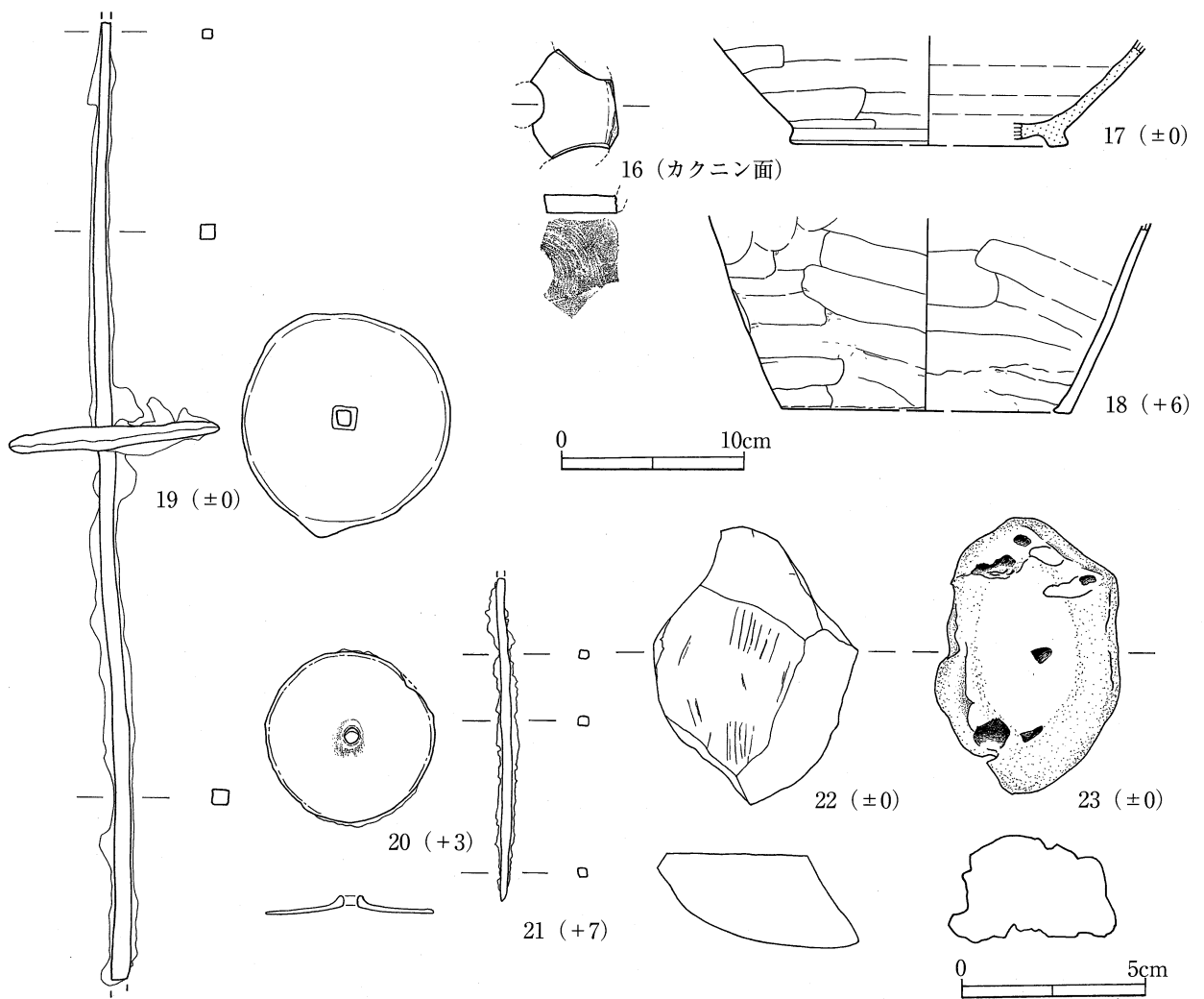
第27図 08D出土遺物 (1)



第28図 08D出土遺物 (2)

08D 遺物観察表

	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	完形一部欠	3.5	12.1	4.7	淡橙褐色 ～青灰色	白色粒多含 雲母、小石粒	ロクロ成形。切離し不明。底部と体部下端回転ヘラ削り。 口縁端部断面コの字状。内側に緩い稜線。
2	土師器 坏	口辺部～底部1/4	3.5	12.4	5.8	暗灰色	白色粒 雲母	ロクロ成形。内外ロクロなどで。 回転糸切離し後周縁と体部下端回転ヘラ削り調整。
3	土師器 坏	口辺部2/3～底部	4.3	13	6.3	淡橙褐色	白色粒 雲母、長石	ロクロ成形。回転糸切離し後周縁と体部下端回転ヘラ削り。 内外面ロクロなどで。底部外面中央に「×」のナゾリ。
4	土師器 坏	完形一部欠	3.9	14.2	7.2	黒灰色	長石 雲母、白色粒	ロクロ成形。回転糸切離し後周縁と体部下端回転ヘラ削り調整。 ロクロ目明瞭。
5	土師器 坏	口辺部1/3～底部全周	4.4	13.5	6.5	暗茶褐色 ～黒灰色	赤色スコリヤ 白色粒、雲 母少量	ロクロ成形。 右回転糸切離し後周縁と体部下端回転ヘラ削り調整。粗雑な作り。
6	土師器 坏	体部下半～底部	2.6	—	6	暗灰褐色	白色粒 雲母、細長 石片	ロクロ成形。 右回転糸切離し後未調整。
7	土師器 坏	口辺部破片1/5	2.3	12.2	—	黒灰色	雲母 白色粒	ロクロ成形。 焼成前ヘラ書き体部外面に見られる。
8	土師器 坏	口辺部～体部中央1/4	4.3	12.6	—	淡橙灰褐色	白色粒、雲母 長石、赤色 スコリヤ	ロクロ成形。 黒斑あり。
9	土師器 坏	完形	3.9	12.8	6	橙褐色 黒斑	白色粒 雲母、長石	ロクロ成形。口縁端部外反。 右回転糸切離し後周縁と体部下端回転ヘラ削り調整。
10	土師器 坏	口辺部2/5 ～底部全周	4	12.4	5	淡橙褐色 ～暗褐色	雲母、白色粒 赤色スコリヤ	ロクロ成形。切離し不明。底部全面と体部下端回転ヘラ削り調整。 口縁端部外反。内面、外面に黒斑。
11	土師器 高台付塊	高台部1/4	1.9	—	7.6	淡黄橙褐色	白色粒、石英 長石、小石粒	ロクロ成形。 回転糸切り離し後周縁ヘラ削り。高台部貼り付け。
12	土師器 坏	底部1/5	1	—	7.6	淡黄橙褐色	赤色スコリヤ 雲母、石英粒	ロクロ成形。 底部外面に「万」の墨書と「×」の刻書。
13	土師器 甕	口辺部～胴上半部1/2弱	6.5	14	—	赤茶褐色 黒斑	白色粒 赤色スコリヤ 雲母、長石	輪積み成形。 口辺部内外横などで。 胴外面縦位ヘラ削り。内面などで。
14	土師器 甕	口辺部片	—	—	—	淡黄橙褐色	白色粒 雲母、石英	輪積み成形。 口辺部横などで。内側に粘土紐貼りつけ。
15	土師器 甕	底部～胴部1/4	5	—	12.8	淡橙灰褐色	雲母、砂粒 赤色スコリヤ	輪積みロクロ成形。 胴部下端内外面に指頭圧痕。外面ヘラ削り。内面などで調整。
16	土師器 甕	底部の破片	縦 6	横 4.8	厚 1	淡橙褐色	長石、雲母 白色粒、石英	ロクロ使用。回転糸切離し後周縁ヘラ削り。 孔数は5。
17	須恵器 甕	胴下半部1/7～底部	5.8	—	15.2	灰白色	長石、石英 黒色粒	ロクロ成形。高台部貼付け。 胴部下端～下位横位ヘラ削り。内外面自然釉。
18	土師器 甕	胴部1/4～底部	10.6	—	15.8	橙褐色	白色粒、石英 赤色スコリヤ 雲母	輪積み成形。5孔式。 外面胴部中央まで縦位ヘラ削り。下位～下端横位～斜位ヘラ削り。 内面ヘラなどで。なお切離しは回転糸切り未調整。



第29図 08D出土遺物 (3)

08D遺物観察表 (2)

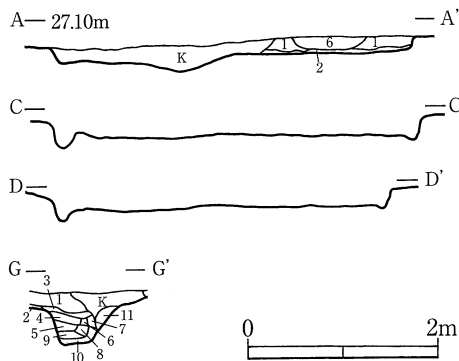
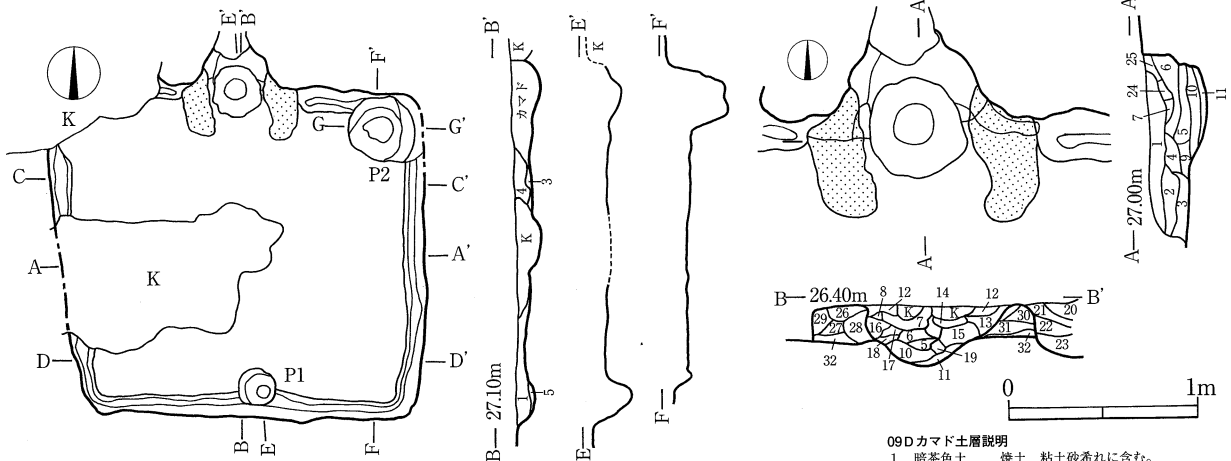
	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
19	鉄器 紡錘車	両端欠損	縦長 26.5	紡輪部径 5.7cm		重さ 44.8g		軸部, 上半部2.5mm中心部4mm下半部4.5mmの四角形断面。
20	鉄器 紡錘車紡輪	ほぼ完	縦 5.4	横 4.7	軸径 0.35cm	重さ 15.1g		ほぼ完形。 ややいびつな円形。軸部とセット。
21	鉄器 紡錘車軸	上部欠	縦 8.9		—	重さ 4.5g		上部欠損。紡輪とセットになる。 3~3.5mmの四角断面をもつ。下端尖る。
22	砥石		縦 7.7	横 5.6	高 2.6	重さ 92.3g		筋状の擦痕が見られる。 下面に被熱痕。
23	軽石		縦 7.6	横 5	高 2.9	黒茶褐色 重さ 25.1g		使用痕はとりたてて見られない。

09D (第30~32図 図版3・13)

位置 D8区-4Gで検出。**主軸方位** N-2°-Eでほぼ南北方向。**重複関係** 見られないが、カクランによる消失がある。**平面形** 北壁でやや広がる方形を呈する。**規模** 3.33m×3.24m、遺構確認面からの深さ15~20cm。**壁** 周溝からやや緩やかに立ち上がる。**床** ソフトローンを掘り込んで床面としている。床はほぼ平坦である。**周溝** ほぼ全周する。幅20cm、深さ12cm程度である。**カマド** 北壁中央に作られる。焚口は袖部やや奥に位置し、深さ14cmとやや深い。袖部は両袖がやや離れて構築される。煙道部は立ち上がり部でカクランを受けるが火床奥から緩やかに立ち上がるようである。カマド位置は、周溝が火床部まで及んでいないことから当初から決定されていたと判断される。**ピット** P1は出入り口ピットで深さ30cmである。P2は位置、形状から貯蔵穴か。深さ43cmを測る。**覆土** 褐色土主体層だが、浅いため埋め戻しか否かの判断はむずかしい。**遺物出土状態** カマド内及び東壁南側の廃棄遺物で、両者共に隔たりはなく、ほぼ本跡に近い時期の遺物に想定される。**建て替え** 見られない。

09D 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 杯	口辺部1/7	3.1	17	—	淡橙褐色	赤色スコリア 白色粒、雲母	ロクロ成形。体部下半回転ヘラ削り調整。 内ヘラなどで後なで。
2 土師器 杯	口辺部1/3 底部全周	3	12.7	5	淡橙褐色	赤色スコリア 白色粒、雲母	ロクロ成形。回転糸切離し後周縁と体部下端回転ヘラ削り。 内面底部中央に「又」の墨書あり。
3 土師器 杯	口辺部~底部2/3	3.7	12.4	4.4	淡橙褐色	赤色スコリア 白色粒、少量雲母	ロクロ成形。切離し不明。 底部全面と体部下端右回転ヘラ削り調整。内外ロクロなで。
4 土師器 杯	ほぼ完形	3.7	13	5.5	淡橙褐色	白色粒・雲母 少量の赤色スコリア	ロクロ成形。切離し不明。 底部全面と体部下端回転ヘラ削り調整。内外ロクロなで。
5 土師器 碗	口辺~底部2/3	6.2	13.8	5.6	淡橙褐色	白色粒多含	ロクロ成形。切離し不明。底部全面と体部下端右回転ヘラ削り調整。 内面斜位~横位ヘラ磨き調整。
6 土師器 高台付碗	ほぼ完形	5.5	14.2	7	橙褐色	白色粒、小石粒 雲母、赤色スコリア	ロクロ成形。 高台部貼り付け。内外ロクロなで。



09D 土層説明

1. 濃茶褐色土 焼土希れに含む。ローム若干含む。
2. 濃茶褐色土 1層類似。ロームの混入増える。
3. 黒褐色土 ローム若干含む。粘土砂混入。
4. 濃茶褐色土 粘土砂散在。
5. 暗褐色土 ローム混入。
6. 黒褐色土 焼土希れ。

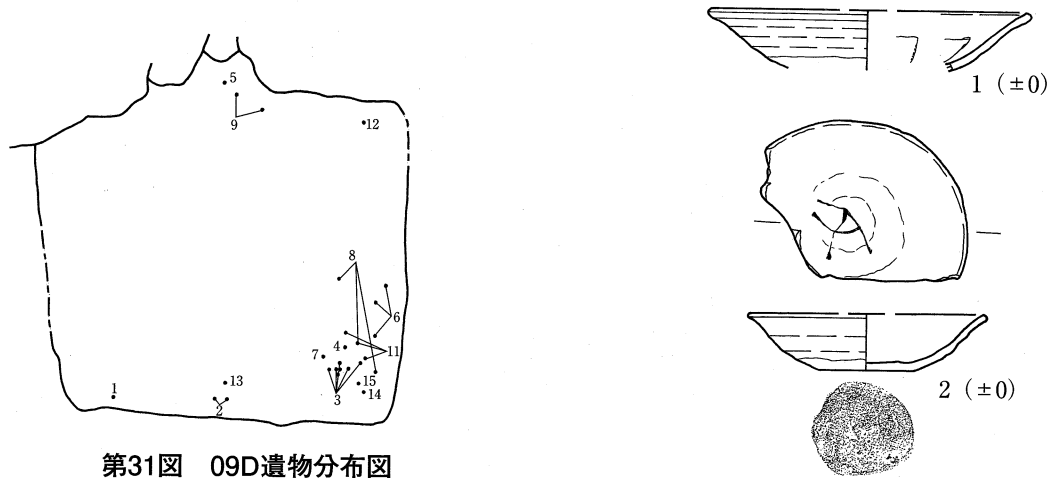
09D ピット土層説明

1. 濃茶褐色土 焼土希れに含む。ローム若干含む。
2. 暗褐色土 住居2層類似。粘土砂、焼土含む。ローム若干混入。
3. 濃茶褐色土 焼土、粘土砂若干混入。
4. 濃茶褐色土 粘土砂、焼土、ローム若干含む。
5. 濃茶褐色土 4層類似。ロームの混入少なくなる。
6. 暗褐色土 ロームブロック主体。
7. 暗褐色土 11層近似。1~3mm大ローム混入やや目立つ。
8. 濃茶褐色土 5層近似。粘土砂含まず。ローム包含やや多い。
9. 暗褐色土 ロームと濃茶褐色土の混合層。ローム多い。粘土砂含まず。
10. 暗褐色土 ローム混入やや少なくなる。
11. 暗褐色土 ローム土と茶褐色土混合層。

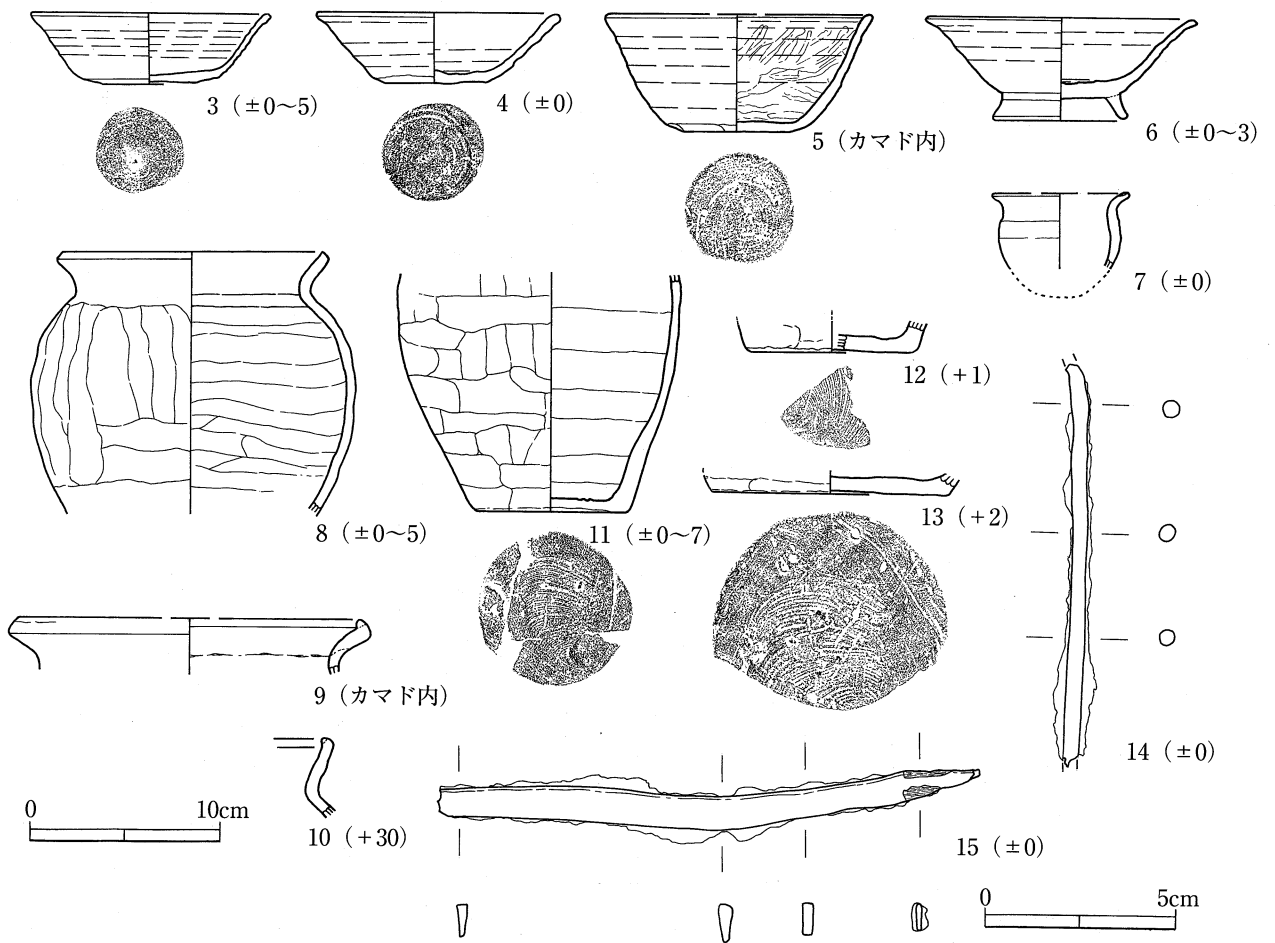
09D カマド土層説明

1. 暗茶色土 焼土、粘土砂希れに含む。
2. 暗茶褐色土 粘土砂混入。
3. 黒色土 粘土砂を少量含む。焼土含まず。
4. 暗赤色砂 焼土砂主体。5~10mm大焼土砂多含。
5. 淡灰色土 灰層。
6. 赤灰色土 焼土、灰混合層。
7. 暗赤灰色土 粘土砂、焼土混合層。
8. 暗淡赤色土 粘土砂の割合7に比べ多い。
9. 黒赤色砂 焼土層。
10. 暗赤色砂 焼土砂層。
11. 暗褐色土 火熱受けたローム土主体。焼土砂若干含む。
12. 黒灰色土 黒茶褐色土主体。粘土砂含む。焼土希れ。
13. 黒灰褐色土 12層類似。粘土砂やや少ない。炭化物僅か。
14. 暗赤色土 カマド内壁。焼土層。
15. 暗赤褐色土 灰を少量含む。黒色土若干混入。
16. 暗赤褐色土 粘土砂混入少なく、粘土粒と混合する。
17. 暗赤褐色土 6層類似。
18. 黒灰色土 黒色土主体。粘土砂若干含む。
19. 褐色土 ローム土主体。
20. 黒茶褐色土 粘土砂若干含む。
21. 黒茶褐色土 粘土砂やや多い。焼土砂僅か。
22. 黒茶褐色土 粘土砂少量含む。
23. 暗褐色土 粘土砂極少。
24. 暗淡赤色土 焼土灰層。
25. 暗茶褐色土 焼土層。灰若干含む。暗褐色土混入。
26. 灰色砂 粘土砂主体とした充?層。
27. 暗茶褐色土 粘土砂少ない。やや黒茶。焼土若干含む。
28. 茶灰色土 粘土砂、茶褐色土充?層。焼土若干含む。
29. 暗茶褐色土 暗茶褐色土主体。粘土砂少ない。
30. 暗茶褐色土 茶褐色土主体。粘土砂、焼土若干含む。
31. 暗茶灰色土 粘土砂、暗茶褐色土充?層。粘土砂斑点状に混入。
32. 褐色土 ローム土。黒色土若干混入。

第30図 09D遺構実測図



第31図 09D遺物分布図



第32図 09D出土遺物

09D遺物観察表 (2)

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
7 土師器 甕	口辺部 ～体部上半部1/4	4	6.8	—	淡茶灰褐色	白色粒 雲母、小石粒	ロクロ成形。 内外面ロクロなで。
8 土師器 甕	口辺部～胴下半部	14	13.8	—	橙褐色	白色粒、雲 母細片 赤色スコリヤ	輪積みロクロ併用。口辺部内外横なで。 胴部外面上半～中央縦位ヘラ削り。中央～下半横位ヘラ削り。 内面回転力のついたなで調整。(細かな捺痕)
9 土師器 甕	口辺部1/4	3	17.8	—	橙褐色	白色粒 雲母、石英	輪積みロクロ成形。 口縁端部貼り付け内傾させる。

09D 遺物観察表 (3)

器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
10 土師器 甕	口辺部 ～頸部片	—	—	—	淡橙褐色	雲母 長石	口縁端部貼り付けて内傾させる。 口辺部内外横なで。胴部外面縦位へら削り。
11 土師器 甕	胴中央部 ～底部	12.7	—	8.2	橙褐色	白色粒 雲母細片 赤色スコリヤ	輪積みロクロ併用。底部切離し右回転糸切り。 周縁静止状態のへら削り。胴部外面縦位へら削り後横位へら削り。 内面回転力のついたなで調整。(細かな擦痕)
12 土師器 甕	底部1/4弱	1.7	—	8.6	淡茶灰褐色	白色粒、雲母 少量の赤色 スコリヤ	ロクロ成形。 静止糸切離し後周縁と胴部下端へら削り調整。 内面ロクロなで。
13 土師器 甕	底部3/4	1.2	—	12.4	淡茶褐色	白色粒、石英 雲母、小石粒	ロクロ成形。回転糸切離し後、周縁へら削り。 胴部下端へら削り。内面底部に指なぞり。
14 鉄器 紡錘車軸部	上半部	縦 10.7	横 4mm	—	—	重さ 11.4g	直径4mmの円形断面をもつ。 軸部上半部で、上部のカーブは釣手に移行する部分か。
15 鉄器 刀子	両端部欠損	—	横 14	幅 7～9mm 厚 上部3mm 外1mm	—	重さ 15.5g	鋒部3mm刃部1mmの厚さをもつ。 両端部欠損。 柄部分に木質が付着。

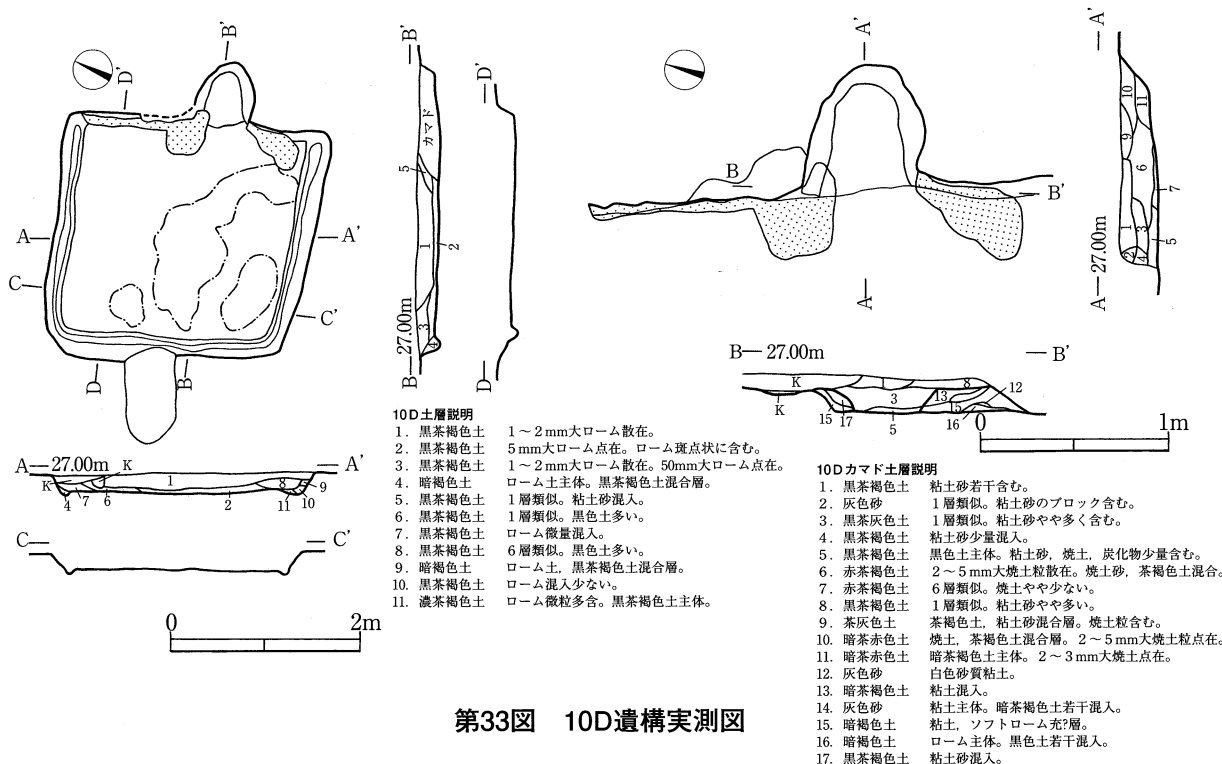
10D (第33～35図 図版3・13)

位置 F6区-4Gで検出。主軸方位 N-66°-Eで大きく東に傾く。重複関係 見られない。

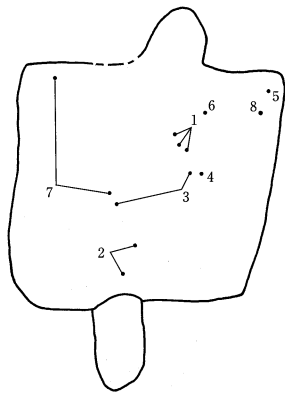
平面形 東壁でやや広がるいびつな方形を呈する。規模 2.38m×2.71m、遺構確認面からの深さ15～20cm。壁 周溝からやや緩やかに立ち上がる。床 ソフトローム中。ほぼ平坦で、カマド前面から西壁際に硬化面が見られる。周溝 カマド壁側を除いて全周する。幅10cm、深さ5cm程度。カマド 東壁南側に偏って作られる。焚口の掘り込みは見られない。袖部は、左袖が袖本体とは別に、壁際に粘土を貼り付けた形状をもつ。煙道部は住居壁を大きくU字状に掘り込む。焼土の堆積は顕著で使い込まれる。カマド位置は、遺存状態から当初から決定されていたと判断される。ピット 検出されなかった。覆土 黒褐色土主体層であり、自然埋没と判断される。遺物出土状態 カマド前面出土の6を標準とすると、その他の遺物も時間的に隔たりはなく、本跡に近い時期の遺物である。建て替え 見られない。

10D 遺物観察表

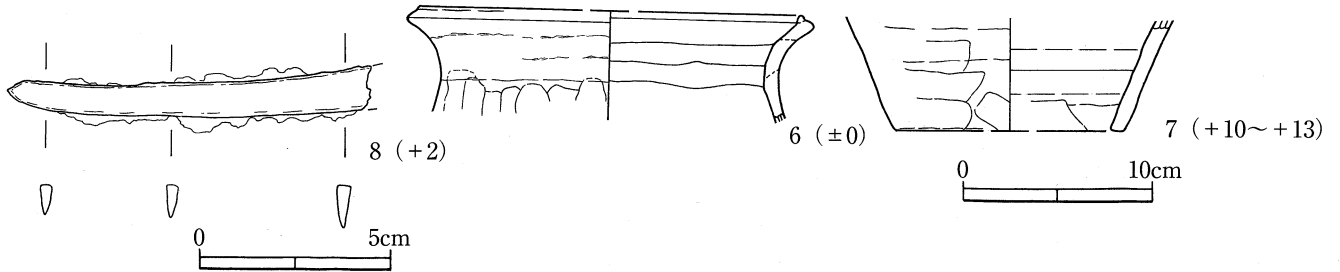
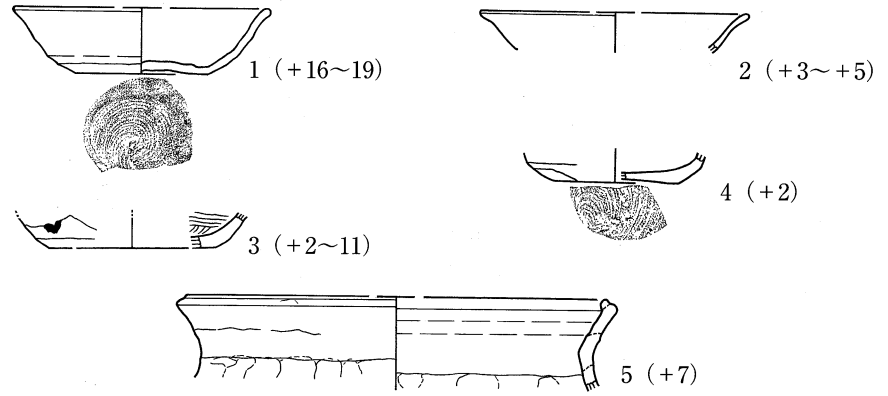
器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 坏	口辺部1/2弱 ～底部2/3	3.5	13.6	6.8	橙褐色	白色粒 石英、小石粒	ロクロ成形。左回転糸切離し無調整。 体部下半回転へら削り調整。
2 土師器 坏	口辺部 ～体部上部1/6	2	14	—	黒灰色	黒色粒、白 色粒 赤色スコリヤ	ロクロ成形。



第33図 10D遺構実測図



第34図 10D遺物分布図



第35図 10D出土遺物

10D 遺物観察表 (2)

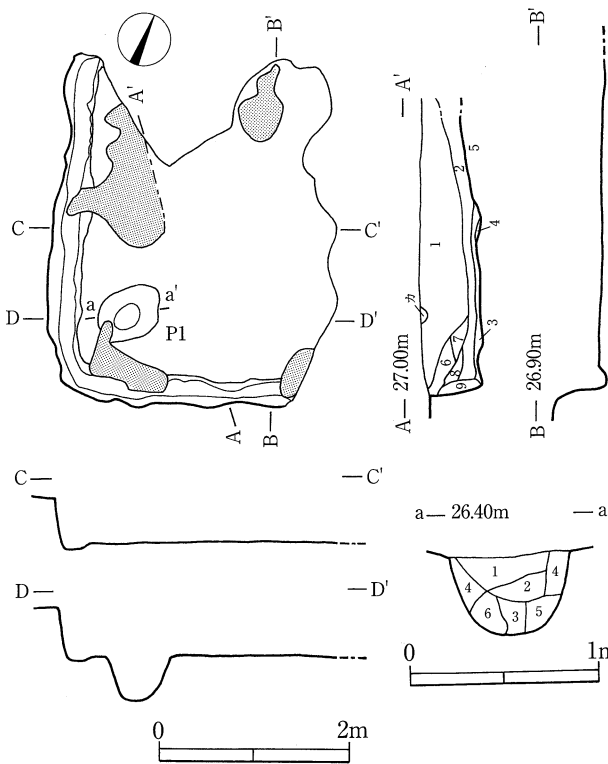
	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
3	土師器 坏	底部1/8	1.7	—	8.8	橙褐色	雲母 白色粒	ロクロ成形。回転糸切離し後周縁と体部下端回転ヘラ削り。 体部下位外面に「」墨書。
4	土師器 坏	底部1/3周	1.7	—	6.4	淡橙褐色	雲母, 砂粒 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 右回転糸切離し無調整。体部下端回転ヘラ削り。
5	土師器 甕	口辺部1/4	4.8	23	—	淡茶灰褐色	白色粒 雲母, 長石	輪積み成形。口縁端部貼り付け内傾させる。 口辺部内外横などで。胴部外面縦位ヘラ削り。内面ヘラナデ。
6	土師器 甕	口辺部 ~胴上半部	5.8	20	—	淡茶褐色	白色粒 雲母, 小石粒	輪積み成形。口縁端部貼り付けて内傾させる。口辺部内外横などで。 胴部外面縦位ヘラ削り。頸部内面ヘラなどで後横などで。
7	土師器 甕	胴下半部1/5	6	—	12	黒灰色	白色粒 少量の雲母	孔数不明。外面横位ヘラ削り。 内面下端ヘラ削り, などで。
8	鉄器 刀子	基部欠損		横 9.5	幅 0.8~1.1	重さ 11.6g		基部欠損。 銹化著しい。

11D (第36~38図 図版13)

位置 H6区-2Gで検出。**主軸方位** N-17° -Wでやや西に傾くか。**重複関係** 見られないが、カクランが著しい。**平面形** 不明。**規模** 3.46m以上×2.36m以上、遺構確認面からの深さ46~53cm。**壁** 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードロームを掘り込んで床面とする。ほぼ平坦である。**周溝** 遺存部分で周回する。幅20~25cm, 深さ10cm。**カマド** 不明だが、北壁側か。**ピット** P1のみ。貯蔵穴か。深さ45cm。**覆土** 1~3層は黒褐色土であり、自然埋没と判断される。焼土の出土状況から、住居廃絶時に焼却行為を行い、多少の埋め戻しをしている。**遺物出土状態** 住居廃絶時後すぐの廃棄遺物と考えられ、遺物は本跡に近い時期である。**建て替え** 見られない。

11D 遺物観察表

	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	完形	4	13.2	8	橙茶褐色 黒斑	赤色スコリヤ 白色粒	ロクロ成形。切離し不明。 底部及び体部手持ちヘラ削り。外面全面みがき状のなどで。
2	土師器 坏	口辺部 ~底部1/4	3.7	12.6	8	淡橙褐色	雲母	ロクロ成形。右回転糸切離し後周縁及び体部下端回転ヘラ削り 調整。口縁内側に緩い稜。
3	土師器 坏	口辺部1/4 ~底部	3.3	11.6	7.2	淡橙褐色 黒斑	雲母	ロクロ成形。回転糸切離し後周縁ヘラ削り調整。 体部下端回転ヘラ削り調整。

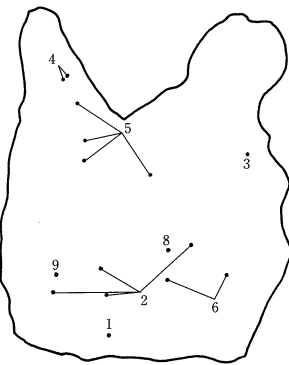
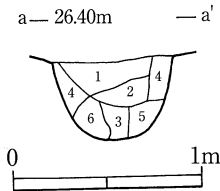


11D 土層説明

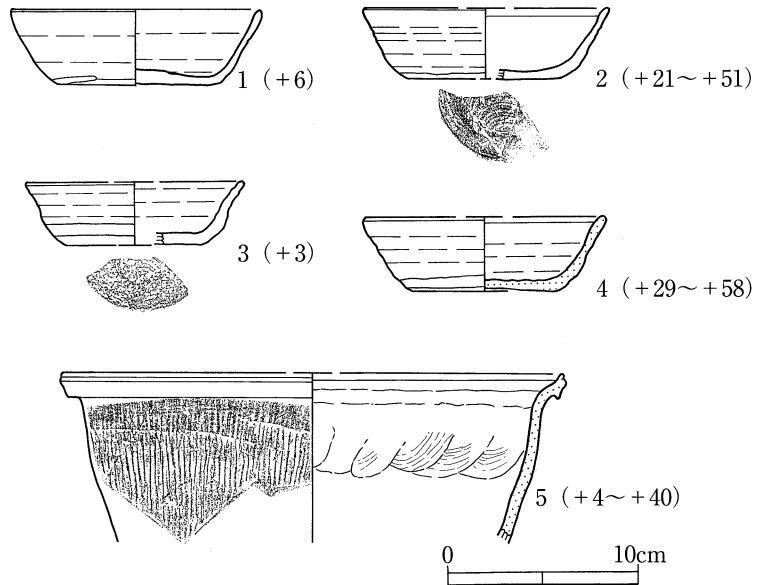
- 1. 黒茶褐色土 焼土、ローム粒若干含む。
- 2. 暗茶褐色土 1層類似。10mm大ローム点在。焼土ローム1層より多い。
- 3. 暗茶褐色土 10~15mm大ローム点在。
- 4. 暗茶褐色土 焼土1~3層に比べやや多い。
- 5. 黒赤褐色土 暗茶褐色土に焼土が多量に混入。
- 6. 濃茶褐色土 2層類似。10mm大ローム混入。
- 7. 濃茶褐色土 2層類似。2~3mm大ローム少し多い。
- 8. 濃茶褐色土 2層類似。ローム粒やや多い。
- 9. 濃茶褐色土 2層類似。ローム土混入。

11D P1 土層説明

- 1. 暗褐色土 2mm大ローム多含。20~30mm大ローム、黒色土若干含む。
- 2. 暗褐色土 1層に比べローム粒少ない。10mm大ローム、黒色土若干含む。
- 3. 暗褐色土 5mm大ローム多含。黒色土若干含む。
- 4. 暗褐色土 30~50mm大ローム含む。黒色土若干含む。
- 5. 暗褐色土
- 6. 暗褐色土 ローム粒混入。黒色土含まず。



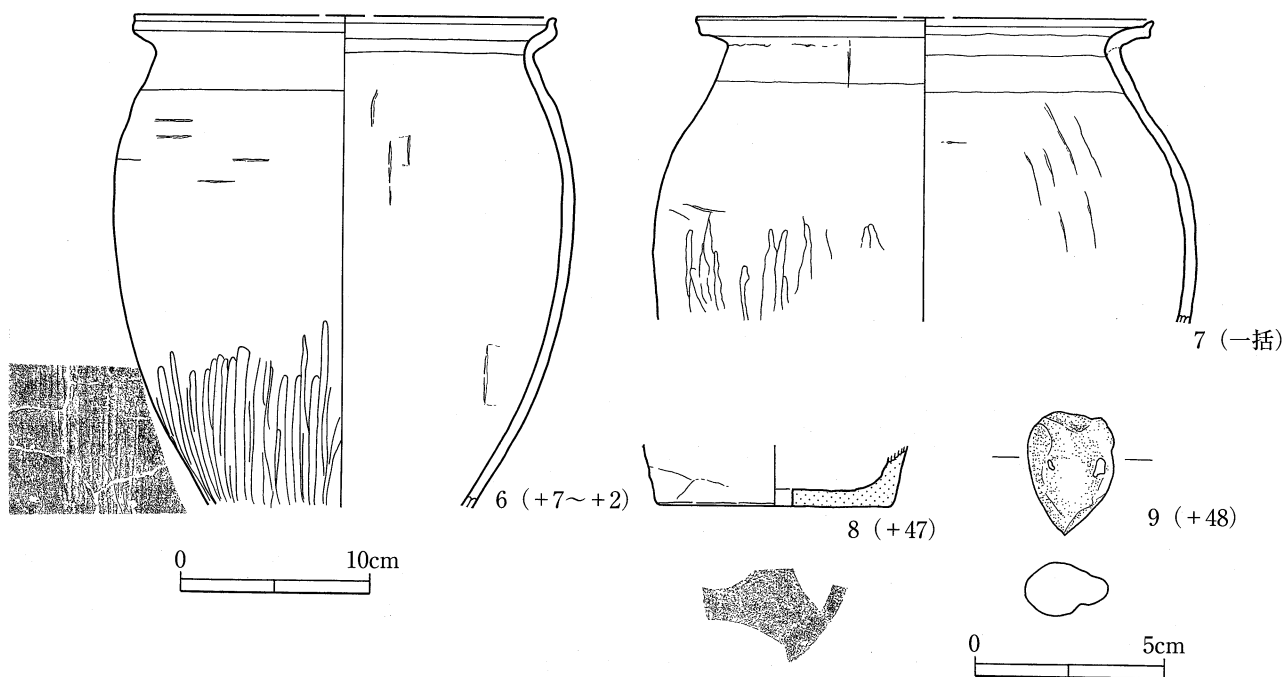
第36図 11D遺構実測図



第37図 11D出土遺物 (1)

11D 遺物観察表 (2)

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
4 須恵器 坏	口辺部 ~底部1/2	3.9	12.6	7.4	淡橙灰色	石英、白色粒 ごく少量の雲 母	ロクロ成形。切離し不明。 底部全面、体部下端回転ヘラ削り。ロクロなどで。
5 須恵器 甕	口辺部1/4 ~胴上半部	8.9	26.4	—	淡茶灰色	長石 雲母、白色 粒	叩き締め成形。口縁端部つまみ上げる。口辺部内外横などで。 胴部外面縦位平行叩き目。内面同心円当て具痕。
6 土師器 甕	口辺部2/3 ~胴下半部	25.8	22	—	淡橙褐色 ~淡橙灰色	雲母、石英 長石多含	輪積み成形。口辺部内外横などで。 胴部外面ヘラなどで。中央~下位縦位ヘラ磨き。内面ヘラなどで。
7 土師器 甕	口辺部1/3 ~胴中央部	16	24	—	橙褐色 ~暗褐色	石英、雲母 小石片	輪積み成形。口辺部内外横などで。 胴部外面などで、中央から下端細い縦位ヘラ磨き。内面ヘラなどで。
8 須恵器 甕	底部1/5	0.9	—	12	暗灰褐色	白色粒、雲母 赤色スコリヤ	5孔式 胴部下半~下端ヘラ削り。焼き締まっている。
9 軽石		縦 3.2	横 2.2	厚 1.4	重さ 1.8g		擦痕等の痕跡は見られない。



第38図 11D出土遺物(2)

12D (第39~42図 図版3・13)

[12AD]

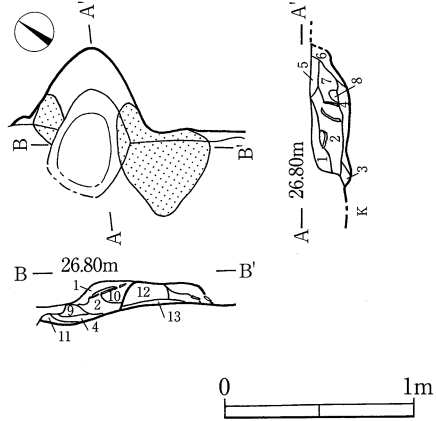
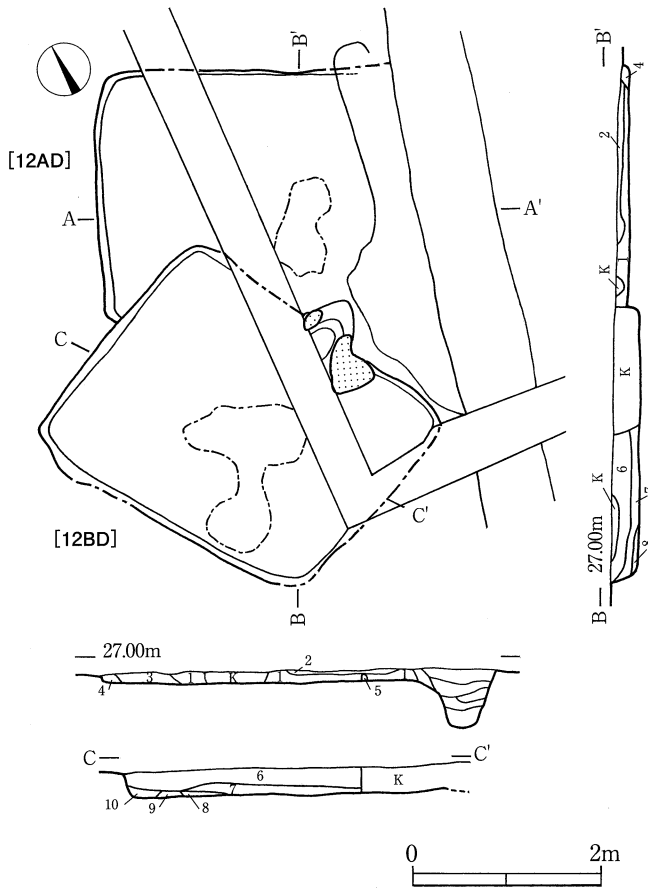
位置 G4区-2Gで検出。**主軸方位** N-30°-E方向か。**重複関係** 12BDを切る。**平面形** 長方形か。**規模** 2.5m×2.3m以上, 遺構確認面からの深さ0.1m。**壁** 垂直に立ち上がる。**床** ソフトローム中。硬化面が遺存。**周溝** 確認されない。**カマド** 不明。**ピット** 確認されない。**覆土** 黒褐色土主体の自然埋没か。**遺物出土状態** 南側, 北壁に出土している。**建て替え** 見られない。

[12BD]

位置 同上。**主軸方位** N-64°-Eで東に傾く。**重複関係** ADに切られる。**平面形** 不整長方形。**規模** 3.21m×2.5m, 確認面から深さ0.3m。**壁** 垂直に上がる。**床** ハードローム中。硬化面が中央から西壁際に遺存。**周溝** 確認されず。**カマド** 東壁中央に構築。左袖カクラン受ける。焚口部浅い掘り込み。煙道部緩やかに立ち上がる。**ピット** 確認されず。**覆土** 暗褐色土主体の自然埋没。**遺物出土状態** 全体に出土する。東壁北コーナー付近ではADの遺物が混入する。**建て替え** 見られない。

12D遺物観察表

	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	口辺部1/6	4.1	13.3	—	淡赤褐色	雲母 白色粒	ロクロ成形。内面粗いヘラ磨き。 外面ロクロなで。
2	土師器 坏	口辺部1/4 ~体部下端	3.5	14	—	橙褐色 黒斑	雲母, 白色粒 赤色スクリヤ	ロクロ成形。口縁端部厚く外反する。二次焼成による器面の荒れが内 外面に顕著。
3	土師器 坏	口辺部1/5 ~体部下半	3.9	12.8	—	淡黄橙褐色	白色粒 少量の雲母	ロクロ成形。体部下半ヘラ削り調整。 内外ロクロなで。
4	土師器 坏	口辺部1/5	3.9	14.3	—	淡橙褐色	黒色粒 長石, 白色粒	ロクロ成形。体部下半ヘラ削り。 内外ロクロなで。口縁端部厚く外反する。
5	土師器 高台付坑	口辺部1/5 ~底部全周	5.5	14.4	7.3	橙褐色	石英 長石, 雲母	ロクロ成形。高台部貼付け。 内外ロクロなで。
6	土師器 甕	口辺部 ~胴上半部1/3	6.3	17.8	—	橙褐色	雲母 白色粒, 石英	口辺部横なで。胴部外面縦位ヘラ削り調整。内面なで。 内外面二次焼成による剥離著しい。
7	土師器 坏	口辺部 ~体部1/4	3.2	11.6	—	橙褐色	雲母 白色粒	ロクロ成形。 内外ロクロなで。口縁端部は内側を削ぐ。
8	土師器 坏	口辺部1/4 ~体部下半	3.6	14	—	橙褐色 黒斑	白色粒 雲母, 砂粒	ロクロ成形。 口縁部厚く外反する。
9	土師器 坏	口辺部1/4 ~体部下端	3.5	14.6	—	淡橙褐色	白色粒 石英	ロクロ成形。 体部下端ヘラ削り調整。内外ロクロなで。

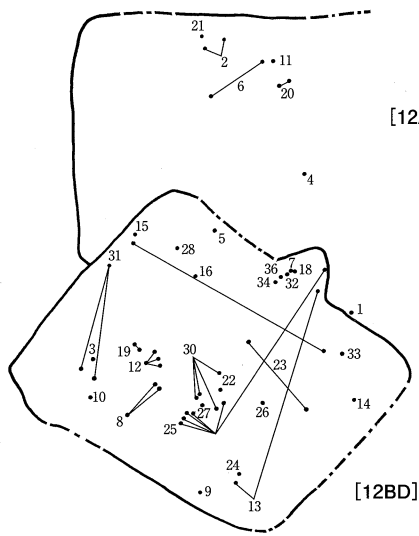


12D土層説明

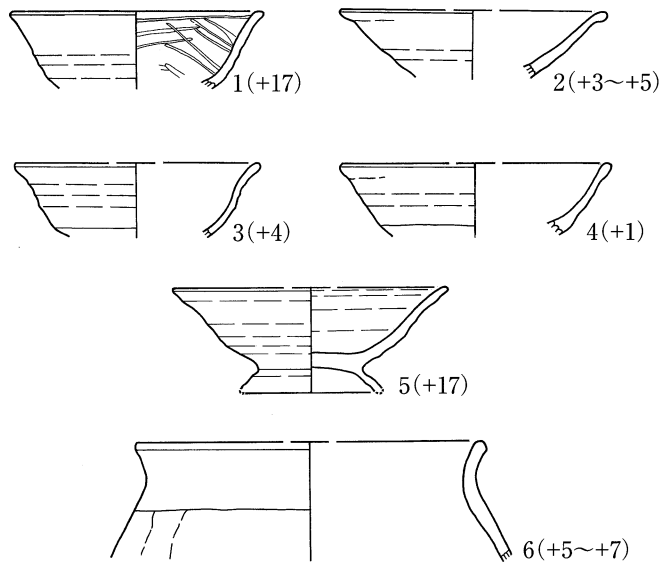
- 1. 黒褐色土 ローム粒, 黒色土粒混合層。
- 2. 黒褐色土 1層類似。焼土粒含む。
- 3. 暗褐色土 ローム粒, 黒色土粒混合層。
- 4. 茶褐色土 ローム粒主体。焼土粒, 黒色土粒含む。
- 5. 茶褐色土 ローム粒主体。黒色土粒含む。
- 6. 暗褐色土 ローム粒, 黒色土粒混合層。2~4mm大ローム粒, 焼土粒含む。
- 7. 暗褐色土 6層類似。焼土粒含まず。
- 8. 茶褐色土 ローム粒主に黒色土少量含む。
- 9. 淡褐色土 灰色砂主に暗褐色土含む。
- 10. 茶褐色土 8層類似。ローム粒若干多い。
- 11. 暗黄褐色土 ローム土主体。

12Dカマド土層説明

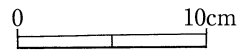
- 1. 黒色土 焼土砂塊散在。粘土砂少ない。
- 2. 暗赤褐色土 焼土砂塊散在。ローム混入。灰含む。
- 3. 黒茶褐色土 1と4の中間層。焼土粒含む。
- 4. 暗褐色土 暗褐色土主体。焼土, 粘土砂少量含む。
- 5. 暗赤色土 焼土主体層。
- 6. 茶褐色土 ローム, 暗茶褐色土混合層。粘土砂, 焼土含まず。
- 7. 暗赤色土 暗茶褐色土主体。粘土砂, 焼土含む。
- 8. 赤色砂 焼土塊。カマド支却片の集合。
- 9. 暗赤色土 焼土層。細焼土砂塊含む。
- 10. 暗赤色土 2層類似。焼土砂塊少ない。ローム若干含む。
- 11. 暗茶褐色土 暗褐色土, 暗茶褐色土混合層。
- 12. 褐色土 焼土砂層。



第39図 12D遺構実測図

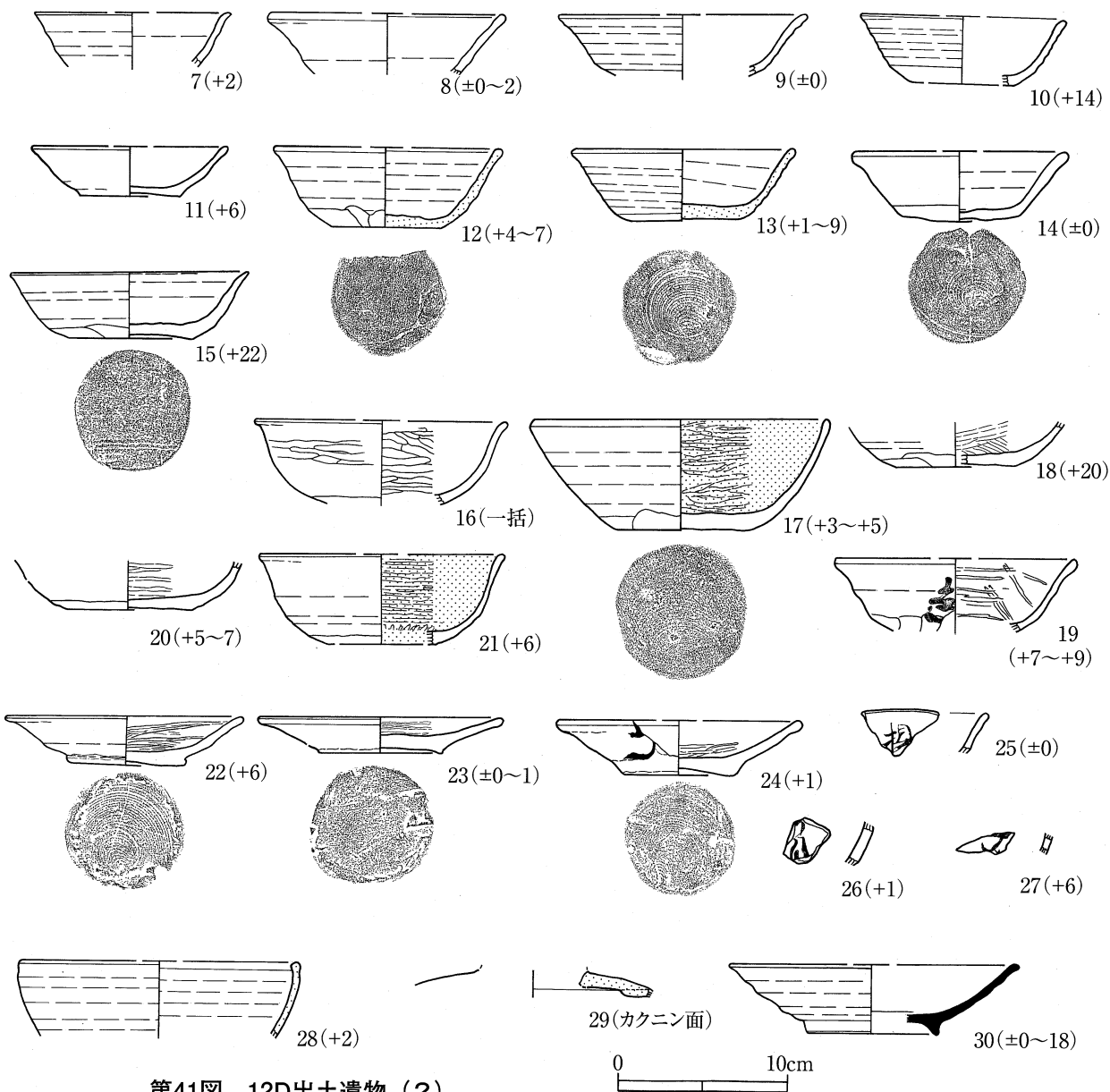


第40図 12D出土遺物(1)



12D遺物観察表(2)

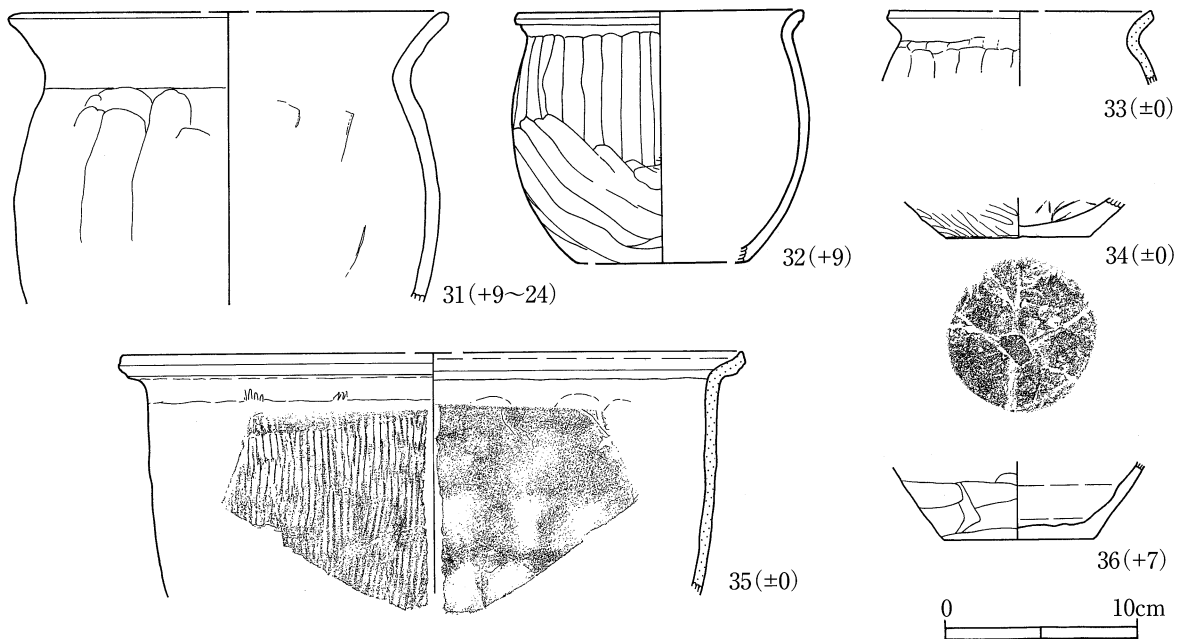
器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
10 土師器 坏	口辺部1/4 ~底部	4	12	5.9	淡橙褐色	雲母, 赤色 スロリヤ 白色粒	ロクロ成形。内外ロクロなどで。 体部下端回転ヘラ削り調整。
11 土師器 坏	底部全周 口辺部1/4	2.9	11.4	6.4	茶褐色	雲母, 白色粒 長石, 砂粒	ロクロ成形。 底部右回転糸切り無し無調整。



第41図 12D出土遺物 (2)

12D 遺物観察表 (3)

	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
12	須恵器 坏	口辺部1/2弱 ~底部	4.7	13.4	6.6	淡橙褐色	雲母 長石, 白色粒	ロクロ成形。切離し不明。底部及び体部下端手持ちヘラ削り調整。 内面体部~底部粗いヘラ磨き。
13	須恵器 坏	略完形 (1/4欠)	4.3	13.1	6.7	暗茶褐色	金雲母細片 多含 砂粒, 黒色 雲母片	底部回転糸切り後周縁回転ヘラ削り。 体部下端回転ヘラ削り。体部内外ロクロ成形。
14	土師器 坏	口辺部1/2弱 ~底部全周	4.1	12.7	6.9	淡橙褐色	白色粒, 少 量雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。口縁端部厚く外反する。 回転糸切離し後周縁と体部下端回転ヘラ削り。
15	土師器 坏	口辺部 ~底部3/4	3.9	13.9	7.2	橙褐色	赤色スコリア 白色粒	ロクロ成形。切離し不明。底部厚く口縁細く外反する。 底部全面手持ちヘラ削り。体部下端も同様。
16	土師器 坏	口辺部1/3 ~体部	4.9	14.8	—	淡橙褐色 ~暗灰色	雲母 白色粒, 長石 少量赤色スコ リヤ	おそらくロクロ成形。 体部下半回転ヘラ削り。 体部部分的に横位ヘラ磨き。内面横位ヘラ磨き後黒色処理か。
17	土師器	口辺部2/3 ~底部	6.5	17.6	7.7	黒灰色 ~橙褐色	白色粒 小石粒, 少 量雲母	ロクロ成形。回転糸切離し後周縁及び体部下端手持ちヘラ削り。 内面横位ヘラ磨き後黒色処理。
18	土師器 坏	体部 ~底部1/4	2.6	—	7	黒茶灰色 内面橙褐色	白色粒 赤色スコリヤ 少量雲母	ロクロ成形。 回転糸切離し後周縁及び体部下端手持ちヘラ削り。 内面でいねいな斜位ヘラ磨き。
19	土師器 坏	口辺部 ~体部1/5	4.3	14	—	淡黄橙褐色	白色粒 雲母	ロクロ成形。体部下手持ちヘラ削り。 内面粗いヘラ磨き, などで。体部中央外面正位で「寺」? 墨書。



第42図 12D出土遺物 (3)

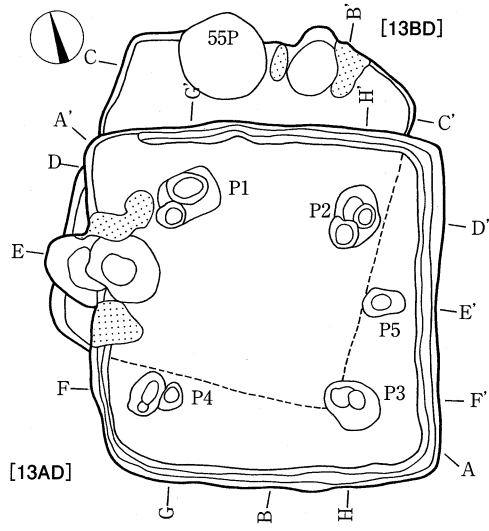
12D遺物観察表 (4)

器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
20 土師器 碗	体部 ~底部2/3	2.9	—	7	淡黄橙褐色	長石 雲母, 白色粒	ロクロ成形。回転糸切り離し後底部周縁と体部下端回転ヘラ削り調整。体部~底部内面横位ヘラ磨き。
21 土師器 坏	口辺部 ~底部1/4	5.3	14.2	6.4	外暗茶褐色 内黒褐色	雲母, 白色粒 石英, 小石粒	ロクロ成形。体部下端ヘラ削り。 内面横位ヘラ磨き。黒色処理。
22 土師器 皿	ほぼ完形	3	14	7	暗茶褐色	白色粒, 雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。右回転糸切離し無調整。 外面ロクロなどで。内面粗いヘラ磨き。底部外面「×」の刻書
23 土師器 皿	口辺1/9 ~底部全周	2.1	14.4	7.2	橙褐色 ~赤褐色	白色粒, 雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 右回転糸切離し無調整。内面横位ヘラ磨き。
24 土師器 皿	口辺部1/4 ~底部全周	3.2	14.2	6.4	淡橙褐色	白色粒, 雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。右回転糸切り無調整。内外ロクロなどで。 内面底部粗いヘラ磨き。体部外面中央に不明墨書
25 土師器 坏	口辺部片 ~体部	—	—	—	淡橙褐色	白色粒 雲母	ロクロ成形。 体部外面「扣」の墨書
26 土師器 坏	体部片	—	—	—	橙褐色	白色粒 雲母	ロクロ成形。 体部外面に不明墨書
27 土師器 坏	体部片	—	—	—	淡橙褐色	雲母 白色粒	体部外面に不明墨書あり
28 須恵器 鉢	口辺部片1/6	4.5	16.4	—	淡青黄灰色	白色粒 雲母	ロクロ成形。口縁端部やや内傾。 内外ロクロなどで。断面はサンドイッチ状
29 須恵器 長頸壺	頸部片	1.4	頸部径 6.4	—	灰白色	黒色粒	ロクロ成形。自然釉。
30 灰釉陶器 高台付碗	口辺部1/2弱 ~底部	4	17	7.9	淡灰色	長石 白色粒	ロクロ成形。高台部切離し後貼付。 内面口縁~体部下端までハケ塗りによる施釉。
31 土師器 甕	口辺部 ~胴中央部	15.3	23	—	橙褐色	白色粒 雲母	輪積み成形。 口辺部内外横などで。胴部外面縦位ヘラ削り。内面ヘラなどで。
32 土師器 甕	口辺部 ~一部底部	13.3	14.8	8.8	淡赤褐色 一部暗褐色	白色粒 雲母, 小石粒	口縁部粘土紐はりつけ。口辺部内外横などで。 胴外面縦位ヘラ削り後中央~下半斜位ヘラ削り。内面などで調整。
33 須恵器 甕	口辺部 ~胴上半部1/4	3.9	13.8	—	淡青灰色	雲母 白色粒	ロクロ成形。 口辺部横などで。胴外面縦位ヘラ削り。内面などで。
34 土師器 甕	底部全周	2.1	—	7.5	茶灰褐色	雲母 長石 多含	底部木葉痕 体部下端斜位ヘラ磨き。内面ヘラなどで
35 須恵器 甕	口辺部 ~胴上半部1/6	12.7	32.4	—	橙褐色 ~紫茶褐色	白色粒, 雲母 赤色スコリヤ	叩き締め成形。 口辺部横などで。胴部外面縦位平行叩き目。内面円形当て具痕。
36 土師器 甕	胴下半部1/4 ~底部	4.1	—	8	淡橙褐色	雲母 長石, 白色粒	ロクロ成形。 胴下半部外面横位ヘラ削り。内面ロクロなどで。

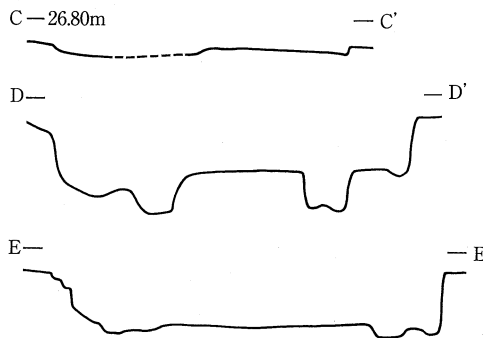
13D (第43~46図 図版4・14)

[13AD]

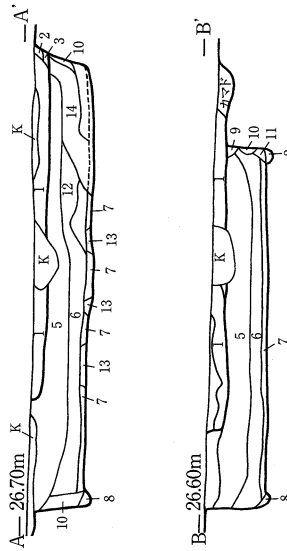
位置 G3区-4Gで検出。主軸方位 N-70°-Wで大きく西に傾く。重複関係 13BDに切られる。
平面形 方形。規模 3.4m×3.4m, 遺構確認面からの深さ0.6m。壁 周溝から垂直に立ち上がる。



[13AD]



[13AD炭化物出土状況]



13D土層説明

1. 黒茶褐色土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土
4. 茶褐色土
5. 茶褐色土
6. 暗茶褐色土
7. 暗茶褐色土
8. 暗茶褐色土
9. 茶褐色土
10. 茶褐色土
11. 暗茶褐色土
12. 暗茶褐色土
13. 褐色土
14. 暗茶褐色土

13D Aカマド土層説明

1. 茶褐色土
2. 暗茶褐色土
3. 淡褐色土
4. 暗茶褐色土
5. 暗茶赤褐色土
6. 暗茶赤褐色土
7. 暗赤褐色土
8. 赤褐色土
9. 暗茶褐色土
10. 暗茶褐色土
11. 暗茶褐色土
12. 茶灰色土
13. 暗茶褐色土
14. 茶灰色砂
15. 暗茶褐色土
16. 暗茶色砂
17. 褐色土
18. 茶灰色土
19. 暗赤褐色土
20. 暗褐色土
21. 灰色砂
22. 暗茶褐色土

ローム粒混入。焼土少量。炭化物含む。

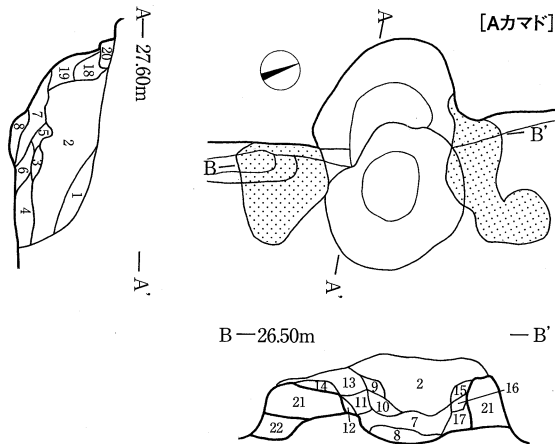
ロームやや多い。焼土若干含む。
1~2mm大ローム。3~6mm大ローム多含。
ローム粒5層よりやや少ない。焼土若干含む。
ローム混入多い。焼土若干含む。
6. 7層に比べやや暗くなる。
ローム土。暗茶褐色土の混入多い。
6層類似。暗茶褐色土の混入多い。
1~2mm大ローム若干含む。6層より少ない。
6層類似。粘土砂混入。
ロームブロック混入。
10~30mm大ローム点在。

13D Bカマド土層説明

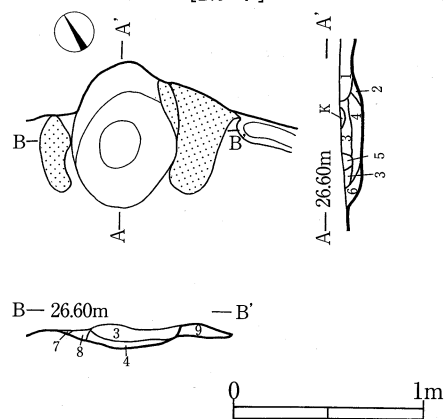
1. 黒茶褐色土
2. 暗褐色土
3. 暗赤褐色土
4. 暗赤褐色土
5. 淡赤灰色土
6. 茶褐色土
7. 明茶色土
8. 明茶色土
9. 暗茶褐色土

2mm大焼土粒点在。ローム若干含む。
粘土砂。焼土含まず。
焼土主体。暗茶褐色土混入。ローム含む。
焼土層。
赤色化した灰色砂。
ローム粒主に暗褐色土含む。
ローム粒。灰色砂混合層。暗褐色土粒含む。
7層類似。暗褐色土粒含まず。
粘土砂。ロームの混合層。

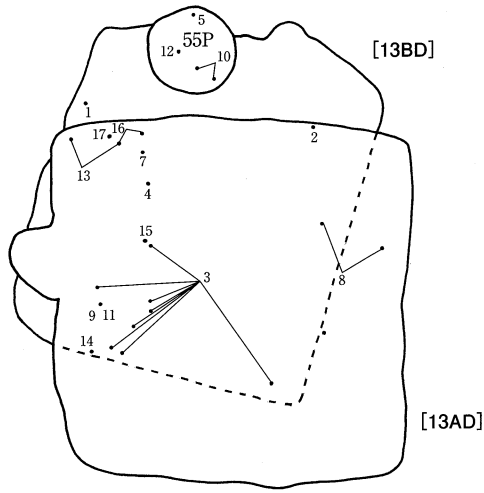
[Aカマド]



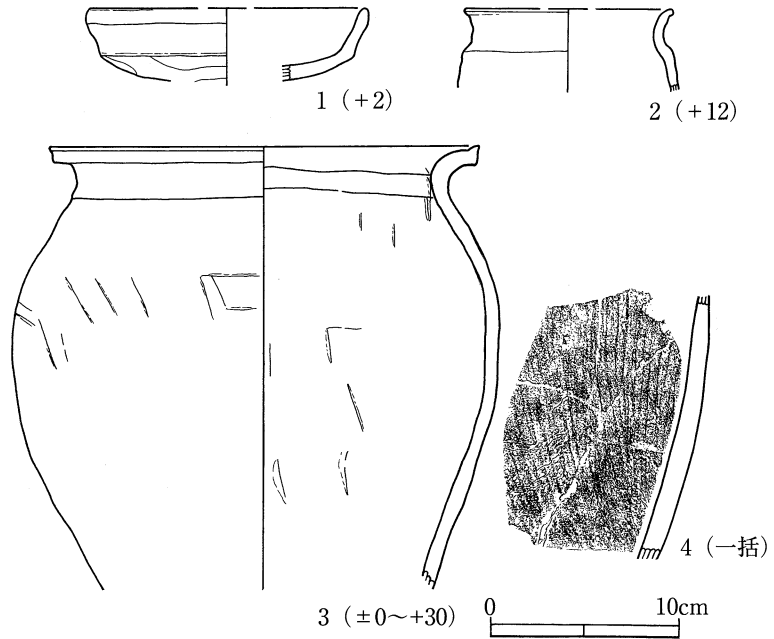
[Bカマド]



第43図 13D遺構実測図



第44図 13D遺物分布図



第45図 13D出土遺物(1)

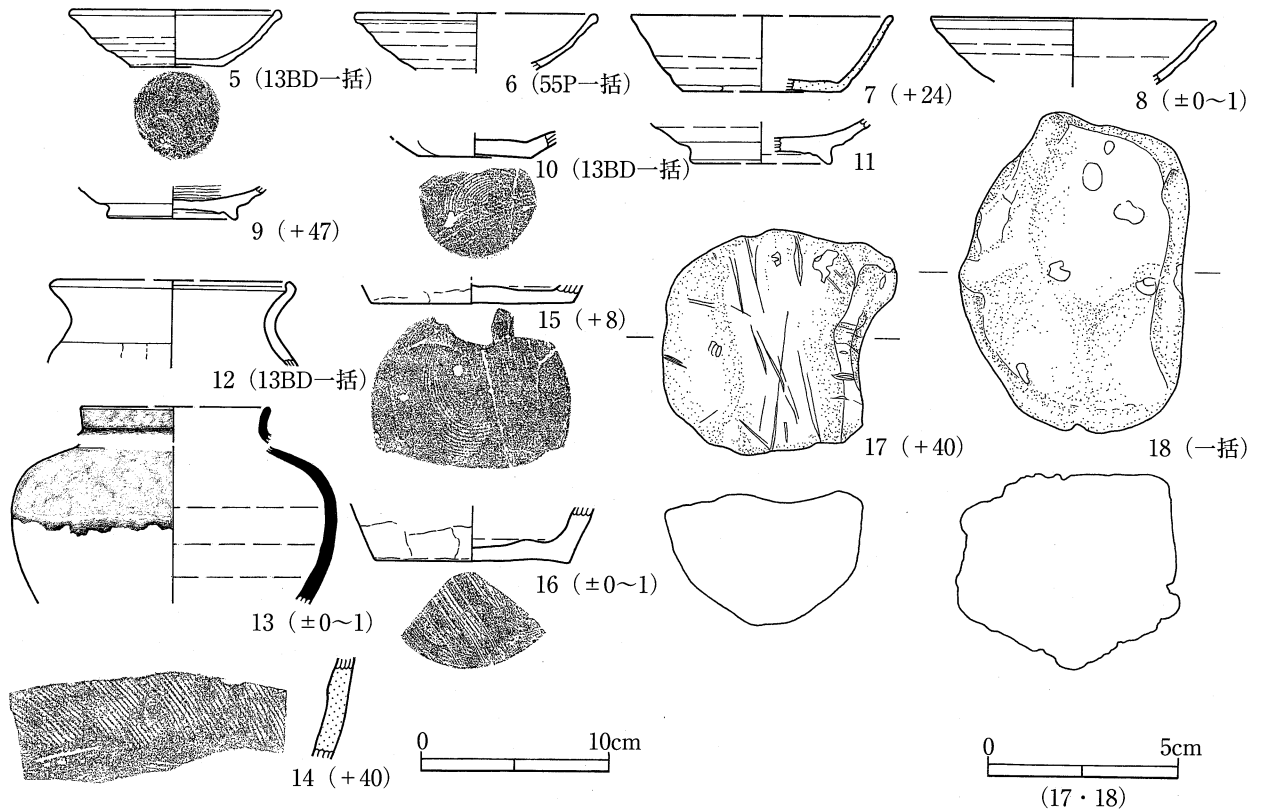
床 ハードロームを掘り込む。周溝 15~20cm, 深さ10cm。カマド 袖部良好。焚口は10cmと浅い掘り込み。煙道部は焚口奥で緩やかに上がり, 角度を変え急傾斜で立ち上がる。ピット P1~4が主柱穴, P5が出入り口ピット。覆土 褐色土主体の埋め戻し土。最下層で炭化材・焼土が出土し, 家屋廃材の処理である。遺物出土状態 BDの混入遺物があり, 位置の妥当性も考慮しなければならないが, 1~4が本跡に伴うと判断される。建て替え 柱の位置替えが見られ拡張か。

[13BD]

位置 同上。主軸方位 N-30° -Eで東に傾く。重複関係 ADを切り, 55Pに切られる。平面形 方形。規模 3.1m×3.1m, 確認面から深さ0.1m。壁 垂直に上がる。床 ソフトローム中。周溝 なし。カマド 北壁東に偏って構築。焼土の堆積顕著。煙道部緩やかに上がる。ピット なし。覆土 黒褐色土主体の自然埋没。遺物出土状態 7~9.11.13.14.16等が本跡に伴う。建て替え 見られない。

13D遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 坏	口辺部1/4強 ~体部	3.8	14.6	—	暗褐色	白色粒, 石英 雲母, 赤色 スコリヤ	輪積み成形 口辺部内外横なで。体部外面横位へラ削り。内面なで整形。
2 土師器 甕	口辺1/4 ~胴上部	4.4	11	—	暗褐色 ~黒褐色	白色粒	輪積み成形。口辺部内外横なで。 外面2次焼成による剥離著しい。
3 土師器 甕	口辺部全周 ~胴下半部1/4	23.5	22.6	—	淡橙灰褐色	長石多含 雲母, 石英	口辺部内外横なで。胴部外面なで。口縁端部つまみあげ。 内面へラなで。
4 土師器 甕	胴部片	—	—	—	外淡茶灰褐色 内淡橙褐色	長石 雲母 多含	胴部下半外面縦位へラ磨き。 内面へラなで。なで。
5 土師器 坏	完形	3.1	11.2	4.8	暗茶褐色	長石 雲母, 白色粒	ロクロ成形。静止糸切離し後周縁なで。口縁端部厚く, 内側に稜。 スス状付着物をかきとった痕跡が内側に見られる。
6 土師器 坏	口辺1/4 ~体部	3	12.8	—	暗褐色 ~淡茶褐色	白色粒, 雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。内外ロクロなで。 口縁端部外反し, 玉縁状となっている。
7 須恵器 坏	口辺部 ~底部1/3	4	13.8	8.4	灰白色	雲母 長石, 石英	ロクロ成形。 切離し不明。底部及び体部下端手持ちへラ削り調整。
8 土師器 坏	口辺部 ~体部1/4	3.4	15	—	灰色	雲母 長石	ロクロ成形。 内外ロクロなで。
9 土師器 高台付皿	底部全周	1.7	—	6.9	淡橙褐色	石英, 長石 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 高台部貼り付け。内面へラ磨き調整。
10 土師器 甕	底部3/4	1.4	—	6.2	暗褐色	白色粒, 雲母 赤色スコリヤ	回転糸切離し後周縁手持ちへラ削り。 胴部下端へラ削り調整。内面なで。
11 土師器 高台付皿	体部1/3 ~底部	2.2	—	7.4	淡橙褐色	雲母, 白色粒 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 高台部貼り付け。
12 土師器 甕	口辺部1/4	4.4	12.6	—	淡赤褐色	白色粒 長石, 石英	口縁端部内傾で, 内側に稜をつくる。 口辺部内外横なで。胴部外面へラ削り調整。



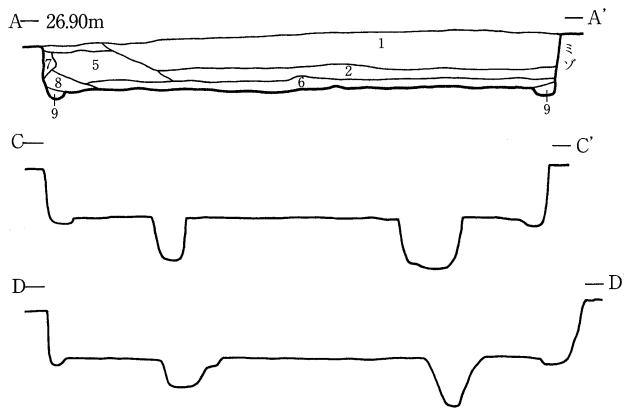
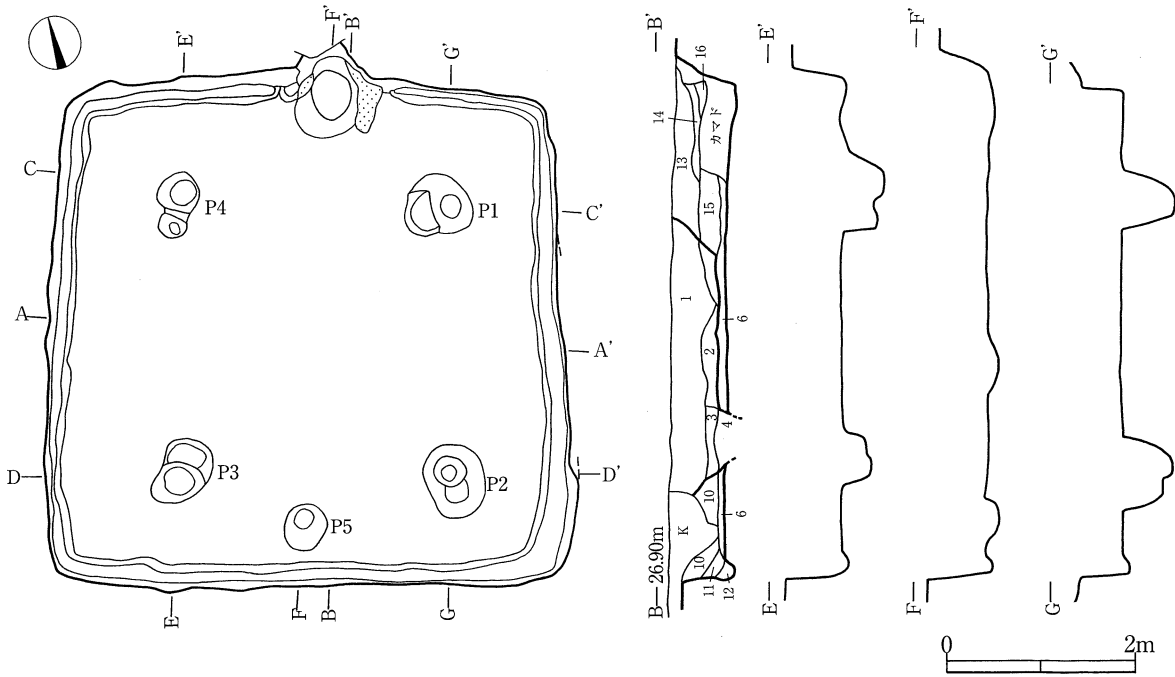
第46図 13D出土遺物 (2)

13D遺物観察表 (2)

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
13 灰釉陶器 短頸壺	口辺部1/5~頸部 胴上半部	1.9	10	—	緑灰色	ち密, 石英	ロクロ成形。外面灰釉。口辺部直立。 内外ロクロなで。
14 須恵器 甕	胴下半部片	—	—	—	外赤紫灰色 内淡橙褐色	長石 雲母, 石英	右下がり斜位の平行叩き目, 下は横位ヘラ削り。 内面なで整形。
15 土師器 甕	底部4/5周	1	—	10.6	橙褐色 ~暗褐色	赤色スコリヤ 白色粒, 雲母	ロクロ成形。回転糸切離し後ヘラ削り調整。 胴部外面ヘラ削り調整。内面なで。
16 土師器 甕	胴下半部 ~底部1/4	3	—	10.2	橙褐色 ~暗褐色	赤色スコリヤ 白色粒, 雲母	ロクロ成形。回転糸切離し後ヘラ削り調整。 胴部外面ヘラ削り調整。内面なで。
17 軽石	砥石	縦 6	横 6.2	高 3.5	淡灰色	重さ 20.7g	直線上の擦痕及び面状の磨跡が図示した3面及び下面に見られる。
18 軽石	砥石	縦 8.4	横 6.1	高 5.2	茶灰色	重さ 41.4g	面状の磨跡が図示した面を中心に見られる。

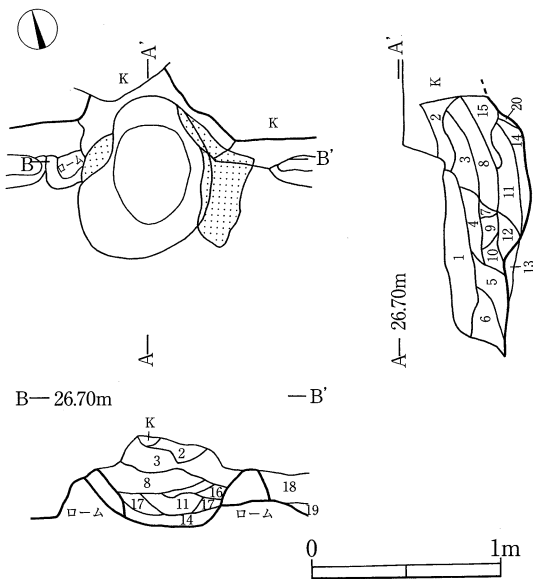
14D (第47~49図 図版4・14)

位置 F3区-2Gを中心に検出。**主軸方位** N-24° -Eでやや東に傾く。**重複関係** 見られない。**平面形** 南壁でやや広がる方形を呈する。**規模** 4.91m×5.29m, 遺構確認面からの深さ51cm。**壁** 周溝からはほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードロームを掘り込んで床面としている。床はほぼ平坦である。**周溝** 全周する。幅15~20cm, 深さ8cm程度である。**カマド** 北壁若干東寄りに作られる。焚口はやや浅めに掘られる。袖部は左袖がやや貧弱である。煙道部は立ち上がり部でカクランを受けるが焚口部奥から角度をもって立ち上がる。カマド位置は, 周溝が袖部手前で立ち上がっており, 当初から決定されていたと判断される。**ピット** P1~4が主柱穴で, 40~50cmの深さである。P5が出入り口ピットで深さ13cmである。**覆土** 南および西壁際に褐色土層(5.10層)が埋め戻され, その後は自然埋没している。**遺物出土状態** カマド前及び北壁東側の廃棄遺物が主で, やや浮いて出土するが, 廃絶時に近い時期の遺物に想定される。**建て替え** 柱の位置替えが見られ拡張か。



14D土層説明

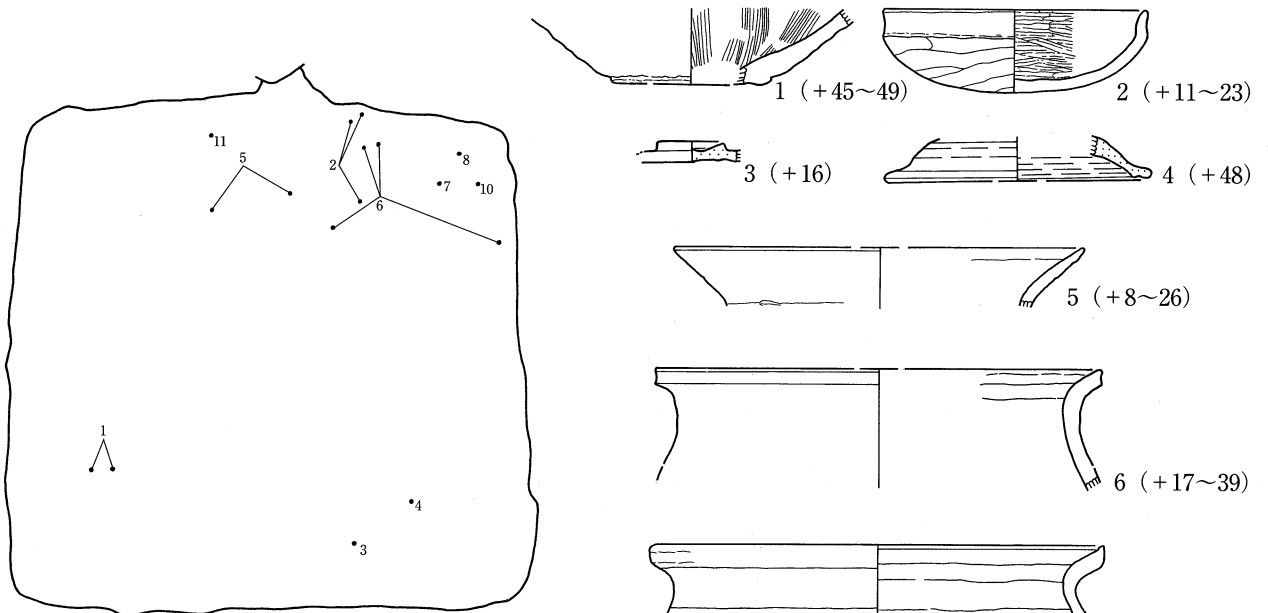
- | | |
|-----------|-----------------------------|
| 1. 暗褐色土 | ローム粒、砂粒含む。 |
| 2. 暗褐色土 | 1層類似。黒色土粒の割合多い。 |
| 3. 暗茶褐色土 | ロームブロック、暗褐色土混合層。 |
| 4. 暗褐色土 | ローム粒、黒色土粒混合層。 |
| 5. 暗茶褐色土 | ローム粒主体。黒色土粒少量含む。 |
| 6. 暗茶褐色土 | 炭化粒少量混入。 |
| 7. 暗茶褐色土 | ソフトローム主体。暗褐色土少量含む。 |
| 8. 明茶褐色土 | ローム粒、黒色土混合層。20mm大ロームブロック含む。 |
| 9. 明茶褐色土 | 8層類似。ロームブロック含まず。 |
| 10. 暗茶褐色土 | 5層類似。炭化粒含まず。黒色土粒若干多い。 |
| 11. 暗褐色土 | ローム粒若干含む。 |
| 12. 暗褐色土 | ロームブロック少量含む。 |
| 13. 暗褐色土 | 灰色砂混入。ローム粒、炭化物含む。 |
| 14. 暗褐色土 | 13層類似。黒色土含む。 |
| 15. 淡褐色土 | 灰色砂、粘土含む。部分的に焼土粒混入。 |
| 16. 暗茶褐色土 | ローム粒、ロームブロック、暗褐色土混合層。 |



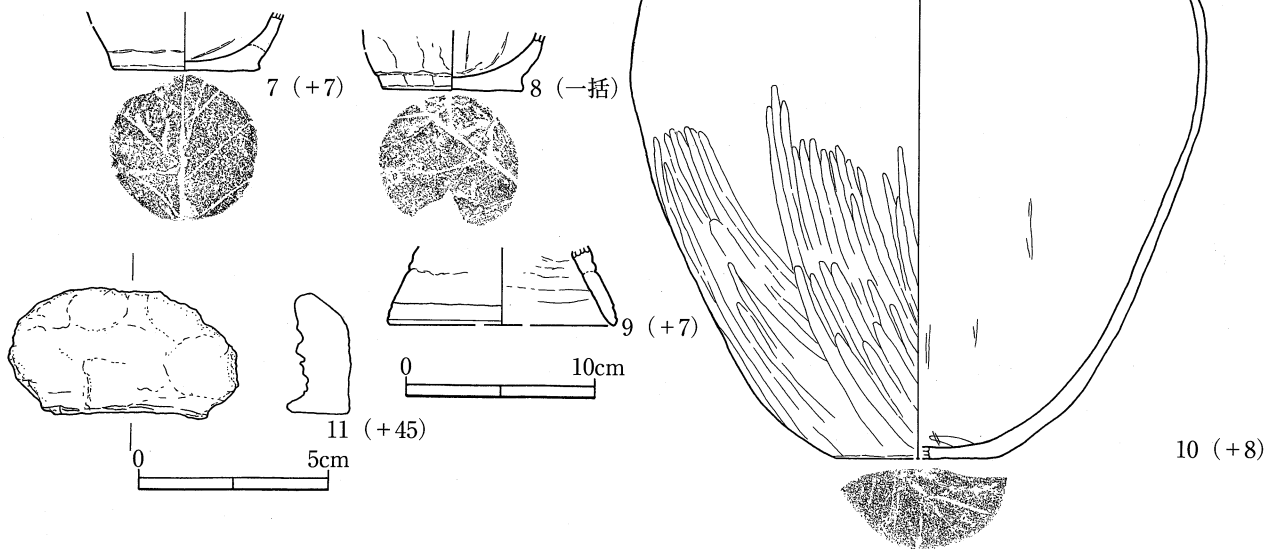
14Dカマド土層説明

- | | |
|-----------|--------------------------|
| 1. 濃茶褐色土 | ローム粒、焼土、黒色土、粘土砂少量含む。 |
| 2. 暗褐色土 | ローム土、濃茶褐色土の混合層。 |
| 3. 暗茶褐色土 | ローム土、暗茶褐色土の混合層。 |
| 4. 暗茶褐色土 | やや灰味。3層に比べ粘土砂多い。焼土混入。 |
| 5. 濃茶褐色土 | 1~5mm大ローム6層に比べ少なくなる。 |
| 6. 茶褐色土 | 1層類似。ローム混入やや多い。 |
| 7. 濃茶褐色土 | |
| 8. 暗茶灰色土 | 粘土砂多い焼土。ローム散在。黒色土粒含む。 |
| 9. 暗茶灰色土 | 8層類似。焼土、ローム認められず。 |
| 10. 暗茶褐色土 | ローム粒若干含む。焼土、黒色土粒希れ。 |
| 11. 暗茶灰色土 | 粘土砂やや多い。ローム粒、焼土粒含む。 |
| 12. 暗茶褐色土 | 2~5mm大ローム混入多い。焼土、粘土砂少ない。 |
| 13. 黒褐色土 | ローム、黒色土混合層、炭化物、焼土粒含む。 |
| 14. 赤褐色土 | ローム土、焼土の層。 |
| 15. 黒褐色土 | 黒色土主体。粘土砂含む。 |
| 16. 暗茶褐色土 | ローム、粘土砂少ない。焼土希れ。 |
| 17. 暗茶赤色土 | 14層近似。焼土、ローム多い。 |
| 18. 暗褐色土 | ローム、暗茶褐色土の混合層。焼土若干含む。 |
| 19. 褐色土 | 住居周溝覆土。ローム主体。 |
| 20. 褐色土 | ローム土に焼土若干混入。 |
| 21. 暗茶褐色土 | ローム粒、黒色土若干含む。焼土希れ。 |
| 22. 暗褐色土 | 2層近似。ローム主体。 |

第47図 14D遺構実測図



第48図 14D遺物分布図



第49図 14D出土遺物

14D遺物観察表

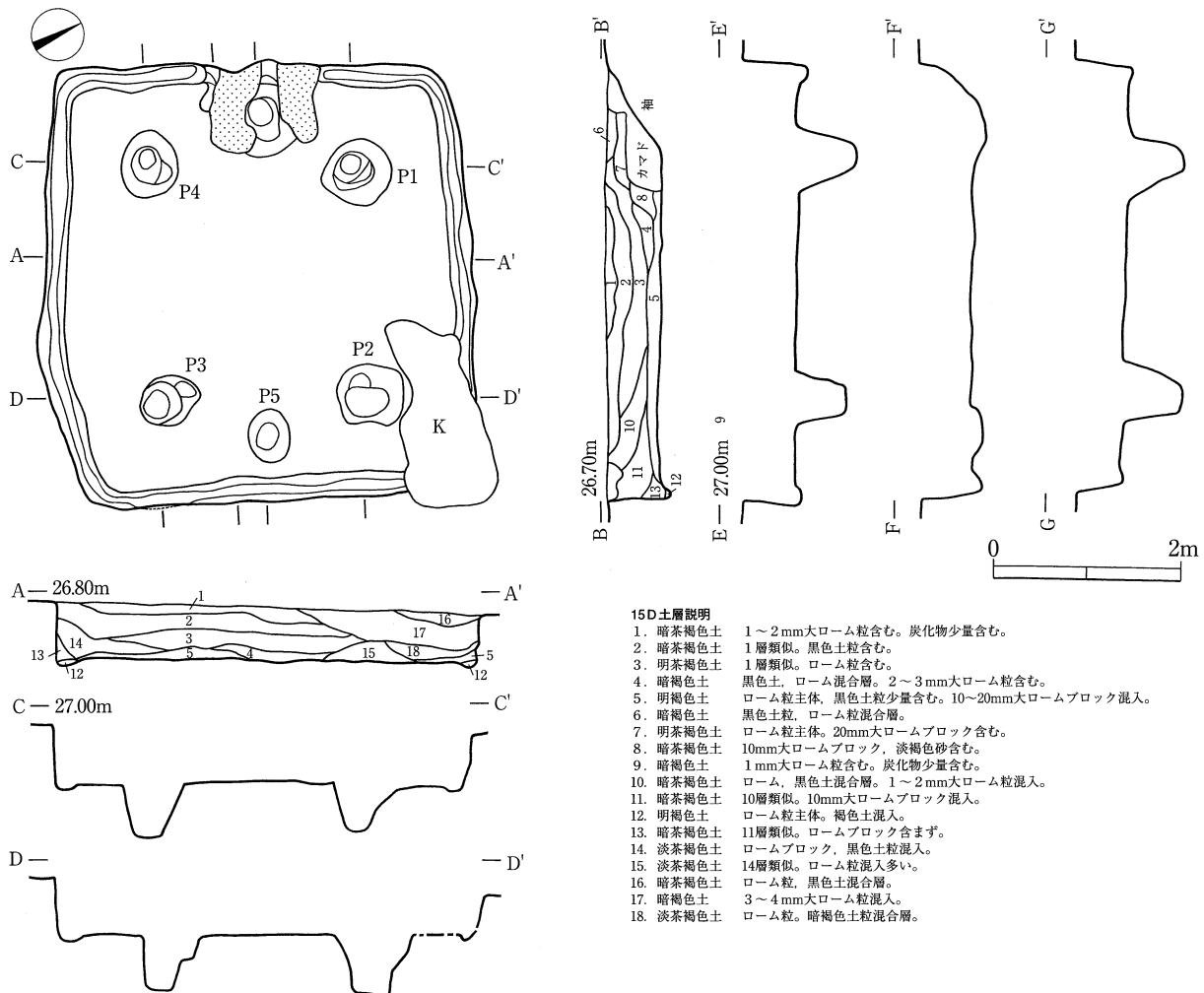
器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 陶器 すり鉢	胴下半部 ~底部1/3	4.1	—	8.2	暗紫赤色	ち密	11本単位の歯歯が45°に三単位の間隔で縦位に施文される。
2 土師器 坏	略完形	4.3	14	—	橙褐色	白色粒、雲母 赤色スコリヤ	輪積み成形 口辺部外面横などで。体部外面横位へら削り。内面横位へら磨き。
3 須恵器 蓋鈕	鈕全周	0.7	3.3	—	灰色	白色粒 雲母	ロクロ成形。
4 須恵器 蓋	口辺部1/3 ~天井部	2.3	14	—	暗灰色	白色粒、雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。内側かえりは、ややしっかりしている。 天井部回転へら削り。重ね焼きによる色の变化あり。 内面にタール状附着物みられる。
5 土師器 甕	口辺部1/5	3.2	21.6	—	橙褐色	雲母、白色粒 赤色スコリヤ	口辺部内外横などで。外面へら削り。内面へらなどで横などで。 口縁内面に緩い稜がめぐる。
6 土師器 甕	口辺部1/4	6.3	23.4	—	淡橙褐色	長石 雲母多含、 小石片	口辺部横などで。頸部内面へらなどで。胴部内面などで。
7 土師器 手づくね	底部 ~体部全周	3.1	—	7.8	淡橙褐色 黒斑	白色粒 赤色スコリヤ 雲母、石英	輪積み成形。底部木葉痕 外面などで。内面へらなどで。 甕底部片に近似するが、外面調整から手づくねをした。

14D遺物観察表 (2)

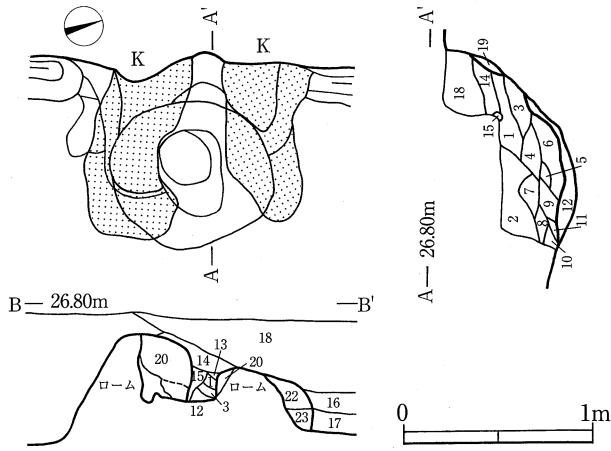
器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
8 土師器 手づくね	底部 ~体部全周	3.2	—	7.4	黒灰褐色	白色粒 赤色スコリヤ 雲母, 石英	7と同様な成形, 調整によりつくられる。 やや砂粒多い。
9 土師器 不明	脚台部か。1/3	4.1	—	11.8	淡橙褐色 ~黒褐色	白色粒 長石, 石英	口辺部横なで。 内外面なで。
10 土師器 甕	胴部から底部にかけて 1/5欠損	33.7	23.8	8.6	淡橙褐色	長石多含 雲母 石英	口辺部内外横なで。口縁端部つまみ上げ。 胴部外面上半縦ヘラなで。中央~下端縦位ヘラ磨き。 底部木葉痕。頸部ヘラなで。胴部ヘラなで。
11 鉄滓		縦 3.1	横 6.1	巾 1.6	重さ 30g		表面白色粒付着。 砂質内面気泡部分的に見られる。磁気なし

15D (第50~54図 図版4・14)

位置 E4区-3Gを中心に検出。**主軸方位** N-62°-Wで大きく西に傾く。**重複関係** 見られない。
平面形 東壁側にやや長い方形を呈する。**規模** 4.04m×4.59m, 遺構確認面からの深さ60cm。
壁 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードロームを掘り込んで床面としている。ほぼ平坦である。
周溝 全周する。幅20cm, 深さ5cm程度である。**カマド** 西壁中央に壁をごくわずか掘り込んで作られる。焚口部は14cm程度掘られる。袖部は良好に遺存する。煙道部は焚口部奥から角度をもって立ち上がる。カマド位置は, ロームの掘り残しを袖の核としており, 当初から決定されていたと判断される。
ピット P1~4が主柱穴で, 55~60cmの深さである。P5が出入り口ピットで深さ13cmである。**覆土** ほぼ自然埋没している。**遺物出土状態** カマド内及び前面の床面直上の遺物が主で, 本跡に伴う遺物である。**建て替え** 柱の位置替えが見られ拡張か。



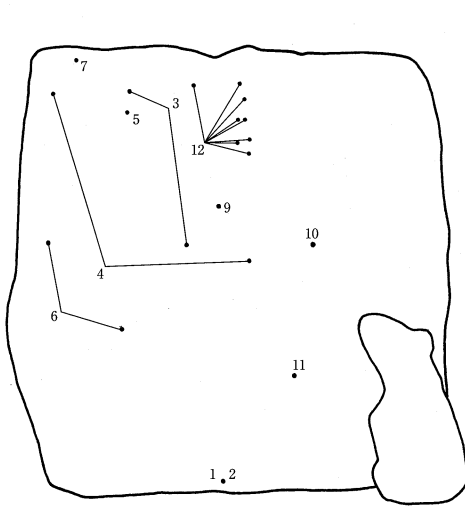
第50図 15D遺構実測図 (1)



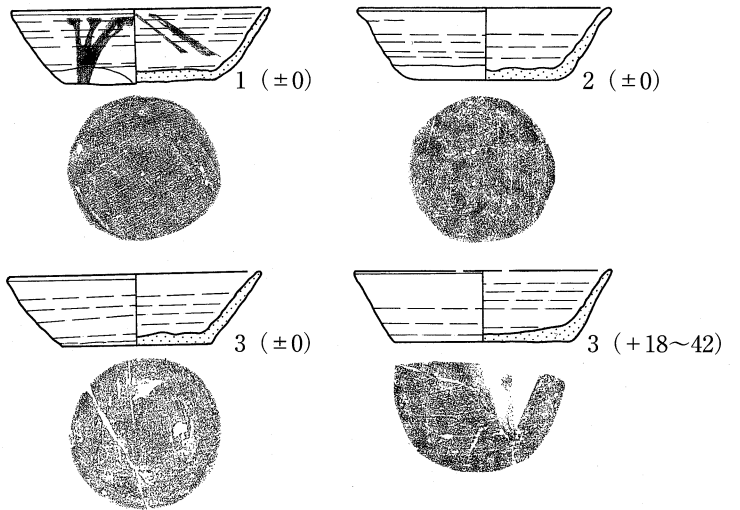
15Dカマド土層説明

- 1. 明茶土 灰色粘土。焼土粒少量含む。
- 2. 明茶土 灰色粘土。灰色砂、2~3mm大ローム粒混合層。
- 3. 暗茶色土 灰色粘土。灰色砂、焼土粒混合層。
- 4. 暗茶色土 3層類似。粘土混入少ない。
- 5. 明茶色土 粘土粒、焼土粒、ロームブロック混合層。
- 6. 赤色土 焼土粒主体、砂少量混入。
- 7. 淡茶色土 淡灰色砂。
- 8. 暗褐色土 焼土粒、暗褐色土主体、灰色砂少量混入。
- 9. 淡茶色土 7層類似。焼土粒含む。
- 10. 黒褐色土 黒色土少量。焼土粒、灰色砂含む。
- 11. 暗赤褐色土 粘土粒、灰色砂混入。
- 12. 明茶褐色土 ロームブロック、褐色土混合層。
- 13. 明茶赤色土 赤色化砂。
- 14. 暗茶色土 灰色粘土。暗褐色土混入。焼土粒少量含む。
- 15. 暗茶色土 14層類似。ローム粒含む。
- 16. 暗褐色土 焼土粒少量混入。
- 17. 暗褐色土 ローム粒、黒色土粒混合層。
- 18. 暗褐色土 ローム粒含む。
- 19. 暗黄褐色土 ローム粒主体。褐色土混入。
- 20. 淡茶灰色土 山砂主体。焼土粒少量混入。
- 21. 淡灰色土 砂質粘土。
- 22. 淡茶灰色土 20層類似。黒色土粒含む。
- 23. 淡灰色土 21層類似。黒色土粒含む。

第51図 15D遺構実測図(2)



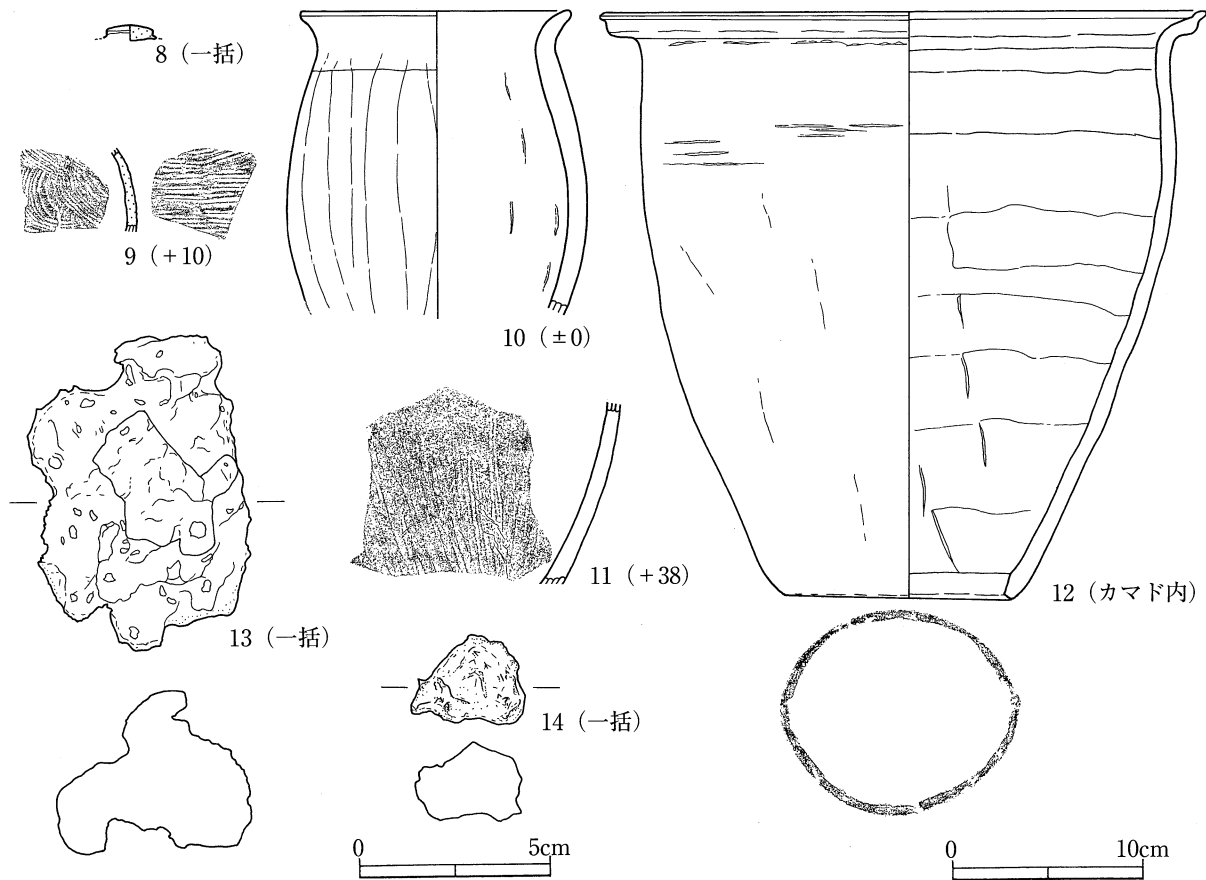
第52図 15D遺物分布図



第53図 15D出土遺物(1)

15D 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 須恵器 坏	略完形	4	13.6	7.8	淡青灰色	白色粒 長石、石英	ロクロ成形。切離し不明。底部全面手持ちへら削り調整。 体部下端も手持ちへら削り調整。内外面火だすき見られる。
2 須恵器 坏	口辺部3/5 ~底部全周	3.8	13.3	7.8	灰白色	雲母片 砂粒	ロクロ成形。底部切離し不明。 底部全面手持ちへら削り。体部下端へら削り。 内面中位~底部に漆状ないしタール状の付着物見られる。
3 須恵器 坏	口縁1/4欠 略完形	3.7	13.3	7.8	灰色	雲母 長石多含	底部粘土紐による円盤にしたのちロクロ成形。 底部切離し不明。全面手持ちへら削り。内外ロクロなどで。
4 須恵器 坏	口辺部 ~底部1/2	3.8	13.4	9.2	淡青灰色	雲母 砂粒	ロクロ成形。底部切離し不明。 底部全面手持ちへら削り。内外面ロクロなどで。
5 土師器 坏	口辺部 ~底部1/4	3.2	15.4	10.4	赤褐色	白色粒	ロクロ成形。底部と体部の境不明瞭。 内外面赤彩。
6 土師器 坏	口辺部 ~底部1/3	3.6	14.4	8.9	赤褐色	長石、白色粒 赤色スコリヤ	ロクロ成形。底部静止糸切離し後周縁へら削り調整。 体部外面ロクロなどで。内面横位~縦位へら磨き。内外面赤彩。
7 土師器 坏	底部 一部胴下半部1/3	1.2	—	8.4	赤褐色	長石、白色粒 赤色スコリヤ 雲母(少)	ロクロ成形。底部静止糸切離し。 底部内面横位へら磨き後などで調整。内外面赤彩。



第54図 15D出土遺物（2）

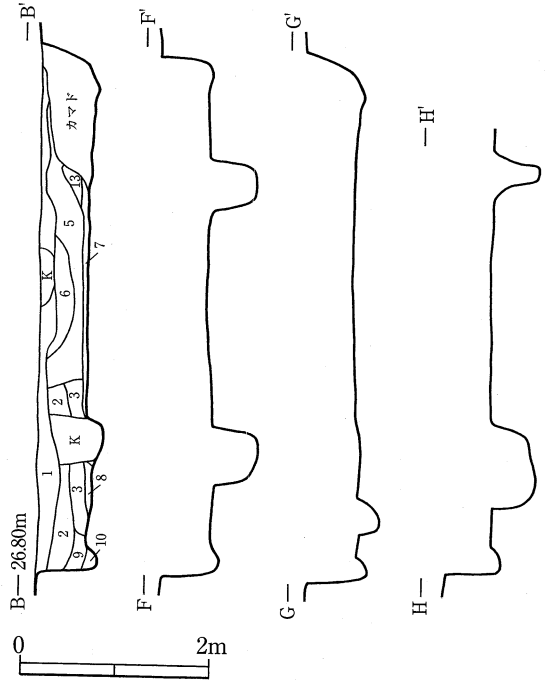
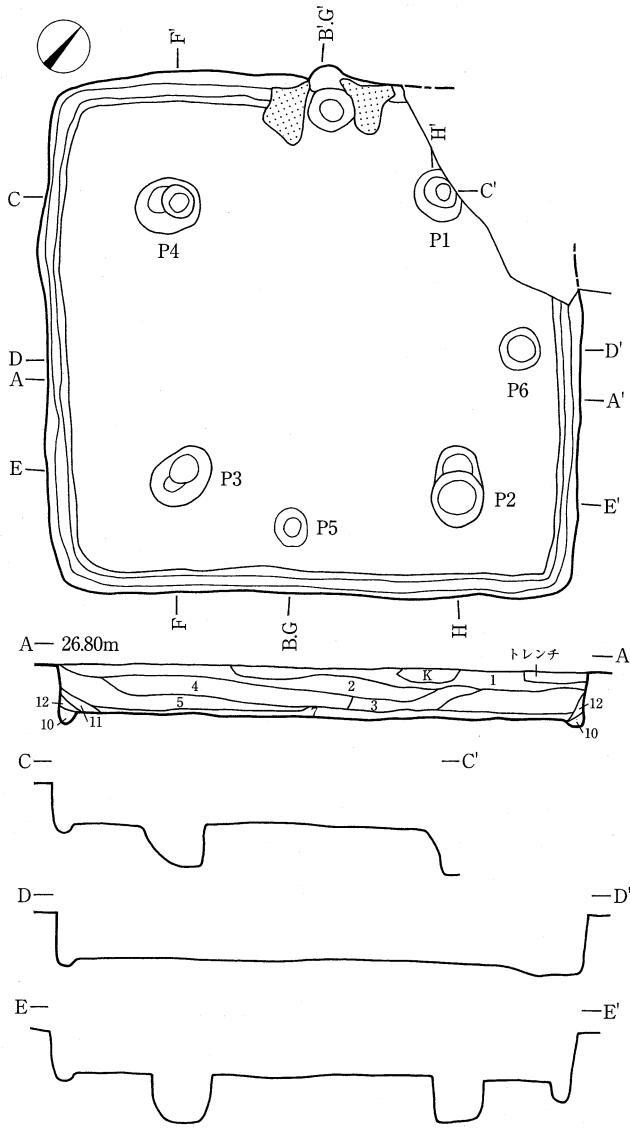
15D 遺物観察表（2）

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
8 須恵器蓋紐	鈕全周	0.8	2.5	—	淡緑灰色	ち密	ロクロ成形。鈕部分。ガラス質の自然釉が全体をおおう。
9 須恵器甕	胴下半部	—	—	—	淡青灰色	ち密	胴部外面横位平行叩き目 内面同心円文当て具痕
10 土師器甕	口辺部 ～胴部下半	16.2	14	—	淡茶褐色 ～赤褐色	長石 石英多含, 小石片	口辺部内外横なで。 胴部外面縦位ヘラ削り。内面ヘラなで。
11 土師器甕	胴下半部	—	—	—	外橙褐色 内淡灰褐色	雲母 長石多含, 石英	胴部外面細いヘラ磨き。内ヘラなで。
12 土師器瓶	略完形 口縁部1/2欠損	30.9	32.2	12	橙褐色	長石、雲母 石英、白色粒	輪積み成形。口辺部内外横なで。胴部上半なで。 中央～下半縦ヘラ磨き。内面ヘラなで、擦痕状の使用痕あり。 外面中央～下端被熱及び煤附着。
13 鉄滓		長さ 8.4	幅 5.35	厚さ 4.3	重さ 156.1 g		気泡全体に著しい。 磁気なし。

16D（第55～57図 図版4・14）

位置 F3区-1Gで検出。主軸方位 N-18° -Wで西方向に傾く。重複関係 見られない。

平面形 ほぼ方形だが、東西方向やや長い。規模 5.12m×5.3m、遺構確認面からの深さ0.5m。壁 垂直に立ち上がる。床 ハードロームを掘り込む。周溝 20cm、深さ10～15cm。覆土はローム細粒を含む暗茶褐色土である。カマド 北壁ほぼ中央に緩く壁を掘り込んで構築する。袖部良好。焚口は10cmと浅い掘り込み。煙道部は焚口奥から急傾斜で立ち上がる。袖部は右袖が灰色粘土、左袖が砂質粘土により作られている。ピット P1～P4が支柱穴、P5が出入り口ピットである。覆土 褐色土主体の埋め戻し層が確認される。遺物出土状態 カマド内出土の8.9を標準として、覆土中の他の遺物を見るとほぼ同時期であり、埋め戻し時の廃棄を考慮すると本跡に伴う遺物である。建て替え 柱の位置替えが見られ拡張が想定される。

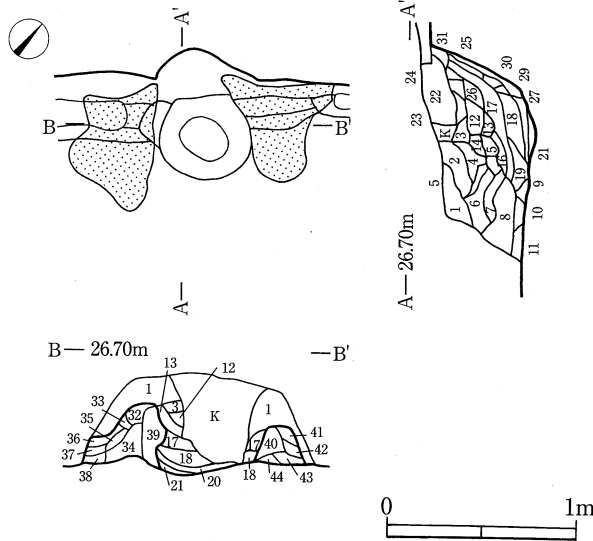


16D土層説明

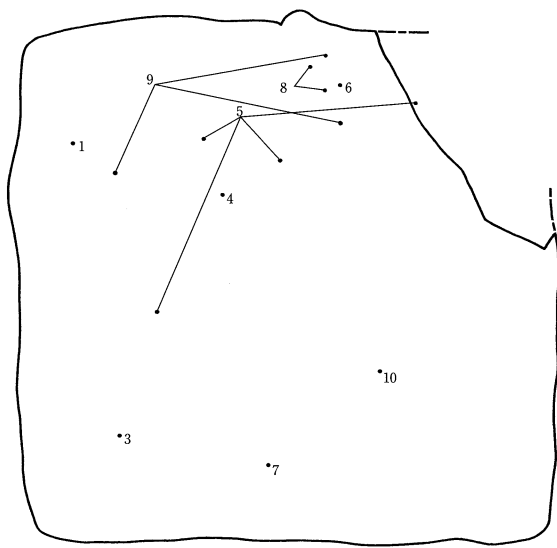
- | | |
|-----------|----------------------------|
| 1. 黒茶褐色土 | ローム若干含む。 |
| 2. 黒茶褐色土 | 2~5mm大ローム散在。1~2mm大ロームやや多い。 |
| 3. 褐色土 | ロームブロック投入層。暗茶褐色土混入。 |
| 4. 茶褐色土 | 暗茶褐色土にローム混入する層。 |
| 5. 暗茶褐色土 | 5~10mm大ローム、1~2mm大ローム点在する。 |
| 6. 黒茶褐色土 | 大きさにまとまりのないローム含む。 |
| 7. 暗茶褐色土 | 5層類似。ローム含む。 |
| 8. 暗茶褐色土 | ローム少ない。 |
| 9. 暗茶褐色土 | ローム若干含むが少量。 |
| 10. 暗茶褐色土 | ローム細粒混入。 |
| 11. 黒茶褐色土 | 黒味強い。ローム若干含む。 |
| 12. 暗褐色土 | ローム土、暗茶褐色土混合層。焼土若干含む。 |
| 13. 暗茶褐色土 | 5層類似。焼土砂若干含む。 |

16Dカマド土層説明

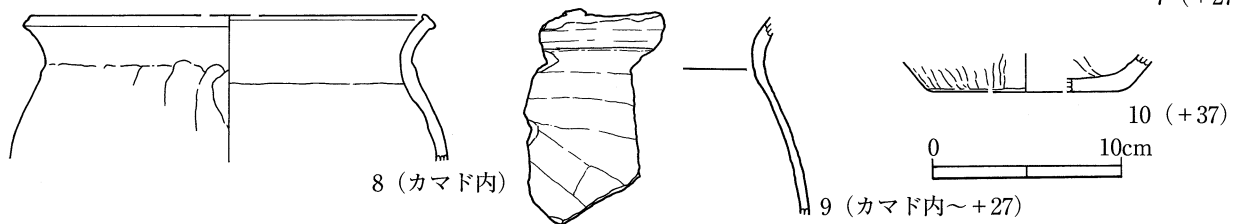
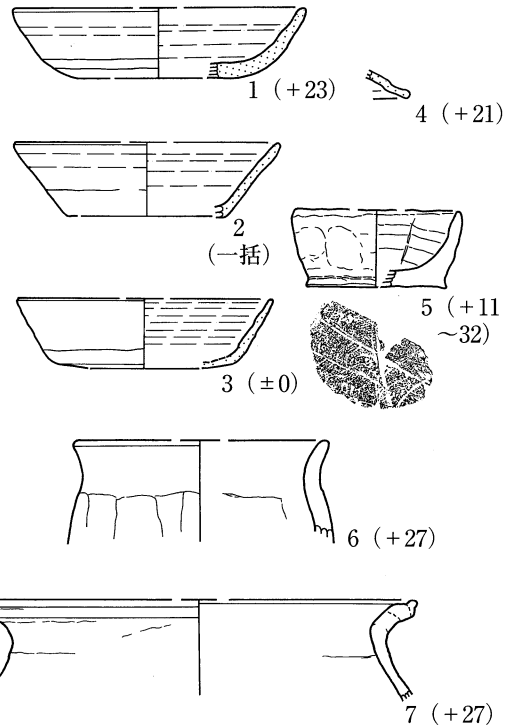
- | | |
|-----------|------------------------|
| 1. 暗茶褐色土 | 1~3mm大ローム多含。粘土粒、砂混入。 |
| 2. 茶灰色土 | 5~15mm大ローム散在。黒色土若干含む。 |
| 3. 茶褐色土 | ローム微粒含む。粘土砂少ない。 |
| 4. 濃茶褐色土 | 焼土砂微量含む。粘土砂少ない。 |
| 5. 茶灰色土 | 灰色粘土砂主体。粘土塊点在。 |
| 6. 茶灰色土 | 粘土砂主体。2~5mm大焼土粒点在。 |
| 7. 茶灰色土 | 支脚小片散在。濃茶褐色土混入。 |
| 8. 濃茶褐色土 | 粘土砂含まず。2~4mm大ローム散在。 |
| 9. 茶褐色土 | 焼土若干含む。2~5mm大ローム混合。 |
| 10. 濃茶褐色土 | 焼土混入やや多い。1~3mm大ローム含む。 |
| 11. 茶褐色土 | 9層近似。焼土少ない。 |
| 12. 茶灰色土 | 粘土砂、暗茶褐色土混合層。焼土、黒土粒まれ。 |
| 13. 茶灰色土 | 12層類似。焼土粒やや多い。 |
| 14. 茶灰色土 | 5層類似。焼土少し混入。 |
| 15. 茶灰色土 | 粘土砂主体。1~3mm大焼土砂粒点在。 |
| 16. 茶灰色土 | 粘土砂主体。5層近似。やや焼土多い。 |
| 17. 赤灰色土 | 粘土砂主体。焼土砂塊多い。 |
| 18. 暗赤褐色土 | 焼土層。 |
| 19. 暗赤褐色土 | 焼土砂主体。暗茶褐色土、粘土砂混合。 |
| 20. 暗赤褐色土 | 焼土砂、焼土塊の層。 |
| 21. 暗赤褐色土 | 火熱を受けたロームブロック層。 |
| 22. 茶灰色土 | 1層近似。1~5mm大ローム点在。 |
| 23. 茶灰色土 | 22層と24層の中間層。黒色土含む。 |
| 24. 黒褐色土 | 5mm大暗褐色土粒点在。粘土砂若干混入。 |
| 25. 黒茶褐色土 | 22層と24層の中間層。黒色土やや多い。 |
| 26. 赤灰色土 | 17層類似。焼土多く、粘土砂混合。 |
| 27. 赤色砂 | 31層類似。充?粘土が赤色化したもの。 |
| 28. 赤色砂 | 30層に近い。 |
| 29. 赤褐色土 | ローム微粒混入。 |
| 30. 灰褐色土 | ロームと粘土砂混合充?層。 |
| 31. 黒赤褐色土 | 焼土混入少ない。ローム若干含む。 |
| 32. 暗茶褐色土 | 粘土砂の混合。 |
| 33. 暗茶褐色土 | 暗茶褐色土に粘土ブロック混入。 |
| 34. 淡赤色砂 | 粘土砂主体。焼土砂若干含む。 |
| 35. 淡褐色土 | 粘土ブロックに暗茶褐色土混入。 |
| 36. 暗茶褐色土 | 粘土砂少ない。ローム若干含む。 |
| 37. 暗褐色土 | ロームやや多い。粘土砂含まず。 |
| 38. 暗褐色土 | 37層に比べ、ロームやや少ない。 |
| 39. 茶灰色土 | 粘土砂多含。 |
| 40. 茶灰色土 | 粘土主体。2~3mm大ローム点在。 |
| 41. 茶灰色土 | 粘土主体。40層に比べやや暗い。 |
| 42. 暗茶褐色土 | 粘土砂混入。 |
| 43. 暗茶褐色土 | 粘土砂少ない。 |
| 44. 茶灰色土 | 40層類似。ローム少ない。 |



第55図 16D遺構実測図



第56図 16D遺物分布図



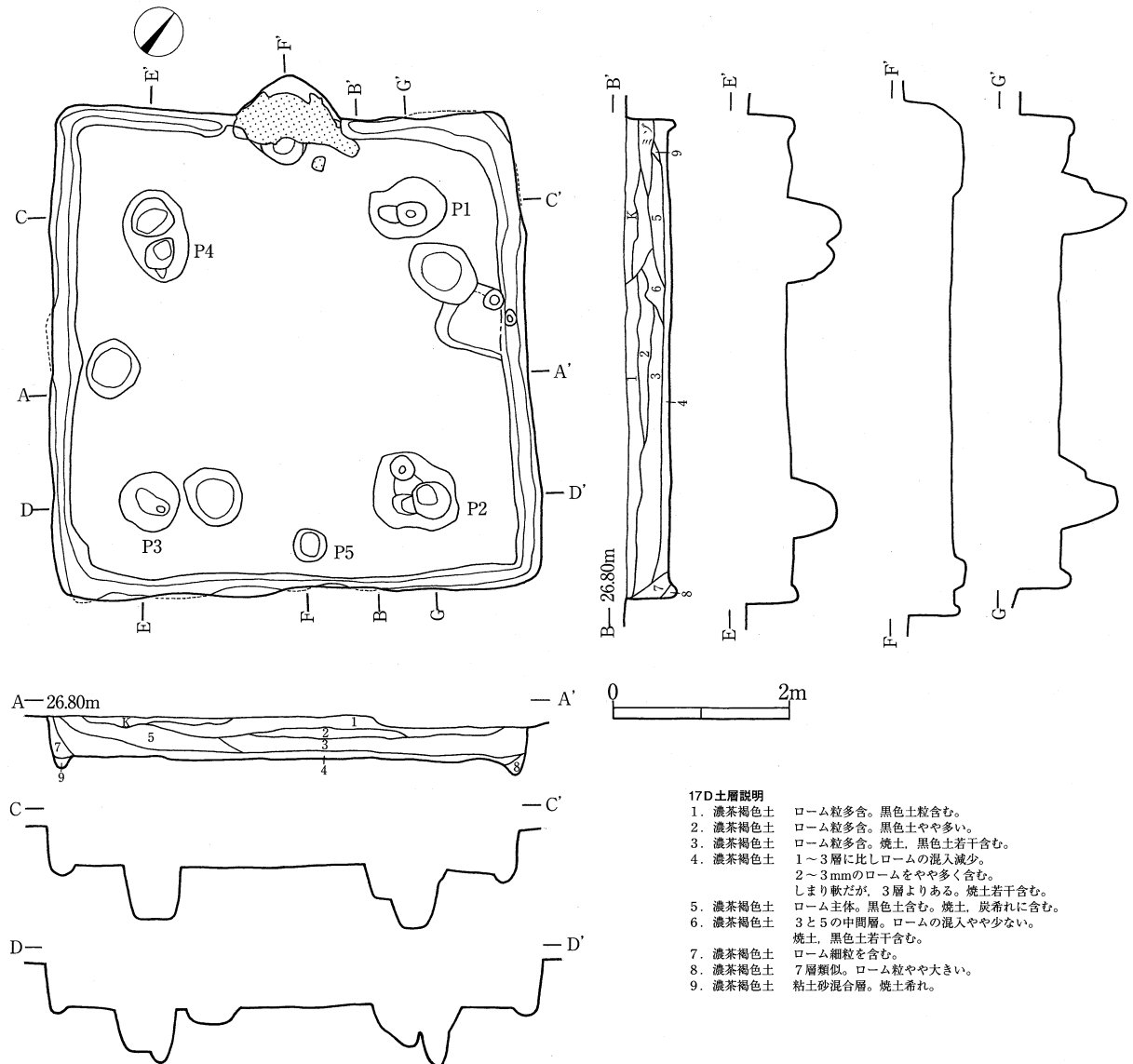
第57図 16D出土遺物

16D遺物観察表

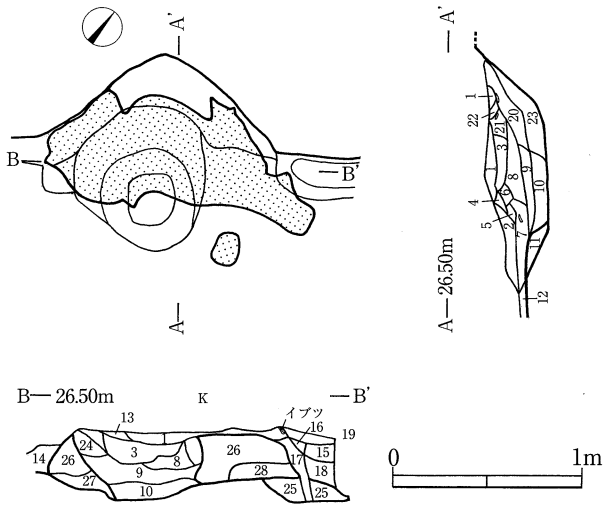
器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 須恵器 坏	口辺部1/5 ~底部	3.7	15.4	8.6	灰色 ~暗灰色	雲母・白色粒 長石 赤色スコリヤ 少量	ロクロ成形。切離し不明。 底部周縁~体部下位へラ削り調整。内外ロクロなで。 内面に漆状ないしタール状附着物ついている。
2 須恵器 坏	口辺部1/5 ~底部	3.9	14	8.4	淡橙灰色	石英 長石, 小石片	ロクロ成形。口縁部やや肉弯。 体部中位~下端回転へラ削り調整。
3 須恵器 坏	口辺部1/4弱 ~底部	3.7	13.5	—	暗青灰色	長石多含 石英	ロクロ成形。体部と底部の境不明瞭。丸底状。内外ロクロなで。 体部下端~底部へラ削り調整。ロクロ目細かく明瞭。
4 須恵器 蓋	口辺部一部	—	—	—	外淡青灰色 内淡黒灰色	雲母 白色粒	ロクロ成形。 かえりは弱い。
5 土師器 手づくね	口辺部1/2 ~底部	4.1	9	7.4	淡橙褐色	白色粒 赤色スコリヤ	輪積み成形。底部木業痕。 外面なで。内面へらないし木口状工具によるなで。
6 土師器 甕	口辺部 ~胴上半部	5.5	13.4	—	淡褐色	雲母, 白色粒 赤色スコリヤ 小石片	胴部外面縦位へラ削り後口辺部内外横なで。 内面なで。
7 土師器 甕	口辺部 ~胴上半部	5.1	22.4	—	淡褐色	長石 雲母多含	輪積み成形。 口縁部つまみ上げ。口辺部横なで。内外へらなで。
8 土師器 甕	口辺部 ~胴上半部	7.8	20.4	—	淡橙褐色 黒斑	雲母 長石, 小石片	口辺部内外横なで。 胴部外面縦位へラ削り。内面なで。胴部外面にこげ状附着物。
9 土師器 甕	頸部 ~胴上半部	—	—	—	橙褐色 ~淡橙褐色	白色粒, 石英 長石, 赤色 スコリヤ	口辺部横なで。 胴部横位~斜位へラ削り。内面へらなで。器壁うすい。
10 土師器 甕	底部1/3	—	—	10.2	外茶褐色 内淡褐色	長石 雲母多含	輪積み成形。 胴下半外面縦位へラ磨き。内面へらなで。底部木業痕。

17D (第58~62図 図版5・14・15)

位置 E3区-4Gで検出。**主軸方位** N-20°-Wで西方向に傾く。**重複関係** 見られない。
平面形 方形。規模 5.42m×5.36m, 遺構確認面からの深さ0.5m。**壁** 垂直に立ち上がる。**床** ハードロームを掘り込む。**周溝** 15~20cm, 深さ10cm。覆土はローム細粒を含む褐色土でやや軟質。
カマド 北壁ほぼ中央にV字状に壁を掘り込んで構築する。袖部は天井部を含んで良好に遺存。焚口は10cmと浅い掘り込み。底面は手前部分でよく焼けている。煙道部は焚口奥から急傾斜で立ち上がる。
ピット P1~P4が主柱穴, P5が出入り口ピットである。**覆土** 濃茶褐色土主体の埋め戻し層が確認される。**遺物出土状態** カマド内は7.14, 床面上ないし覆土中のもの, 更に1.5.11.13のように覆土中離れた状態で出土したものが見られる。近接して主軸, 住居構築の近似した16Dが所在し, 奈良時代の帰属が遺物から想定される。戻って, 17Dの遺物はカマド内出土の7.14が16D出土遺物より古く同一奈良時代においても時期差が見られる。17D出土遺物を選別すると, 本跡に帰属する確実な遺物は1.7.9.10.11.14.15で, 他は17D埋め戻し時の混入遺物ないし16D廃絶時の廃棄遺物と考えられるか。17D廃絶→放置→16D構築時の17D埋め戻し→16D廃絶の経過が想定されよう。**建て替え** P1~4において柱の位置替えが見られ, 拡張が想定される。

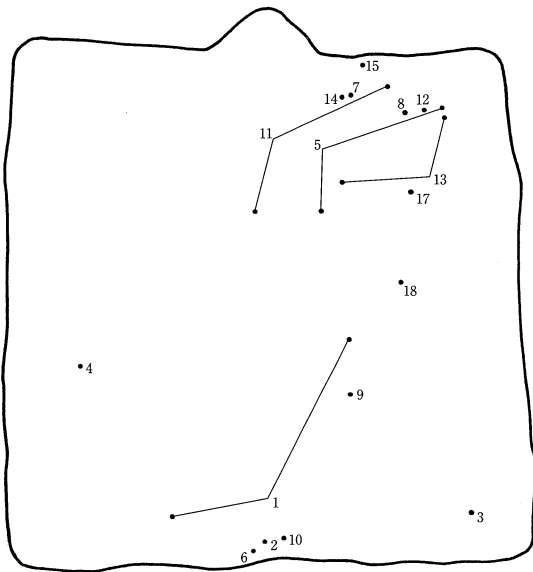


第58図 17D遺構実測図(1)

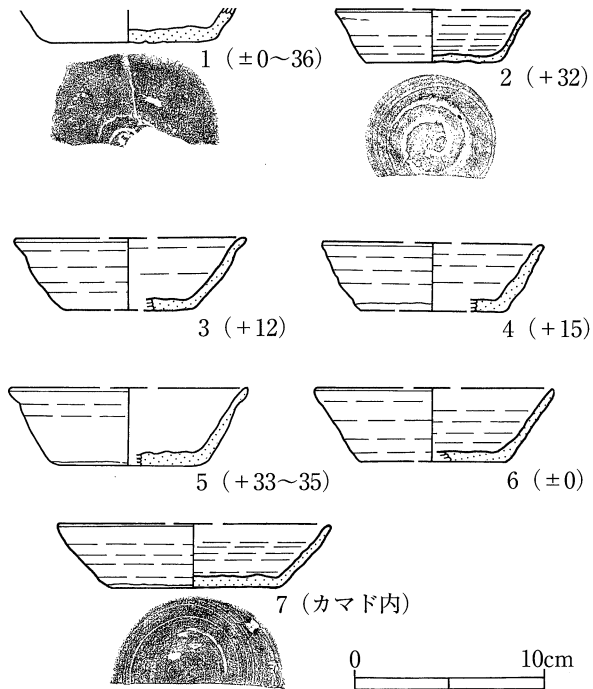


- 17Dカマド土層説明
1. 茶褐色土 溝覆土。ローム粒、焼土、焼土砂含む。
 2. 暗茶褐色土 1に近似。ローム、焼土砂少量含む。
 3. 灰褐色土 粘土砂主に暗茶褐色土と混合。
 4. 茶褐色土 粘土砂主体。ローム含む。
 5. 暗茶褐色土 焼土、炭化粒、粘土砂若干含む。
 6. 赤色土 焼土砂主体。4層混入。
 7. 黒茶褐色土 5mm大の焼土散在。赤化ローム含む。
 8. 黒茶褐色土 焼土砂の混入やや多い。
 9. 赤色砂 焼土砂純層。
 10. 暗茶褐色土 粘土砂多含。2~10mm大ローム含む。
 11. 茶灰色土 粘土砂多い。ローム若干含む。
 12. 暗茶褐色土 7層類似。焼土減少。
 13. 茶灰色土 粘土砂多含。2~5mm大ローム混入。
 14. 黒茶褐色土 住居覆土。しまり弱い。2~5mm大ローム含む。
 15. 褐色土 ローム主体。暗茶褐色土混入。
 16. 黒茶褐色土 ローム、粘土砂、炭化物含む。
 17. 黒茶褐色土 焼土、粘土砂、ローム粒点在。
 18. 茶褐色土 15に近似。ローム主体層。焼土、粘土砂含む。
 19. 暗茶褐色土 焼土、炭化物、粘土砂混入。
 20. 暗赤色土 うす汚れた色調。焼土多い。ローム、粘土砂含む。
 21. 暗赤褐色土 20に類似。粘土砂含まず。
 22. 暗茶褐色土 ローム混入。粘土砂希れ。
 23. 暗茶褐色土 ローム、暗茶褐色土混合。粘土砂減少。
 24. 赤色土 焼土砂塊多含。カマド内壁。
 25. 茶褐色土 周溝覆土。ローム含む。
 26. 暗茶灰色砂 粘土砂主体。ローム若干含む。
 27. 茶褐色土 ローム若干含む。粘土砂少ない。
 28. 茶褐色土 ローム、27に比べ増す。黒色土、粘土砂少量含む。

第59図 17D遺構実測図(2)



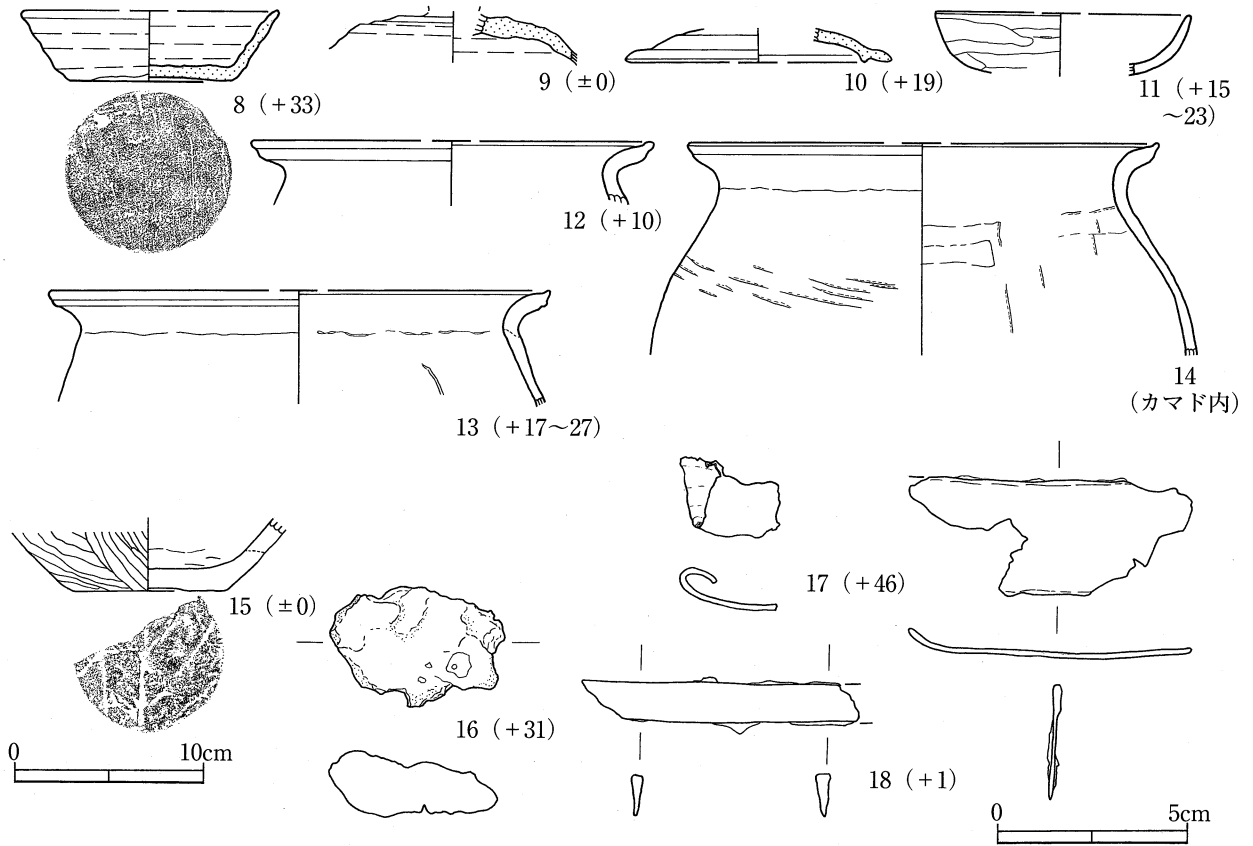
第60図 17D遺物分布図



第61図 17D出土遺物(1)

17D遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 須恵器 坏	底部2/3	1.8	—	9	淡青灰色	雲母多含 白色粒、石英	ロクロ成形。切離しは明確ではないが、回転ヘラ切りか。 底部全面手持ちヘラ削り。内外ロクロなで。
2 須恵器 坏	口辺~底部	2.8	10.2	6.9	青灰色	長石、雲母 石英、黒色粒	ロクロ成形。回転ヘラ切離し後周縁右回転ヘラ削り調整。 内外面ロクロなで。ロクロ目明瞭。
3 須恵器 坏	口辺1/3~底部	3.8	12.2	7	淡青灰色	長石 石英多含、 雲母	ロクロ成形。切離し不明。 底部全面手持ちヘラ削り。ロクロなで。
4 須恵器 坏	口辺~底部1/4	3.6	11.6	7.6	灰色 ~淡橙灰色	雲母 長石多含	ロクロ成形。切離し不明。 底部手持ちヘラ削り。体部下端ヘラ削り調整。内外ロクロなで。
5 須恵器 坏	口辺~底部1/3	4.1	12.6	8.4	灰白色	長石 雲母多含、 石英	ロクロ成形。切離し不明。 底部全面手持ちヘラ削り。
6 須恵器 坏	口辺~底部1/3	3.9	12.6	8	暗灰色 ~黒灰色	雲母多含 長石	ロクロ成形。切離し不明。 底部手持ちヘラ削り。内外ロクロなで。
7 須恵器 坏	口辺~底部1/2	3.4	14.4	8.8	青灰色	雲母 長石、小石片	ロクロ成形。切離し不明。 底部全面回転ヘラ削り調整。ロクロなで。ロクロ目明瞭。
8 須恵器 坏	口辺1/2~底部全周	3.8	13.6	8.6	淡褐色	雲母多含 白色粒、小石 粒	ロクロ成形。切離し不明。底部全面手持ちヘラ削り。 体部下端部分的にヘラ削り。内面ロクロ目明瞭。



第62図 17D出土遺物(2)

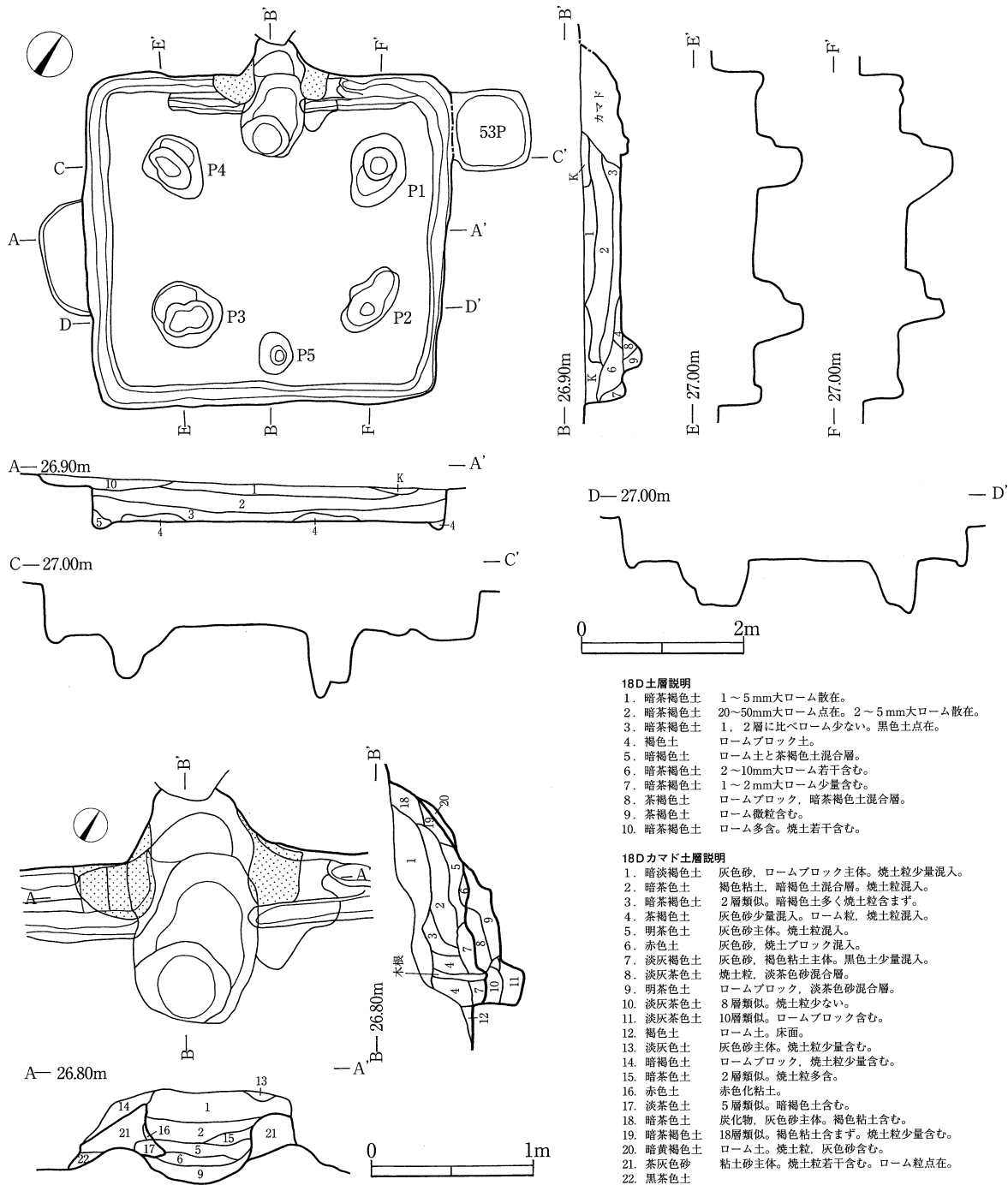
17D 遺物観察表(2)

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
9 須恵器蓋	体部1/4	—	—	—	灰色 ～暗灰色	雲母, 白色粒 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 天井部回転ヘラ削り。内外ロクロなで。
10 須恵器蓋	口辺部 ～体部	1.8	14	—	淡橙褐色	雲母 長石, 石英	ロクロ成形。 天井部回転ヘラ削り。内面のかえりは比較的明瞭である。
11 土師器坏	口辺部 ～胴下半部	3.2	13.4	—	橙褐色	白色粒 小石粒	口辺部内外横なで後外面横位ヘラ削り調整。 内面なで。
12 土師器甕	口辺部 ～頸部	3.4	21	—	淡茶灰褐色	長石, 雲母 石英, 小石片	口辺部内外横なで。胴外面なで。 内面ヘラなで。
13 土師器甕	口辺部 ～胴上半部	6.2	26	—	外橙褐色 内暗灰褐色	雲母 長石, 石英 多含	輪積み成形。口辺部横なで。 胴部外面なで。内面ヘラなで。口縁端部つまみ上げ。
14 土師器甕	口辺部 ～胴上半部1/3	11.2	24.4	—	外暗褐色 内淡橙褐色	雲母 長石多含	口辺部横なで。 胴部内外ヘラなで。口縁端部つまみ上げ。
15 土師器甕	底部2/3	3.9	—	8	外暗茶褐色 内淡橙褐色	長石 雲母多含	輪積み成形。 胴部下半～下端斜方向のヘラ磨き。内面ヘラなで。底部木葉痕。
16 鉄滓		縦 3.2	横 4.7	高 1.7	重さ 26.3 g		気泡顕著。 磁気なし。
17 鉄器鎌	基部・刃部	長 7.4	幅 3	厚 0.2	重さ 8.1 g		装着部の折り返し
18 鉄器刀子	柄～刃部 欠損	長 7.3	幅 1.1	厚 0.4~0.5	重さ 6.8 g		

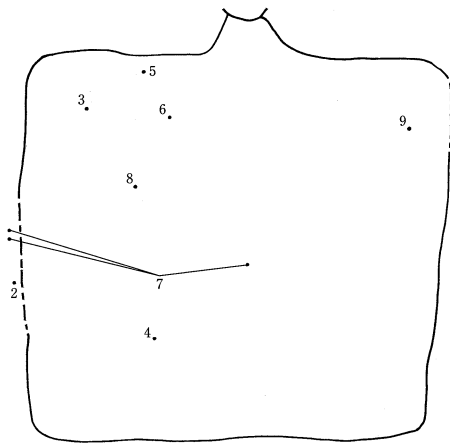
18D (第63~65図 図版5・15)

位置 E3区-1Gで検出。主軸方位 N-34°-Wでやや西に傾く。重複関係 53P・西壁ピットに切られる。平面形 北壁でやや広がる方形を呈する。規模 3.92m×4.16m, 遺構確認面からの深さ45~50cm。壁 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードローンを掘り込んで床面としている。床は

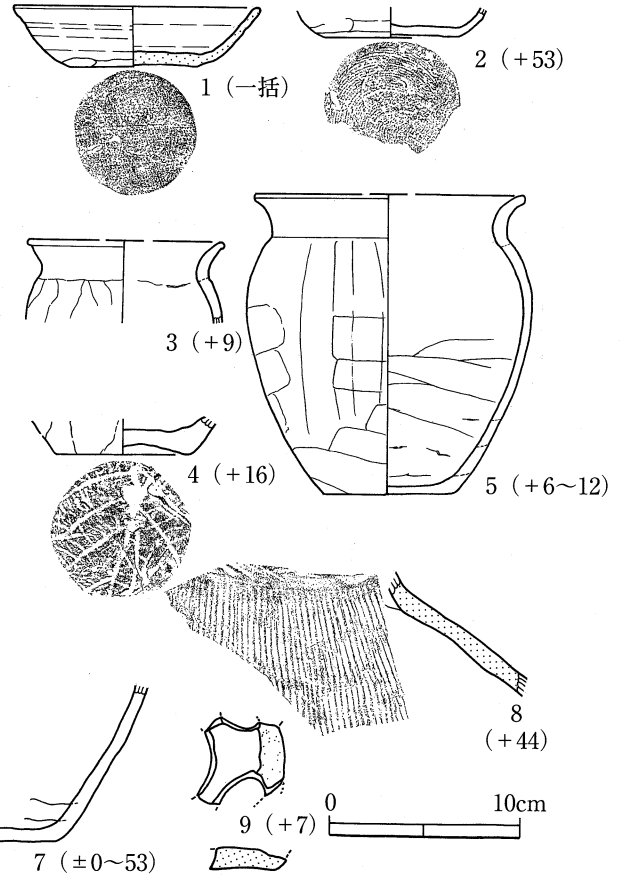
中央部でやや高く、壁寄りやや深い。周溝 全周する。幅20cm、深さ8cm程度である。カマド 北壁中央で、同位置での作り替えが見られる。拡張の際、当初の焚口を埋めかさ上げしている。煙道部は立ち上がり部でカクランを受けるが、焚口部奥からやや緩やかに立ち上がる。ピット P1～4が主柱穴で、50～60cmの深さである。P5が出入り口ピットで深さ22cmである。覆土 暗茶褐色土の埋め戻しを行う。遺物出土状態 全体に浮いて出土するが、2以外は本跡廃絶時に近い時期の遺物に想定されよう。2は浅い皿状ピットに伴う遺物である。建て替え カマド側において拡張を行っている。P1.4の柱位置の変更、当初の周溝とカマド焚口を埋め、北側に拡張している。



第63図 18D遺構実測図



第64図 18D遺物分布図



第65図 18D出土遺物

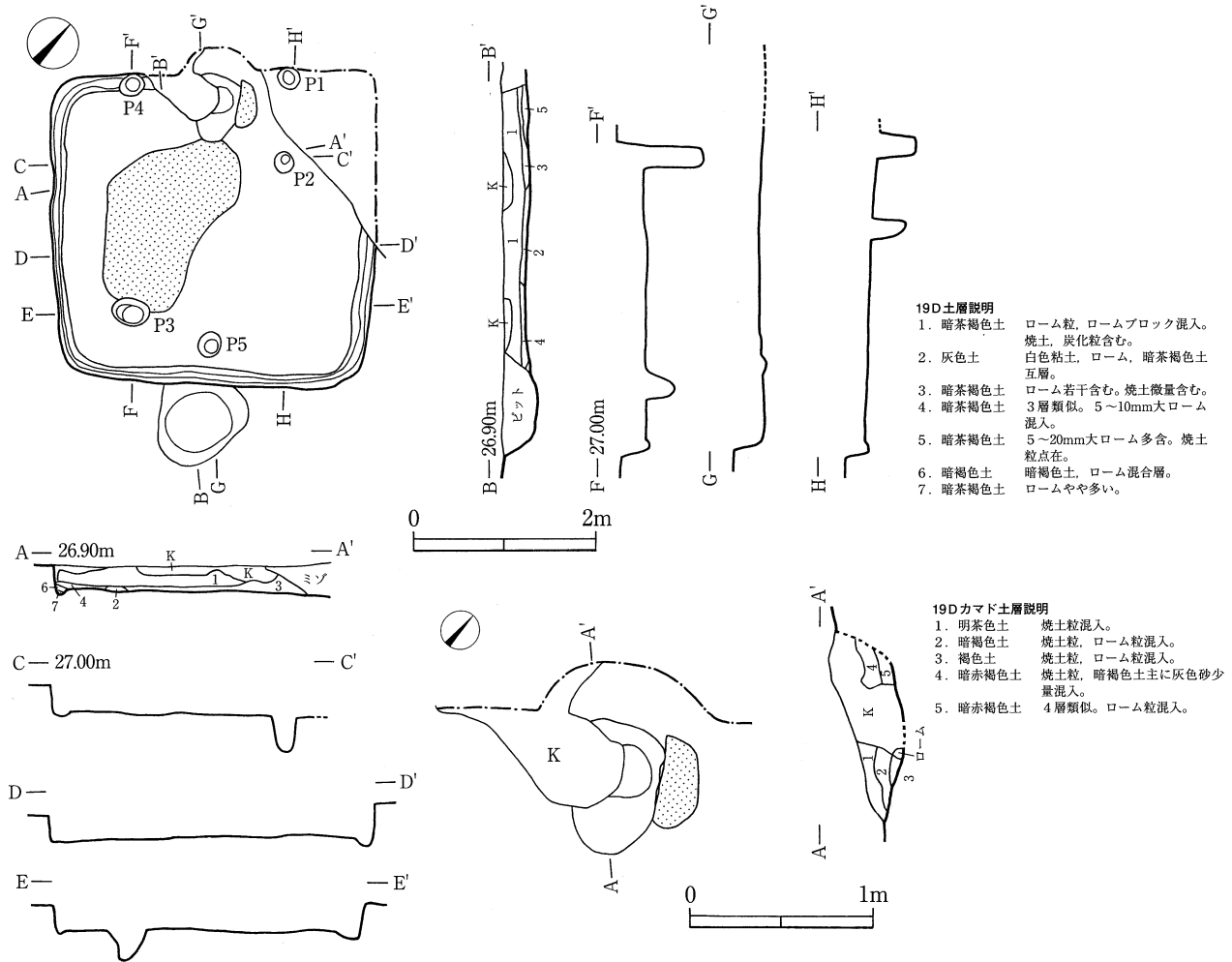
18D 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 坏	完形 一部欠	3.1	12.8	6.6	淡黄橙褐色	白色粒 雲母, 長石	ロクロ成形。切離し不明。底面手持ちヘラ削り。体部下端4回で周回する, 手持ちヘラ削り。口縁端部内外黒色化(重ね焼きか)。
2 土師器 坏	底部2/3	1.5	—	7	淡橙褐色	白色粒, 雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。回転糸切離し後周縁及び体部下端手持ちヘラ削り。底部外面にこげ状の炭化物付着。
3 土師器 甕	口辺部~胴上半部1/4	4.3	10.4	—	淡橙灰褐色	白色粒, 小 石粒	口辺部横なで。胴部外面縦位ヘラ削り。内面なで。
4 土師器 甕	底部全周	2	—	7.2	茶褐色 ~褐色	長石 雲母, 石英 多含	輪積み成形。底部木葉痕。 胴下端部横位ヘラ削り。
5 土師器 甕	口辺部~胴上半部1/2 底部全周	16	13.8	6.7	茶褐色 ~淡橙褐色	赤色スコリ ヤ多含 白色粒 雲母	輪積み成形。口辺部横なで。 胴部縦位ヘラ削り調整後中央~下端横位ヘラ削り。 内面はヘラなで, なで。外面胴中央~口辺部二次焼成の剥離。
6 土師器 甕	口辺部 ~胴上半部1/3	7.4	24	—	橙褐色	白色粒, 雲母 長石, 赤色 スコリヤ	輪積み成形。口辺部外面横なで。 胴部外面縦位ヘラ削り。内面横位ヘラなで。
7 土師器 甕	胴部 ~底部1/4	8.2	—	7	外赤褐色 ~黒灰色 内淡黄褐色	白色粒 長石, 雲母 赤色スコリヤ	輪積み成形。 胴部縦位ヘラ削り後下端横位ヘラ削り。内面はなで調整。 使用時のススではなく黒色化させている。
8 須恵器 甕	胴上半部	—	—	—	外淡黒灰色 内淡黄褐色	白色粒 赤色スコリヤ	輪積み叩き板による成・整形。 頸部~胴上半部縦位平行叩き目。内面なで
9 須恵器 甕	底部片	—	—	—	淡黄灰色	ち密 長石	ロクロ成形。 5孔式。

19D (第66~68図 図版5・15)

位置 E3区-1Gで検出。主軸方位 N-40°-Wでやや西に傾く。重複関係 西壁ピットに切られる。北壁東コーナーでカクラン。平面形 北壁でやや広がる方形を呈する。規模 3.32m×3.06m, 遺構確認面からの深さ30cm。壁 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードルーム上で床面として

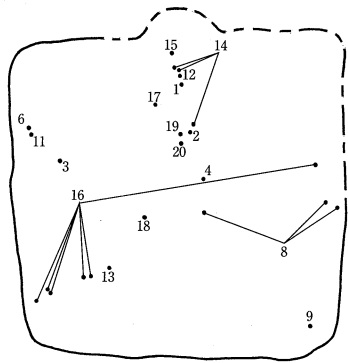
いる。床はほぼ平坦である。周溝 カクラン部分を除き全周する。幅15~20cm、深さ8cm程度である。カマド 北壁中央に作られる。左袖がカクランで消失する。焚口は部分的に遺存。焼土の堆積が見られる。煙道部はカクランを受け消失する。ピット P1.3.4が支柱穴。P5が出入り口ピットで深さ4cm程度である。覆土 暗茶褐色土の埋め戻しを行う。床面上において砂質粘土の広がり確認された。遺物出土状態 ほぼ床面に近い高さから出土している。カマド内出土の1.12.14.15.16との比較においても全体に同時期であり、本跡に伴う遺物である。建て替え 見られない。



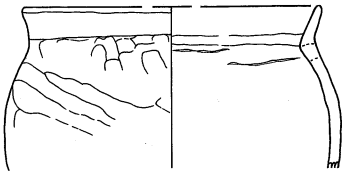
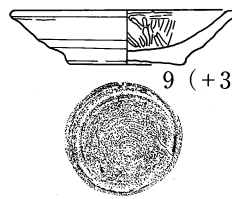
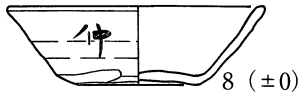
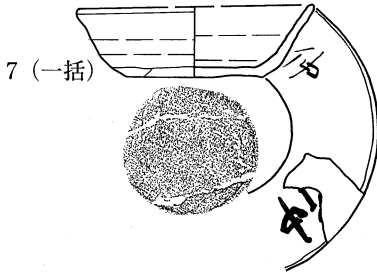
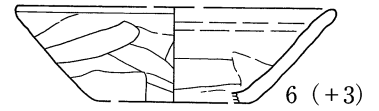
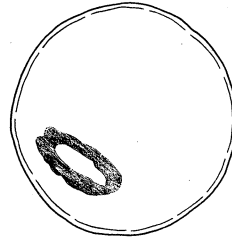
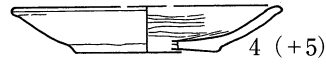
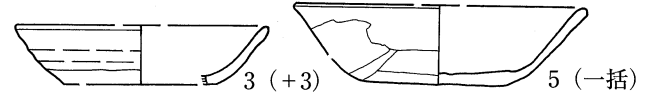
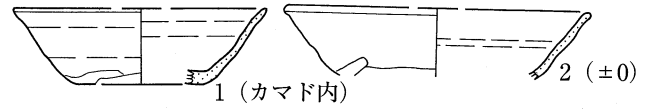
第66図 19D遺構実測図

19D遺物観察表

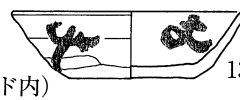
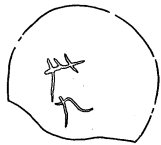
器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 須恵器 坏	口辺部 ~底部1/3	4.1	13.4	6.4	暗橙灰褐色	雲母 長石、白色粒	ロクロ成形。切離し不明。 底部及び体部下端手持ちへら削り調整か。
2 須恵器 坏	口辺部 ~体部1/5	3.6	15.6	—	淡黒灰褐色	白色粒 雲母、長石	ロクロ成形。 体部下半へら削り調整。内面ロクロなで。
3 土師器 坏	口辺部 ~底部1/5	3.2	13.4	8	淡橙褐色	白色粒、雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 体部下端へら削り調整。
4 土師器 皿	口辺部 ~底部1/2	2.3	14.2	7.6	橙褐色	白色粒 雲母、砂粒	ロクロ成形。回転糸切離し後周縁手持ちへら削り。 削り出し高台。内面横位へら磨き。
5 土師器 坏	口辺部2/3 底部全周	4.2	15.5	7.5	橙褐色	白色粒 雲母、赤色 スコリヤ	ロクロ成形。切離し不明。全面手持ちへら削り。 体部中位~下端手持ちへら削り。内外ロクロなで。
6 土師器 埴	口辺部 ~底部一部1/4	5	16.6	8.4	淡赤褐色	白色粒 石英	体部外面横位へら削り。 内面へらなで及びなで。おそらくロクロ成形。
7 土師器 坏	口辺部 ~底部一部欠	3.8	12.5	7.1	淡赤橙褐色	雲母、白色粒 赤色スコリヤ	ロクロ成形。切離し不明。全面手持ちへら削り。 体部下端4回で周回する手持ちへら削り。体部中央外面に正位 「仲」と90度平行移行の体部に「仲」の墨書。
8 土師器 坏	略定形 口縁2カ所欠	4.15	13.5	6.8	赤茶褐色	白色粒、小 石粒 赤色スコリ ヤ、雲母	ロクロ成形。 右回転糸切離し後、底部周縁と体部下端4回で周回の手持ちへら削り。



第67図 19D遺物分布図



14
(カマド内~+3)

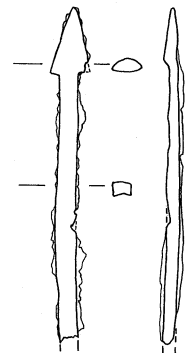
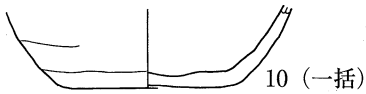


7 (一括)

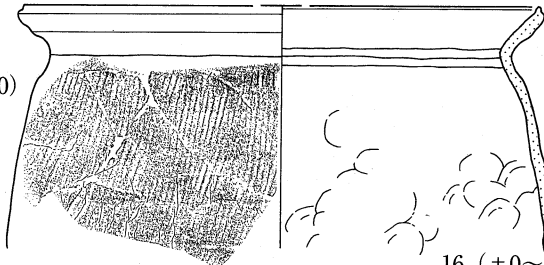
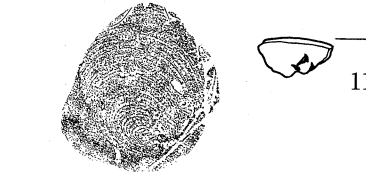
12 (カマド内)

13 (±0)

15 (カマド内)

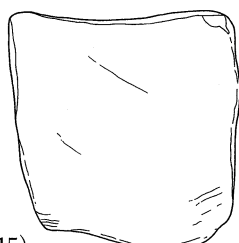
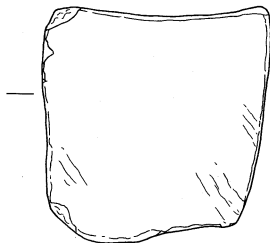


19 (±0)



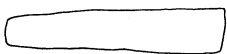
16 (±0~+13)

0 10cm

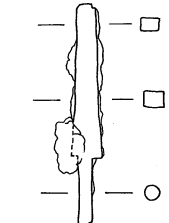


18 (±0)

20 (±0)



17 (+15)



20 (±0)

0 5cm

(17~20)

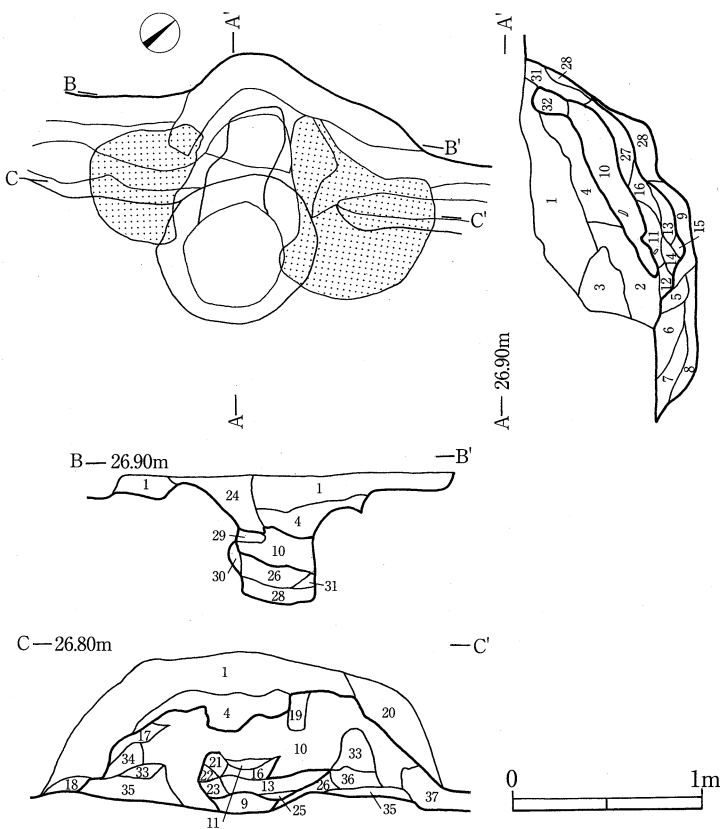
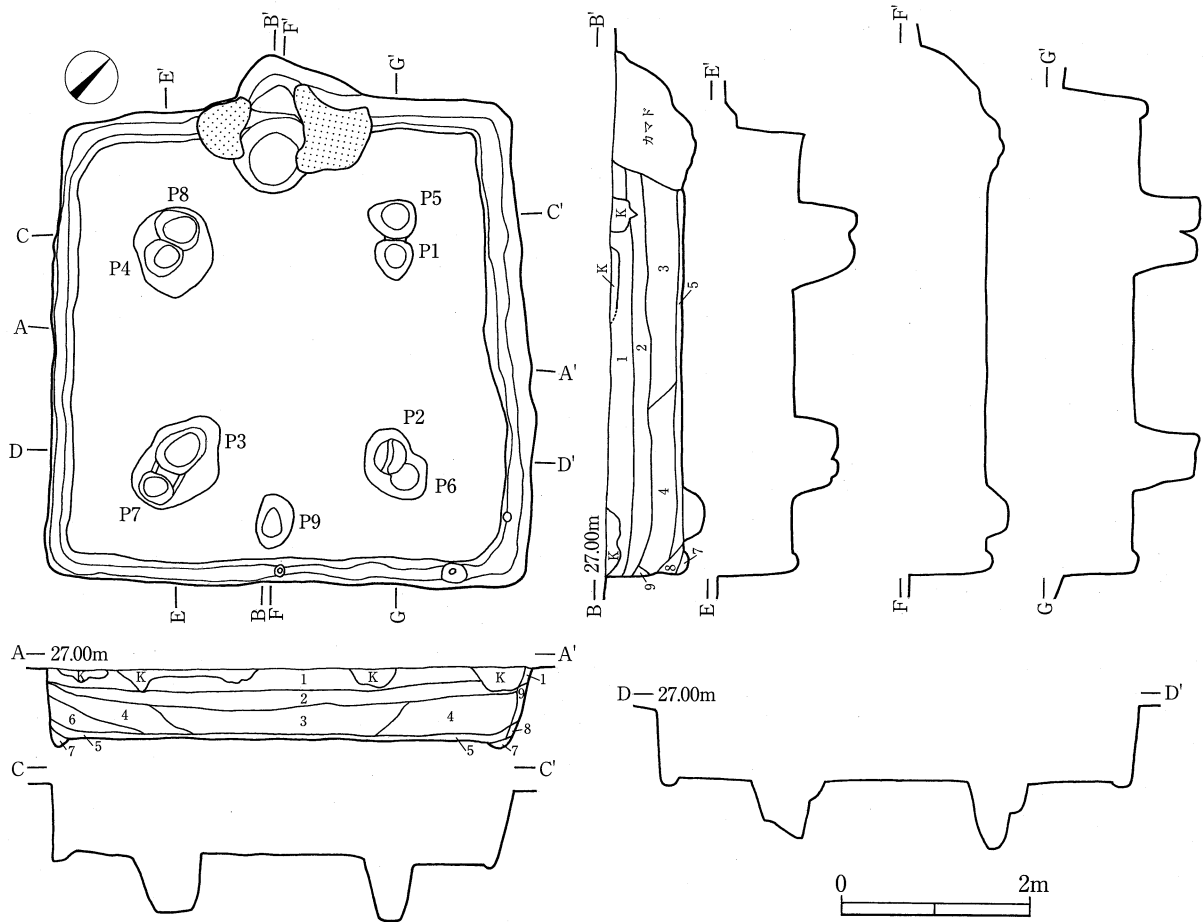
第68図 19D出土遺物

19D 遺物観察表 (2)

	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
9	土師器 皿	完形	2.85	11.6	6	淡黄橙褐色	雲母、赤色 スコリヤ 白色粒	ロクロ成形。右回転糸切離し後周縁ヘラなどで。 体部下端回転ヘラ削り。内面横位～縦位ヘラ磨き。内面に墨書。
10	土師器 壺	体部 ～底部2/3	4.3	—	9.6	淡橙褐色	雲母 白色粒	ロクロ成形。右回転糸切離し後周縁回転ヘラ削り調整。 体部中央～下端二段の回転ヘラ削り。 底部内面中央に焼成後の刻書。「卅九」ないし「サ九」か？
11	土師器 坏	口辺部片	—	—	—	淡橙褐色	白色粒、石英 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 内面に「糸？」墨書あり。
12	土師器 坏	口辺 ～底部 一部欠損	3.8	13	5.9	淡黄橙褐色	白色粒、雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。切離し不明。底部全面手持ちヘラ削り。 体部下端4回で周回する手持ちヘラ削り。 体部外面中央と横位「伸」と対面内面に正位「伸」？の墨書。
13	土師器 坏	ほぼ完形	3.5	12.2	6.5	淡橙褐色	白色粒 雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。切離し不明。全面手持ちヘラ削り。 体部下端手持ちヘラ削り。4回で周回する。 体部外面中央に横位「卅」と対面内面に正位「丈」の墨書。
14	土師器 甕	口辺部 ～胴部1/3	8.6	15.8	—	茶褐色 ～暗褐色	白色粒、雲母 赤色スコリヤ	口辺部内外横などで。胴部縦位ヘラ削り後右下がりヘラ削り。 内面頸部ヘラなどで。胴部などで。
15	土師器 甕	胴部下半 ～底部	3	—	6.7	茶褐色 ～暗赤褐色	白色粒 赤色スコリヤ 小石粒、雲母	胴部下端横位ヘラ削り。 内面などで 底部ヘラ削り調整。
16	須恵器 甕	口辺部 ～胴上半部	12.8	26.7	—	橙褐色	赤色スコリヤ 雲母、白色粒	口辺部内外横などで。胴部外面縦位平行叩き目。 内面当て具およびなどで。頸部内面ヘラなどで。
17	石器 砥石	下部欠損	縦 6.3	横 5.9	厚さ 1.7	灰白色	凝灰岩	両面と側面に斜方向の擦痕が見られる。 重さ73.2g
18	鉄滓		縦 2.9	横 3.1	厚さ 2.2	重さ 18 g		白色粒付着。 気泡わずかに見られる。磁気なし。
19	鉄器 鉄鏃	刃部 ～鏃身部	刃部長 1.7	鏃部幅 想定1.1	厚さ 0.35			20に同一。重さ13.5 g。身部断面角形で3mm×5mm
20	鉄器 鉄鏃	鏃身部 ～基部	身基部 9mm× 6mm の角断面	基部 4mmの 円形断面				身部は基部に近づくにつれ太くなる。 19に同一。

20D (第69～73図 図版5・15)

位置 E4区3-4, E5区1-2Gで検出。**主軸方位** N-45°-Wで、西に傾く。**重複関係** 単独。**平面形** 方形を呈する。**規模** 4.64m×4.98m, 遺構確認面からの深さ0.78m。**壁** ほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードルームまで掘り込んで床面とし、概ね平坦である。**周溝** カマド部分を除いて全周する。東壁下のは、幅が一定せず、やや雑な掘り方となっている。南東隅から南壁付近を中心に、周溝内柱穴が見られる。**カマド** 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、焚口部はピット状に掘り込まれ、焼けている。煙道部は一段テラスを有し、比較的急傾斜で立ち上がる。**ピット** 9本検出。P1～P8が主柱穴。本跡は反復拡張が認められ、P1～P4は構築当初、P5～P8が拡張後のものである。P1～P5及びP4～P8は主軸方向、P2～P6及びP3～P7が対角線上に拡張を行っている。P9は出入口施設に伴うものと思われる。**覆土** 9層に分層できた。暗茶褐色土系を主とし、埋め戻しの可能性が高い。**遺物出土状態** 平面分布的には、万遍なく出土していると言える。個別別資料の接合関係は、2mを越えるものが目立ち、最も離れた例は4に図示した土師器坏で、4.20mを測った。これにより、廃品の廃棄というよりは、むしろ個体を損壊してからばらまいた可能性が高い。これは、器種的に見て坏に目立つが、42は甕である。ただし、このことのみを取り上げて、廃棄に際して器種による規制がはたらいっていたか否かを、断定することはできない。**建て替え** 主柱穴の知見から、いわゆる「反復拡張型」の建て替えが認められた。P1・P4側は主軸方向の拡張のため、東西方向の幅には影響が出ないが、P2・P3側では対角線上の拡張のため、幅が増えている。その結果として、本跡は方形プランではあるが、南半分が幅広の、やや台形気味の形状を呈することになった訳である。上記の東壁下の周溝がやや雑な掘り方となったのも、P2の掘り替えであるP6の掘削と、それに伴う住居の拡張による。なぜならば、P6は東方向への掘り込みが大きく、それに伴って東壁の南半分の形状が変わったからである。



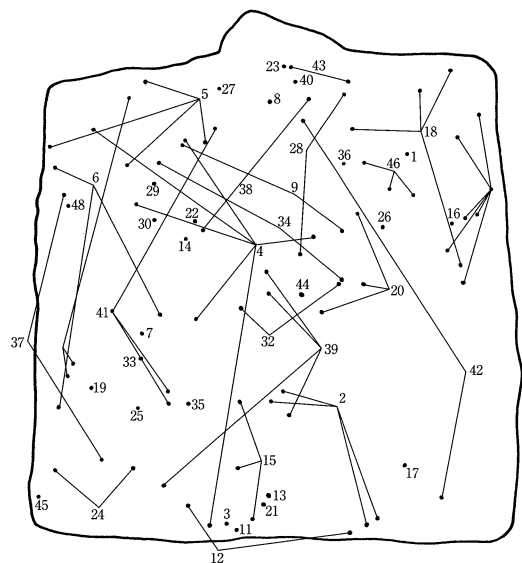
20D土層説明

- 1. 暗茶褐色土 1~2mm大ローム、焼土粒混入。
- 2. 暗茶褐色土 1に比べローム混入、焼土炭化物若干。
- 3. 暗茶褐色土 ローム粒、ロームブロック散在、焼土混入。
- 4. 暗茶褐色土 3層類似。ロームブロック焼土点在。
- 5. 暗茶褐色土 ローム微粒多含。焼土炭化物点在。
- 6. 暗茶褐色土 1~3mm大ローム、炭化物若干。
- 7. 暗茶褐色土 5~10mm大ローム若干含む。
- 8. 暗茶褐色土 ロームブロック層、暗茶褐色土若干混入。
- 9. 暗茶褐色土 ローム微粒主体。暗茶褐色土混合。

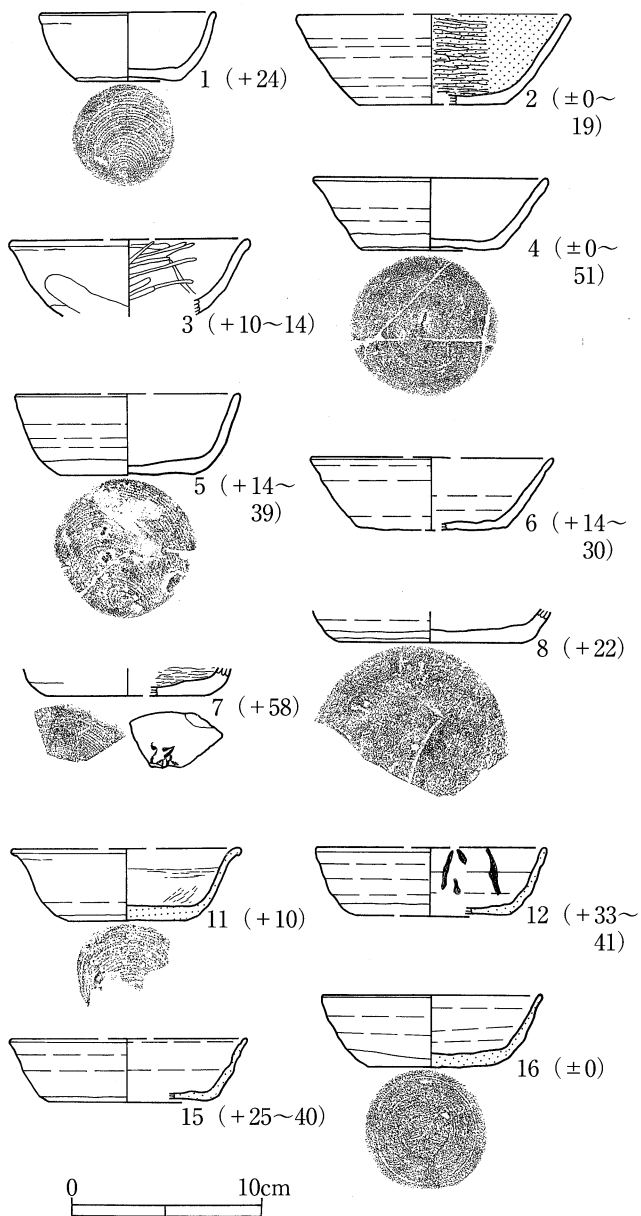
20Dカマド土層説明

- 1. 茶褐色土 焼土粒、炭化粒混入、淡灰色砂少量混入。
- 2. 暗茶褐色土 1層類似。黒色土含む。
- 3. 淡褐色土 淡灰色砂主体。焼土粒混入。
- 4. 淡褐色土 3層類似。焼土粒少ない。
- 5. 暗灰褐色土 灰主体。炭化粒、灰色砂少量混入。
- 6. 暗灰褐色土 灰、炭化粒、焼土粒、灰色砂混合層。
- 7. 暗灰褐色土 炭化粒、焼土粒主体。灰色砂混入。
- 8. 明茶褐色土 炭化粒、焼土粒少量混入。
- 9. 暗茶褐色土 ロームブロック主体。焼土粒少量混入。
- 10. 淡灰色砂 カマド袖部分。
- 11. 暗灰褐色土 灰及び焼土粒、暗褐色土少量混入。
- 12. 暗黒灰褐色土 炭化粒主体。灰少量含む。
- 13. 橙褐色土 焼土。
- 14. 暗橙褐色土 灰、灰色砂、焼土粒混合層。
- 15. 暗橙褐色土 14層類似。ロームブロック含む。
- 16. 灰褐色土 灰層。
- 17. 暗灰褐色土 暗褐色土と灰色砂。
- 18. 暗褐色土 焼土粒少量含む。ロームブロック含む。
- 19. 暗灰褐色土 17層類似。焼土粒少量含む。
- 20. 淡褐色土 灰砂主体。暗褐色土、焼土ブロック、ローム混入。
- 21. 暗茶褐色土 焼土ブロックと赤色化砂、暗褐色土少量混入。
- 22. 暗茶褐色土 赤色化砂。
- 23. 暗茶褐色土 21層類似。焼土ブロックと赤色化砂。
- 24. 黒褐色土 ローム粒含む。
- 25. 暗赤黒褐色土 灰色砂、暗褐色土、焼土粒混合層。ロームブロック含む。
- 26. 赤褐色土 ロームブロック、灰色砂混合層。
- 27. 暗赤褐色土 赤色化砂、焼土、炭化物混合層。
- 28. 淡赤褐色土 砂質粘土主体。焼土粒少量混入。
- 29. 暗淡灰褐色土 淡灰色砂と暗褐色土少量。
- 30. 淡灰褐色土 灰色砂主体。赤色化している。
- 31. 暗茶赤褐色土 灰色砂、焼土粒、黒色土混合層。
- 32. 明茶赤褐色土 灰色砂、褐色粘土、混合層。
- 33. 淡茶灰色砂 粘性の強い山砂。
- 34. 黒灰褐色土 33に比べ山砂少ない。焼土粒点在。
- 35. 茶褐色土 ロームブロック黒茶褐色混合層。
- 36. 黒灰褐色土 ロームブロック若干。
- 37. 黒茶褐色土 10mm大焼土希れ。

第69図 20D遺構実測図



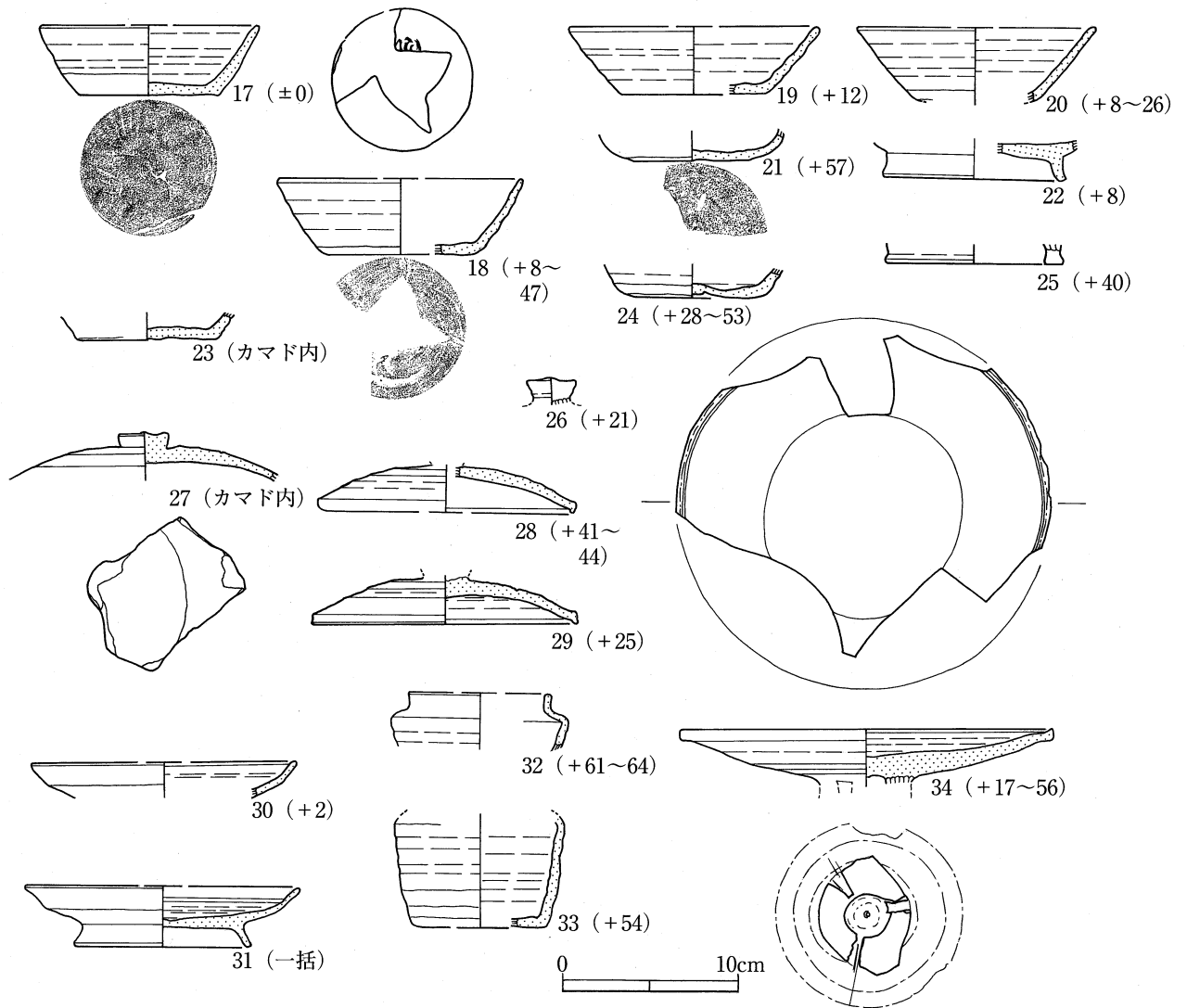
第70図 20D遺物分布図



第71図 20D出土遺物(1)

20D遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 坏	ほぼ完形	3.6	9.3	5.2	黒灰褐色	雲母 白色粒	ロクロ成形。右回転糸切離し後無調整。体部下端回転ヘラ 削り調整。内外面にタール煤付着。灯明皿か。
2 土師器 坏	口辺 ~底部1/4	4.8	14.8	7.8	外橙褐色 ~黒褐色 内漆黒色	白色粒 雲母 長石	ロクロ成形。 切離し不明。 内面ヘラ磨き調整。黒色処理。
3 土師器 坏	口辺部1/3	4	12.8	—	茶褐色	白色粒主に 雲母少量含む	ロクロ成形。 体部下半回転ヘラ削り調整。内面粗いヘラ磨き調整。
4 土師器 坏	ほぼ完形	3.8	12.4	7.6	淡橙褐色	白色粒、雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。切離し不明。 底部周縁回転ヘラ削り調整。
5 土師器 坏	口辺 ~底部2/3	4.3	11.8	7.2	淡橙褐色	白色粒、雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。右回転糸切切離し無調整。 体部下端回転ヘラ削り調整。
6 土師器 坏	口辺 ~底部1/2	3.8	12.6	8.2	淡橙褐色	長石、雲母 白色粒 赤色スコリヤ	ロクロ成形。切離し不明。 底部周縁回転ヘラ削り調整。



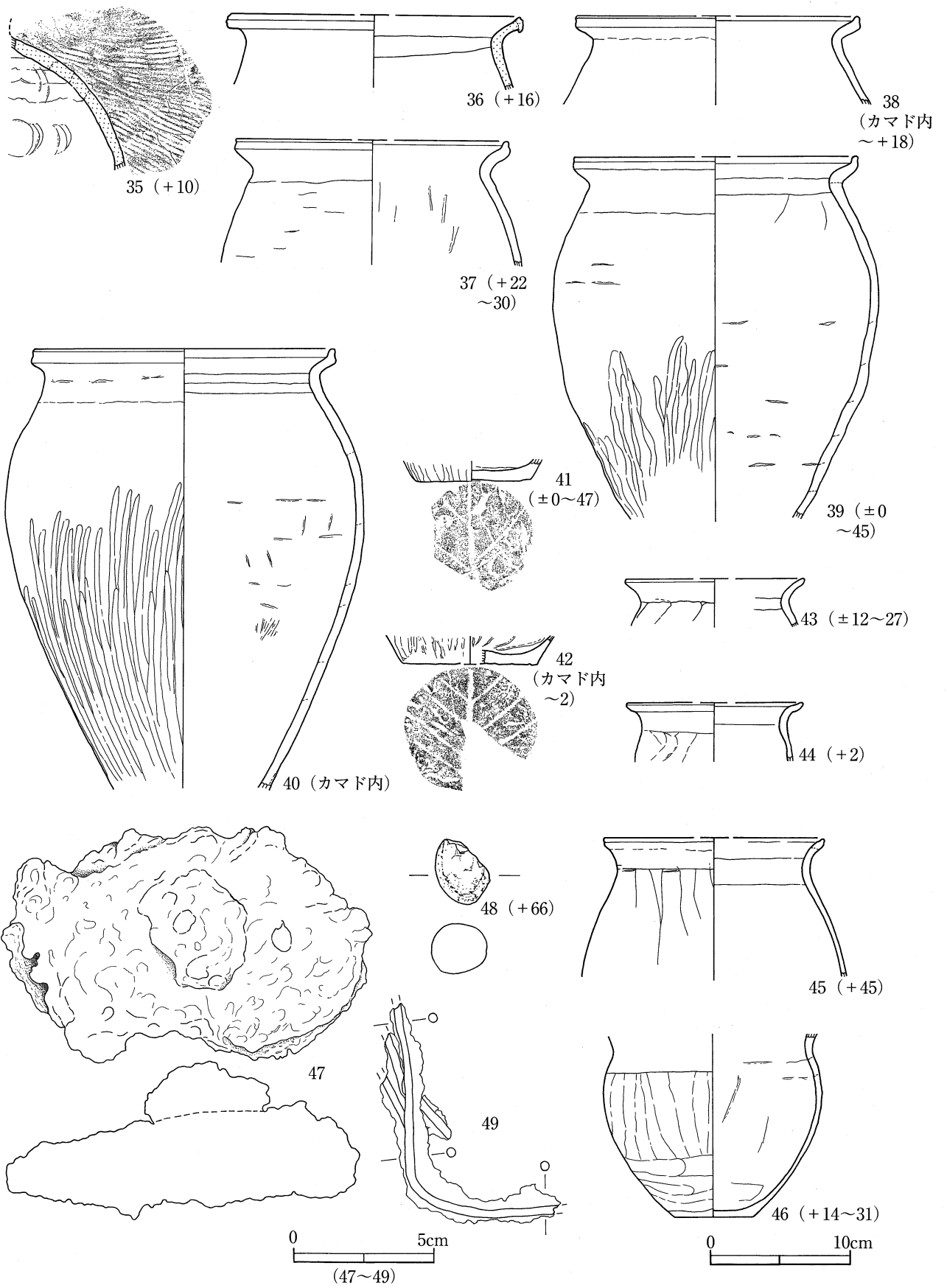
第71図 20D出土遺物 (2)

20D 遺物観察表 (2)

	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
7	土師器 坏	底部1/2	1.5	—	8.6	淡黄褐色	白色粒 雲母	ロクロ成形。回転糸切り切離し後部分的に周縁ヘラ削り。 体部下端回転ヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。
8	土師器 坏	底部	1.8	—	9.8	暗赤褐色	白色粒 長石, 小石粒	ロクロ成形。内外面赤彩。切離し不明。 手持ちヘラ削り調整。体部下端ヘラ削り調整。
9	須恵器 坏	口辺部 ~体部1/4	4.6	14.6	—	淡青灰色	雲母 長石, 小石 粒	ロクロ成形。 体部下端回転ヘラ削り調整。
10	須恵器 坏	口辺部 ~底部1/6	3.6	14.4	8.2	淡青灰色	雲母 長石多含	ロクロ成形。体部下端回転ヘラ削り調整。 底部切離し不明。手持ちヘラ削り調整。
11	須恵器 坏	口辺部 ~底部1/4	3.8	12	6	淡橙褐色	白色粒 長石	ロクロ成形。底部切離しは回転糸切り。体部下端回転 ヘラ削り調整。内面粗いヘラ磨きが見られる。
12	須恵器 坏	口辺部 ~底部2/5	3.6	12.2	8.8	淡青灰色	白色粒 長石	ロクロ成形。切離し不明。 底部周縁, 体部下端回転ヘラ削り調整。内外面火だすき
13	須恵器 坏	口辺部 ~底部1/4	3.7	12.6	7.4	灰白色 ~暗青灰色	雲母 長石, 白色 粒	ロクロ成形。切離し不明。底部中央外面に「×」の刻書あり。 底部周縁, 体部下端回転ヘラ削り調整。
14	須恵器 坏	ほぼ完形	4.1	12.6	8	灰黄白色	白色粒 長石	ロクロ成形。切離し不明。内外面に重ね焼きの火だすき 底部周縁, 体部下端回転ヘラ削り調整。
15	須恵器 坏	口辺部一部 ~底部1/4弱	3.3	12.5	8.2	淡灰色 ~暗青灰色	雲母 白色粒, 長 石	ロクロ成形。切離し不明。 体部下端回転ヘラ削り調整。
16	須恵器 坏	略完形	3.9	11.3	6.5	青灰色	白色粒少量, 石英 雲母粒, 砂粒	ロクロ成形。切離し不明。 体部下端回転ヘラ削り。
17	須恵器 坏	口辺部1/3 ~底部全周	4	12.5	8	灰色 ~黒灰色	白色粒 雲母	ロクロ成形。切離し不明。 底部, 体部下端全面回転ヘラ削り調整。

20D遺物観察表 (3)

	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
18	須恵器 坏	口辺部2/3 ～底部	4.3	14	8.2	灰黄白色	雲母 長石多含, 白色粒	ロクロ成形。切離し不明。 底部周縁右回転ヘラ削り調整。底部外面に不明墨書あり。
19	須恵器 坏	口辺部 ～底部1/4	3.9	14.2	8.2	灰白色	雲母多含 砂粒	ロクロ成形。切離し不明。 底部手持ちヘラ削り調整。体部下端回転ヘラ削り調整。
20	須恵器 坏	口辺部 ～体部1/5	4.3	13.2	—	灰色	長石多含 小石片	ロクロ成形。左回転ヘラ削り調整。
21	須恵器 坏	底部1/4 ～体部	1.8	—	6.6	灰色	長石 雲母少量	ロクロ成形。切離し不明。 底部全面、体部下端右回転ヘラ削り調整。
22	須恵器 高台付盤	高台部 ～底部1/4	2.3	—	10.2	淡青灰色	雲母多含 石英、長石	高台部貼り付け。 内外面など。
23	須恵器 坏	体部 ～底部1/5	1.6	—	8	青灰色	長石 石英多含	ロクロ成形。切離し不明。ヘラ削り調整。底部外面中央に粘土 小片貼り付け。体部下端回転ヘラ削り調整。
24	須恵器 坏	一部体部1/2 ～底部	1.8	—	8	灰色	雲母、長石、 石英 黒色粒	ロクロ成形。切離し不明。 底部周縁及び体部下端回転ヘラ削り調整。
25	土師器 高台付盤 か	高台部1/5	1.1	—	10	赤褐色	雲母、白色粒 赤色スコリヤ	ロクロ成形。高台部の一部のみ遺存。 底径からすると高台付盤か？赤彩。
26	土師器 蓋	鈕全周	1.5	鈕径 2.8	—	赤褐色	白色粒	ロクロ成形。 宝珠状つまみ。赤彩。
27	須恵器 蓋	鈕全周 天井部1/4	—	—	—	暗青灰色	白色粒 長石多含, 雲母	宝珠状鈕。 天井部3周回転ヘラ削り調整。内面中央磨耗している。
28	須恵器 蓋	天井 ～口辺部1/4	2.2	14.8	—	青灰色	長石 石英	ロクロ成形。 天井部2周回転ヘラ削り調整。重ね焼き痕跡内外面に見られる。
29	須恵器 蓋	天井 ～口辺部2/3	2.7	15	—	青灰色	長石 石英多含	ロクロ成形。天井部3周回転ヘラ削り調整。つまみ欠損。 ジョイント部渦巻き状に刻みをいれる。
30	須恵器 高台付盤	口辺部 ～体部1/5	2	15	—	淡青灰色	雲母 長石	ロクロ成形。 内外ロクロなど。
31	須恵器 高台付盤	口辺部1/3 高台部全周	3.5	15.5	10.7	外暗青灰色 内灰白色	雲母多含 長石、石英	高台部ジョイント、ロクロなど。 内面、口辺部と体部境に一条の沈線巡る。
32	須恵器 短頸壺	口辺部 ～体部1/3	3.2	8.2	—	淡青灰色	長石 雲母	ロクロ成形。胴上半部で屈曲し、口辺部直立きみに立ち上がる。
33	須恵器 壺	胴部 ～底部	6.3	—	7.6	淡青灰色	黒色粒 雲母、白色粒	ロクロ成形。切離し不明。 手持ちヘラ削り調整。胴部下端回転ヘラ削り調整。内面など。
34	須恵器 高台付盤	盤部2/3	3.2	21.3	—	青灰色	長石 石英多含	ロクロ成形。体部中位～下端回転ヘラ削り調整。脚部に 透し孔3カ所あり。狭長な逆三角形か。内面中央部磨耗痕跡。
35	須恵器 甕	頸部 ～胴上半部破片	—	—	—	灰色	雲母多含 白色粒	粘土紐積みあげ。 胴部外面叩き目痕。右下がりの斜位。内面同心円当て具痕。
36	須恵器 甕	口辺部 ～胴上半部1/5	5.3	21.2	—	淡茶灰色	雲母 長石多含	口辺部内外横など。 胴部外面など。内面頸部ヘラなど。口縁端部粘土紐貼り付け。
37	土師器 甕	口辺部 ～胴上半部1/4	8.9	19.4	—	淡褐色	雲母 白色粒多含	口縁端部つまみ上げ。 口辺部横など。胴部内外面ヘラなど。
38	土師器 甕	口辺部 ～胴上半部1/3弱	6.4	20	—	淡茶褐色	石英 雲母、白色粒	口縁端部つまみ上げ。 口辺部内外面横など。胴部内外面など。
39	土師器 甕	口辺部 ～底部1/3	25.9	20.2	—	淡橙灰褐色	雲母 長石、石英	輪積み成形。口辺部内外面横など。胴部外面ヘラなど。胴部中央 ～下位縦位ヘラ磨き。内面ヘラなど。外面中央～下位煤付着。
40	土師器 甕	口辺部 ～胴部下端全周	31.5	21.6	—	橙褐色 ～赤褐色	長石 雲母 石英多含	輪積み成形。口辺部内外面横など。胴上半部など。中央～下半縦位 ヘラ磨き。内面ヘラなど。擦痕状の使用痕あり。外面中央～下端 被熱及び煤付着。
41	土師器 甕	底部2/3	1.5	—	8.2	外淡茶褐色 内橙褐色	石英、雲母 長石多含	胴下端縦位ヘラ磨き。 内面など。底部木葉痕。
42	土師器 甕	底部	2	—	9.5	橙褐色	雲母 長石多含, 石英	内面ヘラなど。 胴下端縦位ヘラ磨き。底部木葉痕。
43	土師器 甕	口辺部 ～胴上半部	3.3	13	—	赤褐色 ～黒褐色	長石 白色粒、雲母	口辺部内外面横など。 胴部外面縦位ヘラ削り。内面など。
44	土師器 甕	口辺部1/5	4.2	12.4	—	赤褐色 ～黒褐色	白色粒 雲母、長石	口辺部横など。胴部外面縦位ヘラ削り。 内面など。内外面炭化物付着。
45	土師器 甕	口辺部 ～胴上半部1/4	10	15.7	—	淡赤褐色 ～淡茶褐色	白色粒 雲母	口辺部内外横など。 胴部外面縦位ヘラ削り。



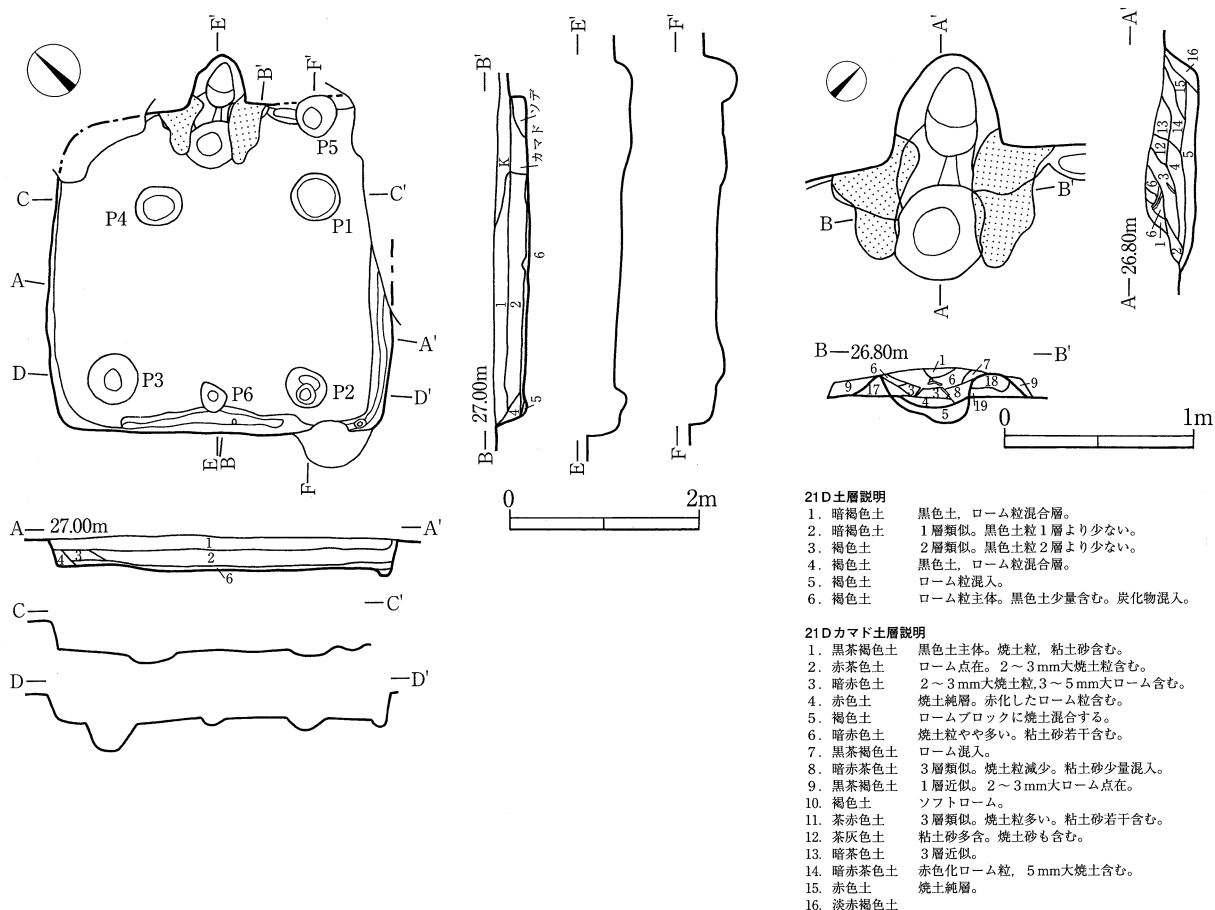
第73図 20D出土遺物 (3)

20D遺物観察表(4)

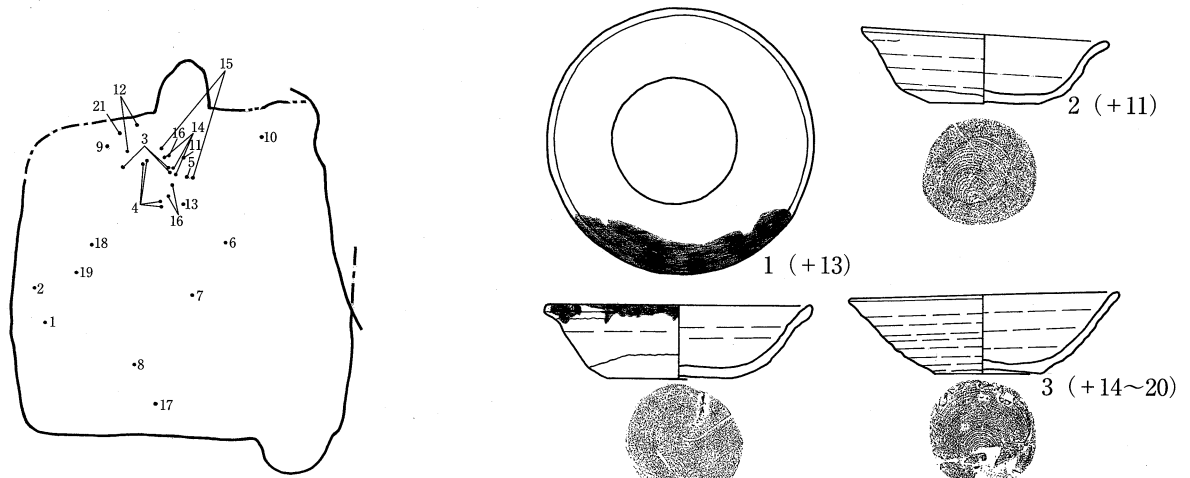
器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
46 土師器 甕	頸部 ~底部1/3	13.1	—	5.6	淡褐色 ~黒褐色	雲母, 石英 白色粒	口辺部横なで。胴上半部外面縦位へら削り。中央~下端横位へら削り。内面へらなで。胴部中央外面煤付着。
47 埴形滓		8.7	13.2	厚さ 3~5.6	重さ 464.5 g		溶解時の気泡が見られる。
48 使用痕あ る石	基部欠損	縦 2.3	横 2	厚さ 1.8	重さ 9.4 g		先端部敲打痕あり。暗橙灰色 被熱を受ける。
49 鉄製品 (不明)		縦 8.4	横 5.8		重さ 23.8 g		L字形に屈曲した単体の棒状物に別の棒状物が付着している。 性格不明。

21D (第74~78図 図版6・16)

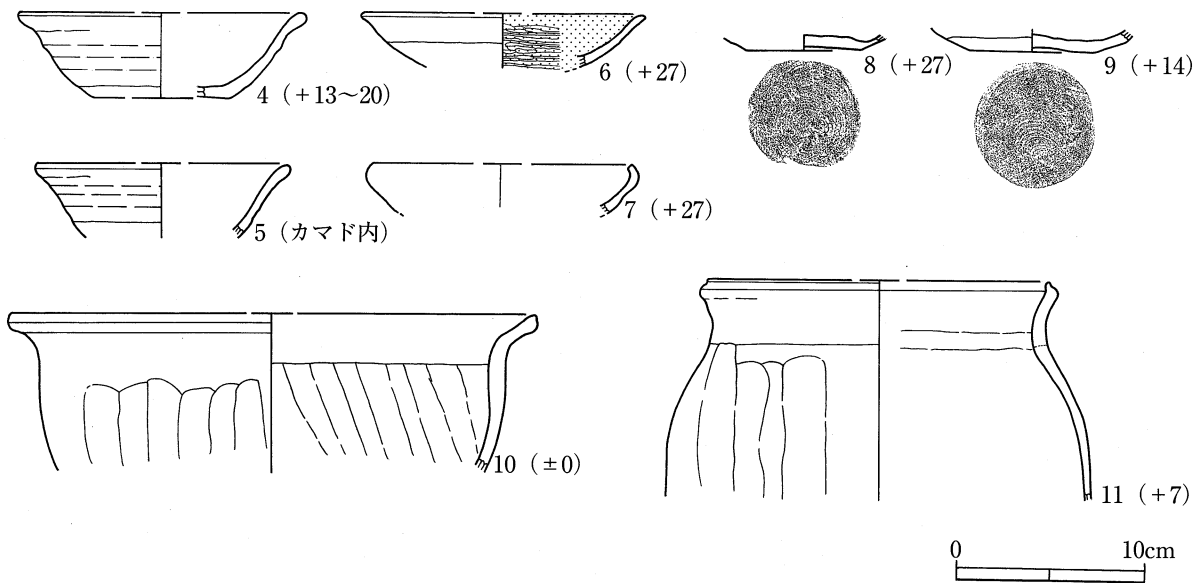
位置 D3区-1・2Gで検出。**主軸方位** N-46° - Eで、東に傾く。**重複関係** 単独。**平面形** 方形を呈する。**規模** 3.28m×3.48m, 遺構確認面からの深さ0.36m。**壁** 垂直気味に立ち上がる。**床** ハードルームまで掘り込んで、床面とする。やや凹凸を有する。**周溝** カマド東(右)脇及び東壁から南壁にかけて廻らす。南東隅に周溝内柱穴を1本穿つ。**カマド** 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。左袖は一段、右袖は二段ほど構築土を積んで作られている。煙道部の傾斜は、かなり急角度である。**ピット** 6本検出。P1~P4が主柱穴で、P5は上屋構築のための補助柱穴。いずれも掘り込みが浅いものである。P6は出入口施設に伴うピット。P2に主軸方向上の作り替えの跡がある。**覆土** 6層に分層できた。暗褐色土系を主体とする。**遺物出土状態** カマド前面付近に、やや集中が見られる。**建て替え** P2の知見から、部分的な拡張が認められた。



第74図 21D遺構実測図



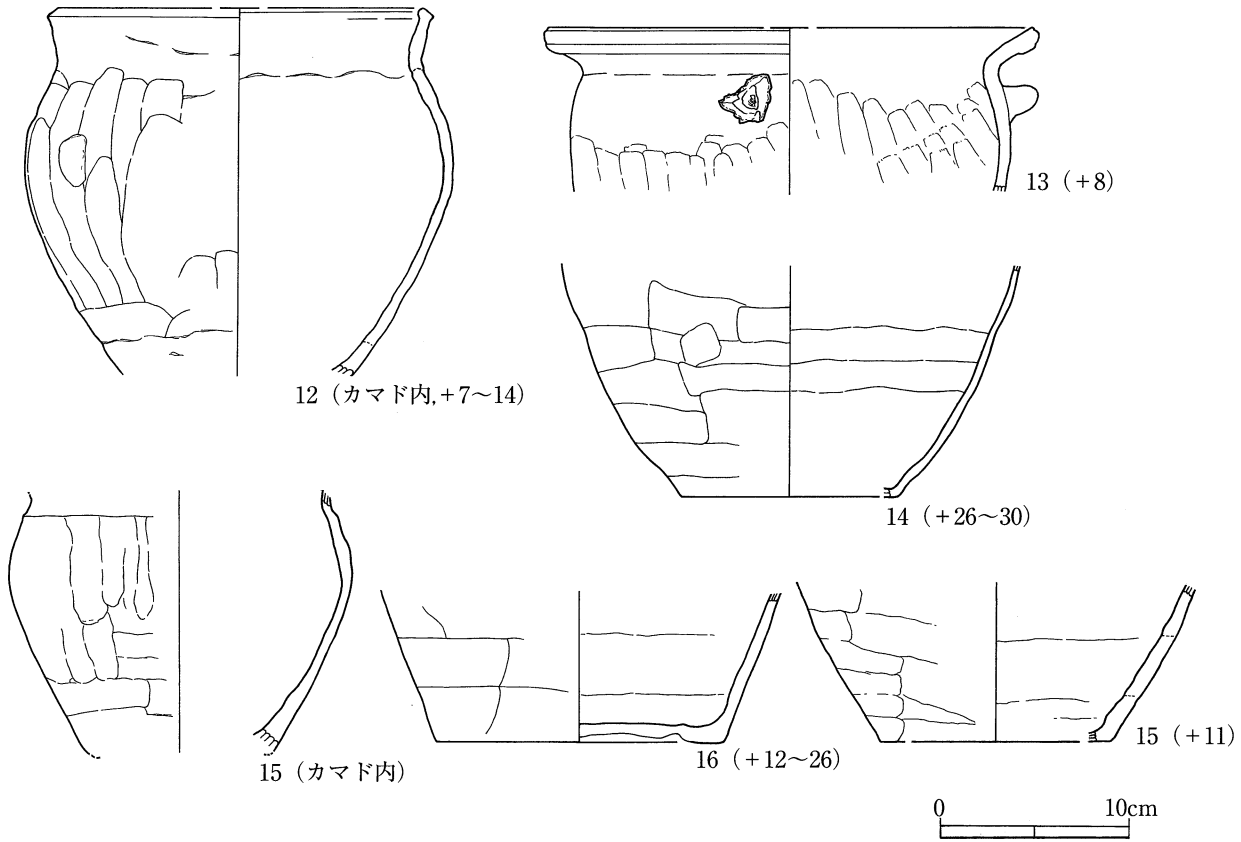
第75図 21D遺物分布図



第76図 21D出土遺物 (1)

21D遺物観察表

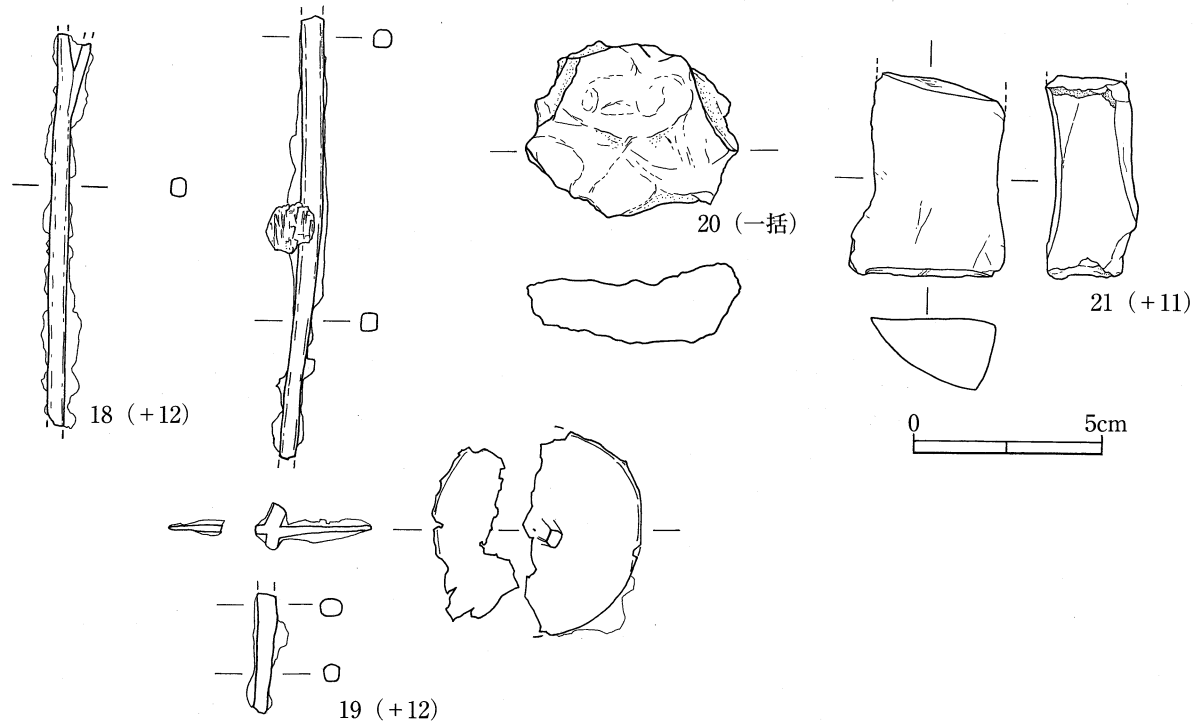
	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏 (灯明皿)	ほぼ完形 口辺部1/3弱欠	3.8	14	6.6	橙褐色	長石 石英 雲母	ロクロ成形。 切離しは回転糸切り後周縁と体部下端回転ヘラ削り。 灯明皿として使用。
2	土師器 坏	口辺部 ~底部1/3	3.6	12.9	5.8	淡橙褐色 一部黒斑	長石 雲母	ロクロ成形。 切離しは右回転糸切り。底部周縁と体部下端は回転ヘラ削り調整。
3	土師器 坏	口縁 ~底部2/3	4.4	14.1	6	橙褐色	雲母・石英・ 長石	ロクロ成形。 切離しは回転糸切り。
4	土師器 坏	口辺 ~底部1/2強	4.5	15.3	7.3	橙褐色	長石 石英 雲母 (少量)	ロクロ成形。 切り離し不明。全面手持ちヘラ削り調整 体部下位回転ヘラ削り調整。
5	土師器 坏	口辺部 ~体部1/4片	3.9	13.6	—	暗褐色 黒斑あり	長石 雲母	ロクロ成形。 体部下位回転ヘラ削り調整。
6	土師器 坏	口縁部 ~体部1/5	2.8	15	—	外淡橙褐色 内漆黒色	石英 長石	外面は口辺~体部などで調整。 内面は黒色処理横位ヘラ磨き。外面非常に弱い稜。
7	土師器 仏鉢形	口縁 ~体部1/5	2.6	13.7	—	淡橙褐色	石英・小石 赤色スコリヤ	内外面横などで痕明瞭ロクロ成形か？
8	土師器 坏	底部全周	0.8	—	6	暗茶褐色	雲母 長石 石英	ロクロ成形。 切離しは回転糸切り後周縁回転ヘラ削り調整。 体部下端回転ヘラ削り調整。



第77図 21D出土遺物（2）

21D遺物観察表（2）

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
9 土師器 坏	底部 ～一部体部	1.2	—	6.6	橙褐色	長石・雲母 小石粒	ロクロ成形。 切離しは回転糸切り後周縁と体部下端回転ヘラ削り調整。
10 土師器 甕	口辺部 ～胴部上半部1/4	8.3	27.6	—	淡橙褐色	雲母・白色粒 赤色スコリヤ	口辺部内外横などで。胴部外面縦位ヘラ削り。 内面縦位ヘラなどで。
11 土師器 甕	口縁 ～胴中央部1/4	11.5	18.8	—	淡褐色	長石・雲母 赤色スコリヤ	口辺部内外横などで。頸部内面ヘラなどで。 胴部外面縦位ヘラ削り。内面などで調整。
12 土師器 甕	口縁 ～胴下端部1/3	19.4	19	—	茶褐色	長石 雲母	口辺部横などで。外面煤付着。 胴部外面縦位ヘラ削り。内面などで調整。
13 土師器 瓶	口縁 ～胴1/4	8.7	25.3	—	橙褐色	赤色スコリヤ 雲母	口辺部内外横などで。 胴部外面縦位ヘラ削り。内面縦位ヘラなどで。
14 土師器 甕	胴中央部 ～底部	12.2	—	11.4	橙褐色	長石 雲母	外面横位ヘラ削り 内面などで調整。
15 土師器 甕	頸部 ～胴部下端1/3	13.8	—	—	橙褐色	白色粒 雲母	胴部下半～中央横位ヘラ削り後、中央～上半縦位ヘラ削り。 内面などで調整。
16 土師器 甕	底部 ～胴部1/3	8	—	15	淡橙褐色	石英 長石	外面横位ヘラ削り。 内面などで調整。
17 土師器 甕	胴部1/6 ～底部	8.4	—	12	外面橙褐色 内面 淡黒灰褐色	長石 雲母 赤色スコリヤ	外面横位ヘラ削り。 内面などで調整。
18 鉄製品 紡錘車軸		10.4	断面 0.4	—	重さ 10.7 g		紡錘車軸部か。 上端部で分岐するが判然としない。 断面は四角形で1辺4 mm。
19 鉄製品 紡錘車	紡輪約1/2	厚さ 0.1cm	直径 5.7cm	—	重さ 11.5 g		軸部欠損。
20 鉄滓		縦 4.7	横 5.6	厚 2.1	重さ 50.4 g		白色粒が両面に付着し、やや砂混じり。 磁気なし。桃形滓か。
21 石器 砥石		縦 5.4cm	横 4.1cm	厚 1.9cm	淡茶灰色		上部欠損だが上面も使用される。



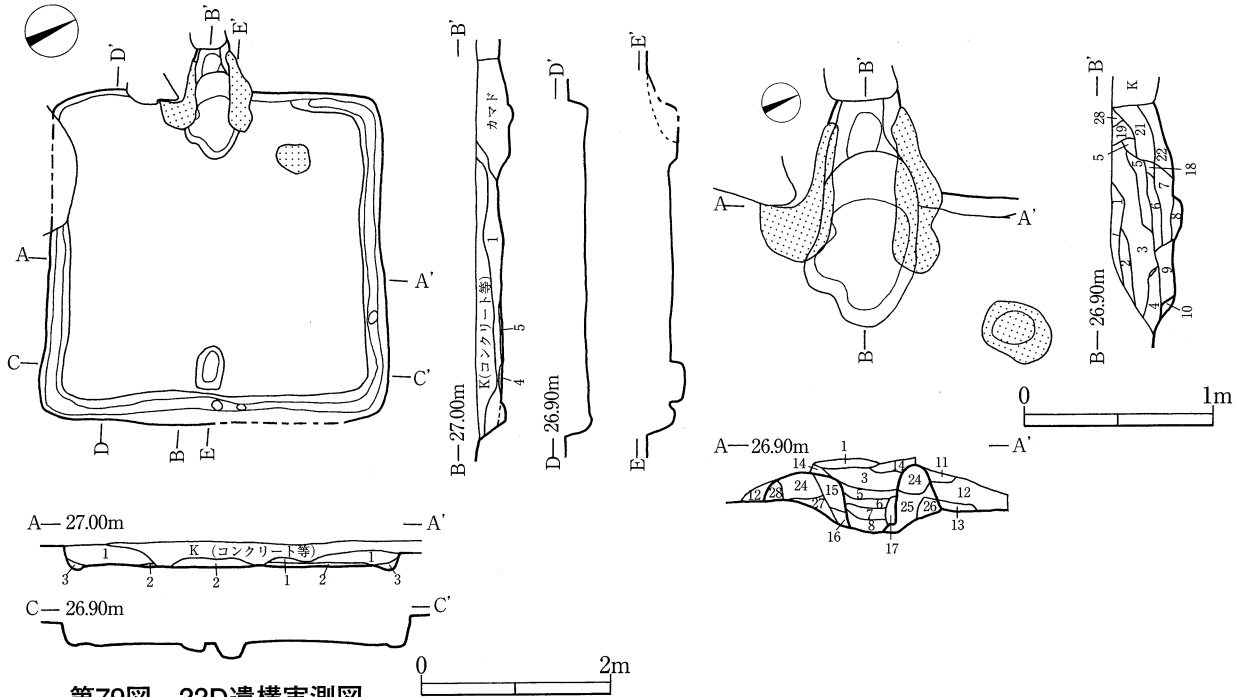
第78図 21D出土遺物 (3)

22D (第79~82図 図版6・16・17)

位置 C3区-1・2Gで検出された。主軸方位 N-65° -Wで、西に傾く。重複関係 単独。平面形 方形を呈する。規模 3.31m×3.50m, 遺構確認面からの深さ0.27m。壁 垂直気味に立ち上がる。床 ハードロームまで掘り込んで床面とする。比較的平坦である。カマド右脇の床面上に粘土が分布する。周溝 北東コーナー付近から西壁の途中まで廻らせる。周溝内柱穴3本を穿つ。カマド 北壁の中央部。両袖部と、先端を一部攪乱で失うものの、煙道部が残存し、焚口部は焼けている。左袖で5ブロック、右袖が三段ほど構築土を積んで作られており、基部は煙道部にかかる。ピット 1本のみ検出され、出入口施設に伴うものである。覆土 5層に分層できた。濃茶褐色土系を主体とした埋め戻し土。遺物出土状態 カマド前面付近にやや集中するが、平面分布的には、やや散漫であると言える。垂直分布的には、カマド内及び床面という廃屋直後のものと、覆土上層の二者がある。前者では、1が床面直上である。後者では、2(1m), 10(2m)のように、接合資料の破片間の距離が、比較的長いものを含んでいる。建て替え 認められなかった。

22D 遺物観察表

	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	ほぼ完形 一部欠	4	13.1	6	淡橙褐色	長石 石英	ロクロ成形。 切離しは回転ヘラ切り無調整。体部下端回転ヘラ削り調整。
2	土師器 坏	ほぼ完形 一部欠	3.4	13.5	6.2	淡橙褐色	長石・石英 雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。切離し不明。 底部全面手持ちヘラ削り調整。体部下端も同様の調整。 体部外面に正位で「夫」の墨書あり。
3	土師器 坏	口辺部1/4	3.8	14.5	—	淡橙褐色	長石 雲母	ロクロ成形。 体部下端回転ヘラ削り調整。
4	土師器 坏	口縁 ~体部片1/8	3.5	13.6	—	茶褐色	石英・雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 体部下位ヘラ削り調整。口縁端部外反。
5	土師器 坏	口縁 ~体部片1/8	3.8	16	—	橙褐色	長石・雲母 白色粒	ロクロ成形。 体部下端ヘラ削り調整。



22D土層説明

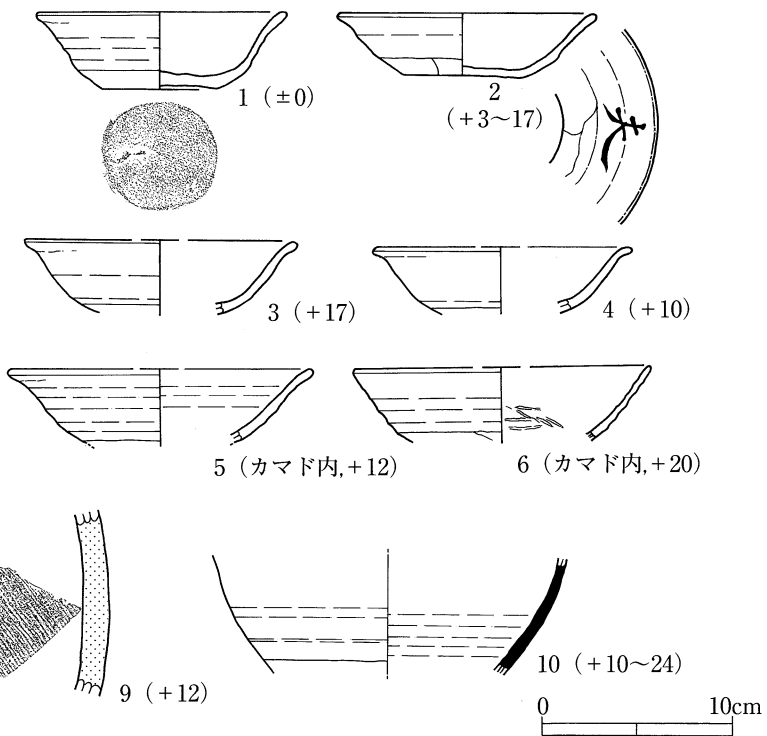
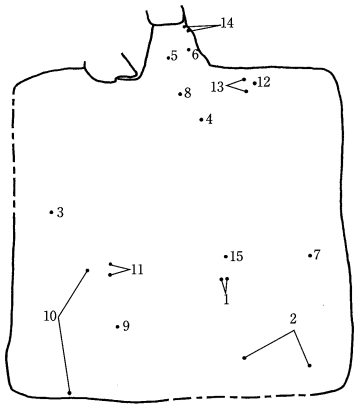
- 1. 濃茶褐色土 1~10mm大ローム、焼土若干含む。炭化物微量含む。
- 2. 濃茶褐色土 1層類似。粘土砂床面に薄く見られる。
- 3. 暗褐色土 ローム土と1層の混合層。
- 4. 黒褐色土 ローム若干含む。
- 5. 暗褐色土 ローム主体。1層とローム土混合。

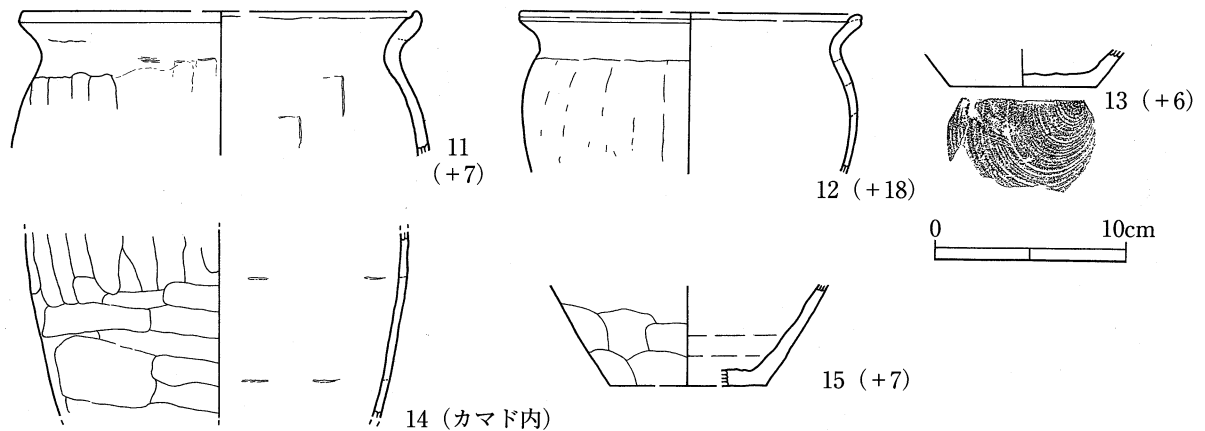
22Dカマド土層説明

- 1. 淡茶色土 ローム粒、淡褐色砂混合層。
- 2. 淡褐色土 淡褐色砂主体に暗褐色土少量混入。
- 3. 淡茶色土 1層類似。焼土ブロック少量含む。
- 4. 淡茶色土 ローム粒主体。淡褐色砂少量混入。

- 5. 淡茶色土 1層類似。焼土粒少量含む。
- 6. 淡茶色土 5層類似。焼土粒若干多い。
- 7. 赤茶色土 焼土ブロック、焼土粒混入。
- 8. 赤茶色土 7層類似。焼土ブロック混入多い。
- 9. 暗赤茶色土 焼土粒、ブロック、黒色土混合層。
- 10. 暗褐色土 黒色土、ローム粒混合層。
- 11. 淡茶色土 淡褐色砂、焼土粒少量混入。
- 12. 暗褐色土 ローム粒混入。住居覆土。
- 13. 褐色土 ローム粒主体。暗褐色土粒少量混入。
- 14. 淡褐色土 淡褐色砂主体。暗褐色土少量含む。
- 15. 淡赤灰色土 淡褐色砂、焼土粒混合層。カマド袖。
- 16. 明茶色土 淡褐色砂、ローム粒混合層。カマド袖。
- 17. 赤灰色土 少量の粘土に焼土粒含む。

- 18. 淡茶色土 焼土化淡褐色砂混入。
- 19. 淡茶色土 淡褐色砂少量混入。
- 20. 淡茶色土 淡褐色砂、粘土混入。
- 21. 茶褐色土 ローム粒主体。黒色土粒含む。
- 22. 茶褐色土 ローム粒、黒色土粒混合層。
- 23. 淡褐色土 淡褐色砂主体。焼土淡褐色砂混入。
- 24. 灰色砂 粘土砂主体。
- 25. 暗茶色土 焼土粒、粘土砂の層。暗褐色土粒若干含む。
- 26. 暗茶褐色土 暗茶褐色土に、黒色土、粘土砂混合層。
- 27. 暗茶灰色土 26層より粘土砂多い。
- 28. 暗茶褐色土 粘土砂、黒色土粒若干含む。





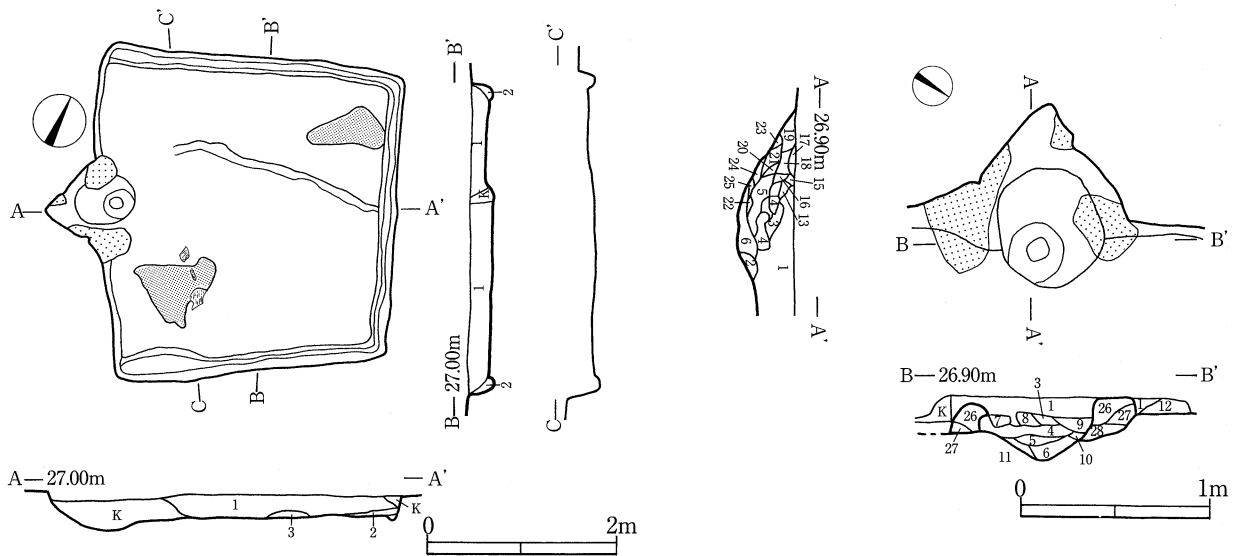
第82図 22D出土遺物（2）

22D 遺物観察表（2）

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
6 土師器 坏	口縁 ～体部片1/5	3.9	15.8	—	暗褐色	雲母・長石 石英	ロクロ成形。 体部下位手持ちへら削り調整。体部内面下位に粗いへら磨き。
7 土師器 坏	口縁 ～体部片1/4	3.1	13.4	—	淡橙褐色	雲母 長石	ロクロ成形。 体部下位手持ちへら削り調整。
8 土師器 坏	口辺部 ～底部	3.5	12.6	6.8	淡橙褐色	長石・石英・ 雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形、底部切り離し不明、へら削り調整。 体部下端回転へら削り調整。
9 須恵器 甕	胴部片	—	—	—	淡青灰色	長石 小石	ロクロ成形。 胴部外面平行叩き目文。
10 灰釉陶器 長頸瓶	胴下半部 小片	—	—	—	灰白色	ち密	ロクロ成形。 胴下半回転へら削り調整。自然釉。
11 土師器 甕	口辺 ～胴上半部全周	7.6	20.8	—	淡橙褐色	長石・石英・ 雲母	口縁端部つまみあげ。 胴部外面縦位へら削り調整。内面横位へらなで。
12 土師器 甕	口辺 ～1/4胴部	8.4	17.8	—	暗褐色	長石 雲母	口縁端部つまみ上げ、口辺部横なで。 胴部外面縦位へら削り後なで。内面なで調整。
13 土師器 甕	底部1/2	1.9	—	7.6	暗褐色	長石 雲母	立ち上がり外面へら削り。内面なで調整。 底部切離し回転糸切り未調整。
14 土師器 甕	胴部1/3	—	—	—	内外暗褐色	長石 雲母	胴中央～下半部。中央縦位へら削り後下半部横位へら削り。 内面なで調整。
15 土師器 甕	底部1/8	5.3	—	8.2	外淡橙褐色 内淡暗褐色	石英 雲母	胴下半外面横位へら削り調整。内面なで調整。 底部切離し不明。へら削り調整。

23D（第83～85図 図版6・17）

位置 C4区-3・4, D4区-1・2Gで検出。**主軸方位** W-26° - Sで、西に大きく傾いている。**重複関係** 単独。**平面形** 方形（やや台形気味）を呈する。**規模** 3.20m×3.60m, 遺構確認面からの深さ0.23mを測る。**壁** 垂直気味に立ち上がる。**床** ハードロームまで掘り込み、床面とする。北壁側一帯の床面が一段高く、有段構造となっている。南西及び北東隅の床面上に焼土・炭化材が分布する。**周溝** 西壁下を除き、他は廻らせる。**カマド** 西壁の中央部（いわゆる西カマド）。両袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。焚口部は浅めの挿鉢状に掘りくぼめており、煙道は緩傾斜となる。構築法は、左袖で二段、右袖で三段の構築土を積んで行くというものである。左右袖部ともに、基底部分は28層とした暗茶褐色土で、この上に粘土主体の茶灰色土を積み上げている。**ピット** 検出されず。**覆土** 3層に分層でき、暗茶褐色土の1層を大量に投げ込んで埋め戻している。**遺物出土状態** ほとんどが1層中である。このうち、土師器坏の1と土師器甕の9は、破片が広範囲に分布し、かつ個々の破片のレベル差もある。この他の遺物とは、廃棄行為そのものや、背景が異なる可能性を指摘できる。**建て替え** なし。



第83図 23D遺構実測図

23D土層説明

- 1. 暗茶褐色土 ローム粒、焼土粒点在。木炭含む。
- 2. 暗茶褐色土 1層類似。ローム土の混入多い。
- 3. 暗赤色土 1層に焼土が多く混入した層。

23Dカマド土層説明

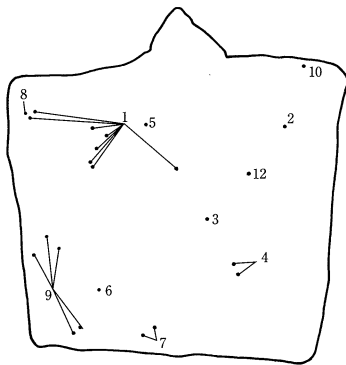
- 1. 暗茶色土 焼土、粘土、炭化粒、ローム若干含む。
- 2. 暗茶褐色土 2~10mm大ローム含む。充?層。
- 3. 茶灰褐色土 暗茶褐色土主体。灰砂、焼土含む。
- 4. 暗赤色土 焼土砂層。5mm大焼土塊、ローム点在。
- 5. 淡赤色砂 炭化物含む。
- 6. 暗茶褐色土 焼土砂層。暗褐色土混入。

6. 暗茶色土

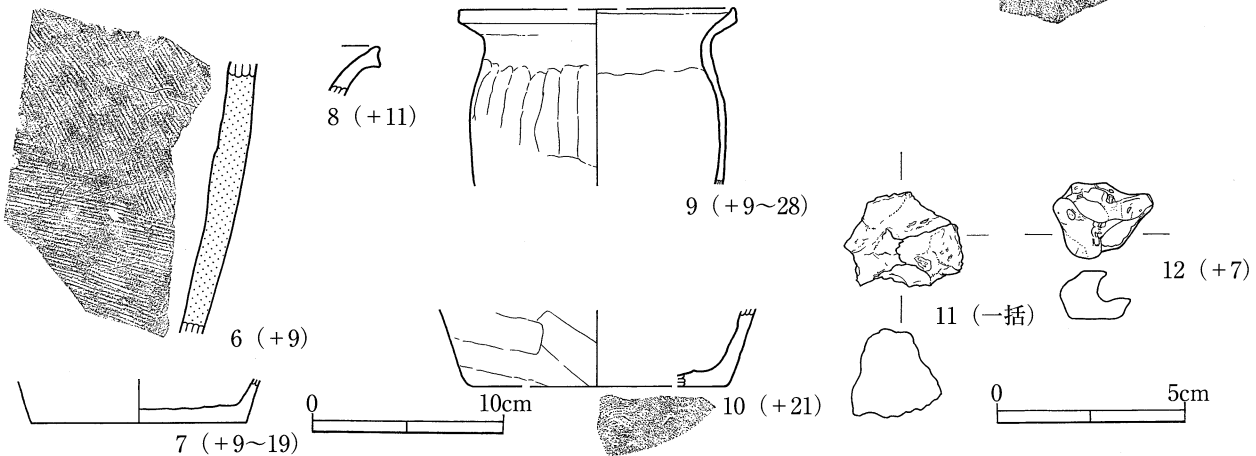
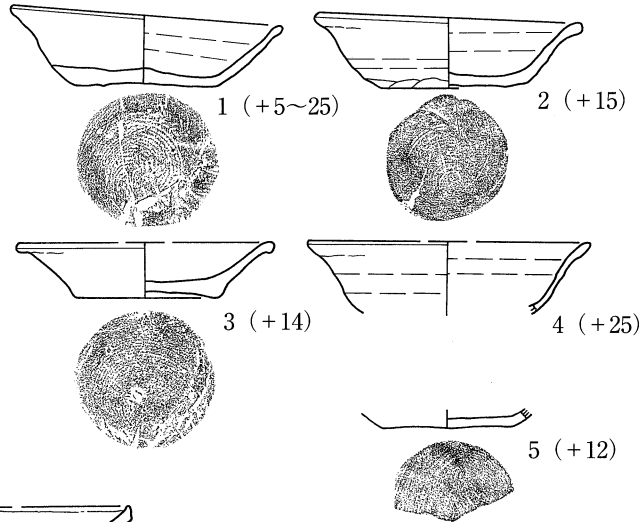
- 7. 赤茶色土 暗茶褐色土主体。焼土塊混合。焼土若干含む。
- 8. 暗茶褐色土 1層近似。2~5mm大焼土点在。
- 9. 暗茶褐色土 1層近似。炭化物含む。焼土、粘土砂若干含む。
- 10. 暗茶褐色土 ローム若干混入。
- 11. 暗茶褐色土 10~30mm大ロームブロック含む。
- 12. 暗茶褐色土 1~5mm大ローム若干含む。
- 13. 暗赤色土 暗茶褐色土、焼土砂混合層。粘土砂若干含む。
- 14. 暗赤褐色土 焼土砂主体。焼土含む。
- 15. 淡赤褐色土 焼土砂主体。
- 16. 暗茶褐色土 15層類似。炭化物若干含む。

17. 赤茶色土

- 18. 暗赤色土 16層類似。焼土多く含む。粘土砂若干含む。
- 19. 暗赤褐色土 炭化物やや多い。焼土、粘土砂、ローム若干含む。
- 20. 赤色砂 焼土塊ブロック。
- 21. 暗赤色土
- 22. 赤色土 カマド内壁。
- 23. 暗茶色土 焼土やや少ない。粘土砂、ローム含む。
- 24. 暗茶褐色土 ローム主体。焼土混入。
- 25. 暗赤褐色土 24層に比べ赤味やや強い。ロームとの混合層。
- 26. 茶灰色土 粘土主体。焼土粒含む。
- 27. 暗茶色土 粘土砂少ない。ローム若干混合。
- 28. 暗茶色土 炭化物、焼土粒含む。



第84図 23D遺物分布図



第85図 23D出土遺物

23D 遺物観察表

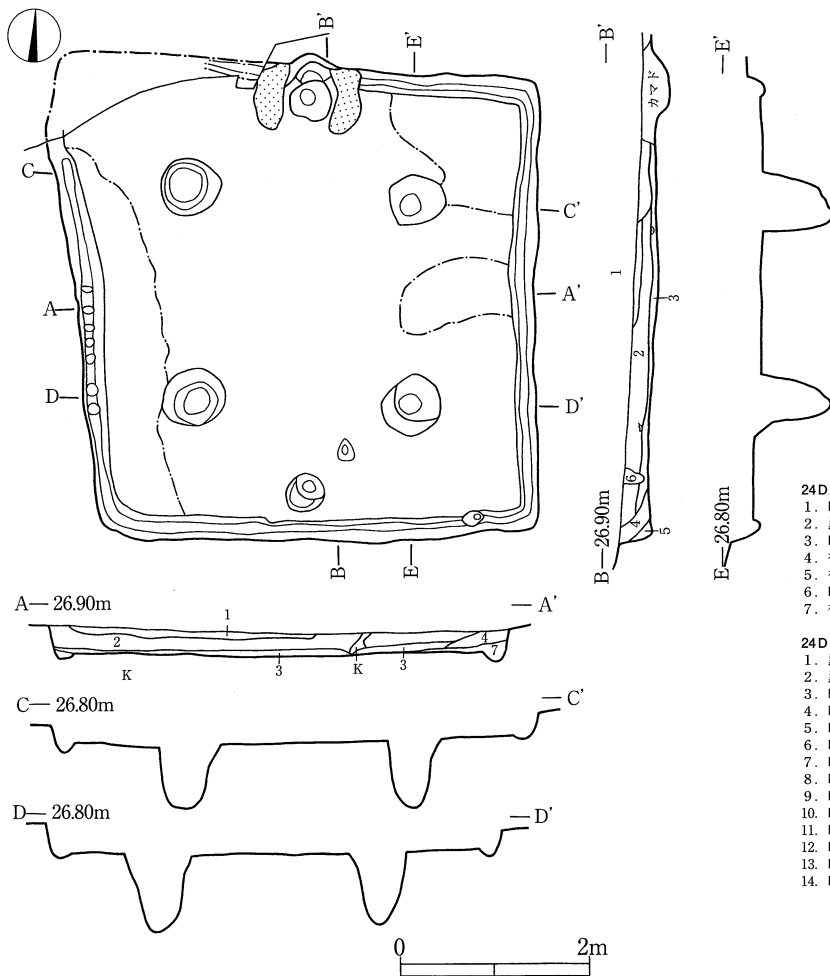
	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	口辺 ～底部	4.2	14.4	7.3	淡橙褐色	石英・長石・ 雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 切離しは右回転糸切り。底部周縁と体部下端回転ヘラ削り調整。
2	土師器 坏	完形	3.7	13.8	6.6	橙褐色 ～暗褐色	雲母・長石 赤色スコリヤ	ロクロ成形。切離し回転糸切り。 切離しは回転糸切り。底部周縁と体部下端手持ちヘラ削り調整。
3	土師器 皿	底部 ～口辺2/3強	2.9	13.2	7.4	淡橙褐色	長石 雲母	ロクロ成形。 切離しは左回転糸切り後無調整。
4	土師器 坏	口辺 ～体部	3.8	15	—	淡褐色 ～黒色	長石・石英	ロクロ成形。 内外面にタール状附着物が見られる。
5	土師器 坏	底部1/2弱	0.9	—	6.8	淡橙褐色	長石・石英 白色粒	ロクロ成形。 切離しは回転糸切り後、ほぼ全面にわたり回転ヘラ削り調整。 体部下端ヘラ削り調整。
6	須恵器 甕	胴部	—	—	—	暗青灰色	長石 白色粒	胴外面平行叩き目文。内面円形状の当て具痕跡明瞭。
7	土師器 甕	底部1/4	2.3	—	11.2	茶褐色 ～淡橙褐色	雲母・石英 長石・黒色粒	底部立ちあがりヘラ削り調整。 内面なで調整。
8	土師器 甕	口辺1/6	2.4	24.4	—	橙褐色	石英・雲母 黒色粒	口辺部横なで。 口縁端部つまみ上げ。
9	土師器 小形甕	口辺 ～胴部1/3	9.3	14.4	—	茶褐色 ～淡茶褐色	雲母・長石・ 石英	口辺部横なで。胴上半外面縦位ヘラ削り。 口縁端部つまみ上げ。内面なで調整。
10	土師器 甕	底部一部	4.1	—	13.6	淡茶褐色 内淡橙褐色	雲母・長石・ 石英	底部切離しは回転糸切り無調整。 立ち上がり外面は斜位ヘラ削り。内面はなで整形
11	鉄滓		縦 3.1	横 2.6	厚 2.4	重さ 12.5 g		気泡状の粒々は見られない。
12	軽石		縦 1.9	横 2.6	厚 1.2	重さ 3.2 g		

24D (第86～89図 図版6・17)

位置 B4区-3・4, C4区-1・2Gで検出された。主軸方位 N-4°-Wで、やや西に傾く。重複関係 単独。平面形 やや不整な方形を呈する。本跡は、北壁側が南壁側よりも長いので、やや台形気味となる。規模 5.05m×5.06m, 遺構確認面からの深さ0.26m。壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードルームまで掘り込んで、床面とする。北東部と南西部を除き、ほぼ全面が硬化している。周溝 カマド前面を除いて全周する。西壁下を中心に周溝内柱穴が見られる。カマド 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。焚口部は浅めの挿鉢状に掘りくぼめており、煙道は緩傾斜となる。左右両袖の基底部はローム掘り残しで、この上に構築土を積み上げている。ピット 6本検出。P1～P4が支柱穴で、P5は出入口に伴うものである。P6は性格不明。覆土 7層に分層できた。2層とした黒褐色土を主体とする。遺物出土状態 平面分布的には、床面中央付近にやや集中する傾向がある。1・2の土師器坏は、小片がばらまかれた状況で出土し、9の小形甕は3m以上離れた物同士が接合する。垂直分布的には、ほとんどが2層の上部である。建て替え 認められない。

24D 遺物観察表

	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	口辺部 ～底部2/3	4.5	14	—	淡橙褐色	石英 白色粒	口辺部内外横なで。 体部外面ヘラ削り調整。内面下位ヘラ磨き。
2	土師器 坏	口辺部 ～底部2/3	4	12.6	—	茶褐色 黒斑	赤色スコリヤ 白色粒	口辺部横なで。 体部外面横位ヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。 内面黒色処理か？
3	土師器 坏	口辺部 ～底部1/5	4.8	14	—	暗褐色	白色粒 雲母	口辺部横なで。 内面横位ヘラ磨き。黒色処理か？体部外面横位ヘラ削り。
4	須恵器 坏	底部 ～体部	2.2	—	5.6	淡青灰色	石英・長石・ 雲母	底部丸底風。 静止糸切り後底部周縁と体部下端手持ちヘラ削り調整。
5	須恵器 蓋	口辺部 ～体部1/8	1.65	15.2	—	淡青灰色	石英・雲母 白色粒	ロクロ成形。 口辺部内面に弱い稜。天井部外面は回転ヘラ削り調整。常陸産。
6	須恵器 蓋	口辺 ～体部1/6	—	—	—	暗青灰色	ち密	ロクロ成形。 体部外面に自然釉。東海産。

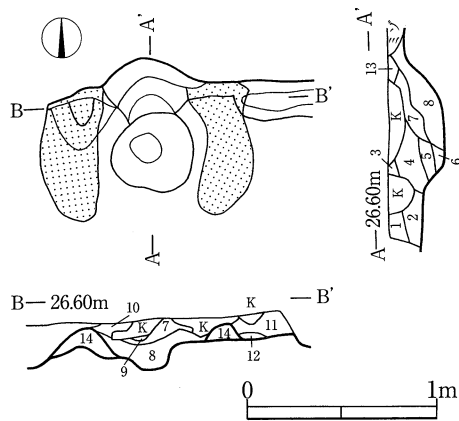


24D土層説明

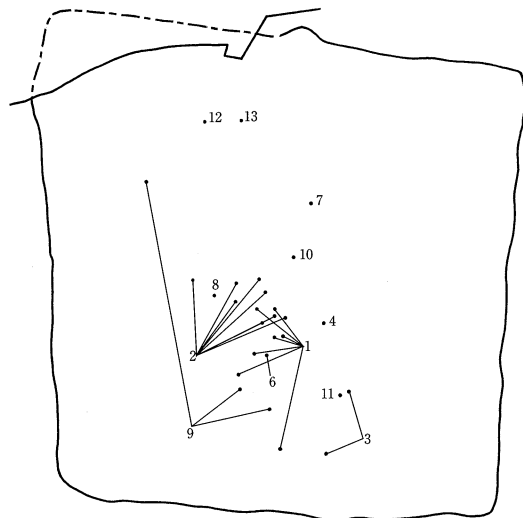
- | | |
|---------|-------------------------|
| 1. 暗褐色土 | ローム粒, 黒色土混合層。ロームブロック含む。 |
| 2. 黒褐色土 | 少量のローム粒。炭化粒, 焼土粒混入。 |
| 3. 暗褐色土 | ローム主体に黒色土少量含む。 |
| 4. 褐色土 | ローム主体。黒色土希少含む。 |
| 5. 褐色土 | ローム主体。暗褐色土含む。 |
| 6. 暗褐色土 | ローム粒, 黒色土混合層。淡褐色砂含む。 |
| 7. 褐色土 | ローム主体にロームブロック部分的に含む。 |

24Dカマド土層説明

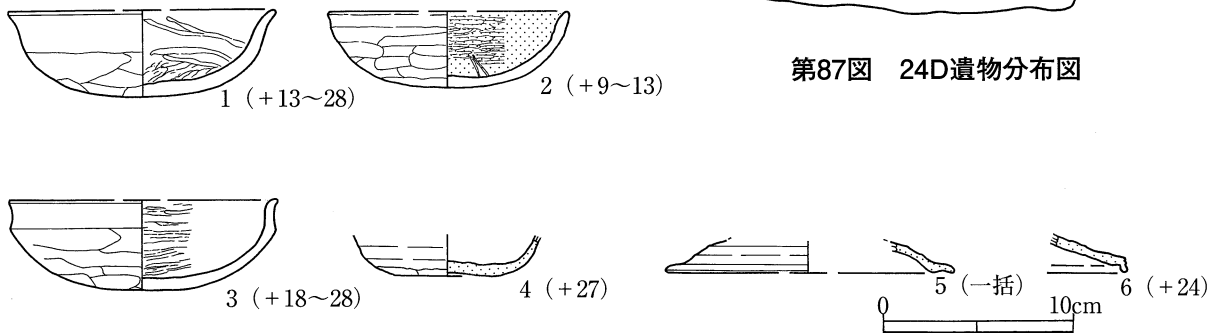
- | | |
|-----------|-------------------------------|
| 1. 黒茶色土 | 1~2mm大ローム粒, 黒色土混入。焼土, 粘土砂含まず。 |
| 2. 黒茶色土 | 1層類似。1~2mm大ローム1より目立つ。 |
| 3. 暗茶灰色砂 | 2~3mm大ローム, 粘土砂, 焼土含む。 |
| 4. 暗赤灰色砂 | 焼土砂主体。2~5mm大焼土粒含む。 |
| 5. 暗赤色砂 | 焼土砂, 2~3mm大焼土粒混合層。 |
| 6. 暗赤色土 | 暗茶褐色土混入多い。焼土含む。 |
| 7. 暗赤色土 | 4層に比べ焼土少ない。暗茶褐色土混合層。 |
| 8. 暗褐色土 | ロームブロック多含。その間に暗茶褐色土混入。 |
| 9. 暗黒茶色土 | 5~10mm大焼土塊多含。 |
| 10. 暗赤色土 | 焼土砂, 粘土砂を含む。 |
| 11. 暗褐色土 | 8層類似。30~50mm大ロームブロック多含。 |
| 12. 暗茶褐色土 | ローム若干含む。粘土砂, 焼土含まず。 |
| 13. 暗茶褐色土 | 粘土砂, 焼土含む。 |
| 14. 暗茶褐色土 | ロームブロック, 暗茶褐色土混合層。 |



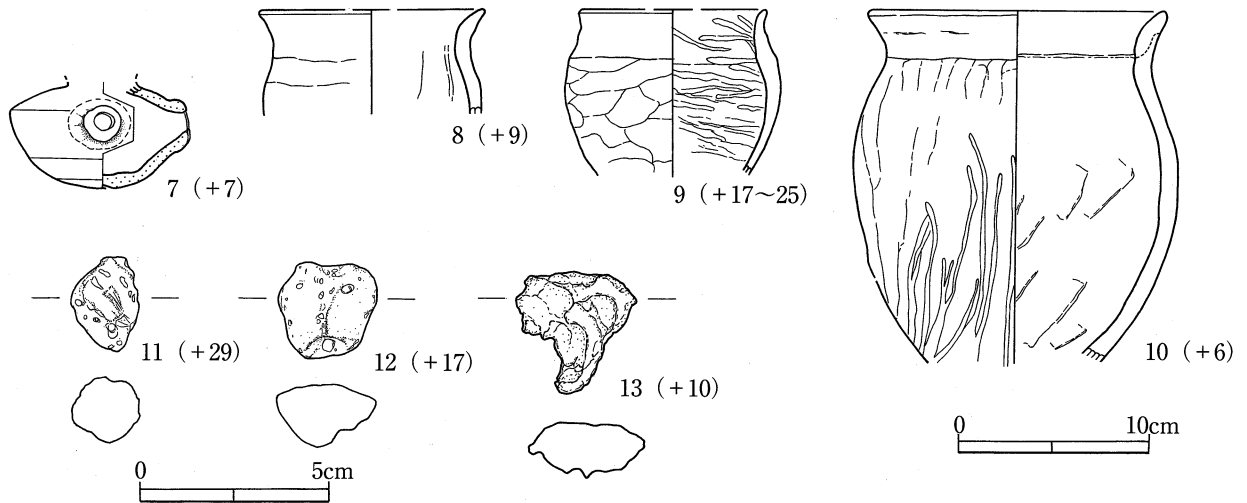
第86図 24D遺構実測図



第87図 24D遺物分布図



第88図 24D出土遺物



第89図 24D出土遺物(2)

24D遺物観察表(2)

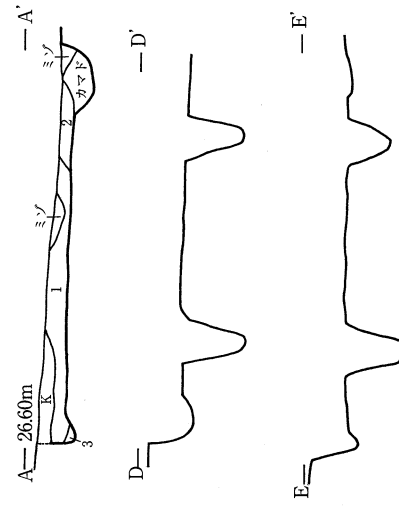
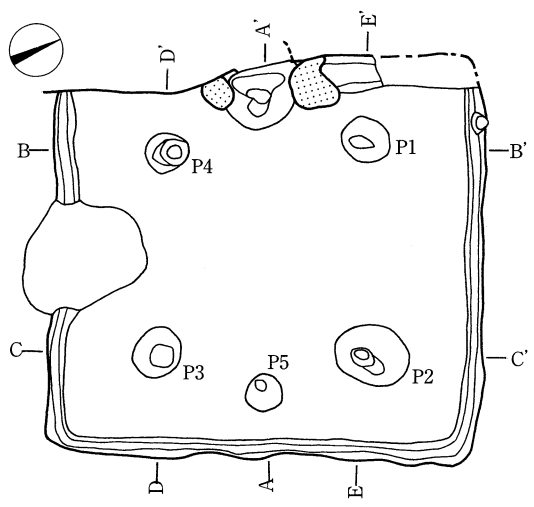
器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
7 須恵器 甕	胴部全周遺存	5.9	頸部径3.4 胴部径9.1	—	暗青灰色	長石・ち密 破断面に黒い粒々。	立ち上がり外面回転ヘラ削り調整。 肩部自然釉。TK217併行。
8 土師器 甕	口辺部1/3強 ~胴上半部	5.6	11.8	—	暗褐色	石英 長石	口辺部内外横などで。 内面頸部~胴部ヘラなどで後横などで。外面被熱剥離と炭化物附着。
9 土師器 甕	口辺 ~胴部1/2	8.8	9.8	—	外茶褐色 内暗茶褐色	白色粒 長石 石英	口辺内外横などで。 胴部外面は横位ヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。
10 土師器 甕	口辺 ~胴下半部全周遺存	18.4	15.6	—	淡青灰色	長石・雲母 多含石英	口辺部横などで。胴部外面縦位ヘラ削り後、などで。中央~下位は縦位ヘラ磨き。
11 軽石		縦 2.5	横 1.8	重さ 2.1g			
12 軽石		縦 2.6	横 2.7	重さ 1.4g			
13 鉄滓		縦 3.2	横 3.2	厚さ 1.4 重さ 15.7g			気泡ややある。磁気なし。

25D (第90~93図 図版7・17)

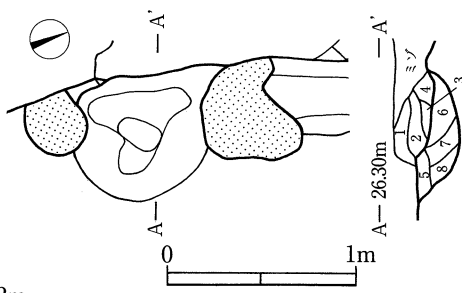
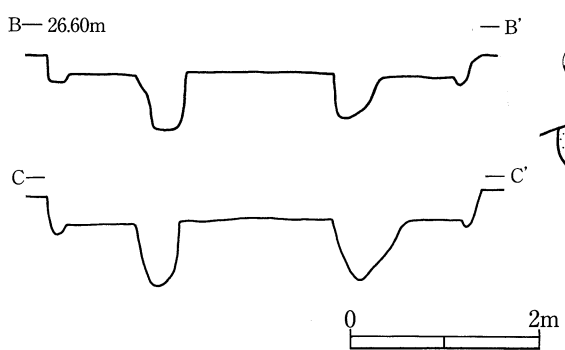
位置 B2区-4, B3区-3, C3区-1Gで検出。**主軸方位** N-65°-Wで、西に傾く。**重複関係** 単独。**平面形** 方形を呈する。**規模** 4.26m×4.55m, 遺構確認面からの深さ0.35m。**壁** 垂直気味に立ち上がる。**床** ハードルームまで掘り込み, そこを床面とする。**周溝** カマド部分を除き, 全周していたと思われる。比較的幅員・深度とも均一である。北西隅付近に周溝内柱穴を1本穿つ。**カマド** 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し, 焚口部は焼けている。本跡は煙道部の掘り込みが少ない。**ピット** 5本検出。P1~P4が位置的・規模的に見て主柱穴で, P2は主軸に直交する形で, P4では対角線上の建て替えが見られる。また, 柱穴底面の平面形が長楕円形を呈するP1も, 建て替えによる可能性が高い。P5は出入口に伴うものと思われる。**覆土** 3層に分層できた。1層とした茶色土が主体となる。**遺物出土状態** 平面分布的には, やや散漫な印象がある。垂直分布的には, ほとんどが1層上部に集中する。**建て替え** 柱穴の知見から, 建て替えが認められた。ただし, 住居跡の掘り方の形状や周溝には, ほとんど変化が認められない。このことから, 壁外空間にからむ部分の拡張や, 上屋構造などの改変であった可能性がある。その場合は, 広義の建て替えとなろう。

25D遺物観察表

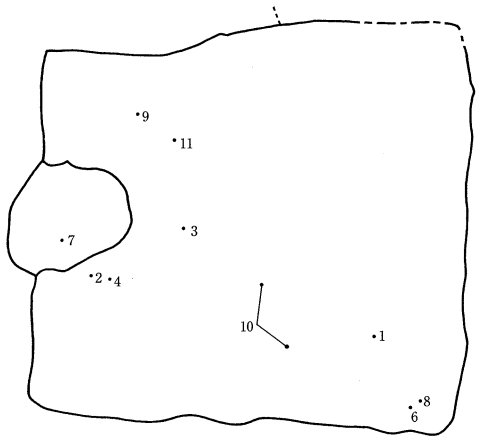
器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 坏	口辺部 ~底部1/4	5.2	18.4		赤褐色	雲母 赤色粒・砂粒	口辺部横などで。 外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。
2 土師器 坏	体部胴片	2.2			橙褐色	白色粒 黒色粒	外面などで。 内面横などで後, 放射状暗文。丸底の坏



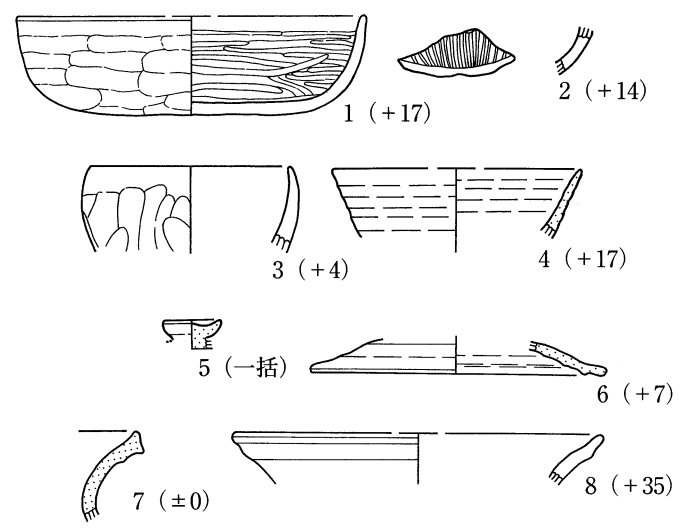
- 25D土層説明**
1. 茶色土
ローム主体。炭化物混入。
 2. 赤茶色土
1層類似。粘土砂含む。
 3. 茶褐色土
ローム主体。1層とローム土の混合層。
- 25Dカマド土層説明**
1. 明茶色土
焼土粒少量含む。
 2. 赤茶色土
焼土粒主体に黒色土含む。
 3. 赤褐色土
焼土粒主体。焼土ブロック含む。
 4. 明茶色土
1層類似。黒色土含む。
 5. 暗茶褐色土
ロームブロック部分的に含む。
 6. 暗茶褐色土
ロームブロック、焼土粒部分的に含む。
 7. 暗褐色土
ロームブロック主体。暗褐色土含む。
 8. 暗褐色土
ローム粒、暗褐色土混合層。



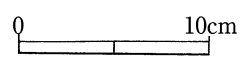
第90図 25D遺構実測図



第91図 25D遺物分布図

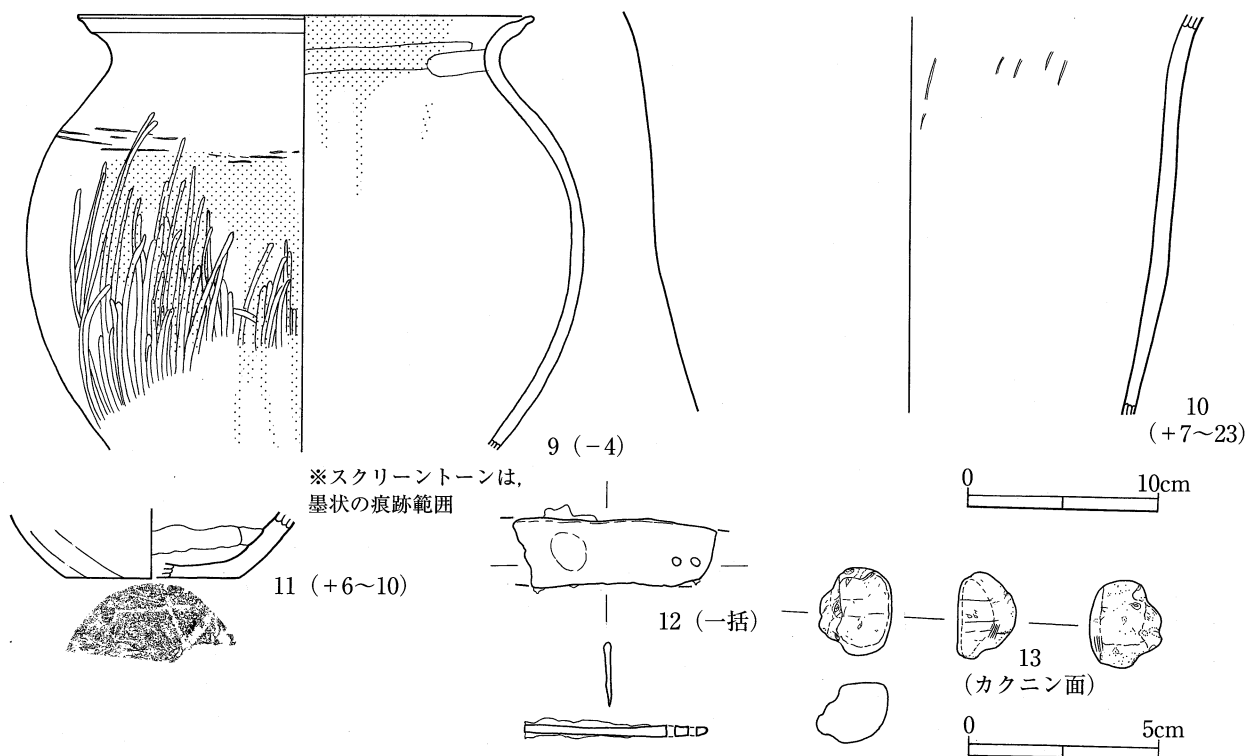


第92図 25D出土遺物 (1)



25D遺物観察表 (2)

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
3 土師器 坏	口辺部片	4.6	10.4		橙褐色	雲母砂粒	外面口辺部横なで。体部ヘラ削り。 内面横なで。
4 須恵器 坏	口辺部片	3.6	12.4		暗褐色	雲母 白色粒	内外面ロク口成形。
5 須恵器 蓋	宝珠部2/3	1.6	3.2	—	黄灰色	雲母 (大粒) 赤色粒・白色粒	内外面なで。



第93図 25D出土遺物(2)

25D 遺物観察表(3)

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
6 須恵器 蓋		1.8	15.6	—	黄灰色	雲母 白色粒・赤色粒	内外面ロクロ成形。天井部回転ヘラ削り調整。内面ロクロなで。
7 須恵器 甕	口辺部片	5.2			茶灰色	白色粒	内外面横なで。
8 土師器 甕	口辺部片	2.7	19.4		橙褐色	雲母 白色砂粒	内外面横なで。武蔵型甕。
9 土師器 甕	口辺部 ~ 胴部全体の1/2	22.8	24		淡褐色	雲母 赤色粒, 砂粒	口辺頸部横なで。胴部下端ヘラ磨き(下から上方向) 常総型甕。外面なで、胴上半部ヘラ削り。内面なで、頸部ヘラ削り。
10 土師器 甕	頸部 ~ 胴部片	21	胴上半部 24	—	明褐色	雲母 砂粒	外面削り後なで。内面削り後, なで。頸部削り痕横なで。
11 土師器 甕	底部片	3.6	—	9	橙褐色	雲母 砂粒	外ヘラ削り。内なで。底部木葉痕。常総型甕。
12 鉄製品 穂摘具か		全長 5.3	幅 1.7	厚さ 0.25	重さ 4.4 g		鉄板に2mmの円孔を2カ所あける。下辺に刃をつける。穂摘具と思われるが不明。
13 軽石							長さ2.2cm 幅2cm 厚さ1.5cm 重さ1.6g

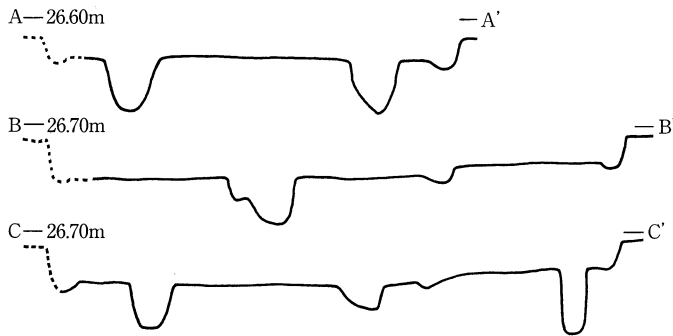
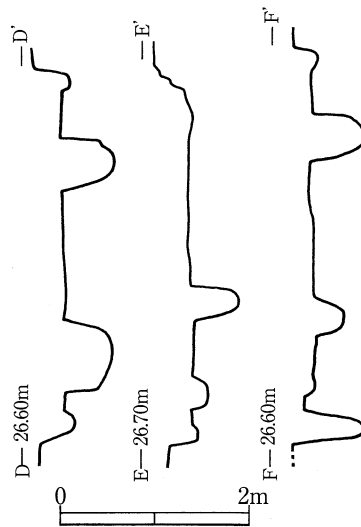
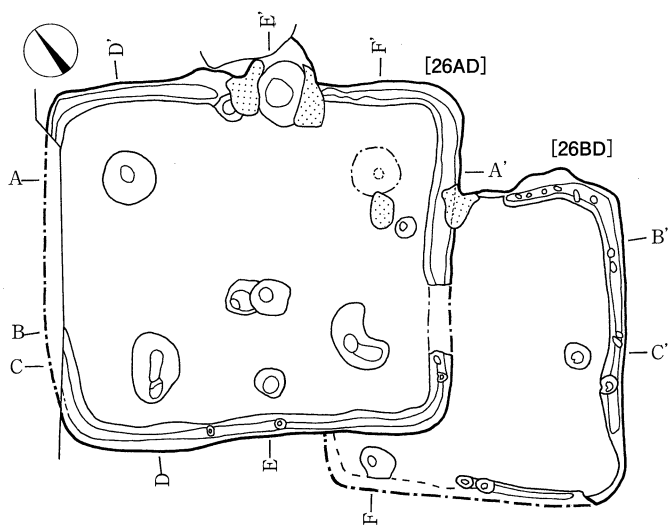
26D (第94~100図 図版7・17・18)

[26AD]

位置 C2区-1G。主軸方位 N-37°-E。重複関係 BDに切られる。平面形 方形。規模 3.87m×4.35m, 遺構確認面からの深さ0.29m。壁 垂直気味。床 ハードルームまで掘り込む。周溝 カマド前面を除いて全周。周構内柱穴あり。カマド 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。ピット 8本検出。P1~P4が主柱穴で、P2・P3に建て替えの形跡あり。P5は出入口に伴い、P6~P8はその他の柱穴。遺物出土状態 平面分布的には、やや散漫。建て替え 認められた。

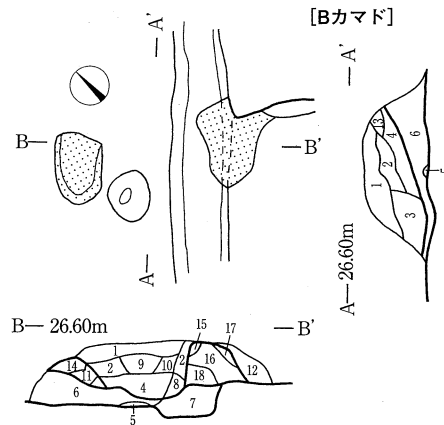
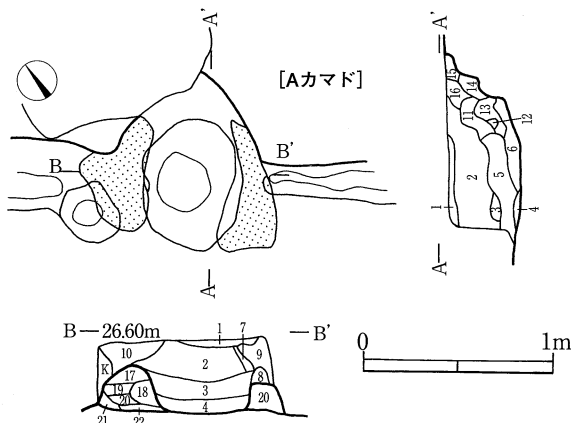
[26BD]

位置 26ADに同じ。主軸方位 同左。重複関係 ADを切り、CDに切られる。平面形 方形。規模 3.55m×(3.15m), 深さ0.27m。壁 垂直気味。床 ハードルームまで掘り込む。周溝 ほぼ26ADに同じであるが、南東コーナーで一端途切れる。カマド 北壁の中央部。両袖部が残存。ピット 3本検出。P3は出入口に伴う。遺物出土状態 平面分布的には、やや散漫。建て替え 認められない。



26D A カマド土層説明

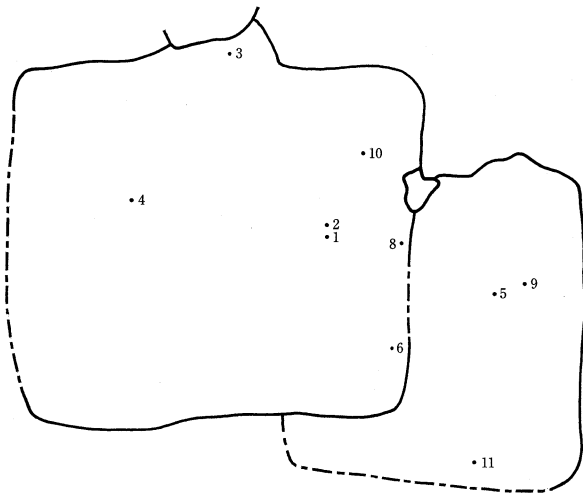
- | | |
|-----------|----------------------------|
| 1. 暗茶色土 | ローム若干含む。粘土砂2層より多い。 |
| 2. 暗茶色土 | ローム粒若干点在。焼土砂点在。 |
| 3. 茶灰色土 | 粘土砂若干混入。焼土粒若干含む。 |
| 4. 暗茶褐色土 | 2~5mm大ローム含む。粘土砂混入減少。 |
| 5. 暗茶色土 | 焼土砂混合。1~2mm大ローム含む。 |
| 6. 暗茶色土 | 焼土砂純層。 |
| 7. 茶赤色土 | 20~30mm大焼土砂塊点在。カマド内壁か。 |
| 8. 暗茶灰色土 | 粘土砂多くは入らない。焼土。炭化粒含まず。 |
| 9. 茶灰色土 | 粘土砂少ない。ローム粒。炭化粒若干含む。 |
| 10. 褐色土 | ローム主体。灰色粘土砂混入。 |
| 11. 暗茶灰色土 | 粘土砂主体。 |
| 12. 赤色砂 | 焼土砂塊ブロック。 |
| 13. 暗赤色砂 | 焼土砂層。5~15mm大焼土砂含む。 |
| 14. 暗茶赤色土 | ローム塊含む。黒茶褐色土混入。 |
| 15. 暗褐色土 | 16層に比べ暗茶褐色土混入多い。 |
| 16. 暗褐色土 | ローム、暗茶褐色土混合層。焼土。粘土砂。炭化粒含む。 |
| 17. 淡灰色土 | 粘土砂主体。焼土含まず。 |
| 18. 灰色土 | 粘土砂主体。焼土含む。 |
| 19. 暗茶褐色土 | 粘土砂。暗茶褐色土混合層。 |
| 20. 暗茶褐色土 | 19層類似。粘土砂多い。 |
| 21. 明褐色土 | ロームブロック。暗褐色土混合層。 |



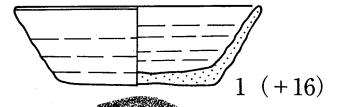
26D B カマド土層説明

- | | | | |
|----------|------------------------|-----------|----------------------|
| 1. 茶褐色土 | ローム粒。黒色土。焼土粒。焼土ブロック混入。 | 10. 赤茶色土 | 焼土ブロック混入。2層含む。 |
| 2. 暗赤茶色土 | 焼土粒。焼土ブロック。暗褐色土少量混入。 | 11. 赤茶色土 | 焼土ブロック主体。 |
| 3. 暗茶褐色土 | 1層類似。黒色土粒多い。 | 12. 暗褐色土 | ローム粒若干含む。 |
| 4. 赤茶色土 | 焼土粒。ロームブロック混入。 | 13. 赤褐色土 | 粘土砂主体。焼土粒。ローム粒混入。 |
| 5. 茶褐色土 | ローム主体。住居覆土。 | 14. 茶灰色土 | ローム粒。粘土砂混入。焼土ブロック点在。 |
| 6. 茶褐色土 | ローム主体。焼土粒。黒色土混入。住居覆土。 | 15. 暗茶色土 | 粘性強い粘土砂。 |
| 7. 茶褐色土 | ローム粒主体。黒色土含む。住居覆土。 | 16. 淡灰色土 | 粘性強い粘土砂。暗褐色土混合層。 |
| 8. 暗赤茶色土 | 焼土粒。荒砂混入。焼土ブロック少量混入。 | 17. 淡茶色土 | 粘土砂。暗褐色土混合層。 |
| 9. 暗赤茶色土 | 2層類似。黒色土粒若干含む。 | 18. 暗茶灰色土 | |

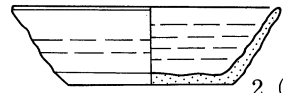
第94図 26ABD遺構実測図



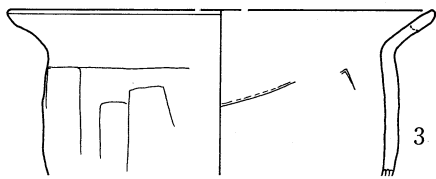
第95図 26ABD遺物分布図



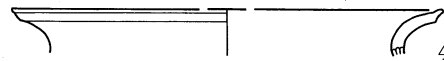
1 (+16)



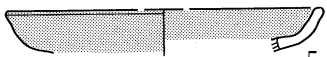
2 (+16)



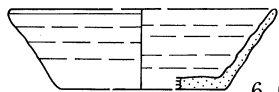
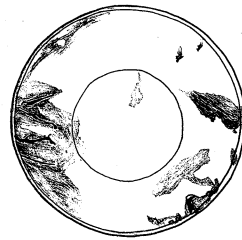
3 (カマド内)



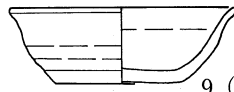
4 (+16~42)



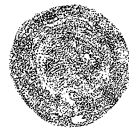
5 (+16)



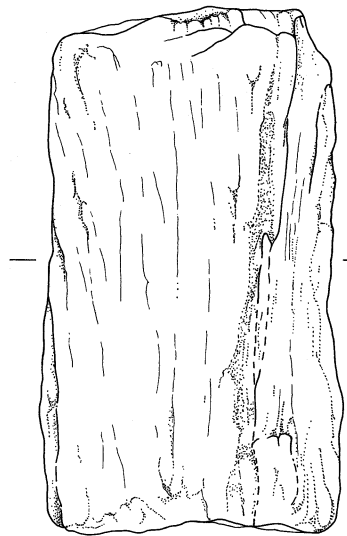
6 (+28)



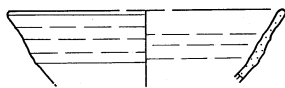
9 (+22)



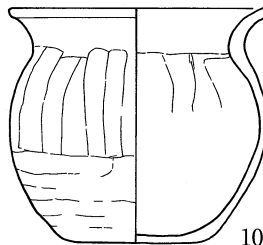
7 (一括)



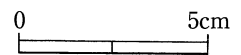
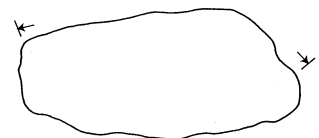
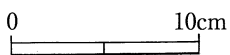
11 (±0)



8 (AD周溝内)



10 (+6)



第96図 26ABD出土遺物

26 A B D 遺物観察表

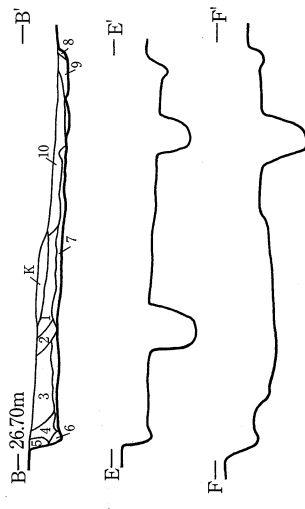
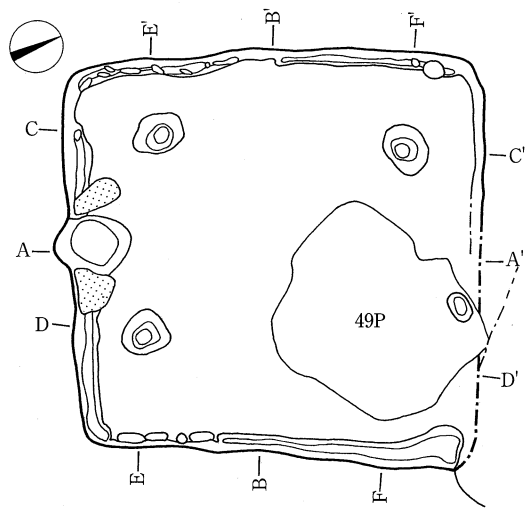
	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	須恵器 坏	完形 口縁一部欠	4.2	12.9	8	淡青灰色	雲母, 長石 石英	ロクロ成形。 回転ヘラ切り無調整。体部下端回転ヘラ削りか?
2	須恵器 坏	完形 口縁一部欠	4.2	14	8.6	淡黒灰色	雲母多含 石英, 長石	ロクロ成形。切離し不明。 底部全面回転ヘラ削り調整。体部下端回転ヘラ削り調整。
3	土師器 甕	口辺部 ~体部1/5	8.7	22	—	茶褐色 一部黒斑	赤色スコリヤ 白色粒 長石, 石英	口辺部横なで。 胴部外面縦位ヘラ削り。内面ヘラなで。
4	土師器 甕	口辺部1/5	2.4	22.6	—	茶褐色	黒雲母 長石	口辺部内外面横なで。
5	土師器 甕	口辺部~体部1/8	2.3	16.4	—	赤褐色	長石 小石粒	内外面なで整形。 内外面赤彩。
6	須恵器 坏	口辺部 ~底部1/4	4.2	14.2	9	淡青灰色	長石, 石英 小石粒	ロクロ成形。 体部下位回転ヘラ削り。底部切離し不明。ヘラ削り調整。
7	須恵器 坏	底部1/5	1.8	—	8.4	青灰色	白色粒 長石	外面体部下端回転ヘラ削り。 底部切離し不明。ヘラ削り調整。
8	須恵器 坏	口辺部~体部1/5	3.8	14.4	—	暗青灰色	長石	ロクロ成形。 体部下位ヘラ削り調整。
9	土師器 坏	完形	4	12	6.6	茶褐色	長石, 雲母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。底部切離し回転糸切り。 底部周縁と体部下端回転ヘラ削り調整。灯明皿として使用。
10	土師器 甕	ほぼ完形 胴部一部欠	12.4	13.3	7.8	淡茶褐色	長石, 石英 赤色スコリヤ	口辺部内外面横なで。胴上半~中央外面縦位ヘラ削り。 胴下半・横位ヘラ削り後なで調整。内面ヘラなで。内面被熱剥離。
11	砥石	下部欠	長 13.9	幅 7.9	厚 3.5			上面と右側面に滑らかな面が見られる。 片麻岩(絹雲母片岩)。

[26C D]

位置 C 2 区 - 2 G で検出された。**主軸方位** S - 24° - W。**重複関係** 26 B D を切る。49 P に切られる。**平面形** 方形を呈する。**規模** 4.46m × 4.40m, 遺構確認面からの深さ0.24m。**壁** 比較的ゆるやかに立ち上がる。**床** ハードロームまで掘り込んで、床面とする。やや凹凸に富んでいる。**周溝** カマド前面と北壁を除いた他は廻らせているが、西壁の中央部で幅0.5mほど途切れる個所がある。出入口施設は見つかっていないが、この部分が該当する可能性が高い。西壁下と東壁下では、周溝内柱穴が見られる。**カマド** 南壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。焚口部は播鉢状に掘り込まれ、煙道部は緩傾斜となる。**ピット** 4 本検出。いずれもが支柱穴である。**覆土** 8 層に分層できた。暗褐色土系を主体とする。**遺物出土状態** 平面分布的には、後世に掘られた49 P と、その周辺に集中する。そのため、49 P の覆土中に多くが流入し、本来的な同跡の共伴遺物は第67図4のみである。**建て替え** 認められなかった。**備考** 本跡は3軒重複の最新期である。26 B D との重複部分の北壁にはカマドや出入口を設けず、前者はほぼ180° 後者で90° 振り替えている。

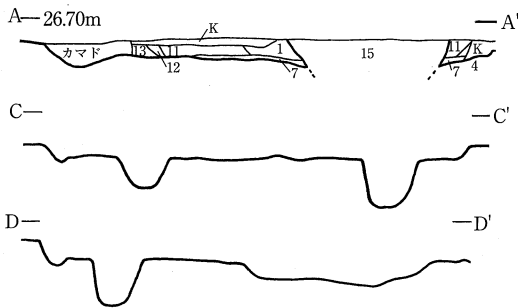
26C D 遺物観察表

	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	須恵器 坏	口辺部 ~体部1/4	4	13.6	—	淡灰褐色	長石, 石英	ロクロ成形。 体部下端ヘラ削り調整。
2	土師器 埴	口辺部 ~体部1/5	6.2	15.4	—	淡茶褐色	長石, 石英	ロクロ成形。 体部下端回転ヘラ削り, 内面なで整形。
3	土師器 坏	口辺部 ~体部1/5	5.1	14.1	—	淡茶灰褐色	長石, 石英	ロクロ成形。 体部下端ヘラ削り調整。
4	土師器 坏	口辺部 ~体部1/5	3.6	13.2	6.2	茶褐色	白色粒子	ロクロ成形。 底部切り離しは回転糸切り無調整。内外面なで調整。
5	須恵器 蓋	つまみ ~体部2/3	2	—	—	淡茶灰色	長石, 石英, 雲母 小石 粒	ロクロ成形。 天井部回転ヘラ削り。つまみ部は体部整形後貼り付け。
6	須恵器 甕	口辺部 ~胴部1/6	4.6	—	—	灰褐色	長石, 石英	口辺部横なで。 頸部~胴部外面平行叩き目文。
7	土師器 甕	口辺部 ~胴上半1/8	—	—	—	淡褐色	長石, 雲母 石英多含	口辺部内外面横なで。内外面なで整形。 内面に炭化物が付着。



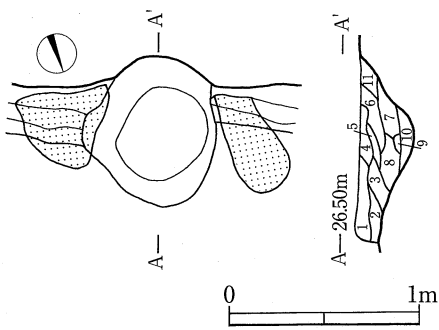
26CD土層説明

1. 暗褐色土 ローム粒、黒色土混合層。炭化粒少量含む。
2. 暗褐色土 ローム粒、黒色土粒含む。部分的ロームブロック含む。
3. 暗褐色土 2層類似。ローム粒全体的に含む。
4. 暗褐色土 ローム粒、黒色土斑点状に含む。
5. 褐色土 ローム粒主体。黒色土少量含む。
6. 褐色土 暗褐色土、ロームブロック含む。
7. 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック、暗褐色土混合層。
8. 褐色土 ロームブロック主体。暗褐色土少量混入。
9. 褐色土 ローム粒、暗褐色土混合層。
10. 褐色土 9層類似。暗褐色土少ない。
11. 暗褐色土 ローム粒、黒色土混合層。10mm大ロームブロック含む。
12. 暗褐色土 26層類似。焼土粒含む。
13. 褐色土 26層類似。黒色土少ない。
14. 暗褐色土 黒色土含む。
15. 黒褐色土 2~3mm大ローム粒含む。焼土粒若干含む。

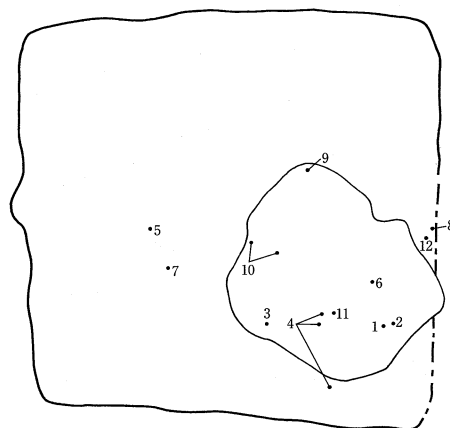


26CDカマド土層説明

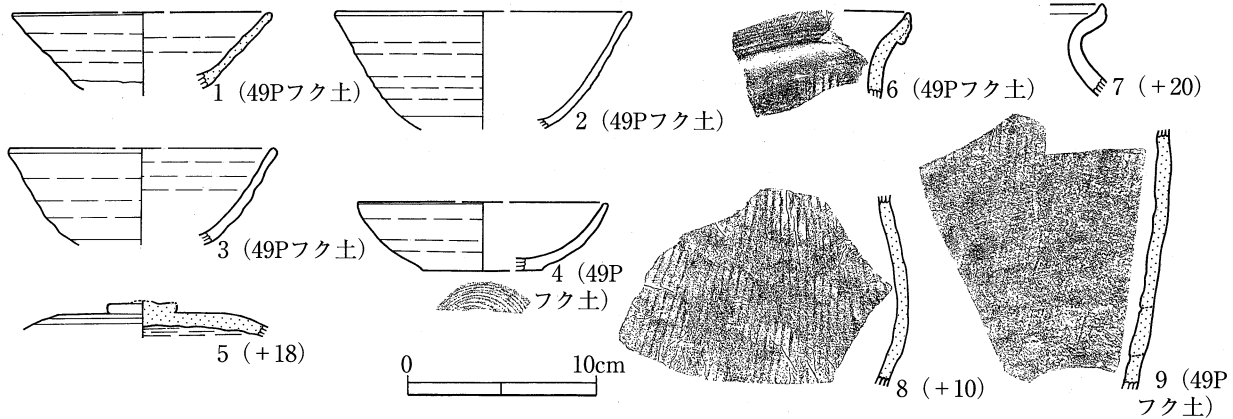
1. 暗茶褐色土 ローム粒多含。焼土粒若干含む。
2. 黒褐色土 粘土砂混合層。5~8mm大ローム点在。
3. 黒赤色土 焼土多くない。炭化粒若干。ローム粘土砂含む。
4. 赤褐色土 ローム粒含む。焼土混合。粘土砂少ない。
5. 暗黒赤色土 3層類似。焼土砂減少。
6. 暗黒赤色土 焼土塊多含。焼土砂多い。
7. 暗黒赤色土 焼土塊細かいもの若干含む。6層に比べ減少。
8. 暗黒赤色土 焼土層。粘土砂少量含む。
9. 淡赤色土 焼土化ロームブロック。
10. 暗褐色土 火床下の層。ロームブロック点在。焼土含まず。
11. 黒色土 焼土、ローム少量含む。5~8mm大ローム含む。



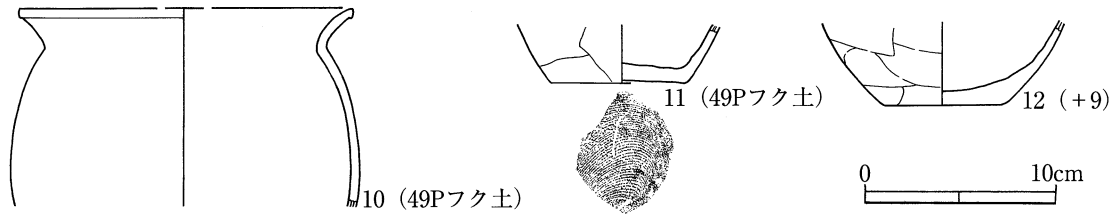
第97図 26CD遺構実測図



第98図 26CD遺物分布図



第99図 26CD出土遺物 (1)



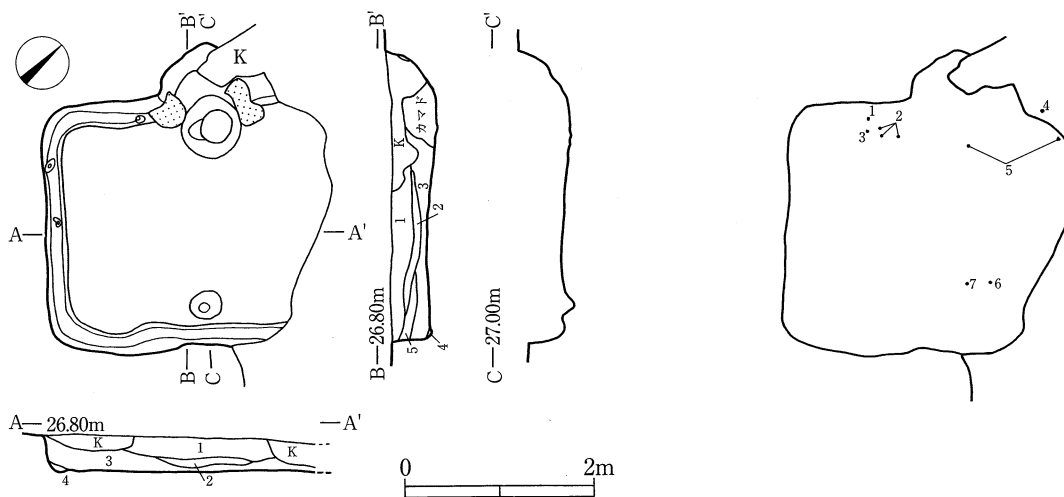
第100図 26CD出土遺物 (2)

26CD遺物観察表

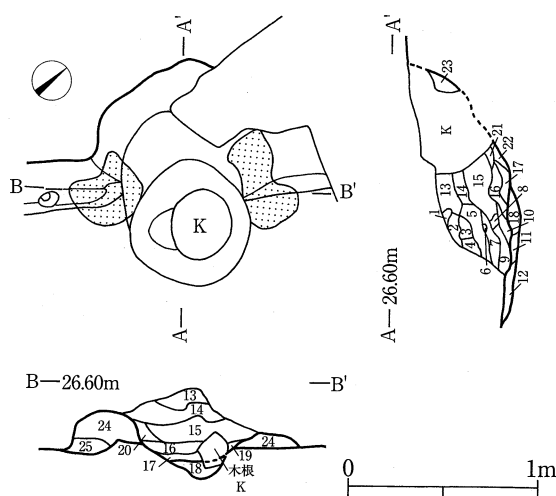
	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
8	須恵器 甕	胴上半部	—	—	—	外面暗褐色 内面茶褐色	長石, 石英, 雲母	頸部~胴上半部の外面平行叩き目文, 内面はなで調整。
9	須恵器 甕	胴部片	—	—	—	黒褐色	長石, 石英, 雲母	外面は縦位平行叩き目文。内面はなで整形。
10	土師器 甕	口辺部 ~胴上半1/5	10.5	17.2	—	外面茶褐色 内面暗褐色	雲母, 長石, 石英 赤色スコリヤ	口辺部横なで。胴外面へら削り後, ていねいなで整形。 内面はなで整形。
11	土師器 甕	胴部 ~底部	3.1	6.8	—	淡橙褐色	長石 赤色スコリヤ	ロクロ成形。底部切り離しは回転糸切り無調整。 胴下半外面はへら削り。内面はなで調整。
12	土師器 甕	底部 ~胴下半部全周	2	—	6.6	橙褐色	長石, 石英 白色粒	胴下半外面は横位へら削り, 内面はなで調整。

27D (第101~103図 図版7・18)

位置 E2区-1・2Gで検出された。**主軸方位** N-48° -Wで, 西に傾く。**重複関係** 単独。**平面形** 長方形を呈するか。**規模** 2.65m×(3.05m), 遺構確認面からの深さ0.42m。東半を攪乱により消失しているため, 規模は不明となる。**壁** ほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードルームまで掘り込んで, 床面とする。床面の南半がやや盛り上がる。**周溝** カマド前面を除いて全周か(東壁は不明)。比較的浅めで, 幅はやや広めである。北壁下及び西壁下に周溝内柱穴あり。**カマド** 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し, 焚口部は焼けている。焚口部は搦鉢状に掘り込まれ, 煙道部の立ち上がりは, やや緩傾斜となる。**ピット** 1本検出。南壁中部の直下で, 出入口に伴うものと思われる。**覆土** 5層に分層できた。周溝覆土の4層以外は埋め戻しである。**遺物出土状態** 平面分布的には, カマド両脇付近にやや目立つ。垂直分布的には, 覆土中層~上層に集中する。**建て替え** 認められなかった。



第101図 27D遺構実測図 (1)



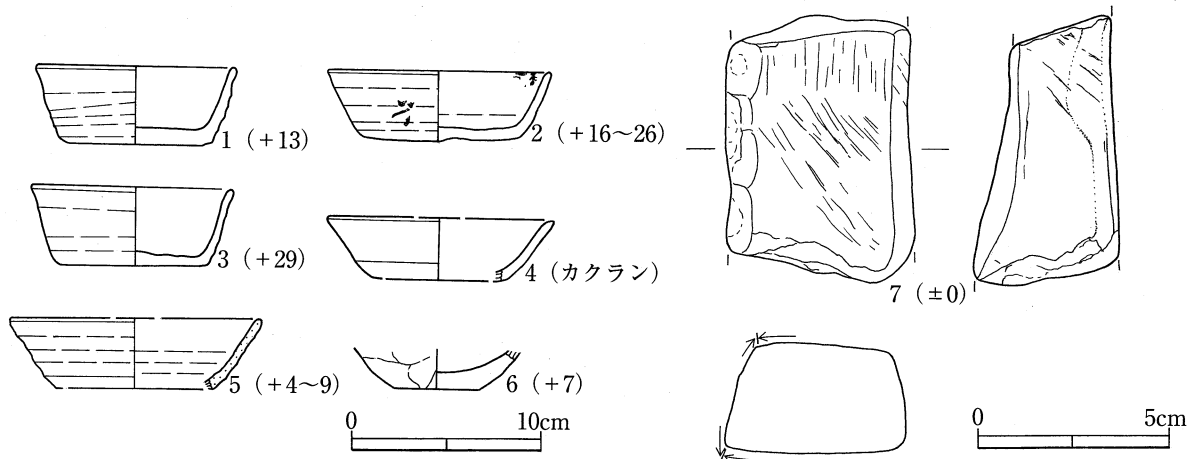
第102図 27D遺構実測図(2)

27D土層説明

- 1. 暗褐色土 ローム粒多く、焼土若干含む。黒色土斑点状に含む。
- 2. 黒茶褐色土 黒色土主体。茶褐色土混合。ローム粒混入。
- 3. 暗茶褐色土 5~20mm大ローム点在。ローム微粒多含。
- 4. 褐色土 ロームブロック主体。
- 5. 暗茶褐色土 1と3の中間層。2~3mm大ローム多含。

27Dカマド土層説明

- 1. 茶褐色土 ローム多く混入。粘土砂、焼土含む。
- 2. 黒茶褐色土 ローム粒、粘土若干。焼土微量含む。
- 3. 暗茶褐色土 焼土粒点在。粘土若干、ローム含む。
- 4. 暗茶褐色土 焼土含まず。1~2mm大ローム若干含む。
- 5. 暗茶褐色土 焼土。暗茶褐色土混合層。焼土粒点在。
- 6. 暗茶褐色土 若干灰味かかる。ロームやや多い。
- 7. 暗茶褐色土 焼土との混合。焼土粒若干含む。
- 8. 暗茶褐色土 6層類似。灰色味やや強い。
- 9. 暗茶褐色土 1mm大ローム、焼土若干含む。
- 10. 暗茶褐色土 3mm大ローム若干、焼土。炭化物微量含む。
- 11. 黒茶褐色土 黒色土、暗褐色土混合層。1~3mm大ロームやや多い。
- 12. 暗茶褐色土 充填層。1~3mm大ローム、炭化物含む。
- 13. 暗茶褐色土 1~2mm大ローム含む。
- 14. 暗茶褐色土 13層類似。ローム混入減少。
- 15. 暗茶褐色土 14層類似。ローム混入さらに減少。
- 16. 赤色土 焼土砂主体。暗茶褐色土混入。
- 17. 赤色土 焼土、焼土ブロック含む。
- 18. 暗茶褐色土 10~30mm大ロームブロック、暗茶褐色土充填層。
- 19. 暗茶褐色土 焼土、焼土粒。炭化物微量混入。
- 20. 暗茶褐色土 暗茶褐色土に粘土砂混入。
- 21. 暗茶褐色土 16層類似。焼土砂減少。
- 22. 赤褐色土 赤化ハードローム。火床部分。
- 23. 暗茶褐色土 ローム土主体。粘土砂壁に貼りつく。
- 24. 茶灰色砂 粘土砂主体。ローム、暗茶褐色土混入。
- 25. 暗茶褐色土 ロームブロック混入。



第103図 27D出土遺物

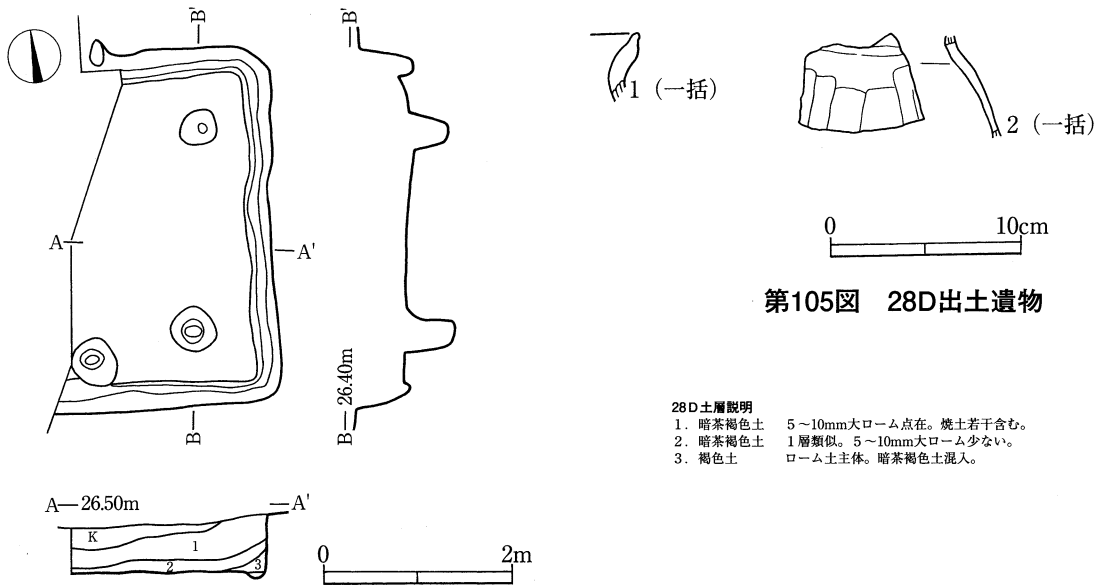
27D遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 坏	完形	4.1	10.6	7	淡橙褐色	白色粒、雲母 赤色スロリヤ	箱形ロクロ土師器。 体部下端、底部全面手持ちヘラ削り。
2 土師器 坏	完形	3.7	11.9	8.3	淡橙褐色	長石 小石、雲母	ロクロ成形。底部切離しは不明。ほぼ全面にヘラ削り調整。 体部中位に判読不明墨書あり。灯明皿として使用。
3 土師器 坏	完形	4.1	10.5	7.6	淡橙褐色	長石・雲母 石英	ロクロ成形。 体部下端と底部全面手持ちヘラ削り調整。
4 土師器 坏	口辺部 ~体部1/5	3.3	12.9	7	橙褐色	長石 小石粒	ロクロ成形。 内外面などで調整。
5 須恵器 坏	口辺部~体部1/5	3.7	13	8.4	灰白色	雲母 長石	ロクロ成形。 体部下端回転ヘラ削り。
6 土師器 甕	底部全周	2.1	—	4.5	外淡橙褐色 内淡茶褐色	赤色スロリヤ 雲母・石英・ 長石	胴下端部外面ヘラ削り。 内面ヘラなどで調整。
7 砥石		全長 7.1cm	幅 4.8cm	厚さ 2.9cm	重さ 185.4g		三面に使用痕、他一面に敲打痕。

28D (第104~105図 図版7)

位置 B3区-4, B4区-2Gで検出された。主軸方位 N-6°-E。重複関係 単独。平面形 方形を呈する。規模 3.80m×(1.90m), 遺構確認面からの深さ0.50m。壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードロームまで掘り込んで、床面とする。やや凹凸を有し、P1の周囲がくぼむ。周溝 調査範囲内では廻らせている。カマド 北壁の中央部か。右袖部が残存する。ピット 3本検出。P1・P2

が支柱穴で、P 3は出入口に伴うものと思われる。覆土 3層に分層できた。最上部に攪乱の土層が載るが、その下は埋め戻し土である。遺物出土状態 覆土中から、土師器片が少量出土した。遺物分布図を作成する程のものはなかった。建て替え 認められなかった。



第105図 28D出土遺物

28D土層説明
 1. 暗茶褐色土 5~10mm大ローム点在。焼土若干含む。
 2. 暗茶褐色土 1層類似。5~10mm大ローム少ない。
 3. 褐色土 ローム土主体。暗茶褐色土混入。

第104図 28D遺構実測図

28D 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 甕	口辺部	3.8	—	—	淡茶褐色	小石粒 白色粒	内外面横など。
2 土師器 甕	胴部	5.3	—	—	淡黒褐色	赤色スコリヤ 白色粒	外面頸部横など、体部縦位ヘラ削り。 内面横など。

29D (第106~110図 図版8・18)

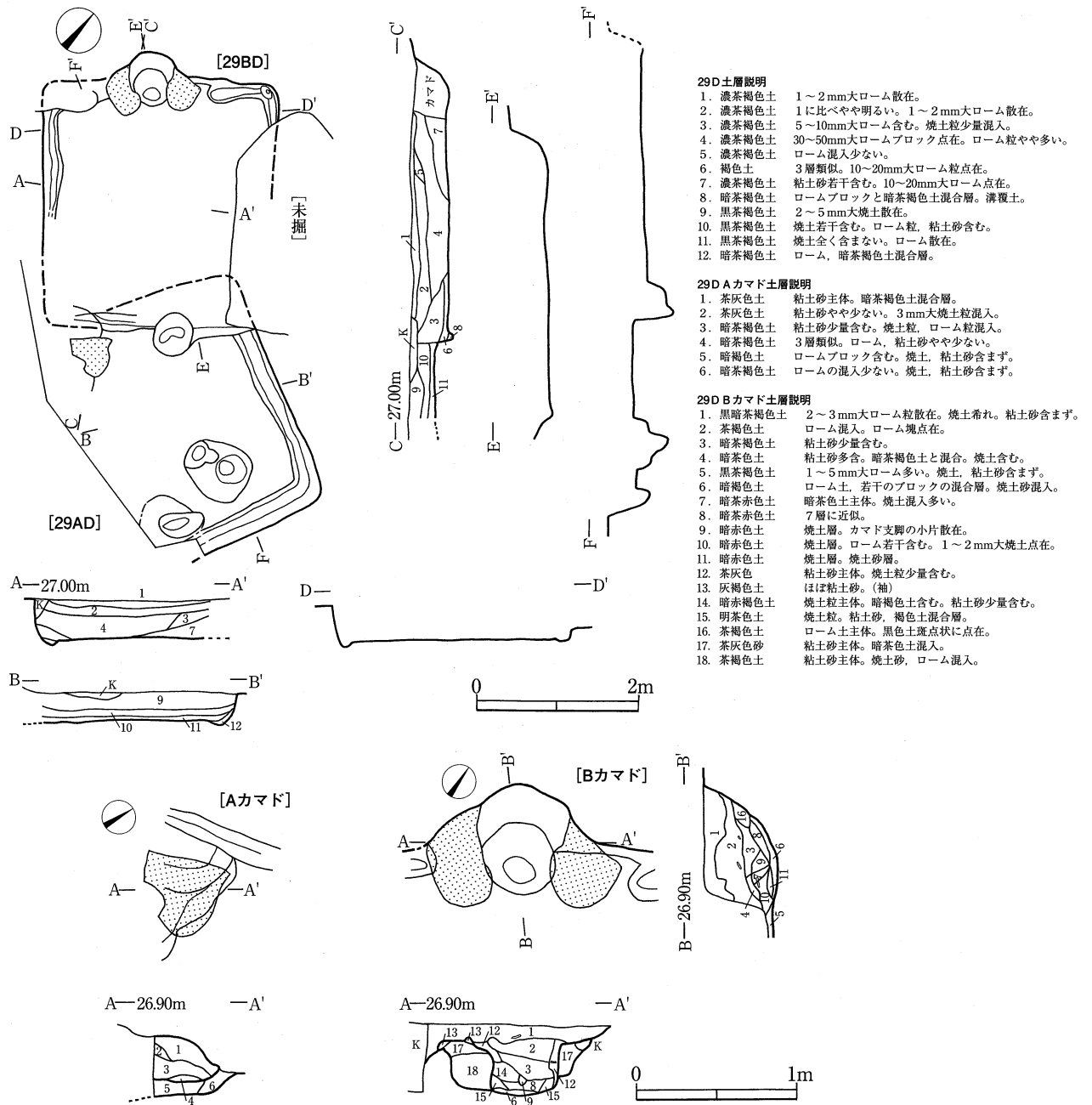
[29A D]

位置 C 5区 - 2 Gで検出。主軸方位 N - 67° - W。重複関係 BDに切られる。平面形 方形。規模 (3.28m) × (2.75m), 深さ0.34m。壁 ほぼ垂直。床 ハードロームまで掘り込む。周溝 廻らせている。カマド 北壁の中央部。右袖部が残存。ピット 4本検出。P 1 ~ P 3が支柱穴。P 1に建て替えの形跡。P 3はP 2の建て替え。P 4は出入口。覆土 3層に分層できた。埋め戻しか。遺物出土状態 垂直分布的には、上層に集中し、2と8は接合距離が長い。建て替え 建て替えが認められた。

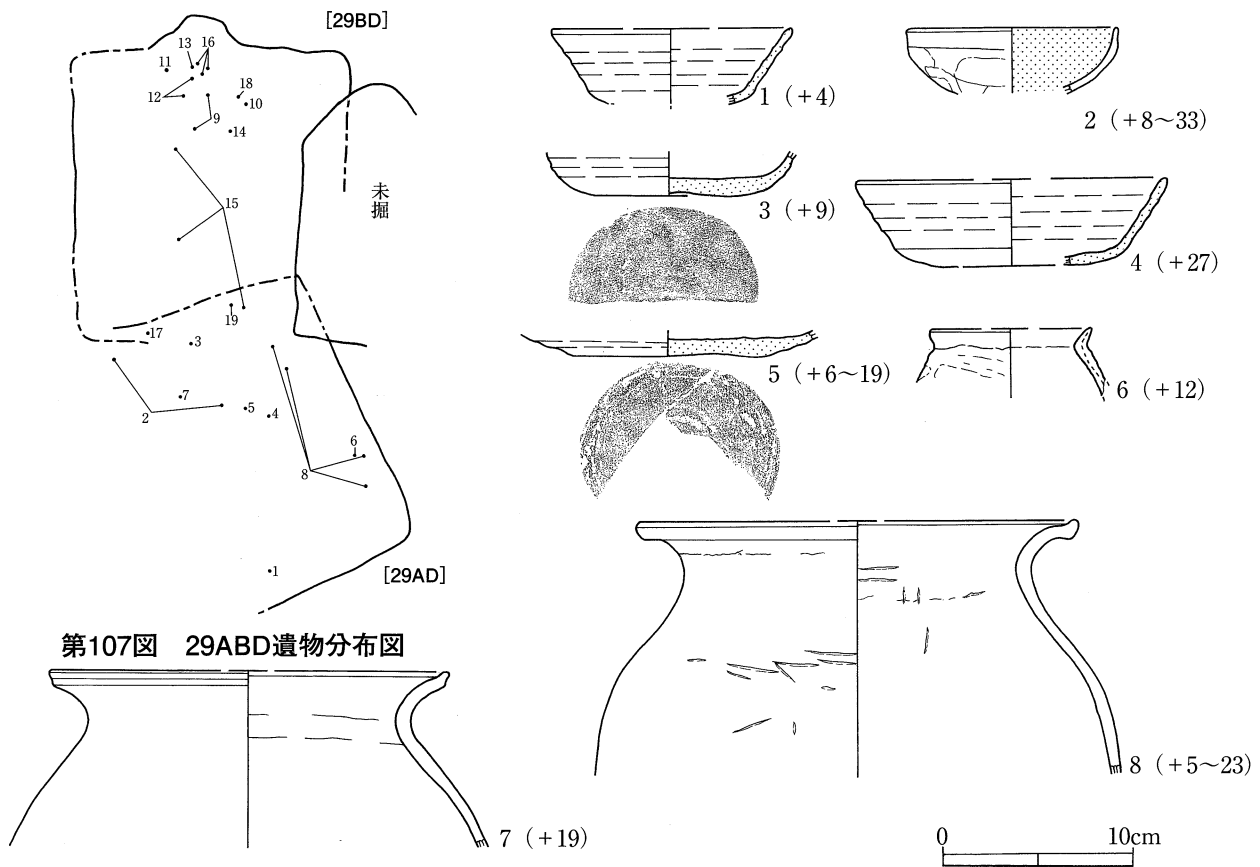
[29B D]

位置 C 5区 - 1 Gで検出。主軸方位 N - 43° - W。重複関係 ADを切る。平面形 方形。規模 2.94m × 3.20m, 遺構確認面からの深さ0.46m。壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードロームまで掘

り込んで、床面とする。周溝 カマド前面を除いて全周か。カマド 北壁の中央部。両袖部と煙道部が
 残存し、焚口部は焼けている。ピット 検出されず。覆土 9層に分層できた。濃茶褐色土系が主体。
 遺物出土状態 平面分布的には、カマド内及び前面付近に集中する。垂直分布的には、カマド内、床面
 及び覆土上層の三者がある。接合関係は、15のみ広範囲で接合する。建て替え 認められず。

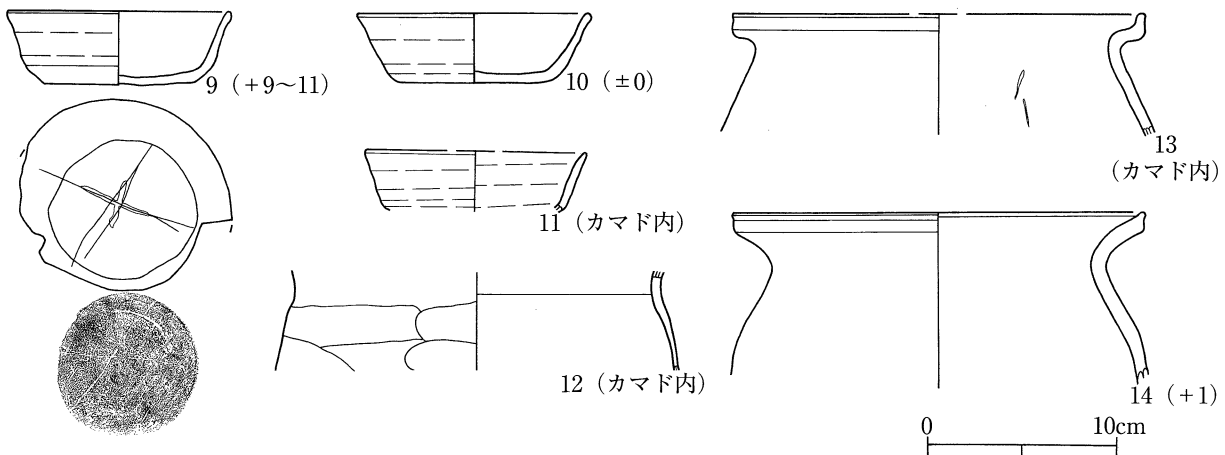


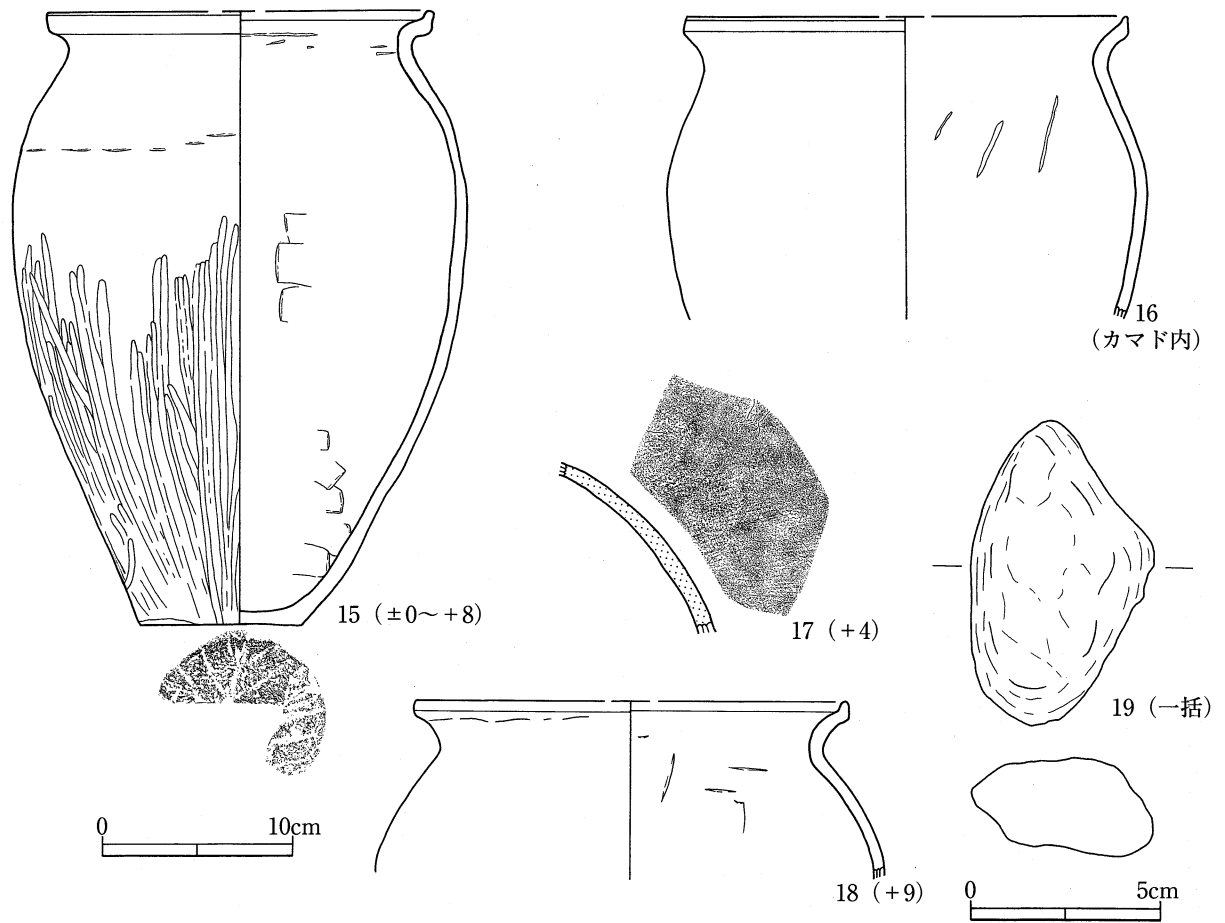
第106図 29ABD遺構実測図



29D 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 須恵器 坏	口辺部 ~体部1/4	4	12.6	—	茶灰色	雲母 白色粒	ロクロ成形。 内外面など。
2 土師器 坏	口辺部	3.4	11.2	—	淡橙褐色	白色粒	口辺部横などで。 内面黒色処理か。外面ヘラ削り。
3 須恵器 坏	底部	2.3	—	8	灰白色	雲母 小石粒	ロクロ成形。 内外面など。
4 須恵器 坏	口辺部 ~底部1/5	4.6	16.2	7.4	茶灰色	雲母 小石粒	ロクロ成形。 内外面など。体部下端、底部周縁手持ちヘラ削り。
5 須恵器 盤	体部 ~底部	1.4	—	10	灰白色	雲母 小石粒	ロクロ成形。 内外面など。底部回転ヘラ削り調整。
6 土師器 甕	口辺部 ~底部1/5	3.6	8.2	—	赤色スロリヤ 白色粒		口辺部内外面横などで。胴部ヘラ削り。手ずくね風。 外面が薄く剥がれる。





第110図 29BD出土遺物 (2)

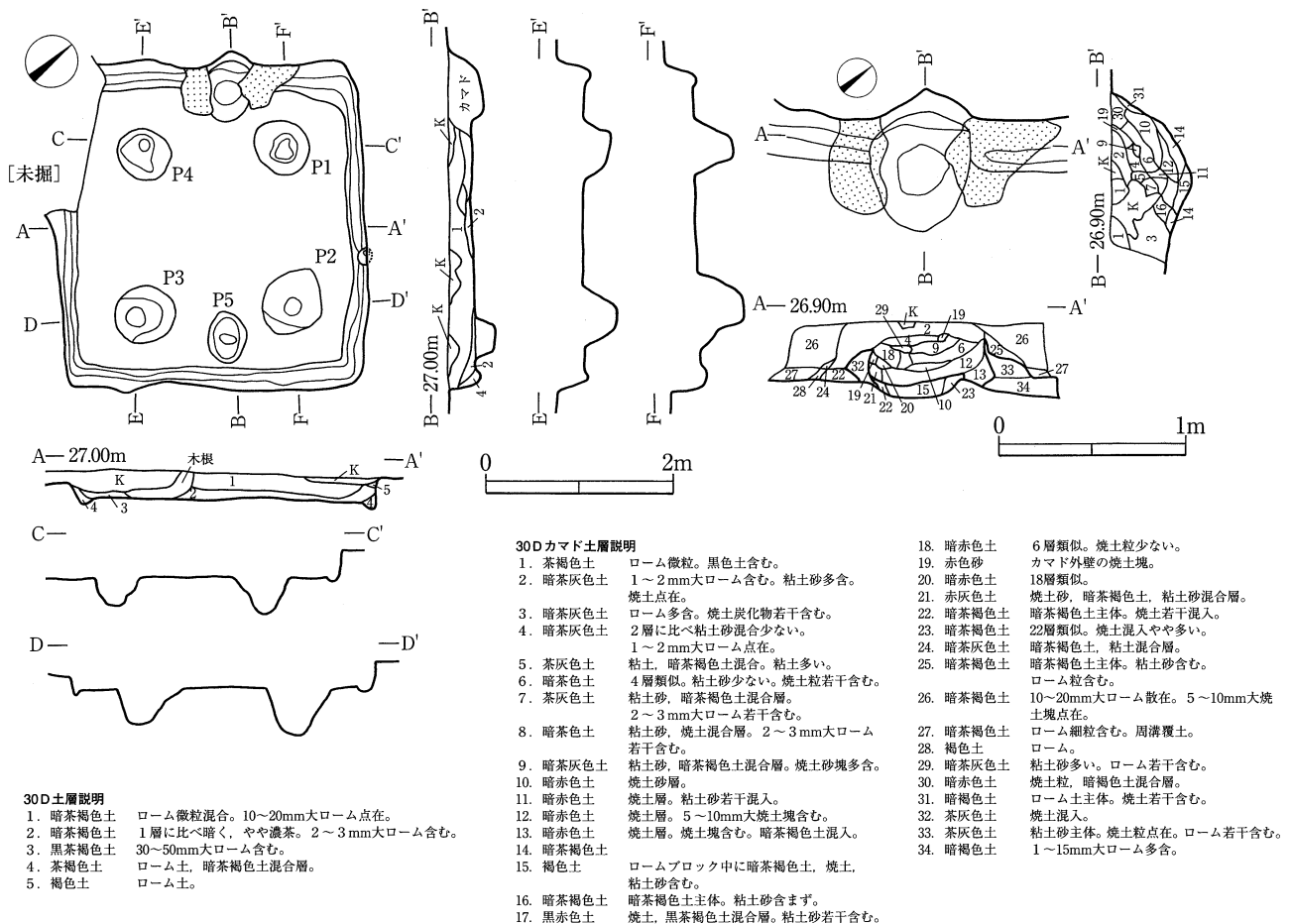
29D遺物観察表 (2)

	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
7	土師器 甕	口辺部	9.2	20.8	—	淡橙褐色	雲母 白色粒	頸部内面に輪積痕。 口辺部内外面まで。
8	土師器 甕	口辺部	13.3	22.6	—	外淡橙褐色 内淡茶褐色	雲母, 小石粒 白色粒	輪積み痕有 口辺部内外面まで。一部黒斑あり。
9	土師器 坏	完形	3.9	11.5	7.6	橙褐色	赤色スコリヤ 白色粒, 小 石粒	ロクロ成形。内外面まで。 底部切離しは回転ヘラ切り後まで。体部下端ヘラ削り調整。
10	土師器 坏	完形	3.7	12.1	7.3	淡橙褐色	赤色スコリヤ 白色粒	ロクロ成形。 内外面まで。底部切離しは、回転ヘラ切り。周縁まで。
11	土師器 坏	口辺部 ～体部小片	3.2	11.4		淡赤褐色	雲母, 砂粒	ロクロ成形。 内外面まで。体部下端ヘラ削り。
12	土師器 甕	頸部 ～胴部小片	3.2	頸部径 9		赤褐色	砂粒 雲母	頸部横まで。外面ヘラ削り。内面まで。 胴部に横方向のヘラ削りによる凹凸がある。武蔵型甕。
13	土師器 甕	口辺部片1/4	6.4	21.6		淡黄色	雲母 砂粒	口辺部横まで。 外面まで、内面横まで。常総型甕。
14	土師器 甕	口辺部1/4	9.2	20.8	—	淡橙褐色		口辺部内外面まで。 輪積み痕あり。
15	土師器 甕	口辺部 ～底部の1/2	32.3	20.4	8.5	淡橙褐色	雲母, 小石粒 黒色粒	外面頸部ヘラまで。胴部中央～下端ヘラ磨き。底部木葉痕。 内面ヘラまで。胴部中央右ヘラまで。胴部下位左ヘラまで。
16	土師器 甕	口辺部片1/4	16	23		淡褐色	赤色スコリヤ 雲母, 砂粒	常総型甕。口辺部横まで。外面ヘラ削り後まで。 内面ヘラ削り後まで。
17	須恵器 甕	肩部	17.5	—	—	外暗青灰色 内青灰色	密	外面は叩き目文、内面当て具痕 内面まで調整。自然釉がかかる。
18	土師器 甕	口辺部	9.4	22.8	—	外淡橙褐色 内淡茶褐色	小石粒 白色粒	口縁直下に輪積み痕が顕著。 内外面とも調整。
19	砥石		全長 8.1	幅 4.7	厚さ 2.6 重さ 20g			砂岩

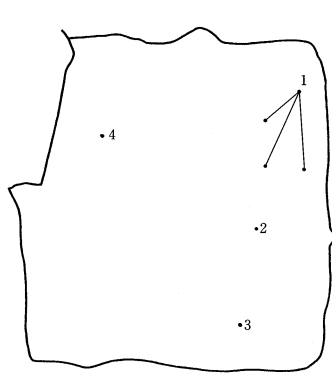
備考 本跡は住居跡2軒が重複したものである。時期的には、ADが八千代NH1期（7世紀末葉～8世紀前半）で、BDは八千代NH4期（8世紀第IV四半期）と、近接した時間内における重複例となる。住まいの流れとしては、AD（旧）→BD（新）となり、BDの構築はADが埋め戻され、更地に戻ってから後のことである。

30D（第111～113図 図版8）

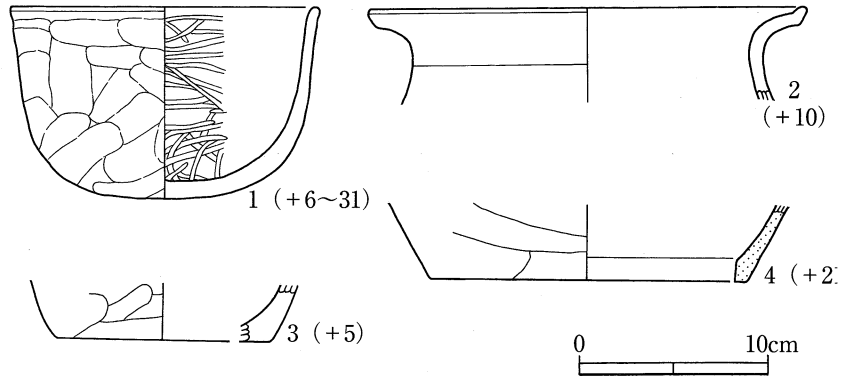
位置 C5区-1・3・4Gで検出された。**主軸方位** N-50°-Wで、西に傾く。**重複関係** 単独。**平面形** 方形を呈する。**規模** 3.50m×3.26m、遺構確認面からの深さ0.29m。**壁** ほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードロームまで掘り込んで、床面とする。**周溝** カマド前面を除いて全周か。北東コーナーを除いて、幅はほぼ均一で、きっちりと掘られている。東壁下に周溝内柱穴を1本穿つ。**カマド** 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。両袖部とも二段ほど構築土を積み上げて作られている。焚口部は皿状を呈し、煙道部は急斜面となる。**ピット** 5本検出。P1～P4が主柱穴である。P5は出入口に伴うものと思われる。P1及びP4に建て替えの形跡ありか。**覆土** 5層に分層でき、暗茶褐色土系を主体とした埋め戻し土である。**遺物出土状態** 平面分布的には、散漫。垂直分布的には、上層に目立つ。接合関係は、1が約1.5m離れて接合する。**建て替え** 可能性がある。



第111図 30D遺構実測図



第112図 30D遺物分布図



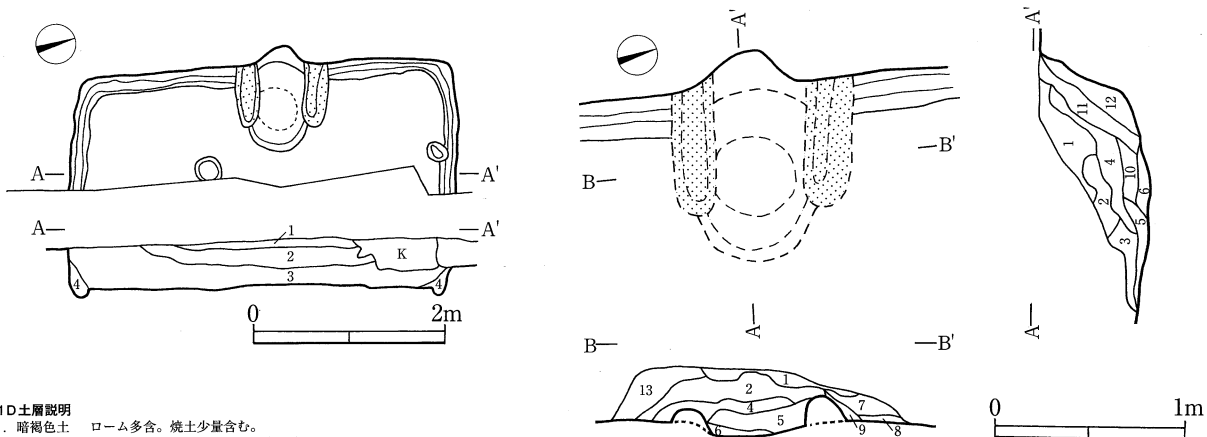
第113図 30D出土遺物

30D 遺物観察表

	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器鉢	口辺部~底部1/3	10	16	—	外淡赤褐色 内黒色	赤色粒 白色粒	外面ヘラ削り。 内面なで、磨き。
2	土師器甕	口辺部片1/5	4.9	22.8	—	淡赤褐色	雲母、砂粒	口辺部内外面横なで。 胴部内外面なで。常総型甕。
3	土師器甕	底部小片	3	—	11.4	淡褐色 内淡黒色	白色粒 赤色粒	外面ヘラ削り。内面なで。 常総型甕底部。
4	須恵器甕	底部片1/5	4	—	16.6	淡赤褐色	砂粒、白色粒 雲母、赤色粒	外面ヘラ削り。内面なで。 底部内外面なで。五孔式。

31D (第114図)

位置 C10区-4Gで検出された。**主軸方位** N-68°-Wで、西に傾く。**重複関係** 本跡は半分弱の調査であるが、単独と思われる。**平面形** 方形を呈する。**規模** 4.00m×(1.43m)、遺構確認面からの深さ0.46m。**壁** ほぼ垂直に立ち上がる。**床** ハードルームまで掘り込んで、床面とする。**周溝** カマド前面を除いて全周か。幅はやや狭いが、全体的にきっちりと掘られている。**カマド** 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、火床部は焼けている。両袖部は、一段ほど構築土を積んで作り上げている。焚口部は皿状に掘り込まれ、煙道部は急傾斜となる。**ピット** 2本検出。P1が主柱穴である。P2は補助的な柱穴の類と思われる。**覆土** 4層に分層できた。暗褐色土系を主体とし、埋め戻し土である。2層中には炭化材が含まれることから、廃屋後に廃材類の焼却処理を行った可能性が高い。埋め戻しはこの後に行ったものである。**遺物出土状態** 覆土中から土器小片が少量出土したが、図化できるものはなかった。**建て替え** 認められなかった。**備考** 本跡は、廃屋後に廃材の焼却処理を行った後、埋め戻された。ただ、炭化材は平面図に図化する程ではないため、焼却した廃材は比較的少量であったと思われる。また、覆土中の遺物は、土器小片が少量出土したのみであることから、使用可能な「器(うつわ)類」は、ことごとく移転先へ持ち去った可能性を指摘しておく。



31D土層説明

- 1. 暗褐色土 ローム多含。焼土少量含む。
- 2. 暗褐色土 ローム多含。ロームブロック微量含む。焼土、炭化材少量含む。
- 3. 褐色土 ローム、ロームブロック多含。焼土、炭化材含む。
- 4. 暗褐色土 褐色土少量含む。ローム微量含む。

31Dカマド土層説明

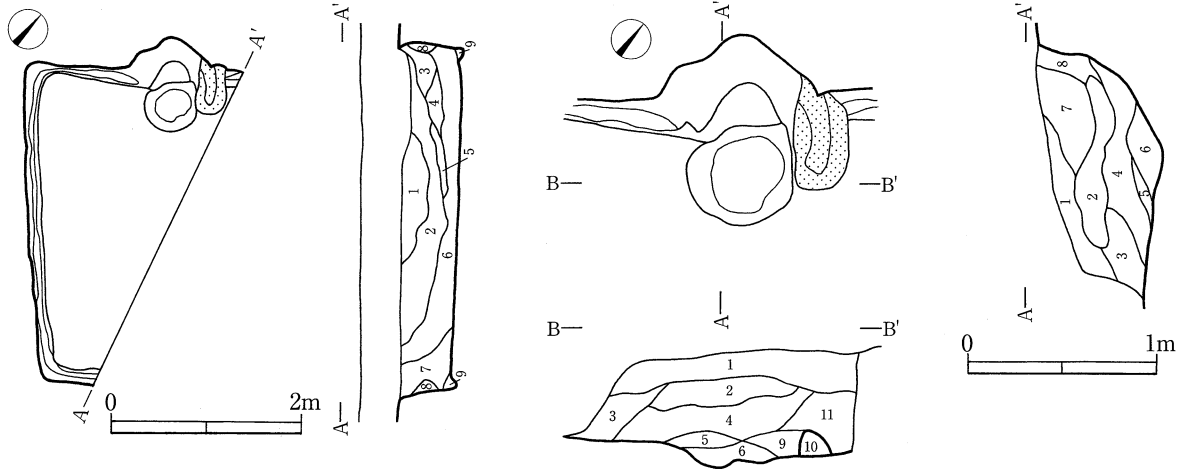
- 1. 暗褐色土 灰白色粘土まばら。ロームやや多い。
- 2. 暗褐色土 褐色土。灰白色粘土やや多い。焼土少ない。
- 3. 暗褐色土 褐色土。灰白色粘土、ロームブロックまばら。焼土、炭化物少ない。
- 4. 灰白色粘土 暗褐色土。焼土少量含む。
- 5. 暗褐色土 褐色土。灰白色粘土粒まばらに含む。焼土やや多い。
- 6. 焼土ブロック 焼土ブロック主体。ロームブロック微量混入。
- 7. 暗褐色土
- 8. 暗褐色土
- 9. 暗褐色土
- 10. 灰白色粘土
- 11. 暗褐色土
- 12. 暗褐色土
- 13. 暗褐色土

- ロームブロック主体。焼土、炭化物少量混入。ローム、ロームブロック主体。焼土、炭化物微量混入。
- 灰白色粘土粒多含。焼土、炭化物少ない。焼土、暗褐色土多い。
- 灰白色粘土粒主体。焼土、炭化物微量混入。褐色土斑点状に混入。灰白色粘土。焼土少ない。
- ローム、ロームブロック多含。

第114図 31D遺構実測図

32D (第115図)

位置 B6区-4Gで検出された。**主軸方位** N-40°-Wで、西に傾く。**重複関係** 単独。**平面形** 方形を呈する。**規模** 3.33m×(2.30m)、遺構確認面からの深さ0.60m。**壁** 垂直気味に立ち上がる。**床** ハードロームまで掘り込んで、床面とする。**周溝** カマド前面を除いて全周か。**カマド** 北壁の中央部。右袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。袖部は構築土を一段積んで作られている。煙道部は急傾斜となる。**ピット** 調査部分からは検出されず。**覆土** 9層に分層できた。暗褐色土系を主体とし、埋め戻し土である。**遺物出土状態** 覆土中から土器小片が少量出土したが、図化できるものはなかった。**建て替え** 認められなかった。



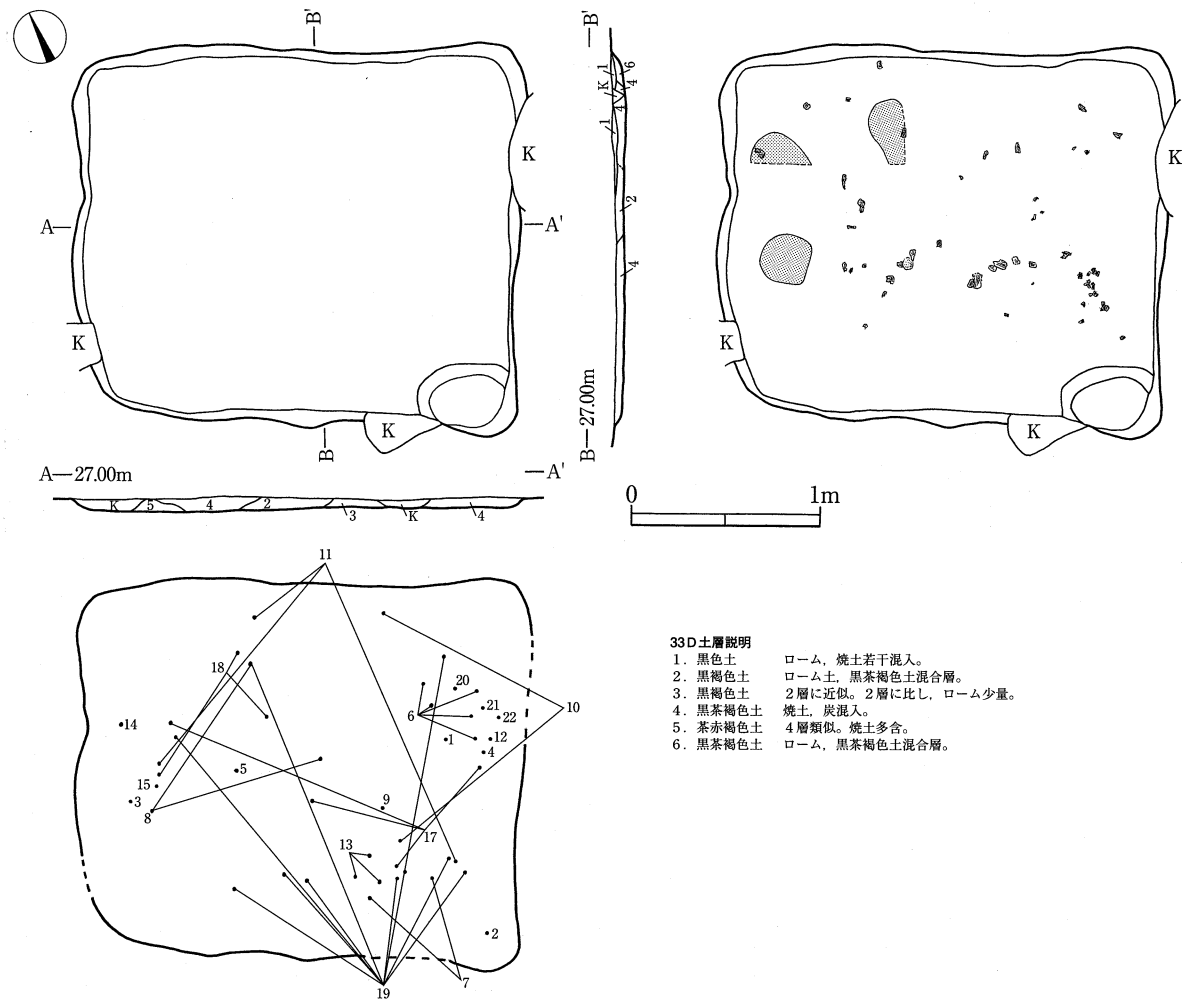
32D土層説明

- 1. 暗褐色土 褐色土、黒褐色土混合層。焼土、炭化物少量含む。
- 2. 褐色土 ローム、ロームブロック多含。焼土、炭化物微量含む。
- 3. 暗褐色土 ローム主体。焼土少ない。
- 4. 暗褐色土 ローム主体。ロームブロック少量含む。粘土混入。
- 5. 暗褐色土 黒褐色土斑点状に混入。ロームブロック、焼土微量含む。
- 6. 褐色土 ローム、ロームブロック多含。焼土少ない。
- 7. 暗褐色土 褐色土少ない。ローム、ロームブロック微量含む。
- 8. 褐色土 ローム、ロームブロック多含。
- 9. 暗褐色土 褐色土主体。ローム、ロームブロック微量含む。

32Dカマド土層説明

- 1. 暗褐色土 灰白色粘土を斑点状に含む。
- 2. 暗褐色土 ローム、ロームブロック多含。焼土、炭化材少量含む。
- 3. 暗褐色土 暗褐色土、ロームブロック混入。
- 4. 暗褐色土 褐色土、灰白色粘土、焼土、炭化材を含む。
- 5. 暗褐色土 灰白色粘土多含。ローム、ロームブロック混入。
- 6. 焼土
- 7. 暗褐色土 灰白色粘土多含。焼土少ない。
- 8. 暗褐色土 褐色土斑点状に含む。灰白粒、ローム少量含む。
- 9. 暗褐色土 灰白色粘土多含。褐色土、ローム微量含む。
- 10. 灰白色粘土 ロームブロック微量含む。
- 11. 灰褐色土 ローム、ロームブロック多含。焼土微量含む。

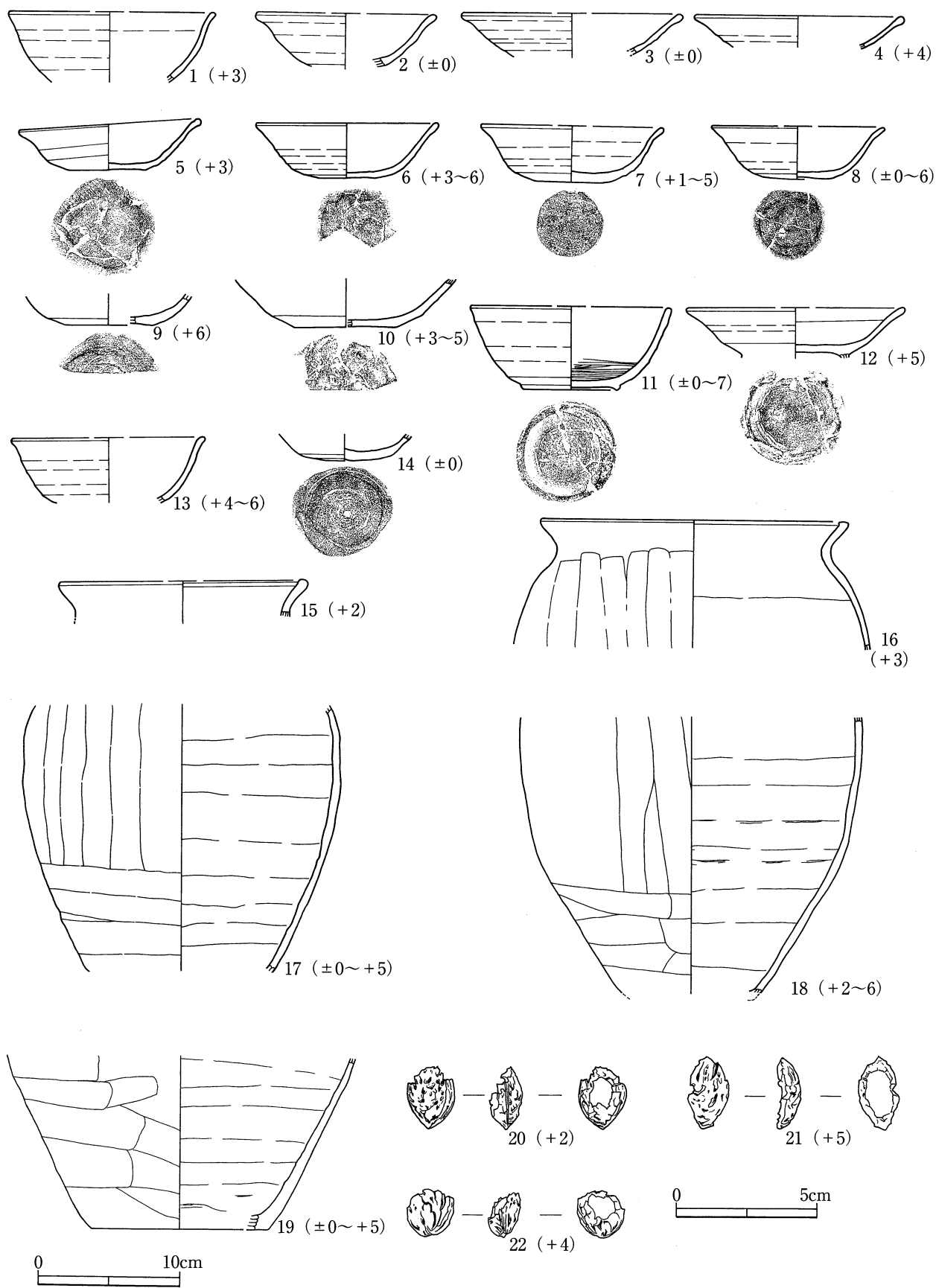
第115図 32D遺構実測図



第116図 33D遺構実測図

33D (第116・117図 図版18)

位置 D5区-2Gで検出された。**主軸方位** N-25°-Eで、東に傾く。**重複関係** 単独。**平面形** やや不整な長方形を呈する。**規模** 4.02m×4.70m、遺構確認面からの深さ0.15m。**壁** 比較的ゆるやかに立ち上がる。**床** ソフトロームまで掘り込んで、床面としているため、浅い。**周溝** 廻らせていない。**カマド** 明瞭なものは検出されていないが、南東コーナーの浅い皿状のピットが、焚口部か。**ピット** 調査部分からは検出されず。**覆土** 6層に分層できた。黒褐色土系主体とし、埋め戻し土と思われる。焼土・炭化材が分布するため、廃屋後に廃材などの焼却行為を行った可能性が高い。**遺物出土状態** 平面分布的には、床面東・南・西の3ブロックが認められる。垂直分布的には、床面レベルから覆土下層覆土中に集中する。接合関係を見ると、少なくとも8・10・11・19は廃棄、しかもばらまかれた状態を示唆している。このため、離れた破片同士が接合する。その他では、覆土中から、モモ類の種子が3点出土している。**建て替え** 認められなかった。**備考** 本跡は、廃屋後に廃材の焼却処理を行い、しかる後に多量の土器類とモモの種子を廃棄したようである。この後埋め戻しを行って、更地に返したのであろう。炭化材の出土状態を見ると、細かく割れて散乱気味であるので、ある程度下火になる頃に土砂をかけて消したものと思われる。そして、土器類に二次焼成や、ケロイド状の焼けただれが見られないことから、消火後の廃棄行為と捉えられよう。モモは刀子などで果肉を抉り取るように食べた痕跡がある。



第117图 33D出土遺物

33D 遺物観察表

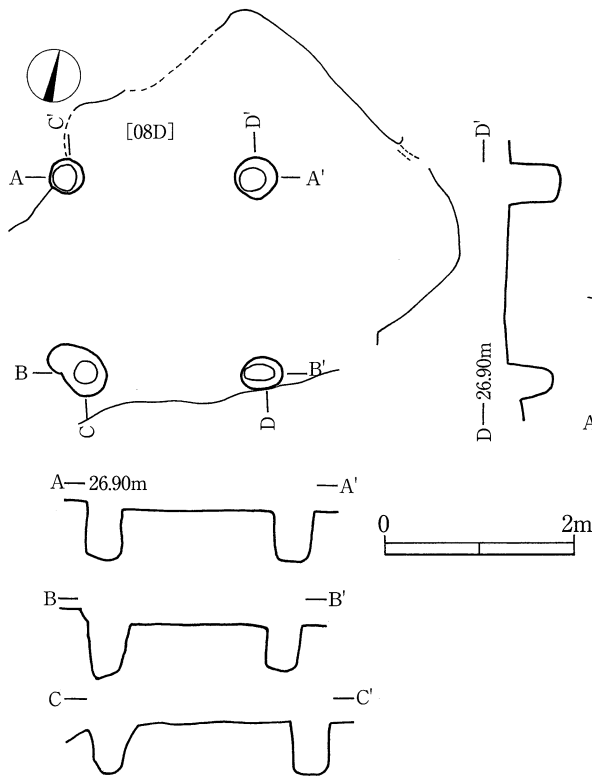
	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 埴	口辺部 ～体部1/5	4.9	14.2	—	淡橙褐色	砂粒	ロクロ成形。
2	土師器 坏	口辺部 ～体部1/5	3.7	12.6	—	外淡橙褐色 ～淡黒灰褐色 内淡黒灰褐色	砂粒 雲母	ロクロ成形。 体部下端回転ヘラ削り。
3	土師器 坏	口辺部 ～体部1/5	2.8	15.6	—	淡橙褐色	石英 白色粒	ロクロ成形。 口縁外反する。内外面など。
4	土師器 坏	口辺部 ～体部1/5	2.2	19.8	—	淡橙褐色 ～淡黒褐色	白色粒	ロクロ成形。
5	土師器 坏	口辺部 ～底部3/4	3.6	12.7	5.6	淡橙褐色 ～淡黒褐色	雲母 白色粒	ロクロ成形。切離し不明。全面回転ヘラ削り調整。 口縁部に段。体部下端ヘラ削り調整。
6	土師器 坏	口辺部 ～底部1/3	3.9	12.6	4	外淡褐色～ 淡茶褐色 内淡橙褐色	白色粒 小石粒	ロクロ成形。底部周縁回転ヘラ削り後など。 口辺部など。体部下端ヘラ削り。
7	土師器 坏	口辺部 ～底部3/4	4	12.8	4.8	外面淡褐色 ～淡黒褐色	白色粒	ロクロ成形。 回転糸切離し後周縁回転ヘラ削り調整。体部下端ヘラ削り調整。
8	土師器 坏	口辺部 ～底部1/3	3.7	12	4.1	外淡橙褐色 内淡褐色	白色粒 小石粒	ロクロ成形。口辺部内外面など。体部下端ヘラ削り。 底部切離し回転糸切り後、周縁回転ヘラ削り調整。
9	土師器 坏	体部 ～底部1/5	2.2	—	6	淡橙褐色	白色粒 小石粒	ロクロ成形。 底部、体部下端ヘラ削り調整。内面など。
10	土師器 坏	口辺部 ～体部1/5	3.4	7.4	—	淡橙褐色	白色粒	ロクロ成形。底部切離し回転糸切り後、周縁ヘラ削り調整。 外面体部下端ヘラ削り調整。
11	土師器 高台付埴	口辺部 ～底部1/4	5.9	14	6.4	淡橙褐色 一部淡黒色	白色粒 雲母	ロクロ成形。底部回転ヘラ削り。付け高台内ヘラ削り。 体部下端ヘラ削り。外面黒斑あり。
12	土師器 高台付坏	口辺部 ～底部1/2	3.5	15.4	5.5	外橙褐色 内淡橙褐色 ～淡黒褐色	赤色スコリヤ 白色粒	ロクロ成形。底部切離し回転糸切り後、周縁回転ヘラ削り調整。 体部下端ヘラ削り。
13	土師器 埴	口辺部 ～体部	4.6	13.2	—	淡黒灰褐色	雲母 白色粒	ロクロ成形。
14	土師器 坏	底部	1.9	—	5	淡褐色	小石粒 白色粒	ロクロ成形。底部切離し回転ヘラ切り無調整。 体部下端ヘラ削り調整。
15	土師器 甕	口辺部1/4	2.5	17.6	—	淡橙灰褐色	赤色粒、白 色粒 石英、小石粒	内外面など。 口縁内側に段あり。
16	土師器 甕	口辺部1/3	8.9	21.8	—	外淡褐色 内淡橙褐色	小石粒 白色粒	口辺部横など。口縁部内側に段あり。 胴部外面縦位のヘラ削り。
17	土師器 甕	胴部	18.8	22	—	淡橙褐色 一部淡黒色	白色粒 小石粒	胴部外面縦位、胴下半は横位のヘラ削り。黒斑あり 輪積み痕あり。内面はなで。
18	土師器 甕	口辺部 ～体部	19.5	24.2	—	淡褐色	砂粒	胴部外面縦位、胴下半は横位のヘラ削り。 内面はなで。
19	土師器 甕	体部 ～底部1/3	12.3	—	12.4	外淡橙褐色 内茶色味の 淡橙褐色	白色粒 小石粒	ロクロ使用か。 黒斑。胴部外面横位のヘラ削り。 内面など。
20	炭化種子		全長 7.2	全幅 1.7	厚さ 1.1	黒色	重さ 1.1g	モモの種子か。 果肉を鋭利な刃物で抉り取った痕跡がある。
21	炭化種子		全長 2.6	全幅 1.5	厚さ 0.8	黒色	重さ 1g	モモの種子か。 果肉を鋭利な刃物で抉り取った痕跡がある。
22	炭化種子		全長 1.7	全幅 1.7	厚さ 1	黒色	重さ 1g	モモの種子か。 果肉を鋭利な刃物で抉り取った痕跡がある。

第4節 掘立柱建物跡 (H)・方形周溝墓 (HS)・ピット (P)

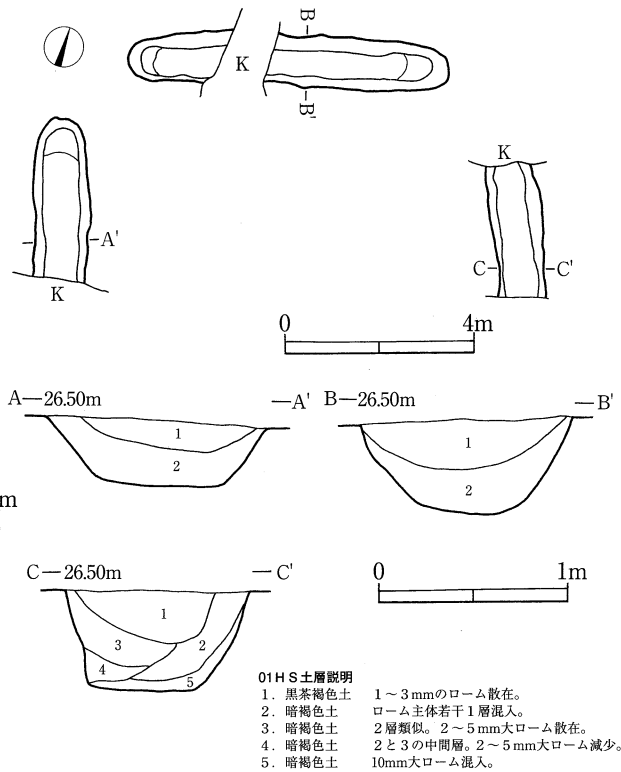
掘立柱建物跡はわずかに1棟のみであり、調査区の南半に位置する。方形周溝墓もわずかに1基のみであり、調査区の北東に位置する。ピットは、調査区北半のものは単独で、調査区中央から南半のものは、何群かに群在化し、F7・F8・F9区にその傾向が顕著である。

O1H (第118図 図版8)

位置 E8区。**重複関係** 08Dを切る。**主軸** N-15°-E。**構造** 桁行が1間×梁間1間である。**規模** 桁行2.53m、梁間2.43mを測る。**柱間距離** 桁行2.05～2.07m、梁間1.95～1.85mを測る。桁行・梁間とも、比較的等間隔である。**掘り方** 1本を除き、他は略円形を呈するもので、径0.40～0.50mにおさまる。柱穴深度は、概ね0.60mを中心とし、南西のもののみ0.72mと、やや深くなっている。**出土遺物** 出土しなかった。**備考** 本跡は側柱建物ではなく、高床式倉庫などの可能性がある。



第118図 01H遺構実測図



第119図 01HS遺構実測図

01HS土層説明
 1. 黒茶褐色土 1~3mmのローム散在。
 2. 暗褐色土 ローム主体若干1層混入。
 3. 暗褐色土 2層類似。2~5mm大ローム散在。
 4. 暗褐色土 2と3の中間層。2~5mm大ローム減少。
 5. 暗褐色土 10mm大ローム混入。

01HS (第119図 図版8)

位置 H3, I3区にまたがる。重複関係 単独。主軸 N-18° - E。形態 四隅に陸橋部を有するもの(南溝は未掘)。規模 10.80m×(5.40m)。周溝 北溝は6.68m×0.88m, 深さ0.45m。東溝は(2.80m)×1.04m, 深さ0.53m。西溝は(3.40m)×1.20m, 深さ0.33m。各溝ともほぼ直線状に掘られ, 各々の横断面形は概ね逆台形。封土 なし。埋葬施設 検出されなかった。遺物 なし。

05P (第120図)

位置 F8区。重複関係 単独。長軸 N-89° - E。平面形 やや不整な「逆L字」形。壁・底面壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凹凸に富んでいる。規模 2.59m×0.75×1.81m, 検出面からの深さは0.54mを測る。遺物 なし。

06P (第120図 図版9)

位置 E9区。重複関係 単独。長軸 方位計測なし。平面形 上部, 底部とも不整円形。壁・底面西壁はややゆるやかで, 他は垂直気味。規模 0.81m×0.78m, 検出面からの深さは0.38mを測る。覆土 3層に分層できた。遺物 なし。

07P (第120図)

位置 F9区。重複関係 単独。長軸 N-60° - E。平面形 上部楕円形, 底部円形。壁・底面壁は垂直気味に立ち上がるが, 西壁のみ緩傾斜部分を有する。底面は丸みを帯びる。規模 1.19m×0.86m, 検出面からの深さ0.53m。覆土 3層に分層でき, 埋め戻し土。遺物 なし。

08P (第120図)

位置 F9区。重複関係 単独。長軸 N-40° - W。平面形 上部はやや不整な瓢箪形。壁・底面西壁を除き, 他は垂直気味。西側の底面はテラス状となり, 東側はピット状に一段下がる。規模 (1.49)

m×0.83m×0.64m, 検出面からの深さは0.67mを測る。**備考** 本跡は2基の重複か。

09・10・13P (第120図)

位置 F9区。**重複関係** 09Pは10Pを切り, 10Pと13Pは一部重複。**長軸** 13PはN6°-E。**平面形** 09・10Pは上部, 底部とも略円形で, 13Pはやや不整な楕円形。**壁・底面** 09・10Pの壁は底面に向かって先すぼまり状となる。13Pの壁は垂直気味で, 底面はやや凹凸に富む。**規模** 09Pは1.10m×0.58m, 検出面からの深さ0.45m。10Pは0.62m×0.48m, 検出面からの深さ0.68m。13Pは1.10m×0.58m, 検出面からの深さ0.54mを測る。**覆土** 09Pは5層, 10Pが4層, 13Pは4層に分層できた。**遺物** なし。**備考** 楕円形土坑(13P)と柱穴状ピット2基(09・10P)の重複。

11P (第120図)

位置 F8区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 不整な円形。**壁・底面** 壁は垂直気味に立ち上がる。底面は丸みを帯びる。**規模** 0.68m×0.56m, 検出面からの深さは0.38mを測る。**覆土** 2層に分層でき, 暗茶褐色土系が主体で, 1層はしまっている。2層はローム土充填で, とともに埋め戻しと思われる。**遺物** 図化したものは, 須恵器甕の口縁部片である。

12P (第120図)

位置 F8区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 略円形。**壁・底面** 壁は南壁では垂直気味に立ち上がり, その他はゆるやかに立ち上がる。底面はやや丸みを帯び, 比較的凹凸が少ない。**規模** 1.11m×1.07m, 検出面からの深さは0.35mを測る。**遺物** なし。

14P (第120図)

位置 F8区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 円形。**壁・底面** 壁は垂直気味に立ち上がる。底面に向かって先すぼまり状となる。**規模** 0.45m×0.44m, 検出面からの深さは0.35mを測る。**覆土** 5層に分層でき, 埋め戻し。**遺物** なし。

15P (第120図)

位置 F8区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 円形。**壁・底面** 壁は垂直気味に立ち上がる。底面は丸みを帯びる。**規模** 0.47m×0.43m, 検出面からの深さは0.42mを測る。**覆土** 4層に分層でき, 暗茶褐色土系が主体で, 埋め戻し。**遺物** なし。

16P (第121図 図版9)

位置 F8区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 円形。**壁・底面** 壁は垂直気味で, 底面は丸みを帯びる。**規模** 0.59m×0.49m, 検出面からの深さは0.40mを測る。**遺物** なし。

17P (第121図 図版9)

位置 F8区。**重複関係** 単独。**長軸** N-35°-W。**平面形** 不整な楕円形。**壁・底面** 壁はゆるやかに立ち上がる。底面は皿状で, 中央がピット状(径約0.50m)にくぼむ。**規模** 1.91m×1.18m, 検出面からの深さは0.32mを測る。**覆土** 6層に分層でき, 埋め戻しか。**遺物** なし。

18P (第121図 図版9)

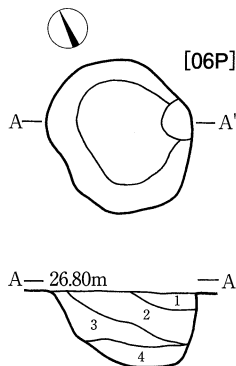
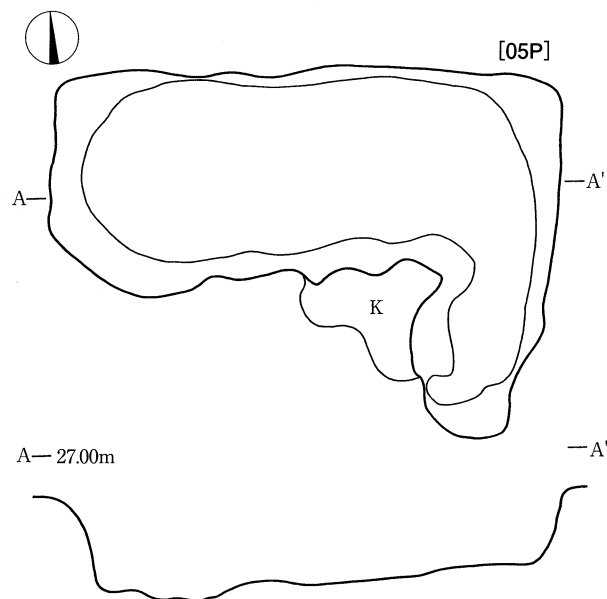
位置 F7区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 円形。**壁・底面** 底面に向かって先すぼまり状となる。**規模** 0.48m×0.41m, 検出面からの深さは0.79mを測る。**遺物** なし。

19P (第121図)

位置 F7区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 円形。**壁・底面** 底面に向かって先すぼまり状。**規模** 0.47m×0.45m, 検出面からの深さ0.77m。**覆土** 3層に分層できた。

20P (第121図)

位置 F5区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 円形。**壁・底面** 壁は垂直気味で,



06P土層説明

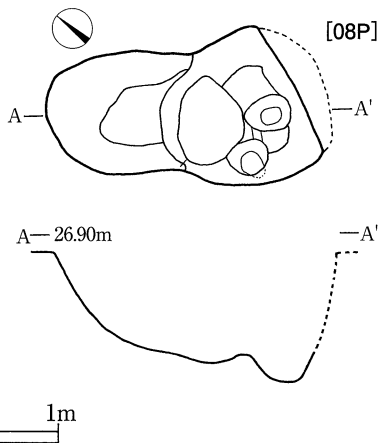
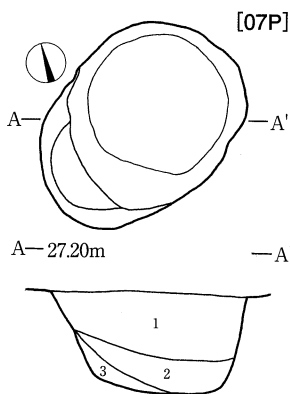
1. 黒茶褐色土 3mm大ローム散在。焼土若干含む。
2. 黒茶褐色土 3mm大、20mm大ローム多く混入。
3. 黒茶褐色土 1層に比べ、ローム多い。
4. 褐色土 ロームブロック主体。黒茶褐色土混入。

07P土層説明

1. 暗茶褐色土 1~3mm大ローム若干含む。焼土少量混入。
2. 暗茶褐色土 10~50mm大ローム散在。
3. 黒茶褐色土 ローム微量含む。

09P・10P・13P土層説明A-A'

1. 暗茶褐色土 ローム微粒を斑点状に含む。
2. 暗褐色土 ローム土と暗茶褐色土の混合。
3. 黒茶褐色土 ロームを若干含む。
4. 黒褐色土 褐色土主体。ロームブロック混入。



09P・10P・13P土層説明B-B'

1. 黒茶褐色土 20mm大ローム点在。ローム微粒混入。
2. 黒茶褐色土 5~20mm大ローム多含。
3. 黒茶褐色土 しまりなし。ローム混入少ない。
4. 黒茶褐色土 1層類似。しまりなし。
5. 暗褐色土 ローム土主体。暗茶褐色土混入。
6. 黒茶褐色土 5~20mm大ローム少量含む。
7. 暗茶褐色土 6層に比べ、ローム粒やが多い。
8. 暗茶褐色土 10~20mm大ローム若干含む。しまっている。
9. 暗褐色土 ローム土充填。

11P土層説明

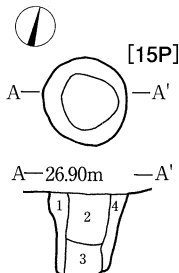
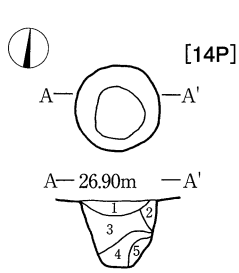
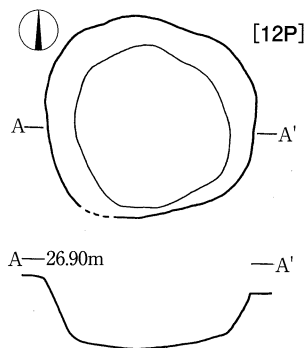
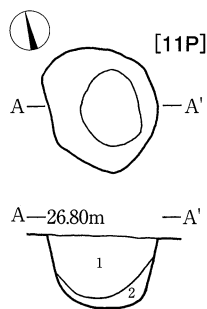
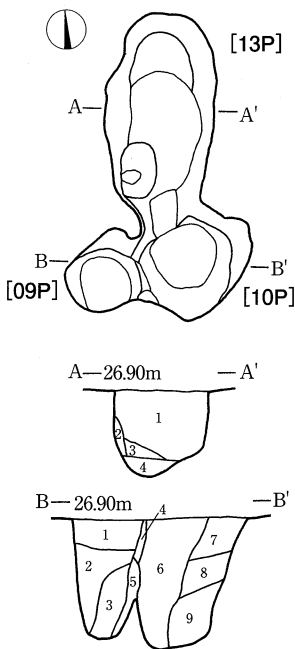
1. 暗茶褐色土 2~3mm大ローム、20~30mm大ローム点在。
2. 暗茶褐色土 10~30mm大ローム点在。ロームやや多い。

14P土層説明

1. 黒茶褐色土 ローム若干含む。
2. 褐色土 ローム土。
3. 暗茶褐色土 2~5mm大ローム多く含む。
4. 黒茶褐色土 10mm大ローム多く含む。
5. 黒褐色土 4層とロームの混合層。

14P土層説明

1. 暗茶褐色土 2~5mm大ローム多含。
2. 暗茶褐色土 ローム含まず。
3. 暗褐色土 ローム土主体。
4. 暗茶褐色土 1層に比べローム少ない。



第120図 05P~15P遺構実測図

底面は丸みを帯びる。**規模** 0.55m×0.53m, 検出面からの深さは0.51mを測る。**遺物** なし。

21・23P (第121図 図版9)

位置 F7区。**重複関係** ともに単独であるが、近接している。22Pとも近接した位置関係。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 円形。**壁・底面** 底面に向かって先すぼまり状となる。以上の3項目は、2基ともほぼ共通する。**規模** 21Pが0.42m×0.42m, 検出面からの深さ0.72mを測る。23Pは0.35m×0.31m, 検出面からの深さ0.49mを測る。**遺物** なし。

22P (第121図)

位置 F7区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 略円形。**壁・底面** 壁は垂直気味に立ち上がる。底面はテラスを一段有する。**規模** 0.52m×0.41m, 検出面からの深さは0.53mを測る。**覆土** 3層に分層でき、暗茶褐色土系が主体。**遺物** なし。

25・26P (第121図)

位置 F7区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 略円形。**壁・底面** 壁は垂直気味に立ち上がるが、壁の一部に緩傾斜を有する。以上5項目は、2基ともほぼ共通する。**規模** 25Pが0.43m×0.32m, 検出面からの深さは0.37mを測る。26Pは0.39m×0.35m, 検出面からの深さ0.47mを測る。**覆土** ともに3層に分層でき、暗茶褐色土系が主体で、埋め戻し。**遺物** なし。

27P (第121図 図版9)

位置 F7区。**重複関係** 単独。**長軸** N-55°-W。**平面形** やや不整な楕円形。**壁・底面** 壁は垂直気味に立ち上がる。底面は北西に向かって深くなる。**規模** 0.64m×0.49m, 検出面からの深さは0.34mを測る。**覆土** 4層に分層でき、埋め戻し。**遺物** なし。

28P (第121図 図版9)

位置 F7区。**重複関係** 単独。**長軸** N-36°-E。**平面形** 楕円形。**壁・底面** 壁は東壁を除き、垂直気味に立ち上がる。底面の西端はピット状にくぼむ。**規模** 1.27m×0.71m, 検出面からの深さは0.48mを測る。**覆土** 3層に分層でき、濃茶褐色土が主体で、埋め戻し。**遺物** 図示したのは、手づくね土器で、口縁端部などを欠損する。

29P (第121図)

位置 F7区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 円形。**壁・底面** 底面に向かって先すぼまり状となる。**規模** 0.47m×0.45m, 検出面からの深さは0.48mを測る。**遺物** なし。

31P (第122図 図版9)

位置 E6・E7区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 円形。**壁・底面** 壁はゆるやかに立ち上がる。底面はやや丸み帯びる。**規模** 1.23m×1.21m, 検出面からの深さは0.39mを測る。**覆土** 4層に分層でき、黒茶褐色土系が主体。**遺物** 土師器坏を図示。外面に墨書文字あり。

32P (第122図 図版10)

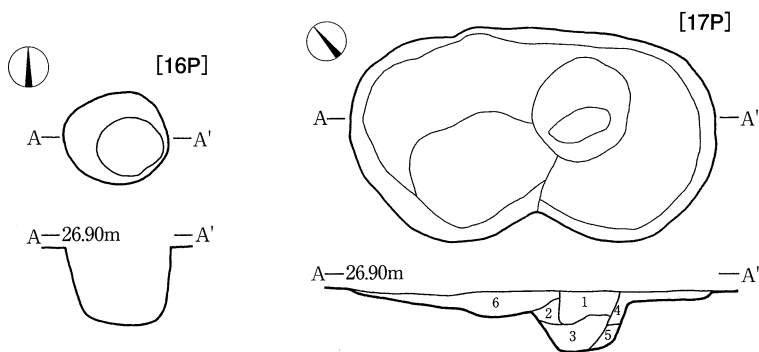
位置 E6区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 円形。**壁・底面** 横断面形は「鍋底状」。**規模** 0.76m×0.68m, 検出面からの深さ0.17m。**覆土** 2層に分層できた。**遺物** なし。

33P (第122図)

位置 E6区。**重複関係** 単独。**長軸** N-77°-E。**平面形** やや不整な円形。**壁・底面** 壁はゆるやかに立ち上がる。底面は丸みを帯びる。**規模** 0.93m×0.85m, 検出面からの深さは0.16mを測る。**覆土** 3層に分層でき、埋め戻しか。**遺物** なし。

34P (第122図 図版10)

位置 E6区。**重複関係** 単独。**長軸** 方位計測はなし。**平面形** 略円形。**壁・底面** 壁は中段まで



17P土層説明

1. 茶褐色土 山砂多含。ローム粒散在。
2. 黒茶褐色土 1～5mm大ローム若干含む。
3. 黒茶褐色土 山砂を若干含む。
4. 褐色土 暗茶褐色土若干混入。
5. 暗褐色土 暗茶褐色土とロームの混合層。
6. 茶褐色土 1～3mm大ローム散在。

19P土層説明

1. 黒褐色土 1～5mm大ローム少量含む。
2. 黒褐色土 黒色土減少。
3. 暗茶褐色土 5～10mm大ローム含む。
4. 暗褐色土 ローム土充?。

22P土層説明

1. 暗茶褐色土 2～5mm大ローム散在。山砂若干混入。
2. 暗茶褐色土 3～10mm大ローム多含。
3. 暗茶褐色土 ローム混入少ない。

25P土層説明

1. 暗茶褐色土 2～5mm大ローム少量含む。
2. 暗茶褐色土 炭化粒混入。
3. 暗茶褐色土 5～10mm大ローム少量含む。

26P土層説明

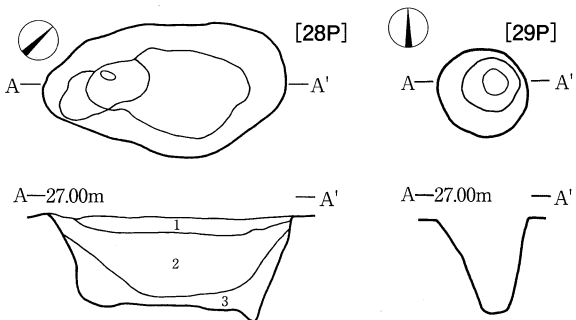
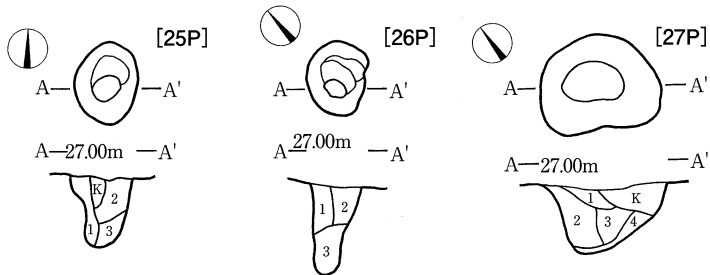
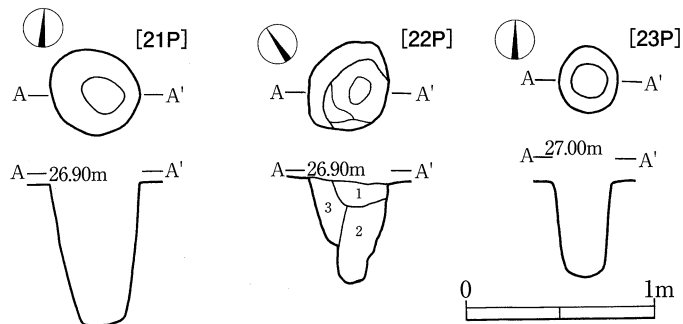
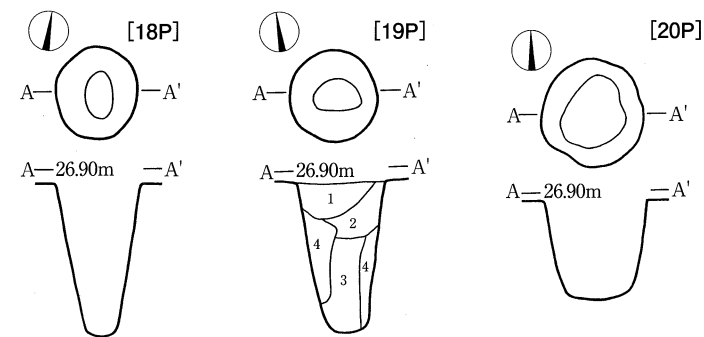
1. 暗茶褐色土 ローム微粒。斑点状に含む。
2. 暗茶褐色土 砂とローム若干含む。
3. 暗茶褐色土 2mm大ローム若干含む。

27P土層説明

1. 黒茶褐色土 ローム、焼土、暗褐色土若干含む。
2. 黒茶褐色土 1層類似。ロームやや多い。
3. 濃茶褐色土 ローム若干混入。
4. 濃茶褐色土 2層類似。ロームやや多い。

28P土層説明

1. 濃茶褐色土 1～2mm大ローム混入。黒色土斑点状混入。
2. 濃茶褐色土 3～30mm大ローム散在。
3. 褐色土 ローム土主体。暗褐色土混入。



第121図 16P～29P遺構実測図

は垂直気味で、上部はゆるやかとなる。底面はやや凹凸に富み、中央がピット状にくぼむ。規模 1.18m×1.06m、検出面からの深さ0.37m、最深部で0.55m。覆土 4層に分層できた。遺物 なし。

36P (第122図)

位置 E6区。重複関係 単独。長軸 N-10° -W。平面形 楕円形。壁・底面 壁はゆるやかに立ち上がる。底面は丸みを帯びると思われるが、中央部分一帯が未掘のため、詳細は不明である。規模 (1.39m)×0.77m、検出面からの深さ (0.17m)を測る。遺物 土師器坏1点を図示した。

37P (第122図)

位置 E7区。重複関係 単独。長軸 N-24° -E。平面形 楕円形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。底面は比較的平坦。規模 1.40m×0.79m、検出面からの深さ0.08m。覆土 黒茶褐色土の単一土層。遺物 土師器坏1点を図示。萱田編年分類上の「土師器坏Ⅷ類」に該当する。

38P (第122図)

位置 E8区。重複関係 単独。長軸 N-68° -W。平面形 楕円形。壁・底面 壁はゆるやかに立ち上がり、底面は凹凸少ない。規模 0.92m×0.72m、深さ0.18m。覆土 2層に分層できた。

39P (第122図)

位置 E8区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 略円形。壁・底面 壁は垂直気味で、底面は一端がくぼむ。規模 0.55m×0.45m、深さ0.09m。覆土 2層に分層できた。

41P (第123図 図版10)

位置 F6区。重複関係 単独。長軸 N-72° -E。平面形 楕円形。壁・底面 横断面形は皿状を呈する。規模 1.72m×0.84m、検出面からの深さは0.09mを測る。遺物 なし。

42P (第123図 図版10・19)

位置 F6区。重複関係 単独。長軸 N-12° -E。平面形 隅丸長方形。壁・底面 壁は垂直に立ち上がる。底面はやや凹凸あり。規模 2.25m×1.07m、検出面からの深さ0.71m。覆土 1層は自然堆積で、以下は埋め戻し。遺物 高台付壙を1点図示。備考 土壙墓。

45P (123図 図版10)

位置 E8区。重複関係 単独。長軸 N-80° -W。平面形 不整楕円形。壁・底面 東壁は垂直気味、西壁は一部テラス状。底面は凹凸少ない。規模 1.67m×0.77m、深さ0.23m。遺物 なし。

46P (第123図 図版10)

位置 E5区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 壁はゆるやかに立ち上がる。底面は比較的平坦。規模 0.41m×0.41m、検出面からの深さ0.13m。遺物 なし。

48P (第123図 図版10)

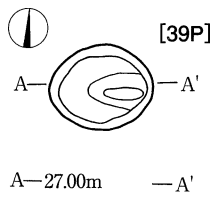
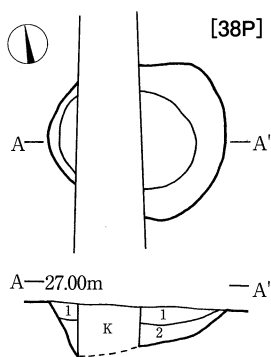
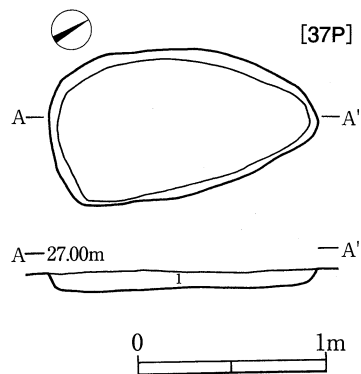
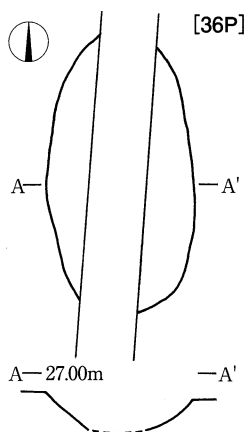
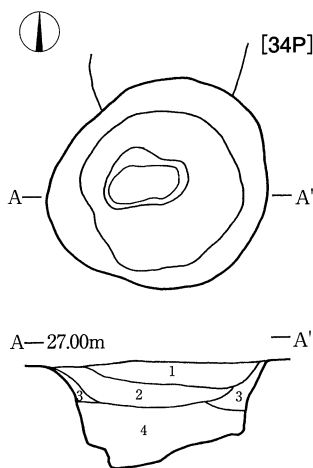
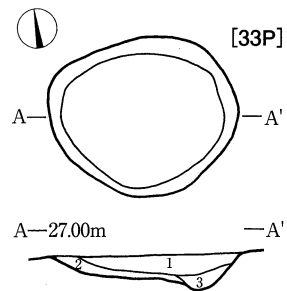
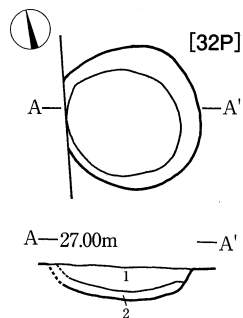
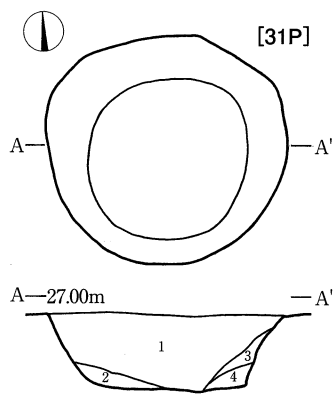
位置 F5区。重複関係 単独。長軸 N-67° -E。平面形 楕円形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。底面はやや凹凸を有する。規模 0.91m×0.78m、検出面からの深さは0.49mを測る。覆土 5層に分層でき、暗茶褐色土系が主体で、埋め戻し。遺物 なし。

49P (第123図)

位置 C2区。重複関係 26CDを切る。長軸 N-70° -E。平面形 不整な隅丸長方形。壁・底面 壁は垂直気味で、底面は比較的平坦である。規模 2.07m×1.42m、深さ0.20m。遺物 土師器7点。

53P (第124図)

位置 E2区。重複関係 18Dを切る。長軸 N-36° -W。平面形 隅丸方形。壁・底面 壁は垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦。規模 1.01m×0.80m、検出面からの深さは0.53mを測る。覆土 3層に分層でき、茶褐色土系が主体で、埋め戻し。遺物 なし。



31P土層説明

1. 黒茶褐色土 2~5mm大ローム若干点在。
2. 黒褐色土 1層類似。ローム土混入。
3. 茶褐色土 ローム土主体。1層混入。
4. 褐色土 ローム土主体。ロームブロック若干混入。

32P土層説明

1. 黒茶褐色土 ローム若干含む。
2. 黒褐色土 1層とローム土混合層。

33P土層説明

1. 暗茶褐色土 ローム土、黒色土若干混入。
2. 茶褐色土 1層とローム土混合層。
3. 暗褐色土 ローム若干混入。

34P土層説明

1. 黒茶褐色土 2~5mm大ローム散在。
2. 濃茶褐色土 2~10mm大ローム若干含む。黒色土斑点状に含む。
3. 茶褐色土 2層とローム土混合層。
4. 濃茶褐色土 3~5mm大ローム点在。

37P土層説明

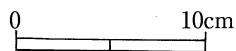
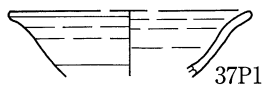
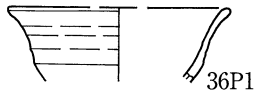
1. 黒茶褐色土 2~5mm大ローム若干混入。

38P土層説明

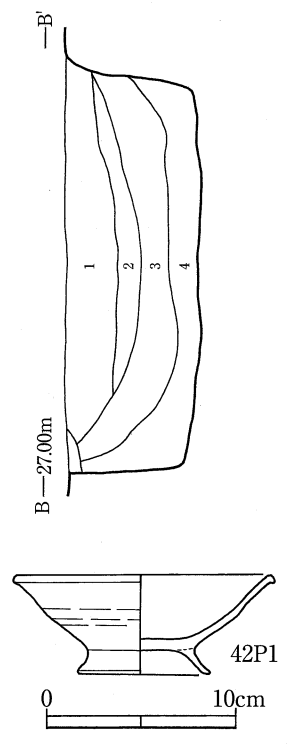
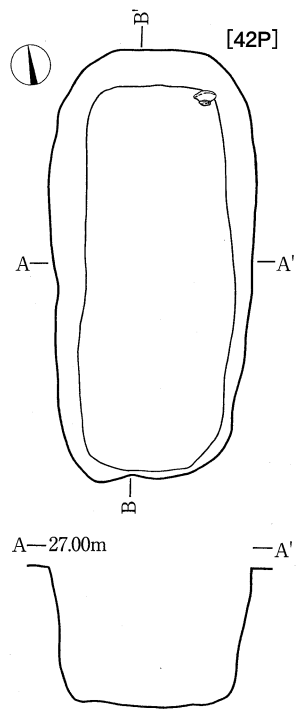
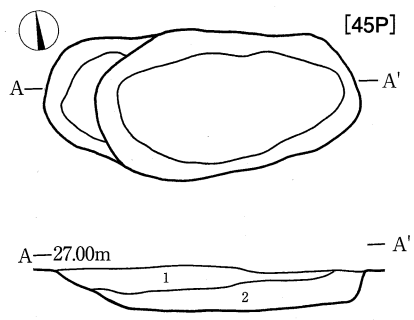
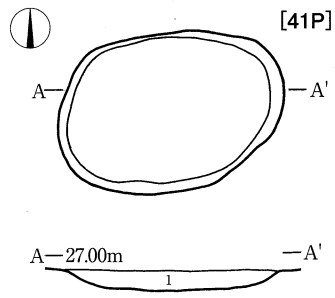
1. 暗茶褐色土 炭化粒、焼土若干混入。
2. 暗褐色土 炭化粒、焼土が1に比べ少ない。

39P土層説明

1. 黒茶褐色土 ローム若干混入。
2. 黒褐色土 1層とローム土混合層。



第122図 31P~39P遺構実測図



41P 土層説明

- 1. 黒茶褐色土 黒色土主体。暗茶褐色土を含む。

42P 土層説明

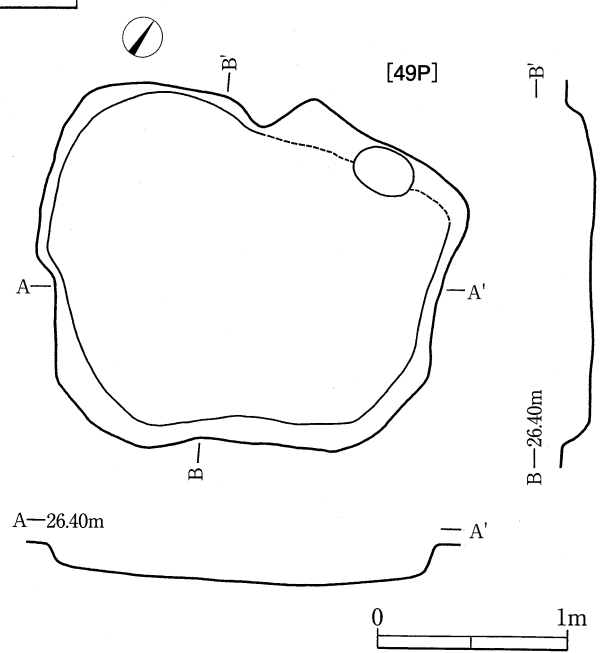
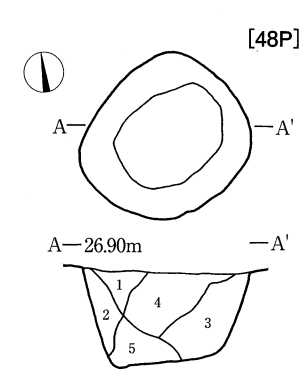
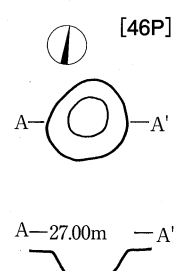
- 1. 黒色土 1~2mm大ローム散在。
- 2. 黒色土 5~10mm大ローム散在。
- 3. 黒褐色土 黒色土とローム。10~30mm大ローム多含。
- 4. 暗茶褐色土 10~30mm大ローム少量含む。

45P 土層説明

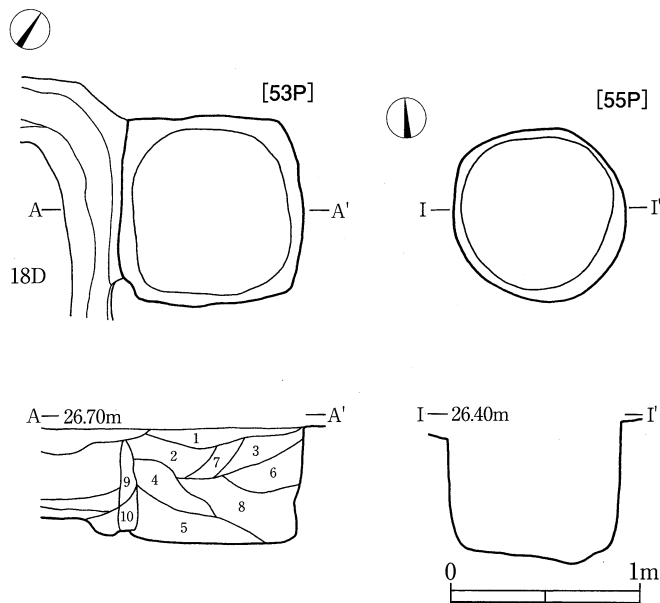
- 1. 黒褐色土 ローム若干含む。
- 2. 茶褐色土 ローム土主体。

48P 土層説明

- 1. 黒褐色土 ローム、黒茶褐色土の混合層。
- 2. 暗褐色土 ローム主体。黒茶褐色土混入。
- 3. 暗茶褐色土 2層類似。ローム少なく、暗茶褐色土主体。
- 4. 暗茶褐色土 2~10mm大ローム散在。
- 5. 暗茶褐色土 4層近層。5~15mm大ローム土若干含む。



第123図 41P~49P遺構実測図



- 53P 土層説明**
- 1. 茶褐色土 5~10mm大ローム混入黒土粒少量混入。
 - 2. 茶褐色土 1に比べ、ローム多い。ローム微粒主体。
 - 3. 茶褐色土 2層類似。1に比べロームやや少ない。
 - 4. 茶褐色土 30~50mm大ローム散在。
 - 5. 茶褐色土 30~50mm大ローム散在。しまりやや弱い。
 - 6. 茶褐色土 3に比べ、ローム少なくなる。
 - 7. 暗茶褐色土 ローム若干含む。
 - 8. 暗茶褐色土 ローム混入最も少ない。
 - 9. 褐色土 ロームブロック充填層。
 - 10. 褐色土 ローム暗茶色土充填層。

第124図 53P・55P遺構実測図

55P (第124図)

位置 G3区。重複関係 13BDを切る。長軸 方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 壁は垂直気味で、底面はやや凹凸に富む。規模 0.96m×0.90m、最深部で0.71m。遺物 なし。

ピット遺物観察表(1)

	器種	部位	計測値(cm)			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
11P 1	須恵器 壺	口辺部小片	2.4	17.6	—	外淡橙灰褐色 内淡青灰色	小石粒	ロクロ成形。
28P 1	土師器 手すくね	口辺部 ~底部1/3	2.4	8.4	6.4	外淡橙褐色 内淡黒灰色	白色粒	なで。輪積み成形。
31P 1	土師器 杯	口辺部小片	1.6	—	—	橙褐色	白色粒	ロクロ成形。墨書あり。
36P 1	土師器 杯	口辺部	3.9	11.6	—	外淡黒褐色 内淡橙褐色	白色粒	ロクロ成形。口縁部外反。
37P 1	土師器 杯	口辺部	3.4	12.6	—	淡橙褐色	黒色粒 赤色スコリア	ロクロ成形。口縁部外反。
42P 1	土師器 高台付埴	完形	5.2	13.2	6.7	淡橙褐色	白色粒、赤色スコリア 小石粒	ロクロ成形。高台部貼り付け。切離し不明。 ロクロ目明瞭。

第5節 中世以降

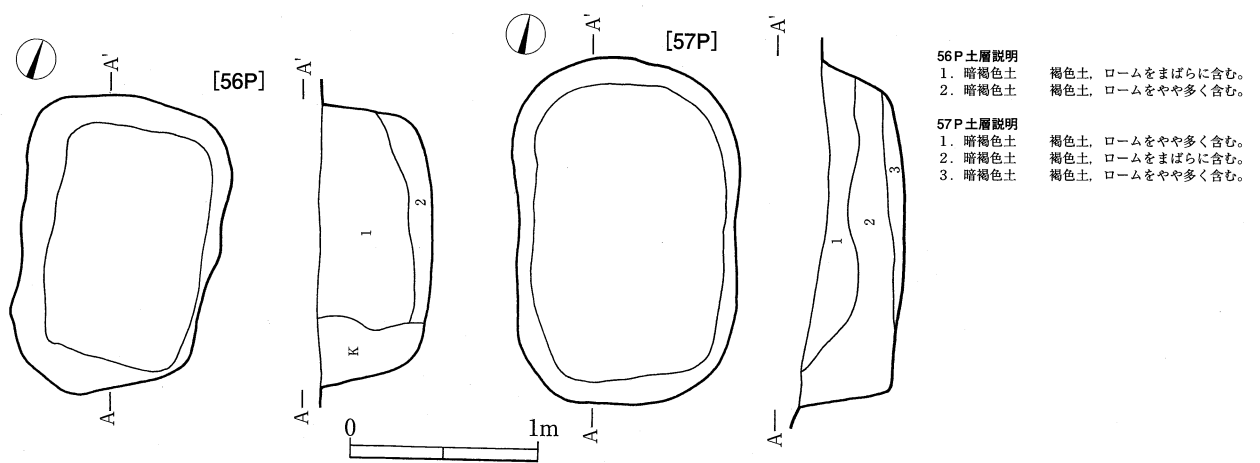
中世以降の遺構群は調査区西部に展開する。それらは、2条の溝に沿って土坑が縦列し、北群(56P・57P)と南群(58P・59P・60P)の二群に分かれ、各々の群の中では規模なども規格化している。

56P (第125図)

位置 A5区。重複関係 単独。長軸 N-10° -W。平面形 隅丸長方形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は丸みを帯びる。規模 1.55m×1.08m、検出面からの深さは0.58mを測る。覆土 2層に分層でき、暗褐色土系の土で埋め戻し。遺物 なし。備考 土壙墓と思われる。

57P (第125図)

位置 A6・B6区。重複関係 単独。長軸 N-12° -W。平面形 隅丸長方形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。規模 1.84m×0.86m、検出面からの深さは0.45mを測る。覆土 3層に分層でき、暗褐色土系の土で、埋め戻し。遺物 なし。備考 土壙墓と思われる。



第125図 56P・57P遺構実測図

58P (第126図)

位置 B8・C8区にまたがる。重複関係 単独。長軸 N-9°-W。平面形 やや不整な隅丸長方形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。規模 3.38m×1.45mを測る。遺物 なし。備考 土墳墓か。

59P (第126・127図)

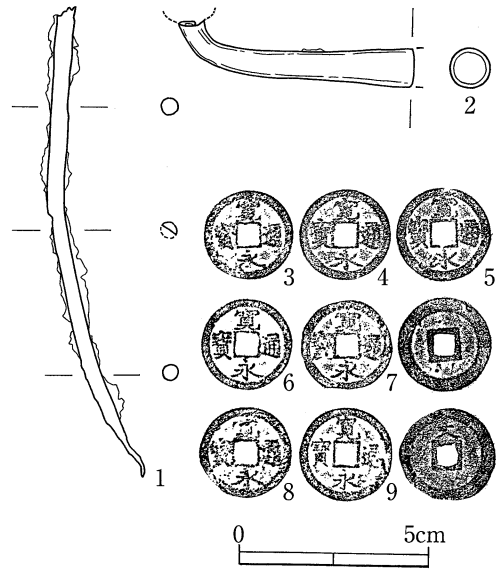
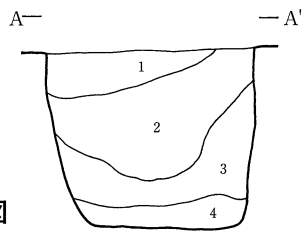
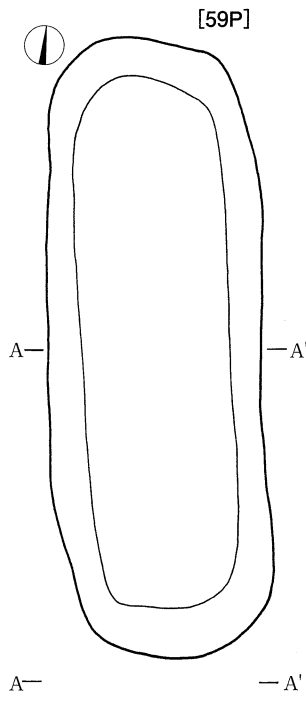
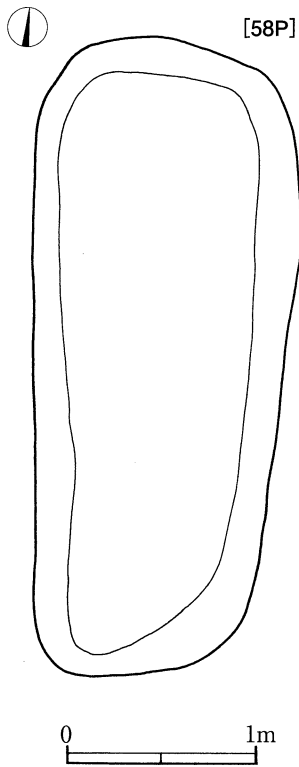
位置 C8区。重複関係 単独。長軸 N-9°-W。平面形 隅丸長方形。壁・底面 壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は比較的平坦。規模 3.38m×1.14m, 検出面からの深さは0.94mを測る。覆土 4層に分層でき, 暗褐色土系の土による埋め戻し。遺物 1は銅製品。煙管の雁首で, 火皿を欠く。2は鉄製品。3~9は銭貨。「寛永通寶」で, 上段から中段左が古寛永, その他は新寛永。備考 土墳墓。

60P (第128・129図)

位置 C9区。重複関係 単独。長軸 N-12°-E。平面形 隅丸長方形を基本とする。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。底面は比較的平坦。規模 3.61m×(1.46m), 検出面からの深さは0.88m。覆土 4層に分層でき, 埋め戻し土。遺物 1は鉄滓。2~4は銭貨で, 寛永通寶。備考 土墳墓。

ピット遺物観察表(2)

ピット名	種別	計測データ・手法上の特徴
59P1	鉄器釘か	縦12.4cm, 幅4.5mm, 重さ8.1g 断面円形
2	銅製品煙管	雁首部。火皿欠く。孔径1.0cmの円形, 横長6.3cm, 重さ5.5g
3	銭貨	寛永通寶。縁外径2.41cm, 郭外長0.7cm, 重さ3.8g
4	銭貨	寛永通寶。縁外径2.46cm, 郭外長0.76cm, 重さ3.7g
5	銭貨	寛永通寶。縁外径2.5cm, 郭外長0.81cm, 重さ3.1g
6	銭貨	寛永通寶。縁外径2.42cm, 郭外長0.72cm, 重さ3.0g
7	銭貨	寛永通寶。縁外径2.5cm, 郭外長0.72cm, 重さ3.9g
8	銭貨	寛永通寶。縁外径2.45cm, 郭外長0.75cm, 重さ3.7g
9	銭貨	寛永通寶。縁外径2.53cm, 郭外長0.72cm, 重さ3.7g
60P1	鉄滓	縦6.4cm, 横5.5cm, 厚さ2.3cm, 重さ84.6g。気泡目立つ。磁気なし。
2	銭貨	寛永通寶。縁外径2.55cm, 郭外長0.75cm, 重さ3.4g
3	銭貨	寛永通寶。縁外径2.49cm, 郭外長0.76cm, 重さ2.8g
4	銭貨	寛永通寶。縁外径2.53cm, 郭外長0.76cm, 重さ3.9g
5	銅製品煙管	雁首部。火皿欠く。折れ曲がる。孔径1.0cmの円形, 遺存長3.9cm, 重さ4.4g
6	銅製品煙管	吸口部。両端欠損。孔径0.4cmの円形, 遺存長2.5cm

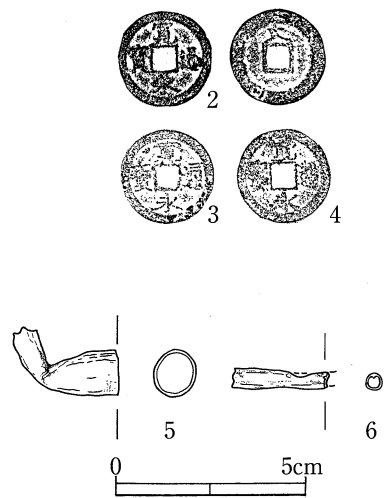
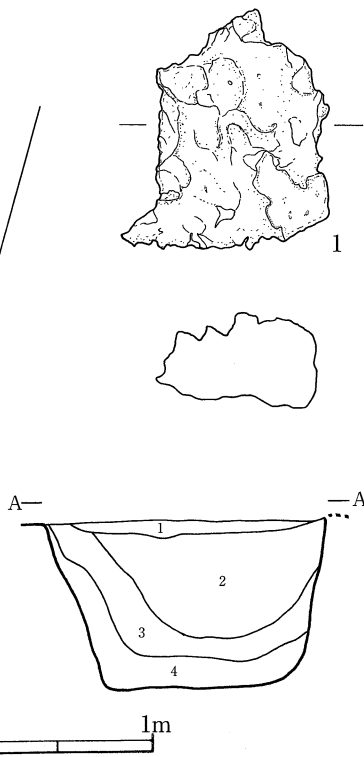
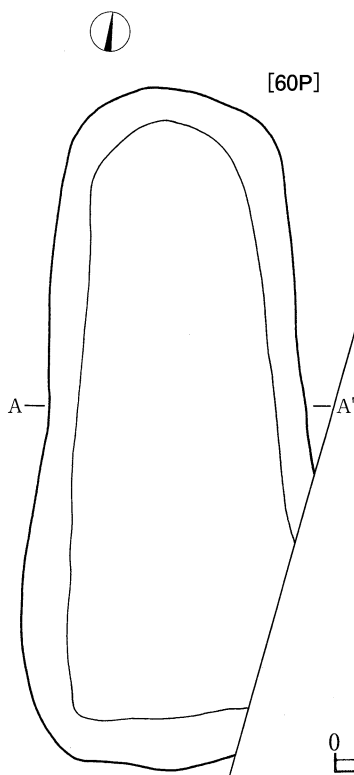


第127図 59P出土遺物

59P土層説明

- 1. 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 2. 暗褐色土 ローム少量含む。
- 3. 暗褐色土 ロームブロックやや多く含む。
- 4. 暗褐色土 ローム少量含む。

第126図 58P・59P遺構実測図



第129図 60P出土遺物

60P土層説明

- 1. 暗褐色土 ローム多含。炭化材少量含む。しまる。
- 2. 暗褐色土 ローム少量含む。しまる。
- 3. 暗褐色土 ローム・ロームブロック多含。炭化材ごく少量含む。しまる。
- 4. 暗褐色土 ローム・小ロームブロック多含。炭化材ごく少量含む。しまる。

第128図 60P遺構実測図

第6節 遺構外出土遺物（第130図 図版19）

奈良・平安時代 1～3・5・6は土師器。1～3は坏で、1は井戸向遺跡分類（以下省略）の「坏Ⅶc類」、2が「坏Ⅷ類」に相当する。5・6は甕である。4は緑釉陶器。高台付境で、内外面に施釉する。7～10は須恵器。7・10は甕で、ともに頸部に櫛描波状文を施す。8・9は甗で、8は五孔式の底部片、9は外面に平行タタキ目がみられる。11は鉄器。本製品は鎌で、刃先を僅かに欠失する。右利き用である。

中・近世 12は石製品で、砥石。13・18～21は銭貨。13は大観通寶。これ以外は寛永通寶で、18・19が「波銭（四文）」。14は内耳土器。15・16はかわらけ。17は陶器。瀬戸・美濃大窯製品の挿鉢である。22は銅製品。煙管の雁首。23は土製品。いわゆる「泥めんこ」の面形で、狐。

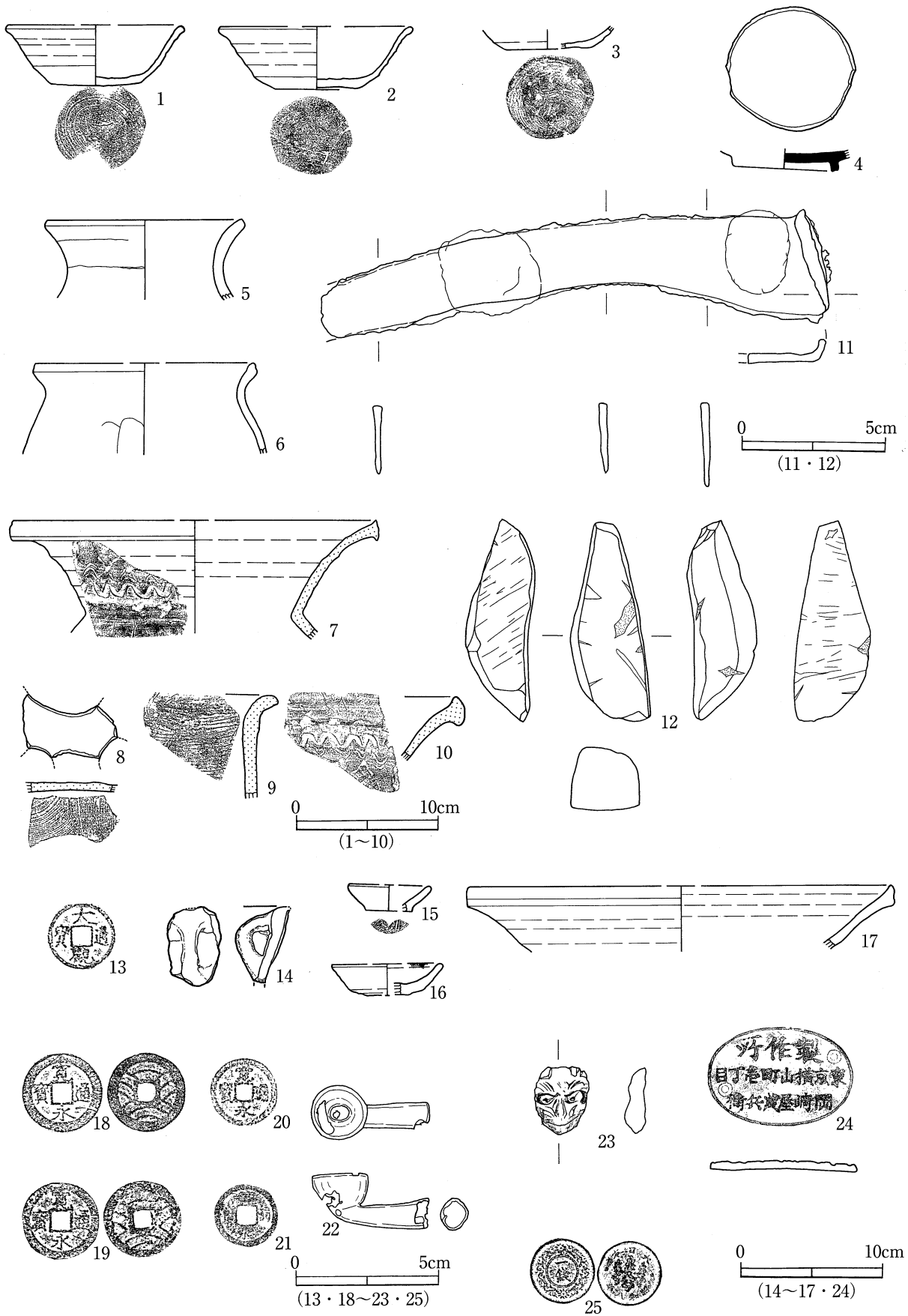
近代 24金属製品。消防ポンプの登録商標（岡崎屋茂兵衛）。25は銭貨。一銭硬貨である。

遺構外遺物観察表（1）

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 坏	口辺部1/5 ～底部	4.3	12	6.4	淡茶褐色	長石、赤色 スコリア	ロクロ成形。切離し不明。底部回転ヘラ削り調整。 体部下半回転ヘラ削り調整。
2 土師器 坏	口辺部1/4 ～底部	4.3	13.2	5.9	淡茶褐色	長石、赤色 スコリア 石英	ロクロ成形。切離し不明。底部回転ヘラ削り調整。 体部下半回転ヘラ削り調整。
3 土師器 坏	底部1/2	1.4	—	6	淡褐色	長石、赤色 スコリア 細砂粒	ロクロ成形。底部回転糸切離し後周縁・体部下 端回転ヘラ削り。
4 緑釉陶器 稜	底部全周	1.6	—	7.5	淡灰緑色	ち密	ロクロ成形。高台部貼り付け。円形に打ち欠いて整える。内面磨られる。 再利用。
5 土師器 甕	口辺部1/6	6.5	13.8	—	黒褐色	長石、赤色 スコリア	口辺部内外横などで。内外面などで。
6 土師器 甕	口辺部 ～体部上半	6.4	15	—			口辺部内外横などで。体部外面縦位ヘラ削り。
7 須恵器 甕	口辺部1/4	7.9	25.2	—	淡茶褐色	長石、赤色 スコリア	口辺部外面に細・太波状文の施文。体部外面 縦位平行叩き目文。
8 須恵器 甗	底部小片	—	—	—	外淡黄褐色 内淡褐色	雲母、長石	底部回転糸切離し後周縁ヘラ削り。
9 須恵器 甕	口辺部小片	—	—	—			口縁部外反。外面横位平行叩き目文。
10 須恵器 甕	口辺部小片	—	—	—	淡青灰色	白色粒	口辺部外面に細・太波状文の施文。
15 土器 カワラケ	口辺部 ～底部	1.8	5.4	3.2	黒色	ち密、長石	内外面などで。底部網代状の痕跡。
16 土器 カワラケ	口辺部1/4 ～底部	2.2	7.8	3.5	淡橙褐色	雲母、赤色 スコリア	口辺部内外面などで。底部回転糸切離し。灯明皿。
17 陶器 挿鉢	口辺部	4.5	30	—	黒褐色	白色粒	瀬戸・美濃大窯製品。

遺構外遺物観察表（2）

種別	計測データ・手法上の特徴
11 鉄器鎌	横17.9cm、幅4.5cm、厚さ6.5mm、重さ78.7g 先端部欠損。右側に折込みあり。
12 砥石	凝灰岩。全長7.1cm、幅2.8cm、四面に使用擦痕明瞭。鏝節形状。
13 銭貨	大観通寶。縁外径2.35cm、郭外長0.8cm
18 銭貨	寛永通寶。縁外径2.81cm、郭外長0.82cm、重さ4.4g。四文銭
19 銭貨	寛永通寶。縁外径2.81cm、郭外長0.83cm、重さ4.3g。四文銭
20 銭貨	寛永通寶。縁外径2.44cm、郭外長0.77cm、重さ2.8g
21 銭貨	寛永通寶。縁外径2.32cm、郭外長0.76cm、重さ2.0g
22 銅製品煙管	雁首部。火皿径2.0cm。孔径1.0cmの円形。遺存長4.2cm
23 泥面子	縦2.4cm、横2.0cm、厚さ0.7cm、重さ2.9g。
24 青銅製商標	消防用腕用ポンプの商標。岡崎屋茂兵衛製作所製造。縦7.2cm、横10.2cm。
25 銭貨	昭和8年 一銭硬貨。径2.3cm、重さ3.7g



第130図 遺構外出土遺物

第3章 ま と め

第1節 旧石器時代

抽出された2点の石器のうち、周縁調整のみを施した槍先形尖頭器は、その属性から、橋本勝雄氏が「千葉県歴史」中で、萱田遺跡群を時期区分したところの、「V期」に相当し、本来的な産出層準は、立川ロームⅢ層下部からⅣ・Ⅴ層中となろう。槍先形尖頭器の残欠なので、狩猟時の未回収の可能性が高い。その背景に「V期」とは、石器の量や遺物集中地点が爆発的に増える時期であるということも、無視できない。ちなみに、近隣の村上込の内遺跡でも、ほぼ同一の槍先形尖頭器が単独出土している。

第2節 縄文時代

遺物出土総数は、土器2点、石器類4点、土製品1点である。これから見て、殿内遺跡(殿内小支台)は、約一万年に及ぶ縄文時代の中で、居住域として利用されることが極めて稀であったと考えられる。それは、隣接する浅間内遺跡(浅間内小支台)と比較した場合、その差は歴然としている。このことは、隣接する小支台であっても、土地利用の状況が全く異なるということを示しており、調査の成果として評価したい。ただし、それが何に起因するのかは、今後の課題としておく。

1点のみ出土した田戸下層式土器は、諸属性から見て、その新しい部分に位置づけられる。八千代市内では、沈線文系土器群の出土自体が稀で、村上台での確実な報告例となると、「保品・神野遺跡群」の上谷遺跡に次いで2例目である。

第3節 弥生時代

方形周溝墓1基が検出された。01HSは全体の北半分程度しか調査できなかったが、その属性から見て「四隅陸橋型」に相当する。だが、墳丘は確認されず、方形台状部から埋葬施設は検出されなかった。加えて、周溝からの出土遺物もなく、時期決定をするための要素は、極めて乏しい。ただ、「四隅陸橋型」は弥生時代中期に盛行する形状なので、大枠的には同期で大過ないと思われる。近隣の弥生時代中期の遺跡を見ると、浅間内遺跡と村上向原遺跡で、宮ノ台式土器が遺構を伴わずに出土しており、本例もまた、当該期に相当する可能性が高い、とだけ指摘しておく。

第4節 古墳時代

竪穴住居跡1軒が検出された。02Dは前期で、装飾壺の円形文・棒状浮文・肩部の縄文等施文や台付甕の口唇部刻み目等の形態から前半に位置づけられる。06D覆土中から当該時期の遺物が出土しており調査範囲外においても、遺構の広がりや想定されよう。近隣では、村上宮内遺跡・西山遺跡において同時期の住居跡が検出されている。

第5節 奈良・平安時代

詳細は第6節に譲るが、ここでは藤岡氏による萱田編年に従って、竪穴住居跡の時期を決定していく。

萱田Ⅰ期以前(7世紀末葉～8世紀前葉) 04CD・05D・06AD・13AD・14D・17D・24D・25D・29AD・30D

萱田Ⅰ期(8世紀第Ⅱ四半期) 15D・16D・18D?・26AD

萱田Ⅱ期(8世紀第Ⅲ四半期) 04BD・20D・27D

萱田Ⅲ期（8世紀第Ⅳ四半期）04CD・07D・26BD・29BD

萱田Ⅳ期（9世紀第Ⅰ四半期）11D・26CD？

萱田Ⅴ期（9世紀第Ⅱ四半期）19D

萱田Ⅵ期（9世紀第Ⅲ四半期）12BD・13BD

萱田Ⅶ期（9世紀第Ⅳ四半期）23D

萱田Ⅷ期（10世紀代）08D・09D・10D・21D・22D・33D

萱田Ⅸ期（10世紀代）12AD

不明期 31D・32D

このように細分すると、本遺跡の動態がおぼろ気ながら見えてくる。萱田Ⅰ期以前の段階に10軒の人々が入植し、Ⅰ～Ⅲ期に分散しながらも3軒から4軒の人々が継続的に集落を営んでいる。9世紀代のⅣ～Ⅶ期には1から2軒程度と集落の規模は縮小するが、10世紀代のⅧ期に6軒とまとまった規模で活況を呈している。通常集落では、古墳時代ないし奈良時代以降9世紀代に集落の消長を辿り、10世紀代には規模が著しく縮小する例が多い。本遺跡の特異性は、奈良時代初頭の計画的人員配置後、規模が徐々に縮小し、10世紀代に再度まとまった形態をなす点である。続くⅨ期には1軒であるが、土坑墓も検出されており、縮小しながらも土地利用は見られる。以上、本遺跡の動態について概観を試みた。

第6節 奈良・平安時代の時間軸について

萱田地区遺跡群では、昭和50年代から10年以上に亘り発掘調査が進められた。奈良・平安時代の8世紀第Ⅱ四半期から10世紀代に至る土器の編年については、藤岡氏による綿密な推敲を重ねた編年観が萱田Ⅰ期～Ⅶ期及びⅧ期・Ⅸ期の画期の設定として平成2年（1990）提示された（注1）。その後、平安時代施釉陶器の年代観の修正や10世紀以降の発掘調査事例による資料の蓄積により、氏による編年の提示に補強でき得る状況となった。藤岡氏の編年提示後19年が経過しているが、現時点においてもその内容に齟齬は生じていない。この点から、今回萱田Ⅰ期以前（注2）及びⅧ期・Ⅸ期について資料を提示しながら、各期の器種構成について触れていきたい。

注

（1）藤岡孝司「八千代市萱田地区遺跡群の歴史時代土器」『研究連絡誌』第30号 財団法人千葉県文化財センター 1990 の中で、最終的編年に至る経緯が述べられている。

（2）萱田Ⅰ期以前については、大野康男『八千代市白幡前遺跡』財団法人千葉県文化財センター 1991 の中で、氏により萱田0期として設定されている。今回、更に器種構成について肉づけが可能となった。

萱田Ⅰ期以前 [第131図1～67]

器種構成は、坏類では古墳時代後期の系譜をひく丸底土師器坏と常陸産・東海産の須恵器坏・蓋がみられ、須恵器主体である。甕類では常総型・武蔵型・在地型の土師器甕を主体とし、常陸産・東海産の須恵器甕が客体的に搬入される。その他土師器盤・高坏が偏在してみられる。

土師器坏は①口辺部外反の丸底坏（2,31,61,62）、②口辺部直立で稜をもつ塊タイプ（12,33,34,37,60）、③②に似るが、稜をもたない塊タイプ（1,32,50,51）の三者がみられる。内外面黒色処理を施すタイプ（37,60）や、内外面赤彩（12）、暗文を施文するタイプ（13）がみられる。口径は②、③では、14cm内外と大振りである。

甕は、常総型（7,21,40,55,56）と、在地型の古墳時代後期の系譜をひくタイプ（20,38,39,42）、口縁端部を緩やかにつまみだし、断面がやや角頭状で胴部縦位ヘラケズリを施すタイプ（15,54）の三者が主

体である。他に武蔵型（16,52,53）と同模倣形態の（66,67）がみられる。

盤は、非ロクロ整形で内外面赤彩されたもの（36）1点で、図示していないが同住居跡より暗文を施したタイプが出土している。

高坏は、脚部末端内面に稜をもち、外面にヘラケズリされたタイプ（35）のみであるが、今回の報告中、04D49に類例がみられる。

手づくねは、形が整えられたタイプ（3,4,5）と、粗雑なタイプ（14,63~65）がみられる。

須恵器坏は、常陸産の無高台タイプ（9,10,19,25,26,29,48,49）を主として、東海産の有高台タイプ（30）がみられる。11は不明であるが、形態から常陸産か。常陸産は①底部と体部の境が明瞭で直線的に外反するタイプ（9,10,25）、②厚い底部と体部の境が不明瞭で外反するタイプ（19,48,49）、③②に類似するが、口唇部で外反するタイプ（26,29）がみられる。②は新治窯跡群一町田窯に類例がある。口径は13~15cm範囲に収まる。

須恵器蓋は、常陸産で内面にかえりのあるタイプ（8,17,18,23,24,27,28,45,46,57~59）が主体を占め、東海産のかえりを持たないタイプ（47）は客体的である。前者は新治窯跡群一町田窯に類例がみられる。口径は16cm程度に収まる。

須恵器甕は、常陸産・東海産の両者がみられる。41は常陸産である。

萱田Ⅷ期 [第132図68~134]

器種構成は、坏類ではⅦ期のⅦc類の延長上にあるⅧ類、Ⅸc類、新たに内面黒色処理の高台付碗及び坏、高台付碗がみられる。甕類では、Ⅶ期のⅡa類と共に、新たにⅡb類と口唇部断面が角頭状をなすタイプが加わる。他に須恵器坏・甕も極少量みられる。Ⅶ期に残存していた皿は本期ではみられない。

土師器坏は①口唇部が肥厚し、体部下端回転ヘラケズリ調整のⅧ類（68,69,73,81~84,94~100,102,116~119）や②無高台碗のⅨc類（85,101,103,121,125）がみられる。新たに③高台部断面がラッパ状に広がる高台付碗（74,87,104）や④体部下端から口縁端部まで直線状に開き、高台部断面がハの字状となる高台付碗（126）がみられる。また、⑤内面黒色処理で非常に低い削りだし高台をもつ碗（86）がみられる。③~⑤は灰釉陶器模倣形態と考えられ（注3）、本期の新しい構成要素といえよう。なお、①②④は藤岡氏により認識されていた器種である。

甕は①口唇部つまみ上げ・胴部ヘラケズリ調整のⅡa類（89,91）が残存する。新たに②口唇部内側に凸帯を張付ける形態のⅡb類（76,88,109,110,112,130,133等）と同形態の③小型甕Ⅴb類（75,77,128等）が出現する。更には、④口唇部断面が角頭状で、胴部ヘラケズリ調整（77,127,131,134）の甕が新しい要素といえる。①~③は藤岡氏により認識されていた器種である。主体はⅡb類、Ⅴb類である。

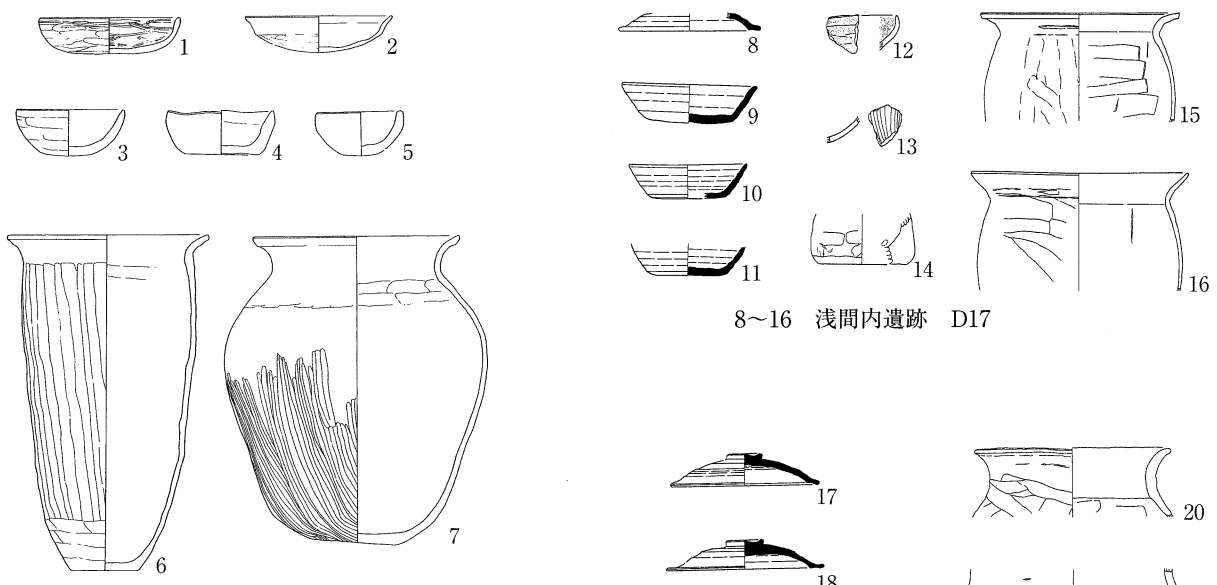
注

（3）松本太郎・松田礼子『下総国府跡』 市川市教育委員会 2001 松田礼子氏が③について、灰釉模倣形態の器種としてⅠ類として位置づけている。p 81

萱田Ⅸ期 [第133図135~165]

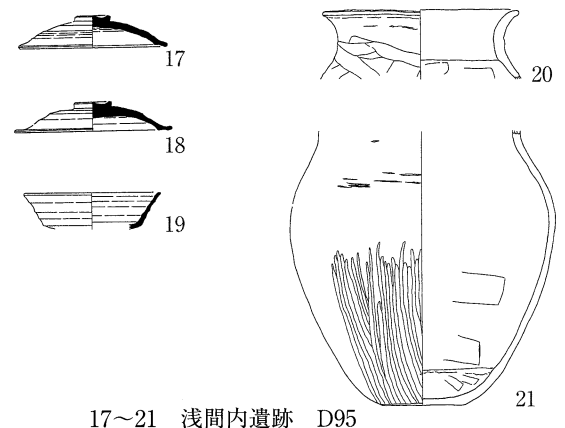
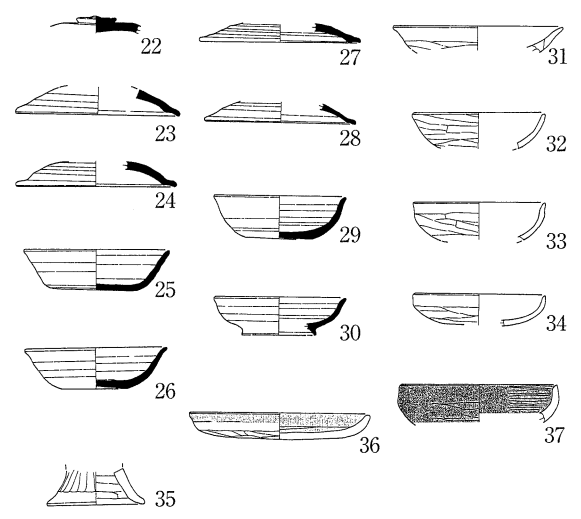
器種構成は、坏類では藤岡氏設定の回転糸切り無調整坏・高台付碗・無高台碗とⅧ期に示した③の高台付碗の4器種である。甕類はほぼⅧ期継承で、Ⅱa類・Ⅱb類・Ⅴb類・Ⅷ期に示した④の4器種で、Ⅱb類主体である。

土師器坏は①口径11cm前後、底部回転糸切り無調整、体部下半に丸みを持ち、口唇部がやや肥厚している形態で胎土は精選されている等の特徴をもつ坏（135,140,141,148,149,161）で、本期に出現する。

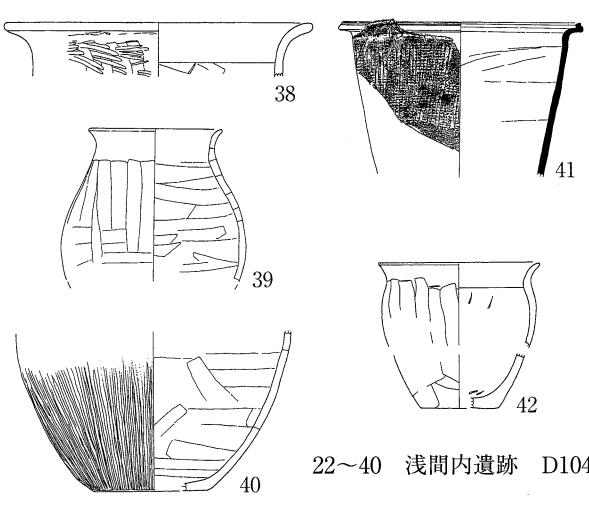


8~16 浅間内遺跡 D17

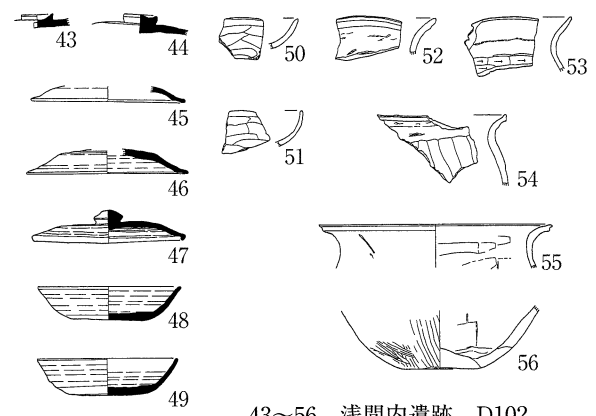
1.2 白幡前遺跡D195 3~7 D170



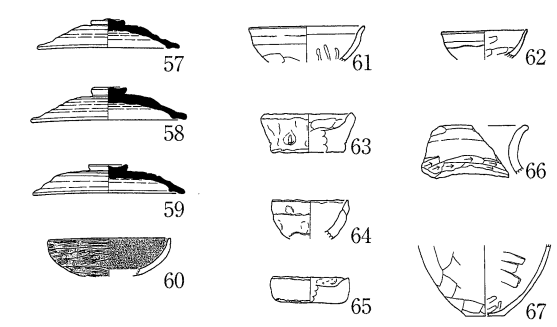
17~21 浅間内遺跡 D95



22~40 浅間内遺跡 D104B



43~56 浅間内遺跡 D102



57~67 浅間内遺跡 D87 (S=1/8)

第131図 八千代市内の萱田 I 期以前の遺物

また②無高台埴は、口径14cm前後、体部下半で丸みをもって立ち上がるタイプ(136,137,151,152)、③②と同形態で高台部断面がハの字状となる高台付埴(142,143,162,163)で、内面黒色処理の有無がみられる。また、Ⅷ期出現の③高台付埴(153)は、ほとんど形態を変えずにみられる。Ⅷ期に主体であった埴Ⅷ類はこの段階ではみられない。

甕は、Ⅱa類(155)、Ⅱb類(154,156~159,165)、Ⅴb類(145)とⅧ期④(138,139,144)がみられる。なお、Ⅱb類には、胴部が張るタイプ(157,158)がみられる。

萱田Ⅸ期以降 [第134図166~190]

本期は、市内における資料は現在確認されておらず、今後の資料の蓄積をまって決定したい。予察として、本市行政境に隣接する佐倉市先崎西原遺跡、やや離れるが同市高岡大山遺跡の資料を掲げる。

埴類は、Ⅸ期①の器高が浅い形態(180~182,184~186)(注4)や、Ⅲ(166)、大小の高台付埴がみられる。

甕は、Ⅷ期④の口唇部角頭状断面形態(177,178)や、Ⅱa類(190)がみられる。

Ⅲ及び大小の高台付埴は、新器種として出現している。ただ、甕類やⅨ期①の延長線上に位置づけられる埴が見られることから、Ⅸ期継承の時期設定が可能と考える。

注

(4) ①石坂雅樹『印内台遺跡群(20)』財団法人 船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター 2001
Ⅵまとめの中でL群、M群としている。

②宮内勝巳「古代下総国東部の土師器について」『財団法人東総文化財センター設立10周年記念論集』
財団法人東総文化財センター 2002

各期の年代

萱田Ⅰ期以前 7世紀末葉~8世紀前葉

指標は、須恵器蓋で内面に緩いかえりをもつタイプで、新治窯跡群一丁田段階で8世紀第1四半期に位置づけられる(注5)。また本遺跡05D1は畿内産土師器の飛鳥Ⅴ段階で、同遺構からかえりをもつ須恵器蓋が相伴している。

注

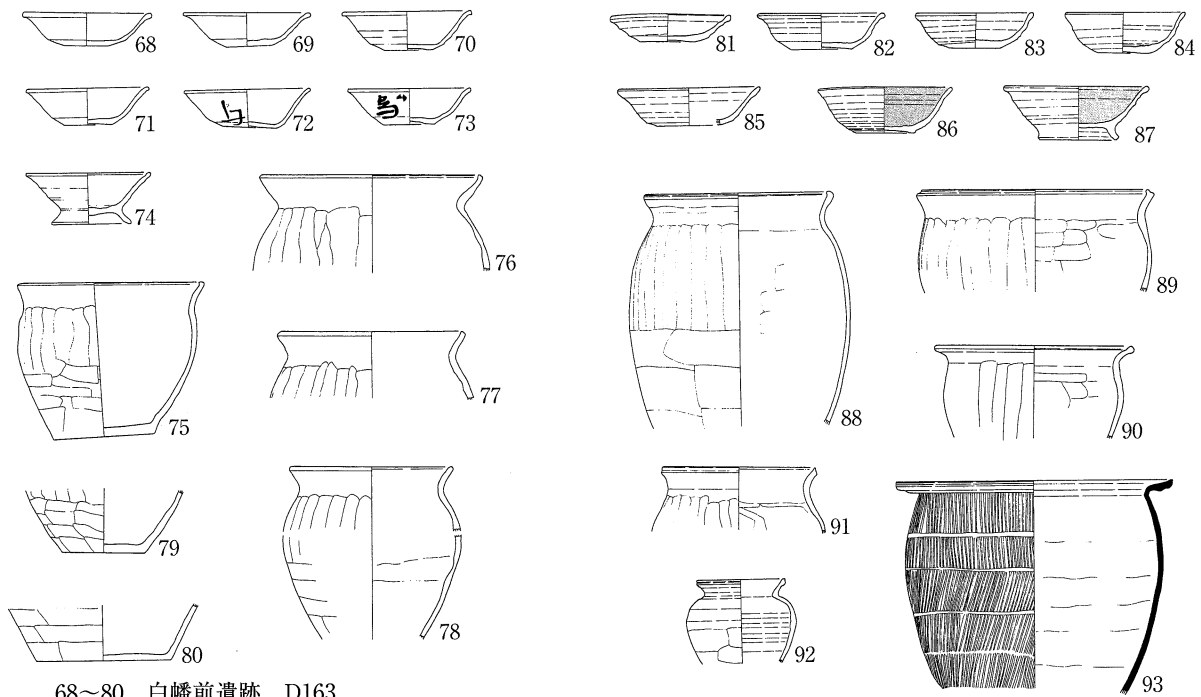
(5) 吉澤 悟「律令制成立期の須恵器の系譜」『東国の須恵器-関東地方における歴史時代須恵器の系譜-』
古代生産史研究会 1997

萱田Ⅷ期 10世紀前半代

指標はおおむね灰釉陶器となるが、今回の資料においてはみられない。高橋照彦氏は東国の東海道側で、10世紀以降灰釉陶器の流通量が著しく減少することを指摘されている(注6)。ここでは灰釉陶器模倣の土師器埴を参考としたい。高台付埴の高台部は比較的長く、体部は直線的に立ち上がる(87,104)は折戸53号窯式Ⅰ型式の埴Aに類似している。また高台付埴ではないが、削りだし高台埴(86)は同窯式深埴の口縁端部外反の形態に類似する。具体的年代観としては10世紀初頭~中葉(注7)を考えたいが、今後細分が可能と判断されるため現時点では10世紀前半代とする。

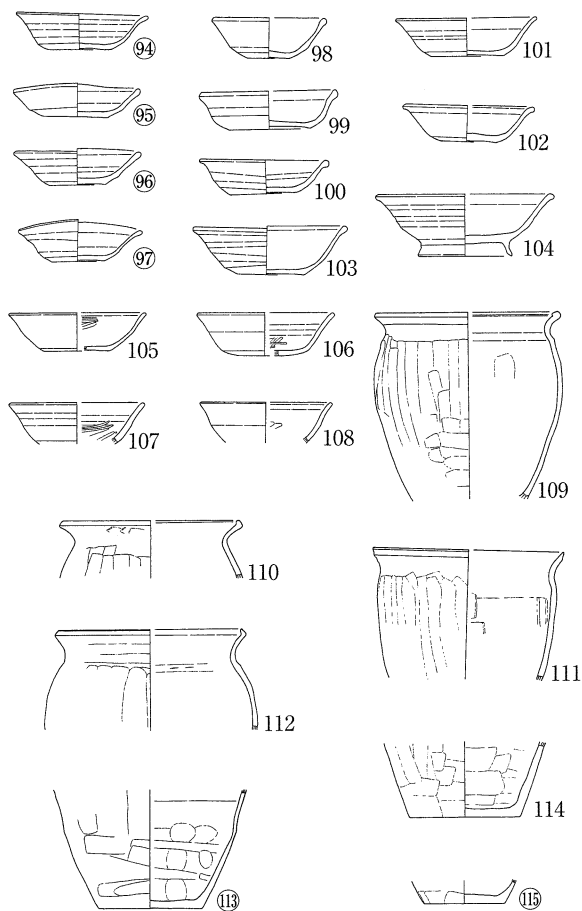
萱田Ⅸ期 10世紀後半代

灰釉陶器模倣の土師器埴主体で、Ⅷ期に主体的だった埴Ⅷ類が完全に消滅する。甕類は、前段階を踏襲しており、Ⅷ期に続く年代が想定されよう。本期に出現した埴①も腰の丸み、体部下端の処理等灰釉模倣の特徴が見出される。本期の土師器埴は高台の有無はあるが、深埴の器形、腰の丸みの強調、外反する口唇部等の形態を示す。具体的年代観としては東山72号窯式の10世紀中葉~末葉(注8)を考えた



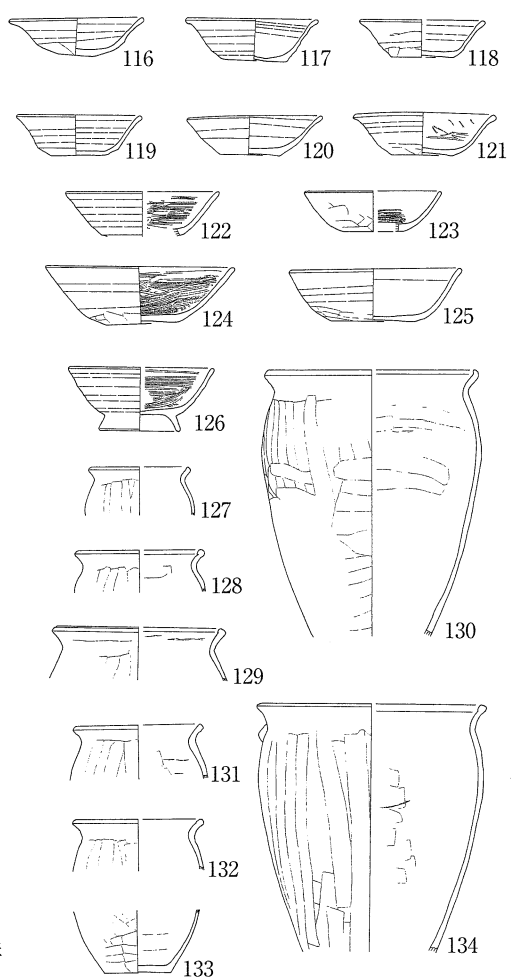
68~80 白幡前遺跡 D163

81~93白幡前遺跡 D030



94~115 間見穴遺跡 122住

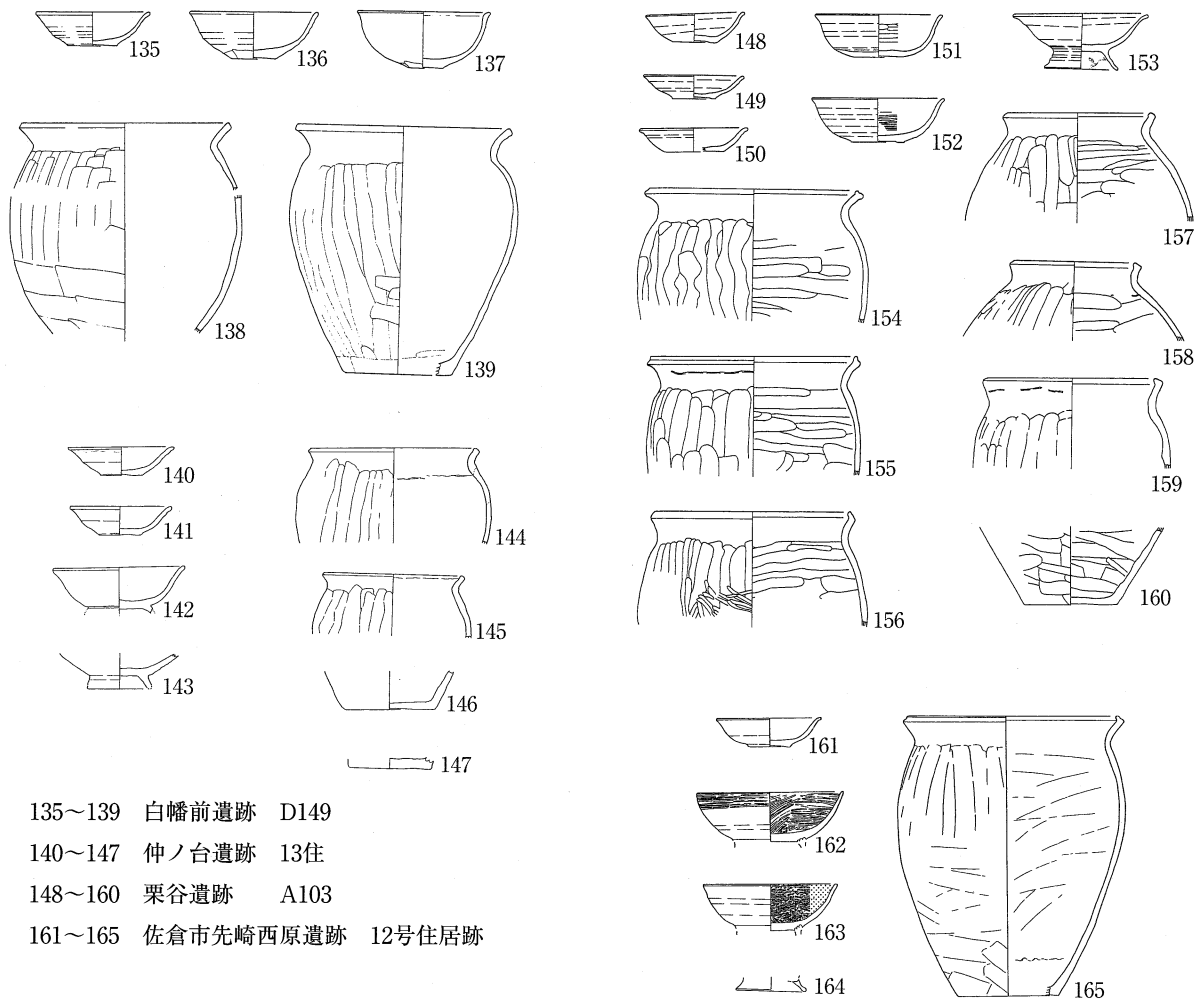
○数字は本遺構床直出土で、他は本遺構
 廃絶時の土器溜まり出土の遺物



166~134 間見穴遺跡 166A住

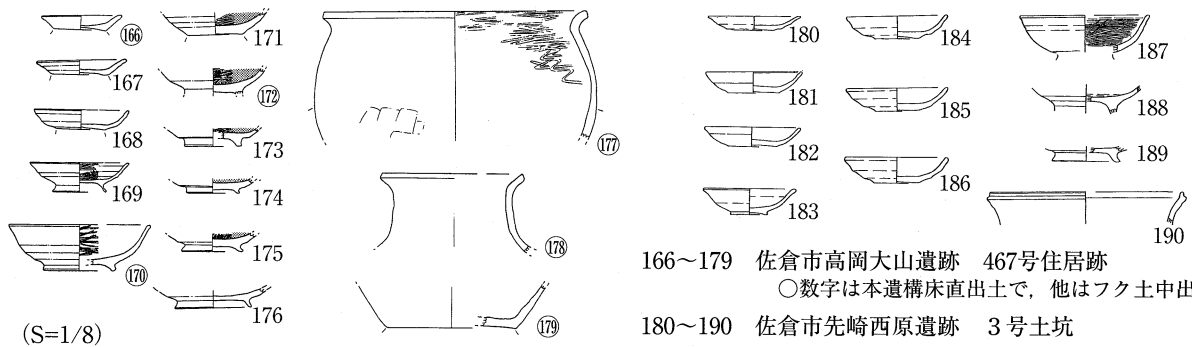
(S=1/8)

第132図 八千代市内の萱田Ⅷ期の遺物



- 135~139 白幡前遺跡 D149
 140~147 仲ノ台遺跡 13住
 148~160 栗谷遺跡 A103
 161~165 佐倉市先崎西原遺跡 12号住居跡

第133図 八千代市内・周辺の萱田区期の遺物



- 166~179 佐倉市高岡大山遺跡 467号住居跡
 ○数字は本遺構床直出土で、他はフク土中出土の遺物
 180~190 佐倉市先崎西原遺跡 3号土坑

第134図 八千代市周辺の萱田区期以降の遺物

いが、今後細分が可能と判断されるため現時点では10世紀後半代とする。

萱田区期以降 11世紀代

指標は区期坏①の器高を減じた皿と大小の高台付埴の出現で、具体的年代については11世紀前半～中頃に想定されている(注9)。本期については、市内の資料の蓄積をまって考えていきたい。

注

(6) 高橋照彦「東国の施釉陶器」『古代の土器研究-律令的土器様式の西・東3 施釉陶器-』1994 古代の土器研究会編 p19

(7) 齊藤孝正「東海地方の施釉陶器生産-猿投窯を中心に-」『古代の土器研究-律令的土器様式の西・東3

施釉陶器』1994 古代の土器研究会編 p115

(8)(6)に同じ。

(9)長内美知枝「3. 下総国 東京湾沿岸地域」『神奈川考古第21号 シンポジウム古代末期～中世における在地系土器の諸問題』1986 神奈川考古同人会 p116～117

以上、7世紀末葉から8世紀前半代及び10世紀代について言及してきた。藤岡氏が萱田地区遺跡群において提示された8世紀第Ⅱ四半期から10世紀代に亘る編年については、今後共八千代市内の時間軸として採用していきたいと考えている。更に今回筆者が8世紀第Ⅱ四半期(萱田Ⅰ期)以前の資料を提示したことにより、八千代市内の奈良・平安時代(7世紀末葉～10世紀末葉)について継続的時間軸の設定が可能である。藤岡氏に萱田Ⅰ期～Ⅸ期を、八千代市内の奈良・平安時代の統一的名称に変更したい旨打診したところ御了承いただいたので(注10)、以下のようにする。

萱田Ⅰ期以前→八千代NH1期(7世紀末葉～8世紀前半)

萱田Ⅰ期→八千代NH2期(8世紀第Ⅱ四半期)

萱田Ⅱ期→八千代NH3期(8世紀第Ⅲ四半期)

萱田Ⅲ期→八千代NH4期(8世紀第Ⅳ四半期)

萱田Ⅳ期→八千代NH5期(9世紀第Ⅰ四半期)

萱田Ⅴ期→八千代NH6期(9世紀第Ⅱ四半期)

萱田Ⅵ期→八千代NH7期(9世紀第Ⅲ四半期)

萱田Ⅶ期→八千代NH8期(9世紀第Ⅳ四半期)

萱田Ⅷ期→八千代NH9期(10世紀前半代)

萱田Ⅸ期→八千代NH10期(10世紀後半代)

注

(10)藤岡氏には、記して感謝の意を表したい。八千代NH1期・9期・10期の年代観は、氏とのすりあわせによるものではなく、筆者の判断による。今回提示した年代観については、補正する必要性が生じた場合には速やかに対応していきたい。それが責務であり、市内を主体とした地域研究をすすめるための基本的事項と捉え、日々研鑽に努めていく所存である。

参考文献(注で紹介した以外のもの)

- 藤岡孝司 1985 『八千代市北海道遺跡』 財団法人 千葉県文化財センター
寺内博之・ 1986 「(5) 下総・上総国における古代末期の土器様相」 『神奈川考古』 第21号
長内美知枝・ [シンポジウム 古代末期～中世における在地系土器の諸問題] 神奈川考古同人会
井口 崇 107頁～129頁
藤岡孝司 1987 「Ⅲ 下総国 3 八千代市北海道遺跡(旧印旛郡)」 『房総歴史考古学研究 第1集 房総における歴史時代土器の研究』 161頁～180頁
藤岡孝司 1987 「第3章 まとめ 第1節 奈良・平安時代の土器様相」 『八千代市井戸向遺跡』 財団法人 千葉県文化財センター 650頁～666頁
藤岡孝司 1990 「八千代市萱田遺跡群の歴史時代土器」 『研究連絡誌』 第30号 財団法人 千葉県文化財センター 10頁～20頁
大野康男 1991 『八千代市白幡前遺跡』 財団法人 千葉県文化財センター
阿部寿彦他 1993 『高岡遺跡群Ⅲ』 財団法人 印旛郡市文化財センター
森 竜哉 1996 『千葉県八千代市 仲ノ台遺跡・ライノ作遺跡発掘調査報告書』 八千代市西八千代遺跡群調査会
寺里和久他 2001 『千葉県佐倉市 先崎西原遺跡』 財団法人 印旛郡市文化財センター
廣 茂美 2001 『千葉県八千代市 栗谷遺跡 - 第1分冊 -』 八千代市遺跡調査会
松田礼子 2001 「3. 下総国府の土器編年」 『千葉県市川市 下総国府跡 - 国府台遺跡緊急確認調査報告書 -』 市川市教育委員会 73頁～117頁
石坂雅樹 2001 『千葉県船橋市 印内台遺跡群(20)』 財団法人 船橋市文化・スポーツ公社理蔵文化財センター
岸本雅人他 2006 『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書5 - 八千代市島田込ノ内遺跡(2)・間見穴遺跡(3)・道地遺跡(2) -』 財団法人 千葉県文化財センター
常松成人他 2007 『千葉県八千代市 浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡』 八千代市遺跡調査会
中野修秀他 2008 『千葉県八千代市 ライノ作南遺跡b地点発掘調査報告書』 八千代市遺跡調査会

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし とのうちいせきびーちてん
書名	千葉県八千代市 殿内遺跡b地点
編集者名	森 竜哉 中野 修秀
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 TEL.047(481)0304
発行年月日	西暦 2009年(平成21年) 3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とのうちいせき ちてん 殿内遺跡b地点	ちばけんやちよしむらかみ 千葉県八千代市村上 1170-2	12221	203	35度 43分 36秒	140度 7分 16秒	19901022 ～ 19920910	5350㎡	市立郷土博物館建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
殿内遺跡b地点	包蔵地	旧石器時代		槍先形尖頭器	
	包蔵地	縄文時代		早期・中期土器, 石鏃, 土器片 錘	
	墳墓	弥生時代	方形周溝墓 1基		
	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡 1軒	古墳時代前期土師器	
	集落跡	奈良平安時代	竪穴住居跡 36軒 掘立柱建物跡 1棟 ピット 40基	奈良・平安時代土師器, 須恵器, 鉄器, 青銅製品	
	墳墓	近世	墓坑 5基	煙管, 銭貨	

要約	<p>市立郷土博物館建設に先行して八千代市教育委員会が、発掘調査を実施した殿内遺跡b地点本調査の発掘調査報告書である。</p> <p>検出した遺構は弥生時代中期に想定可能な形態の方形周溝墓1基, 古墳時代前期前半の竪穴住居跡1軒, 奈良・平安時代の竪穴住居跡36軒・掘立柱建物跡1棟・墓坑を含むピット40基等である。</p> <p>遺構・遺物では, 古墳時代前期の竪穴住居跡において, 裝飾壺・台付甕・埴類の良好なセット形態が把握された。奈良・平安時代では, 奈良時代初頭から10世紀後半代の竪穴住居跡の検出と土器類の出土により, 本遺跡の居住にかかる動態が把握された。</p>
----	---

写真図版

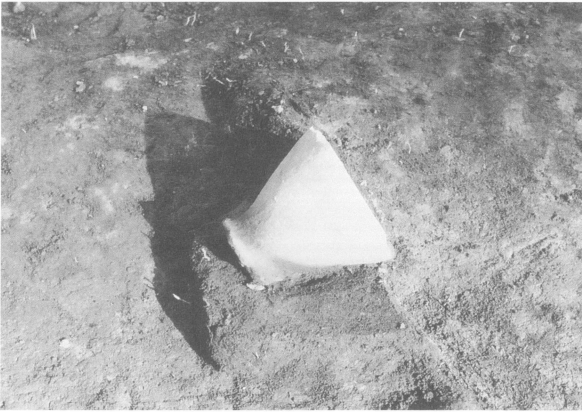
図版 1



02D遺物出土状態



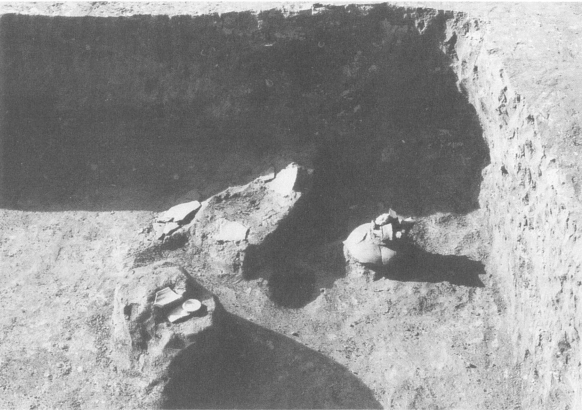
04D完掘



02D遺物出土状態 一付甕一



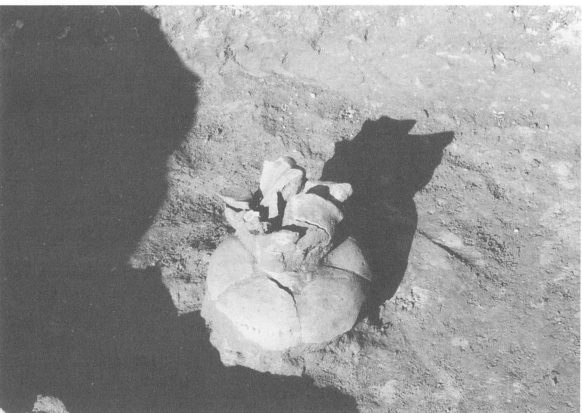
04D A カマド完掘



04D遺物出土状態



04D B カマド完掘



04D遺物出土状態 一高坏一



04D C カマド完掘



05D完掘



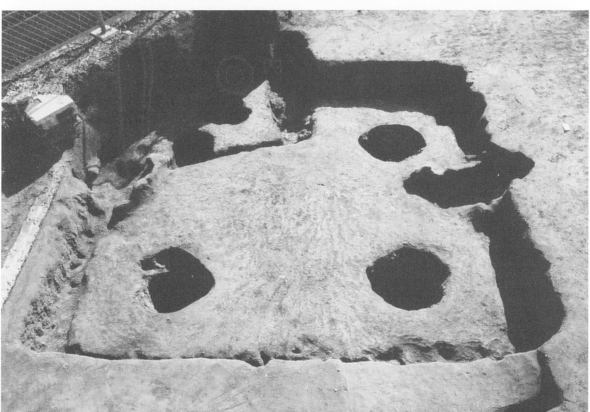
07D完掘



05Dカマド完掘



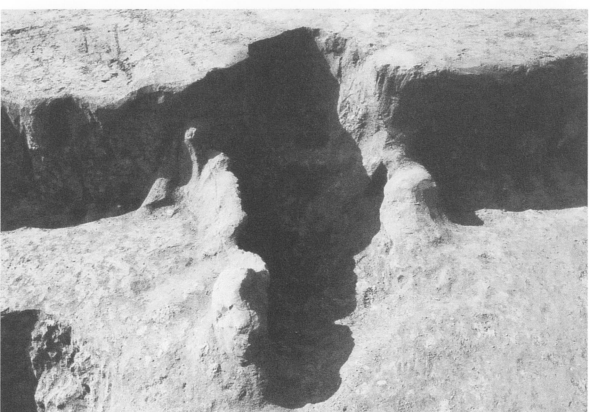
07Dカマド完掘



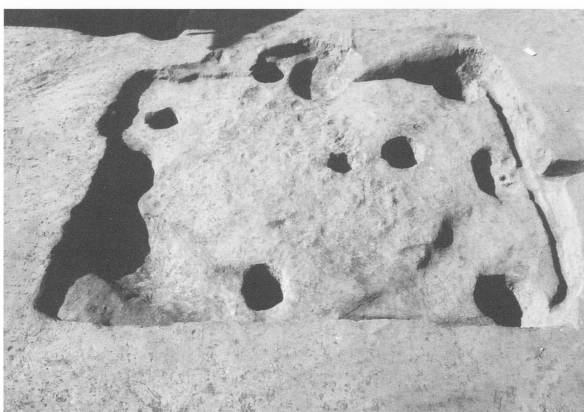
06D完掘



08D炭化物・遺物出土状態



06Dカマド完掘



07D完掘

図版3



09D完掘



12A・BD完掘



09Dカマド遺物出土状態



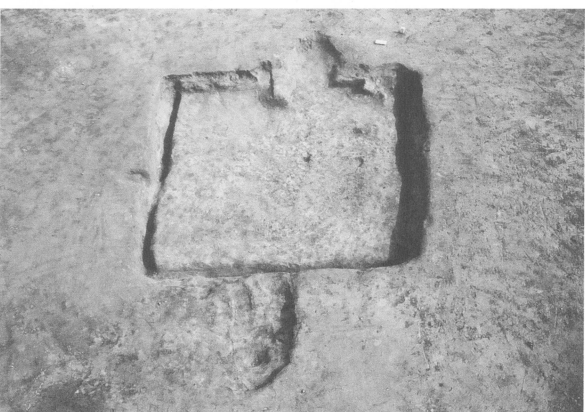
12BD完掘



09Dカマド袖部除去状態



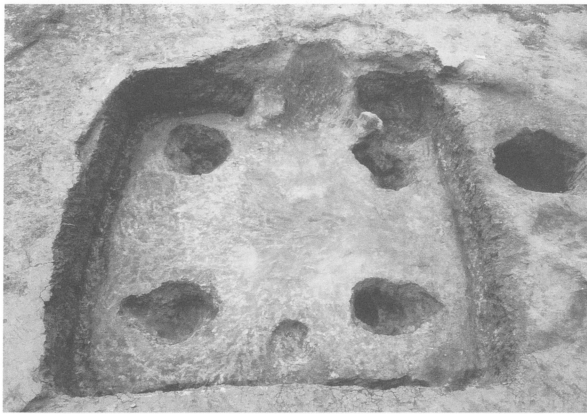
12BDカマド遺物出土状態



10D完掘



12BDカマド完掘



13D完掘



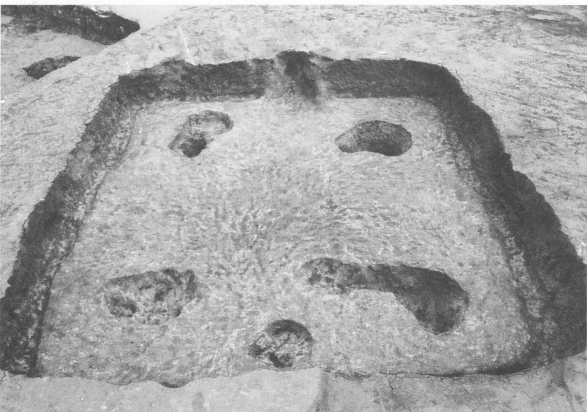
15D完掘



13Dカマド完掘



15Dカマド完掘



14D完掘



16D完掘



14Dカマド土層断面



16Dカマド完掘

図版5



17D完掘



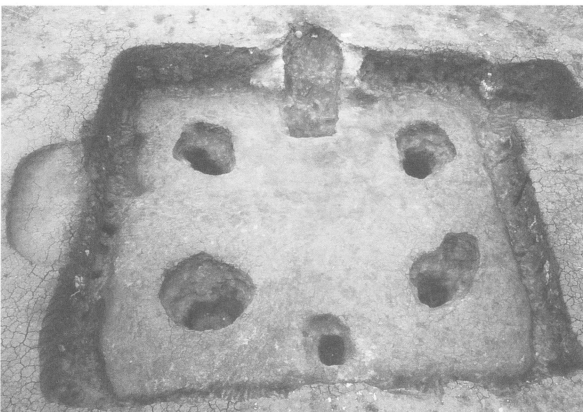
19D完掘



17Dカマド完掘



19Dカマド完掘



18D完掘



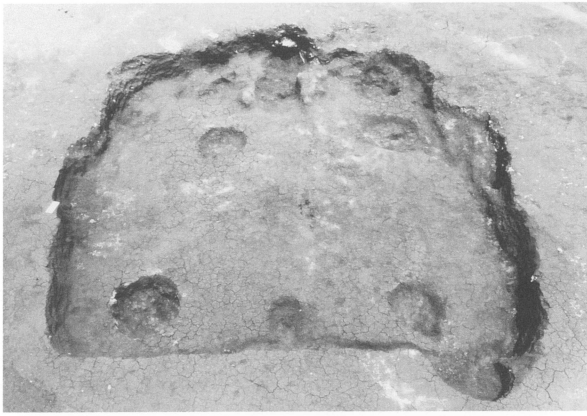
20D完掘



18Dカマド完掘



20Dカマド完掘



21D完掘



23D完掘



21Dカマド完掘



23Dカマド完掘



22D完掘



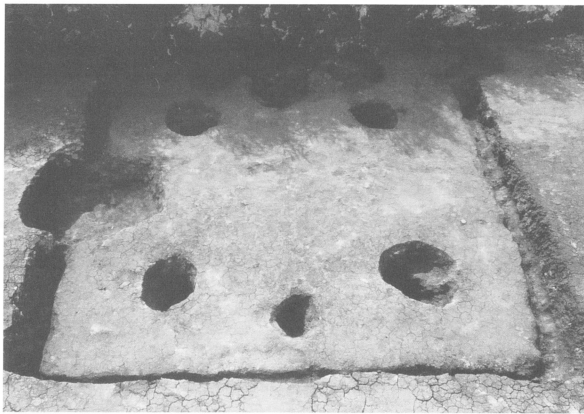
24D完掘



22Dカマド完掘



24Dカマド完掘



25D完掘



26B・CD完掘



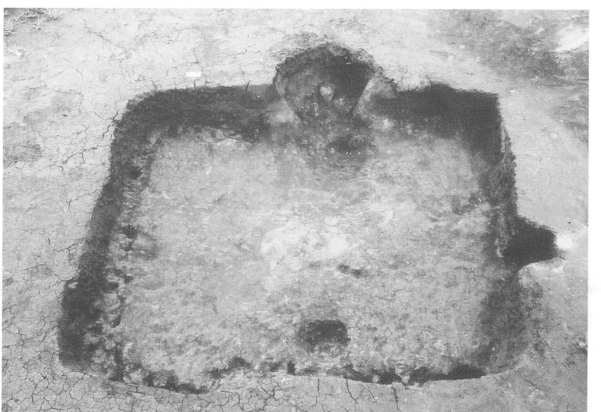
25Dカマド完掘



26BDカマド完掘



26A・B・CD完掘



27D完掘



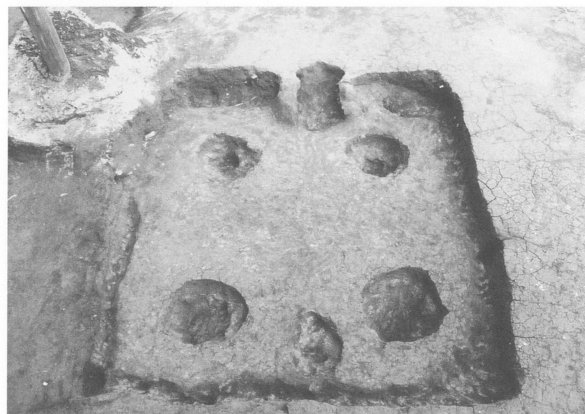
26A・BD完掘



28D完掘



29AD完掘



30D完掘



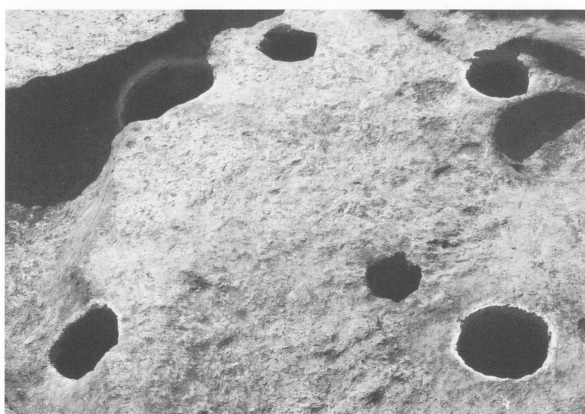
29BDカマド完掘



30Dカマド完掘



29A・BD, 30D完掘



掘立柱建物跡完掘



29BDカマド完掘

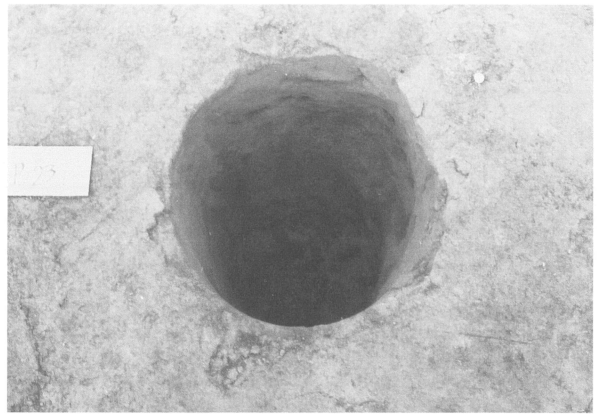


方形周溝墓完掘

图版 9



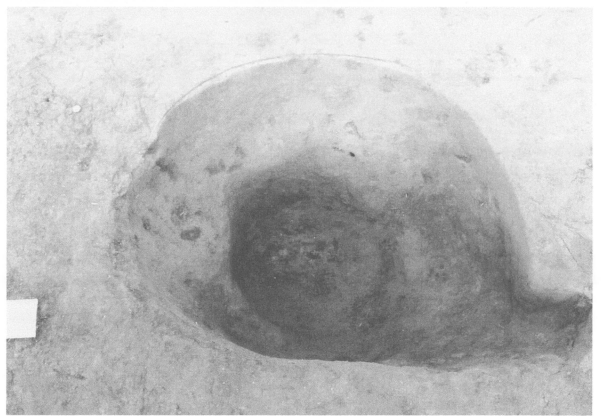
6P完掘



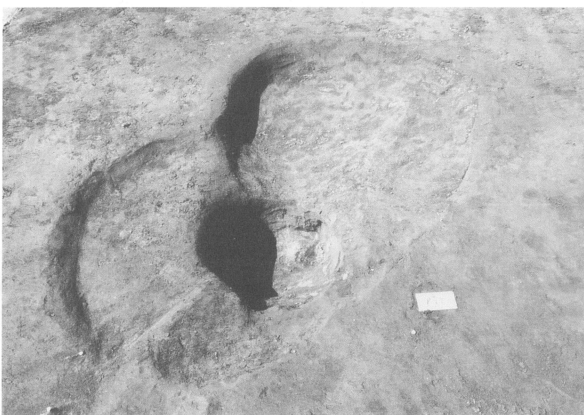
23P完掘



16P完掘



27P完掘



17P完掘



28P完掘



18P完掘



31P完掘



32P完掘



41P完掘



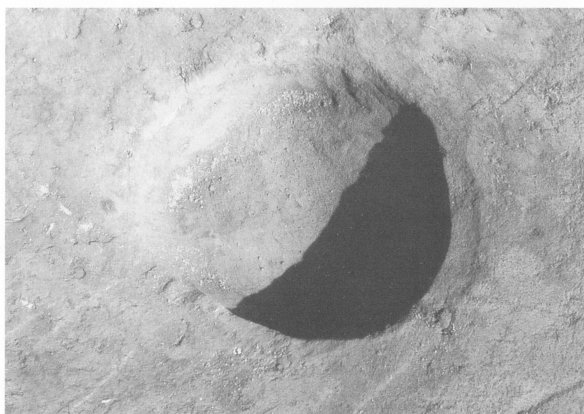
34P完掘



45P完掘



42P遺物出土狀態



46P完掘



42P遺物出土狀態 (擴大)



48P完掘



第5図1



第5図2

旧石器時代の石器



第6図1



第6図2



第6図4



第6図5



第6図6

縄文時代の遺物



02D 2



02D 5



02D 9



02D 8



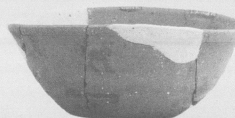
02D 13



02D 10



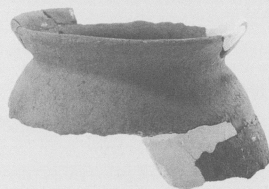
04AD 1



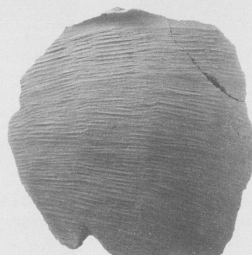
04AD 4



04AD 9



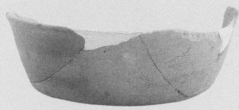
04AD 25



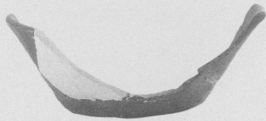
04D 29



04D 32



04D13



04D46



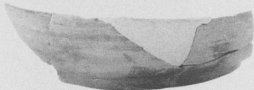
04D14



04D35



04D42



04D46



04D49



04D53



05D 1 (畿内産土師器)



05D 6



06D 3



06D 5



06D 9



06D 14



07D 6



07D 11



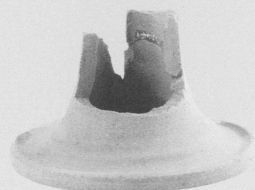
07D 12 (側面)



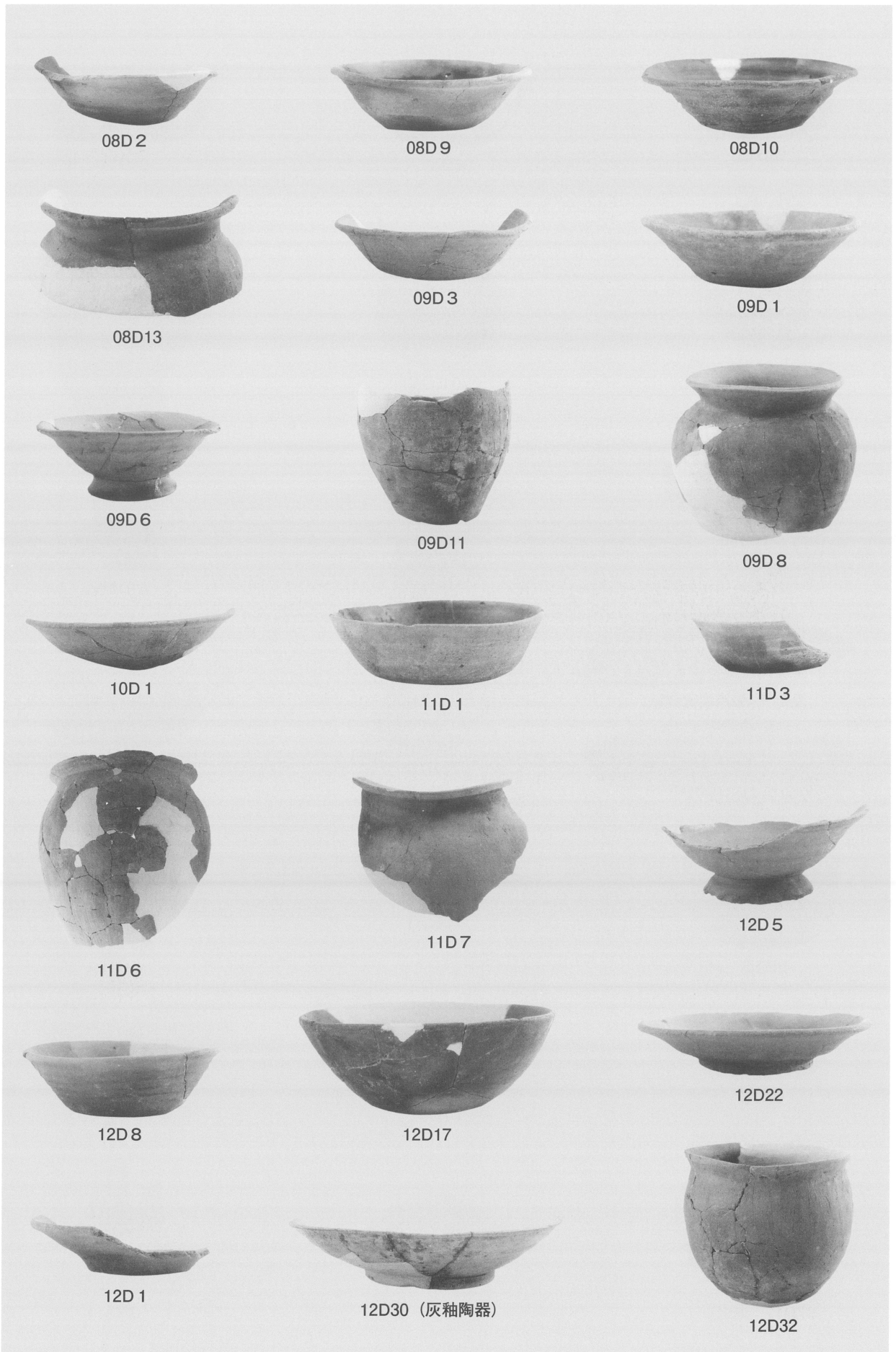
07D 12 (底面)



07D 16



07D

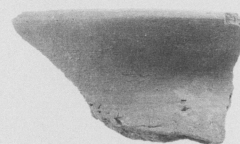




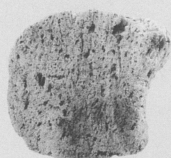
13D5 (55P遺物)



13D9



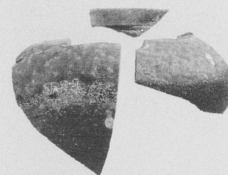
13D12



13D17



13D18



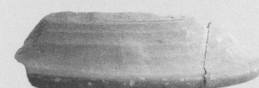
13D13 (灰釉陶器)



13D3



14D2



14D4



14D7



14D10



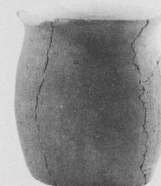
15D1



15D2



15D3



15D10



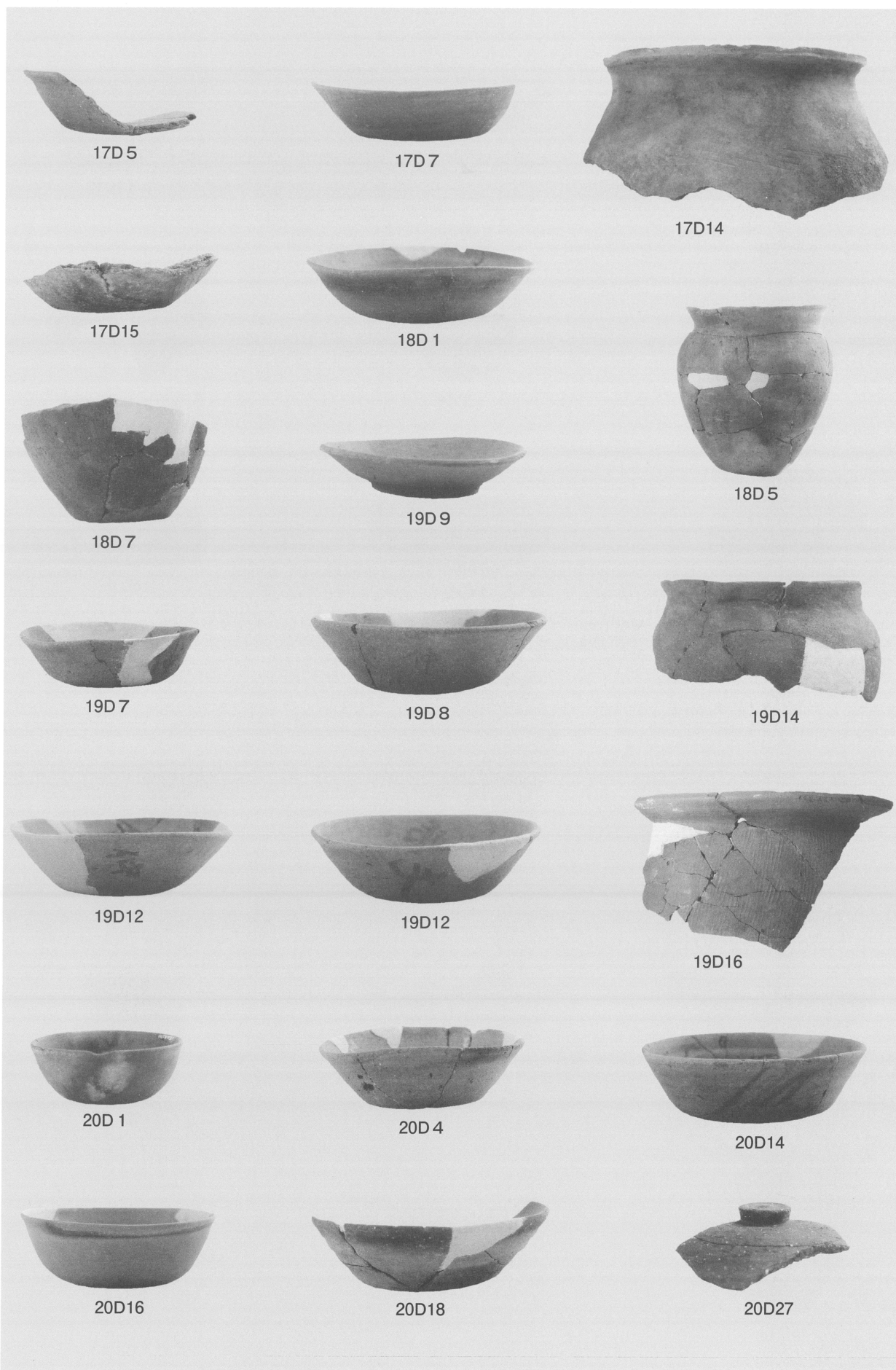
15D12

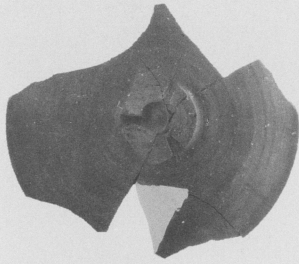


16D5

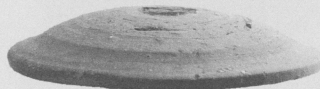


17D2





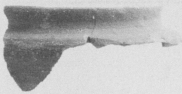
20D34



20D29



20D31



20D32



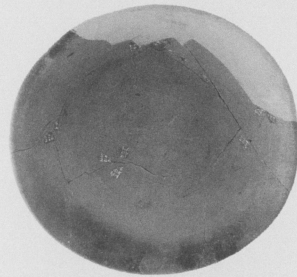
20D33



20D39



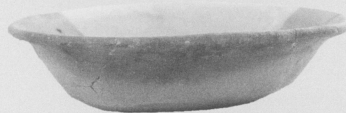
20D40



内面 (スス附着状況)



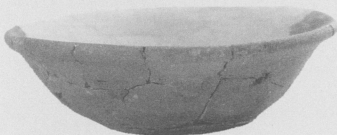
21D2



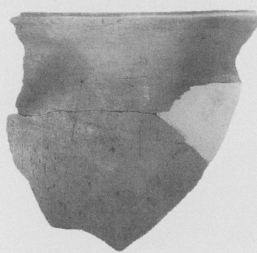
20D27



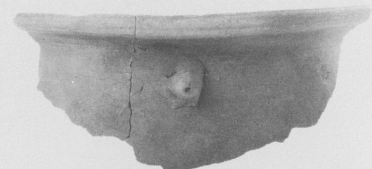
20D27



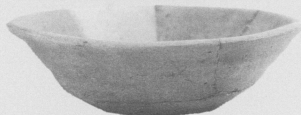
21D4



21D11



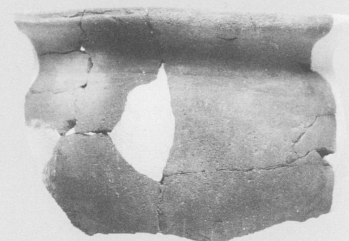
21D13



22D1



22D11



22D12



22D2



22D13



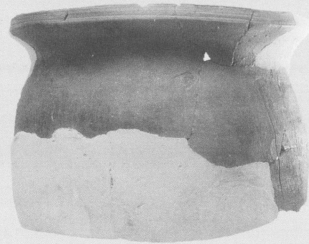
23D 1



23D 2



23D 3



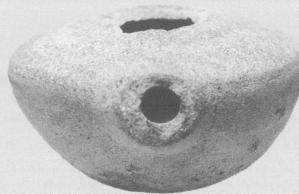
23D 9



24D 1



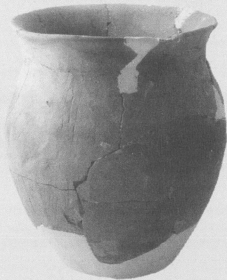
24D 2



24D 7



24D 9



24D 10



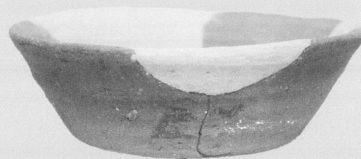
25D 1



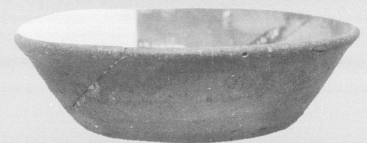
25D 6



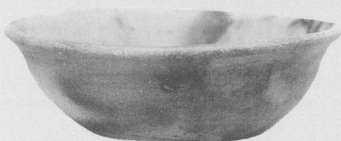
25D 9



26ABD 1



26ABD 2



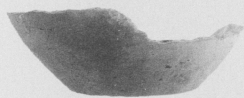
26ABD 9



26ABD 10



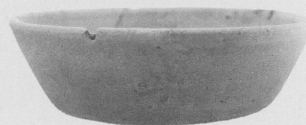
26CD 5



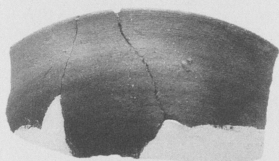
26CD12



27D 1



27D 5



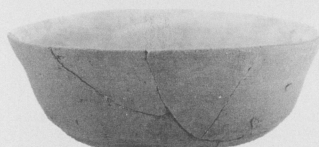
29D 1



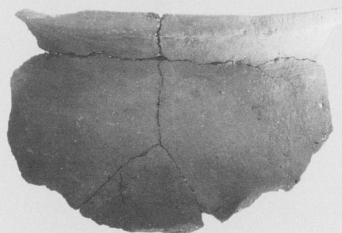
29D 4



29D 10



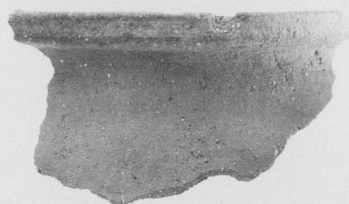
29D 9



29D 18



底面



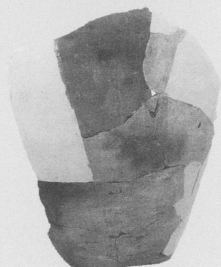
29D 12



29D 15



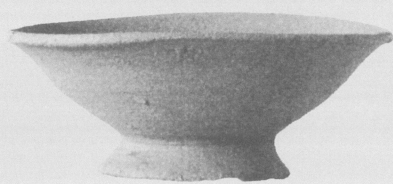
33D 19



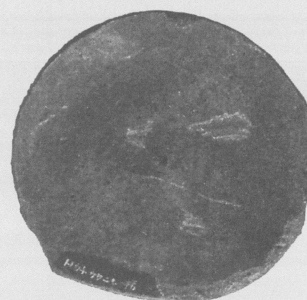
33D 18



33D 17



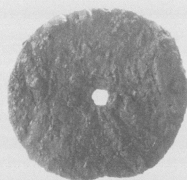
42P1



内面



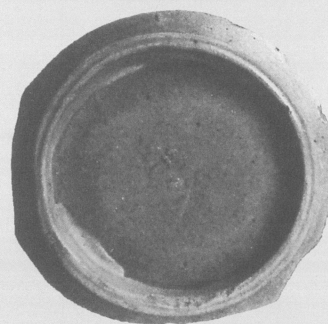
08D19



08D20



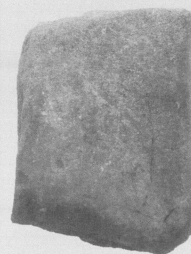
19D19



第130図4 (緑釉陶器)



26D11



21D21



33D22



33D20



第130図23 (泥面子)

千葉県八千代市
殿内遺跡b地点

2009 (平成21年)

印刷日 2009年 3月28日

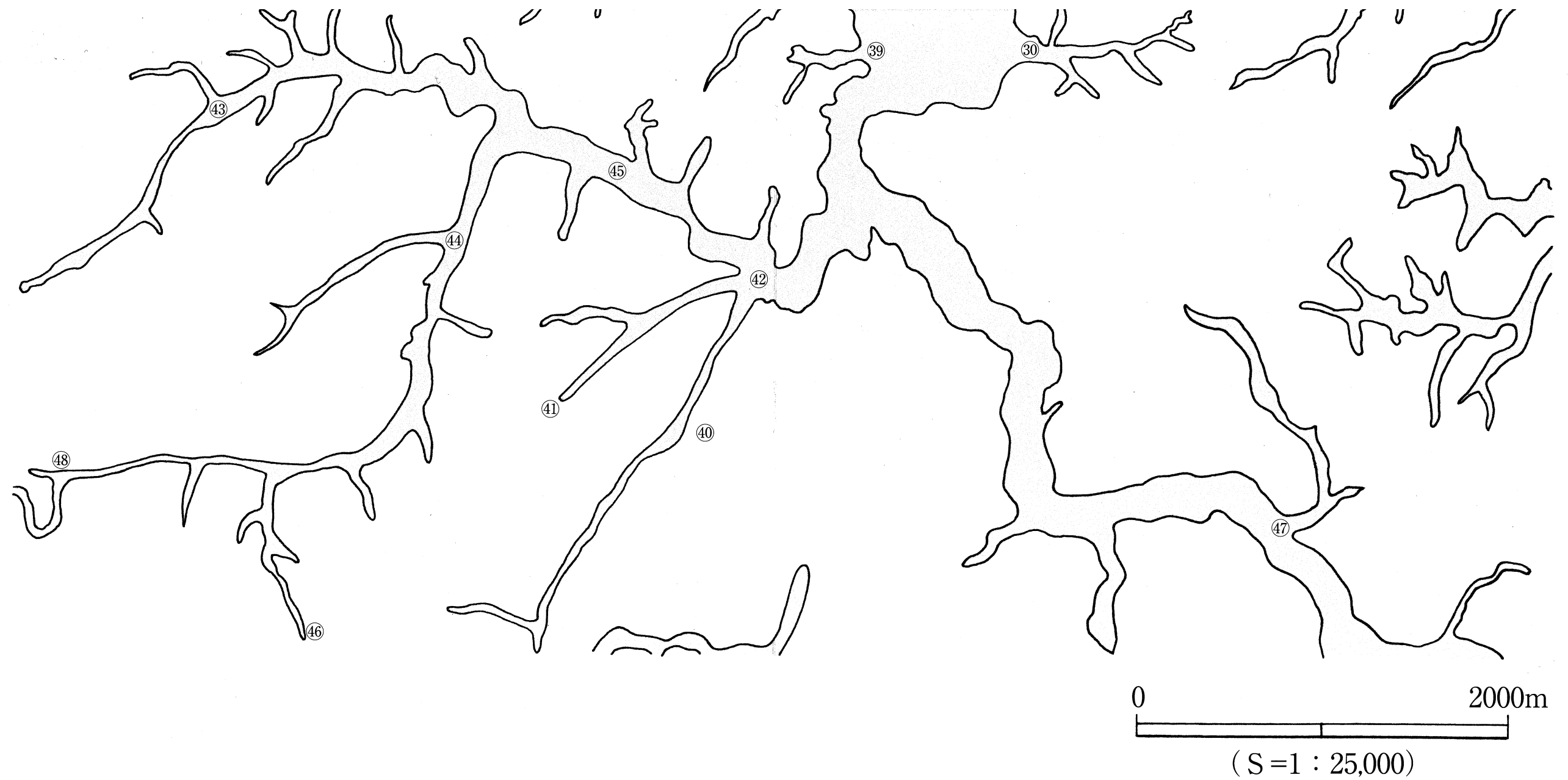
発行日 2009年 3月30日

編集 八千代市教育委員会

〒276-0045 八千代市大和田138-2

TEL.047-481-0304

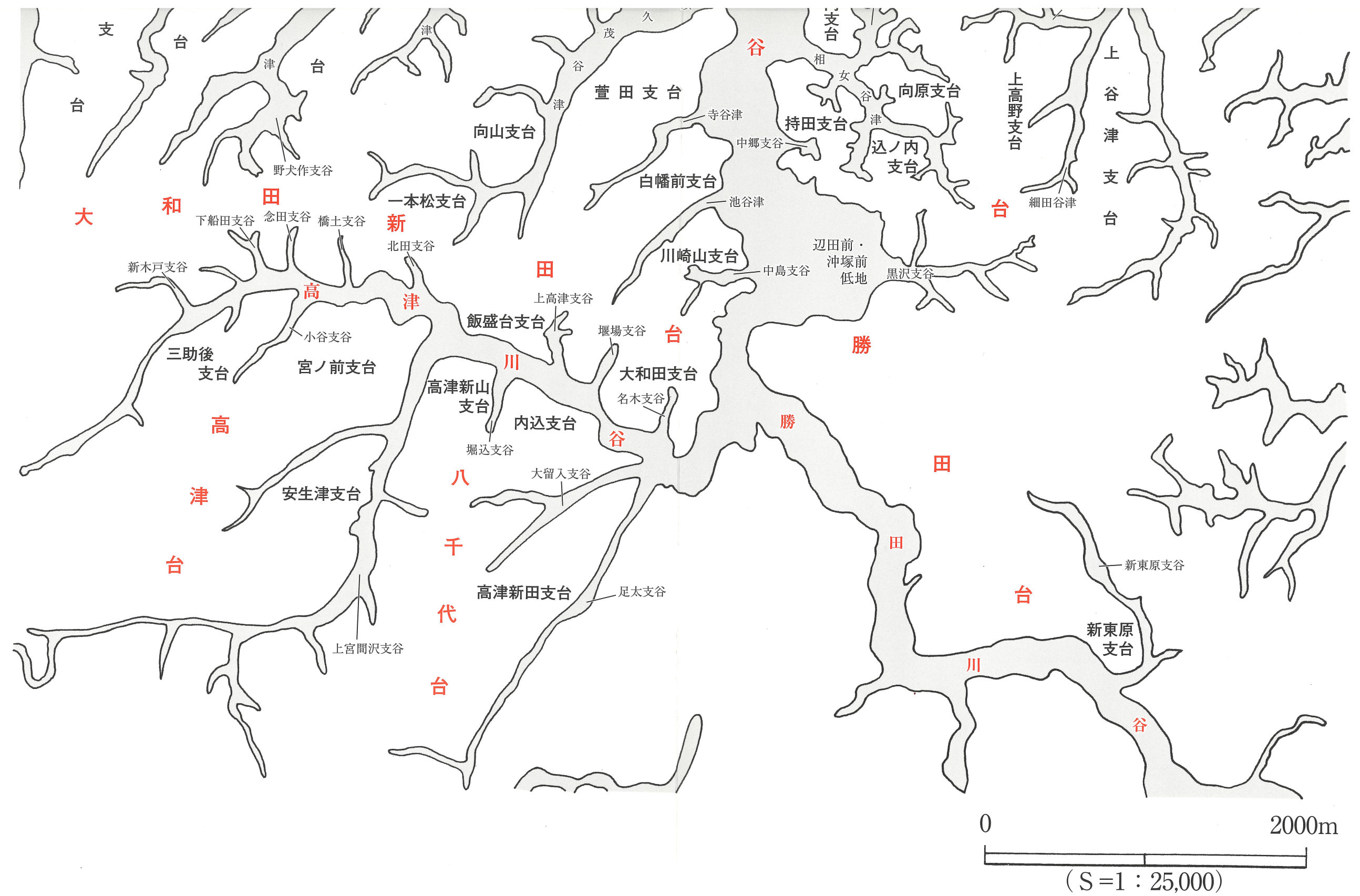
発行 八千代市教育委員会



附図1 八千代市域における谷津名称 (暫定版)

- | | | | |
|-------------|-------------|-----------|-------------|
| 1 北ノ谷津 | 14 甚左衛門谷津 | 27 南田谷津 | 40 葦(足)太谷津 |
| 2※島田上谷津 | 15 栄重谷津 | 28 細田谷津 | 41 深作谷津 |
| 3※島田根切谷津 | 16※村上根切谷津 | 29※井野上谷津 | 42 ケイガラ谷津 |
| 4 菖蒲谷津 | 17 鳥ヶ谷津 | 30 黒沢谷津 | 43※大和田新田西谷津 |
| 5 島田谷津 | 18 栗谷津 | 31 相女谷津 | 44 大和田谷津 |
| 6 西ノ谷津 | 19 蕨(和良比)谷津 | 32 向原谷津 | 45 高津谷津 |
| 7 井ノ下小谷津 | 20※村上上谷津 | 33 宮内谷津 | 46 愛宕沢 |
| 8 作ヶ谷津 | 21 間谷谷津 | 34 砂戸谷津 | 47※勝田上谷津 |
| 9 柏谷津 | 22 伊勢谷津 | 35 須久茂谷津 | 48 駒留谷津 |
| 10 石神谷津 | 23 森下谷津 | 36 入谷津 | 49 スウメノ谷津 |
| 11 花輪谷津 | 24 西谷津 | 37 寺谷津 | |
| 12※大和田新田上谷津 | 25 家下谷津 | 38 池ノ谷津 | |
| 13 津金谷津 | 26 毘沙谷津 | 39 (中島支谷) | |

※は混乱をふせぐため、措置として頭に台名を冠した。



附図2 八千代市域における台・谷・支台・支谷名称

